

- 4630 兪(瑜ゆ・平へい:修姓か?)? - ? 江戸中期下総の儒者、1783「非物氏」著、  
「大学述」「中庸述」「論語述」著、江西僦の師
- 瑜(ゆ・祇園) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0  
 瑜(ゆ・日尾) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5  
 瑜(ゆ・渋谷/林) → 蓀坡(そんぱ・林/渋谷、藩士/儒者/詩) F 2 5 0 3  
 喻(ゆ・原) → 鳳山(ほうざん・原はら、藩士/兵学者) C 3 9 1 0  
 瑜(ゆ・原) → 双桂(そうけい・原はら、医/漢学/詩文) B 2 5 1 9  
 愈(ゆ・林) → 鳳池(ほうち・林はやし、儒者) C 3 9 2 6
- H4664 唯阿(ゆいあ:法諱) ? - ? 南北期;時宗僧、歌人、  
1387浄阿5代奉納「隠岐高田明神百首和歌」出詠、  
[わきて身になにをまつとはなけれどもならひにいそぐ歳の暮かな](高田明神歌;70)
- 4631 唯阿(ゆいあ;法諱・伝灯:字) 1751-1823 73 武蔵の真言僧;木曾根の普門院一阿門;出家、  
豊山長谷寺に修学/1802武蔵針ヶ谷弘光寺住職/1810江戸湯島根生院に転住、  
1812長谷寺39世能化、権僧正/1818退隠、1815「長谷寺本縁起」編/「西院流伝受口訣」著、  
「曼荼羅供法則」著
- 唯阿(ゆいあ;字) → 性均(しょうきん;法諱、唯阿、本願寺派僧) Q 2 2 9 5  
 唯阿(ゆいあ・百蓮社) → 秦岡(しんがい;法諱・白純、浄土僧/詩) O 2 2 0 6  
 唯阿(ゆいあ・石原) → 存古(そんこ・石原いしはら、藩士/俳人) E 2 5 8 1  
 唯阿弥(ゆいあみ) → 大梅(だいばい・小島/児島、詩/俳人) C 2 6 0 9  
 唯懿(ゆいい・松岡) → 蘆堤(ろてい・松岡まつおか、儒者/教育) C 5 2 1 8  
 唯一(ゆいいつ・石井) → 潭香(たんこう・石井/韓、書家) T 2 6 4 7  
 惟一(ゆいいつ→うい:道号) → 道実(どうじつ:法諱・惟一うい、黄檗僧) 3 1 8 0  
 唯一閑人(ゆいいつかんじん) → 幸雄(ゆきお・鏑木かぶらき、神職/国学) G 4 6 2 3
- 4632 唯円(ゆいえん;法諱、通称;河和田[;地名]の唯円/俗名;平次郎) 1222-89 68 常陸の真宗僧;親鸞門、  
常陸報仏寺/大和立興寺の開基、1288上京し親鸞の宗義を覚如(宗昭)に伝授、  
大和秋野川辺に入寂、親鸞語録「歎異鈔」編、眞仏の弟、  
常陸西光寺唯円や常陸枕石寺唯円も同一か?
- G4649 唯円(ゆいえん;法諱) ? - ? 僧;法師/歌人;1384成立「新後拾遺集」1首(942)入、  
[もらさじと思ふはたれが涙にてつつむ袂のひまもとむらん](新後拾;恋942)
- 唯遠(ゆいおん;字) → 日豊(にっぽう;法諱・鷲峰院、日蓮僧) F 3 3 5 7  
 唯我堂川面(ゆいがどうかわも) → 川面(かわも・宮戸みやとの/唯我堂、狂歌) H 1 5 9 0  
 油井我浜人(ゆいがはまびと) → 元徳(もとりの・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6  
 唯観院(ゆいかんいん) → 日勇(にちゆう;法諱、日蓮僧) D 3 3 3 2
- 4633 唯教(ゆいきょう;法諱) ? - ? 僧;法師/歌人;「人家集」入、  
勅撰2首;新後撰678・続千載1449、  
[めぐりあふ我が身ならずはいかがせんそのあかつきの月はいづとも]、  
(新後撰;釈教678/弥勒を)
- 唯月(ゆいげつ;道号) → 言経(ときつね・山科、廷臣/故実/歌、「謡抄」) 3 1 3 4  
 惟賢(ゆいけん) → 惟賢(いけん;法諱、天台僧/歌人) 1 1 8 1
- 4634 唯元(ゆいげん;法諱) ? - ? 江前期僧;法師/歌人;望月長孝ながよし[1619-81]門、  
長孝「広沢輯藻」補填
- 唯恒(ゆいこう・高津) → 唯恒(ただつね・高津たかつ/平、藩士/歌人) P 2 6 8 7  
 唯五郎(ゆいごろう・田中) → 佳政(よしまさ・田中/山野、藩士/和算/神道) H 4 7 0 1  
 唯次(ゆいじ・山口) → 重山(じゅうざん・山口やまぐち、藩儒) X 2 1 4 3  
 唯七郎(ゆいしちろう・中条) → 唯七郎(ただしちろう・中条なかじょう、和漢学) P 2 6 6 1
- 4635 惟首(ゆいしゅ;法諱・法興房;号、俗姓;御船) 826-893 68 近江蒲生の天台僧;

円珍・遍照より灌頂を受、天台教義；徳円・去勢門、859大極殿最勝王経会の講師を勤める、  
884伝法阿闍梨、891(寛平3)園城寺長吏/892天台座主、887「定大日経許秘状」著、  
[惟首(；法諱)の通称] 虚空蔵座主

唯重(ゆいじゅう；都筑) → 唯重(ただいげ・都筑つぎ/金丸、藩士/布教) P 2 6 5 7

唯称(ゆいしょう；字) → 知空(智空ちくう；法諱、律宗僧) C 2 8 5 5

唯称(ゆいしょう；縁蓮社) → 輪超(りんちよう；法諱、浄土僧/詩歌) K 4 9 6 9

4636 唯浄(ゆいじよう；法諱) ? - ? 1805存 江中後期天台僧；江戸寛永寺学寮の講師、  
「四教儀集註愚聞記」著

4637 唯浄(ゆいじよう；法諱) ? - ? 江後期真宗本願寺派僧；仰誓(ごうせい；1721-94)門、  
石見安濃の浄土寺住職；浄土寺に養子とし入寺；養父と不和、那賀郡国分の全蔵寺に結庵、  
1814(文化11)石見浜田の西光寺で[文類聚鈔]を講ず/履善を批判、「安樂集導訪録」著、  
[唯浄(；法諱)の別法諱/号]別法諱；制竜/梵哲、号；螺溪

唯性院(ゆいしょういん) → 日栖(にっせい；法諱・堯辺、日蓮僧) E 3 3 6 6

唯称院(ゆいしょういん) → 勝光(かつみつ・日野ひの、廷臣/歌) C 1 5 5 4

唯誠院(ゆいじよういん) → 日全(にちぜん；法諱・教弁、日蓮僧) C 3 3 6 8

唯浄坊(ゆいじようぼう) → 祐可(ゆうか；法諱、本願寺派僧/歌人) 4 6 8 7

4638 惟心(ゆいしん；法諱) ? - 1275? 鎌倉期；山城石清水八幡宮寺住の真言僧、  
小野・広沢2流の秘密灌頂を受/兜率の業を修得；常に道場に座し修練、  
礼盤に座したままで没、「八幡宮寺年中讃記」著

4639 唯心(ゆいしん；法諱) ? - ? 鎌倉期；称名寺の僧？、早歌作者；  
「鶴岡靈威」作詞(1319月江「玉林苑」所収)

4640 唯心(ゆいしん；法諱・懲勸房；字)?-1708 江前期真言僧；高野山金剛三昧院の政算門；薙髮、  
のち金剛三昧院主/1687碩学/91信竜より具支灌頂を受/96宝性院主/1701金剛峯寺検校、  
1703高野山江戸在番所に丹生・高野両鎮守神殿創建の際の落慶供養の導師を勤める、  
1704検校を辞任、1682(天和2)「疏講談話用意」著

唯心(ゆいしん；法名) → 輝資(てるすけ・日野/藤原/広橋、故実/連歌) C 3 0 7 6

唯心院(ゆいしんいん；法号) → 房通(ふさみち・一条いちじよう、関白/歌) C 3 8 2 5

唯心院(ゆいしんいん；法号) → 正順(まさあり・堀田ほった、藩主/歌) B 4 0 2 1

G4678 唯心尼(ゆいしんに；号；紫蓮、俗姓；平瀬)?-? 河内河内郡日下の歌人/平瀬助道の妻；  
歌；上田秋成門；秋成夫妻と親交/40歳頃夫に死別；出家剃髮；実家の日下村に隠棲、  
1798(寛政10)妻に死別・眼病を患った上田秋成を日下に誘い療養させる、  
秋成は日下村正法寺などに滞在；河澄常之家の奥座敷[棲鶴楼]で近郷の文人と交流、  
秋成は唯心尼をはじめ・常之・森公道・祖盈(正法寺住職/祖畳)らと交流；  
随筆「山霧記」著(秋成の口述を唯心尼が筆記)、  
秋成[藤簍冊子つづらぶみ]に入(贈答歌や古戦場問答・雨かはづ[山霧記口述筆記の事]等)、  
[藤簍冊子二/河内の尼 足袋縫いて贈りに  
浅沓あさぐつをあさましきまで老いぬれば此のたびを世の限りとぞ思ふ、  
(秋成の贈歌；足袋に度を掛る/老いた自分はこのたびが世の往来の最後となる)、  
唯心尼のかへし、  
あさぐつの浅くは君を頼まねばなど此のたびや限りなるべき、  
(あなたを深く思っていますので最後にはなりません/死覚悟の気弱な師を励ます)、  
[山ぶみの家路のつとに折りてこし香ぞなつかしき白菊の花]、  
(藤簍冊子五；雨かはづ/花合；菊/山ぶみ；山歩き)

唯心房(ゆいしんぼう) → 寂然(じゃくねん；法諱、天台僧/大原三寂/歌) 2 1 3 8

唯心房(ゆいしんぼう) → 明覚(みょうかく/みょうがく；法諱、天台学僧) G 4 1 2 2

唯神霊神(ゆいしんれいしん) → 兼右(かねみぎ・吉田/ト部、神職) D 1 5 0 7

祐是(ゆうぜ；入道号) → 貞儀(さだのり・伊勢/平、故実家) J 2 0 2 2

惟济(ゆいせい) → 惟济(いせい/ゆいせい、平安期僧、歌人) F 1 1 7 8

唯正(ゆいせい・岸野) → 唯正(ただまさ・岸野、俳人/狂歌) F 2 6 8 4

唯政(ゆいせい・馬場) → 唯政(ただまさ・馬場ばば、鉾山開発) Q 2 6 8 1

- 唯誠院(ゆいせいいん→ゆいじょういん) → 日全(にちぜん;法諱・教弁、日蓮僧) C 3 3 6 8
- 4641 唯雪(ゆいせつ) ? - ? 江前期江戸の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」2句入、  
[薬師だに仏や有馬神無月](犬子集;冬1333/有馬湯治)、  
(有りと有馬を掛る/温泉寺本尊は薬師如来/せめて薬師だけでも)  
唯雪(ゆいせつ・大津) → 唯雪(ただゆき・大津おつ/村田、藩士/歌) W 2 6 1 7
- 4642 唯然(ゆいぜん;法諱・雅童;字)?- ? 江中期比叡山天台学僧、  
1787(天明7)伊勢河曲郡の南楼白子亭で[西谷名目]を講義:教学の振興に尽力、  
1787「天台五時八教揚葉記」著  
唯善(ゆいぜん・宮竹) → 良順(りょうじゆん・宮竹みやたけ、医者/儒) I 4 9 0 1  
唯諾(ゆいだく;法諱) → 瑞巖(ずいがん;道号・唯諾、臨濟僧) E 2 3 2 9
- 4643 由一(ゆいち・高橋たかはし、源十郎長男) 1828-9467 祖父;武術家高橋源五郎、下野佐野藩江戸邸に生、  
絵師;狩野洞庭・狩野探玉斎門/田安家の吉沢雪庵門/1862蕃書調所画学局に出仕、  
創始期の洋画家;1867上海に遊学;「上海日記」著/1871大学南校の画学掛教官;72免官、  
1873ウィーン万国博覧会に出品、「海雲楼博物雜纂」著  
[由一(;明治以後の名)の幼名/初名/字/号]幼名;猪之助/儷たい之助、初名;浩、字;剛/考経、  
号;藍川/華陰逸人/碧倉、法号;實際院  
唯忍子(ゆいにんし;号) → 慈山(じざん;法諱・妙立みよりゅう;字、天台律僧) M 2 1 4 0  
唯然(ゆいねん・三陰) → 顕遠(けんおん;法諱・三陰みかげ、真宗僧/国学) N 1 8 9 3  
唯之助(ゆいのすけ・分部/池田) → 長溥(ながひろ・池田、幕臣/文筆) F 3 2 5 8
- 4644 維範(ゆいはん;法諱・通称;南院阿闍梨、俗姓;紀) 1011-9686 平安期紀伊相賀郷(or京)の真言僧、  
勸修寺慈尊院4世、1063壺坂寺の大念門;伝法灌頂を受/1075高野山檢校/88伝法阿闍梨、  
1089諸職を辞任、「両界諸尊灌頂」/1095(嘉保2)「四度並灌頂加行作法」  
唯美(ゆいび・星野) → 文良(ぶんりょう・星野ほしの、藩抱絵師) G 3 8 7 5  
唯房(ゆいぼう・石野) → 唯房(ただふさ・石野いしの、幕臣/国学) V 2 6 6 0  
唯本院(ゆいほんいん) → 日演(にちえん;法諱、日蓮僧) 3 3 7 9  
唯本院(ゆいほんいん) → 日伝(にちでん;法諱・常楽房、日蓮僧) C 3 3 9 2  
唯妙(ゆいみょう;字) → 日好(にちこう;法諱・禅智院、日蓮僧) B 3 3 8 3  
唯妙(ゆいみょう;字) → 日東(にっとう;法諱・大法院、日蓮僧) F 3 3 3 8  
唯妙院(ゆいみょういん) → 日解(にちげ;法諱・春覚、日蓮僧) B 3 3 4 7  
唯妙院(ゆいみょういん) → 日東(にっとう;法諱・了道、日蓮僧) F 3 3 4 7  
唯無(ゆいむ・是枝) → 貞至(さだり・是枝これえだ、商人/勤王) J 2 0 3 0  
唯明(ゆいめい;字) → 隆瑜(りゅうゆ;法諱、真言僧) F 4 9 8 2  
唯楽(ゆいらく・都筑) → 十蔵(じゅうぞう・都筑つづき、藩士/詩人) X 2 1 9 1
- 4645 唯楽軒(ゆいらくけん) ? - ? 浮世草子作者;1703「立身大福帳」著(;町人物)  
唯了(ゆいりょう;号) → 源讚(げんざん;法諱・唯了、真宗僧) J 1 8 2 7  
唯良(ゆいりょう・真山) → 澄方(すみかた・秋央亭/真山、狂歌作者) D 2 3 8 7
- 4646 游(ゆう・武部たけべ) 1782 - 184261 伊勢松坂の医者;京で修学/長崎に遊学、  
蘭医学;西正典・吉雄如淵門/オランダのレッツケが吉雄に伝えた発泡打膿法を研究、  
兄須賀直入なおり没のため帰郷、和歌山で医業;和歌山藩に出仕、  
藩主徳川治宝の命でケンベル「日本誌」を翻訳、1813「日本志図解」訳、18「発泡打膿考」著、  
1828「日本紀事訳解」、「滔滔論」、「産科簡要」著、  
[游(;)の字/通称/号]字;子芸、通称;尚二、号;尚斎/普濟堂
- 4647 宥(ゆう・徳永とくなが、字;子宝/号;玉泉)?-1833 江後期儒者:亀井昭陽門、  
1829「昭陽先生文集初篇」編(二篇は木田省せい編)
- 4648 猷(ゆう・長谷川はせがわ、尚之男)?-1849 加賀金沢藩士;1812父を継嗣/御近習番、  
1831南御土蔵奉行;150石、儒;古賀精里門/西洋窮理学;本多利明門、外国事情に精通、  
直径五尺余の大地球儀を制作、家老青山知次の知遇を得;大砲造営等西洋文物導入に参画、  
1839「救荒新策」、「通志異同」著、  
[猷(;)の通称/号]通称;、号;柿園  
有(ゆう・石井) → 鶴山(かくざん・石井いひ、儒者) H 1 5 2 8

有(悠ゆう・田宮)	→	橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/随筆)	I 1 6 6 4
由(ゆう; 一字名)	→	為景(ためかげ・冷泉[下冷泉]/藤原、歌人)	G 2 6 6 9
由(ゆう・奥宮)	→	慥斎(ぞうさい・奥宮、儒者/国学/歌)	B 2 5 5 8
由(ゆう・清水)	→	由斎(ゆうさい・清水しみず、医者/俳人)	B 4 6 7 9
莠(ゆう・横田)	→	莠(はぐさ・横田よこた、藩士/儒者/教育)	K 3 6 9 5
裕(ゆう・北村)	→	国雅(くにまさ・北村きたむら、国学/歌人)	E 1 7 1 3
融(ゆう・源)	→	融(とおる・源、廷臣/歌人)	3 1 3 0
融(ゆう/とおる・小国)	→	玉淵(ぎよくえん・小国おくに、儒者)	I 1 6 8 3
融(ゆう/とおる・大竹)	→	東海(とうかい・大竹/浅井/岳、儒者)	B 3 1 8 9
融(ゆう/とおる・本田)	→	宗貞(そうてい・本田ほんだ、医者)	I 2 5 5 1
融(ゆう・中西)	→	融(とおる・中西なかにし、藩士/書家)	I 3 1 7 9
融(ゆう/とおる・河合/岡野)	→	石城(赤城せきじょう・岡野/河合、藩士/儒者)	D 2 4 5 5
融(ゆう・佐伯)	→	鍾山(しょうざん・佐伯ささき、藩儒/詩)	J 2 2 2 4
猷(ゆう・片山)	→	北海(ほっかい・片山かたやま、儒者/詩人)	3 9 7 1
猷(ゆう・吉益)	→	南涯(なんがい・吉益よしまつ、医者/詩)	I 3 2 6 5
猷(ゆう・茂呂)	→	麓岳(ごうがく・茂呂もろ、儒者)	I 1 9 0 0
猷(ゆう・原)	→	采蘋(さいひん・原はら、詩人)	B 2 0 0 8
猷(ゆう・長久保)	→	藤巷(とうこう・長久保ながくぼ、儒者)	D 3 1 9 6
友(ゆう・坪井)	→	信友(のぶとも・坪井つばい、医者)	C 3 5 4 2
友(ゆう・淵)	→	岡山(こうざん・淵ふち/大神、儒者)	G 1 9 3 3
友(ゆう・高妻)	→	芳洲(ほうしゅう・高妻たかつま、藩士/儒者)	B 3 9 5 4
友(ゆう・亀井)	→	小琴(しょうきん; 号・亀井かめい、儒者/詩)	G 2 2 1 7
友(ゆう・坪井)	→	信友(しんゆう/のぶとも・坪井つばい、蘭医/儒)	B 2 2 9 1
悠(ゆう; 一字名)	→	基熙(もとひろ・近衛/藤原、関白/歌人)	E 4 4 0 9
勇(ゆう・児山)	→	紀成(のりしげ・児山、幕臣/歌/紀行)	E 3 5 6 8
勇(ゆう・目々沢)	→	鉅鹿(きょろく・目々沢めめざわ、儒者)	Q 1 6 4 4
勇(ゆう・阪本)	→	弦山(げんざん・阪本、医者/経史/文学)	J 1 8 2 8
勇(ゆう・山本)	→	竹雲(ちくうん・山本やまもと、篆刻家/茶人)	C 2 8 6 0
勇(ゆう・池永)	→	豹(泰良はだら・池永、国学者)	E 3 6 8 0
勇(ゆう・原田)	→	筭斎(じゆんさい・原田/小森、藩士/儒者)	J 2 1 7 2
雄(ゆう・佐藤)	→	栢堂(はくどう・佐藤さとう、儒者/詩)	D 3 6 7 4
雄(ゆう・鈴木)	→	鷺湖(がこ・鈴木すずき、絵師)	L 1 5 5 6
雄(ゆう・野呂)	→	天然(てんぜん・野呂のろ、医者)	D 3 0 9 8
雄(ゆう・加藤/園山)	→	西山(ゆうざん・園山そのやま/加藤、藩儒)	B 4 6 9 7
雄(ゆう・平野)	→	国臣(くにのみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌)	1 7 0 6
雄(ゆう・生田)	→	万(よろづ・生田いくた、藩士/国学/救民)	4 7 4 2
雄(ゆう・畑中)	→	澹庵(たんあん・畑中はたなか、詩/書家)	T 2 6 1 4
雄(ゆう・原)	→	脩斎(しゅうさい・原はら、儒者/詩人)	X 2 1 3 2
裕(ゆう・富永)	→	竹村(ちくそん・富永、医/儒学/歌)	D 2 8 4 1
裕(ゆう・伊達)	→	噉子(とんこ・池田/伊達、歌人)	M 3 1 3 7
裕(ゆう・岡田)	→	眞吾(しんご・岡田おかだ、藩士/儒者)	O 2 2 2 7
裕(ゆう・川本)	→	幸民(こうみん・川本かわもと、蘭医/理化学)	L 1 9 3 0
裕(ゆう・河合)	→	宗裕(むねひろ・河合かわい、藩士/国学)	D 4 2 7 1
祐(ゆう・野口)	→	甘谷(かんこく・野口のぐち、藩士/儒者)	Q 1 5 4 7
祐(ゆう・戸倉/坪内)	→	伊八郎(いはちろう・戸倉、洋学者)	I 1 1 1 8
祐(ゆう・高橋)	→	赤水(せきすい・高橋たかはし、医者/儒者)	K 2 4 2 7
祐(ゆう・池田)	→	噉子(とんこ・池田いけだ/伊達、藩主室/歌)	M 3 1 3 7
裕(ゆう・萩原)	→	西疇(せいしゅう・萩原はぎわら、漢学者)	C 2 4 6 0
遊(ゆう・三浦/松平)	→	遊子(ゆうこ・松平/三浦、中藺/歌人)	B 4 6 5 4
遊(ゆう・本間/堀田)	→	省軒(せいけん・堀田ほった、藩士/儒者)	G 2 4 8 9



游(ゆう・藤木) → 実斎(じつさい・藤木ふじのき、儒者/詩人) U 2 1 7 0

4600 由阿(ゆうあ;法諱、由阿弥陀仏) 1291- ? 1375存 鎌倉南北期;時宗僧:真教門/歌人・和学者、相模藤沢の清浄光寺入住:1366関白二条良基の招聘で上京;[万葉集]を講義、後年藤沢遊行寺住、「六華和歌集」撰者、1372「美濃千句」参加、1366万葉注釈「詞林采葉抄」「拾遺采葉抄」、1374「青葉丹花たなか抄」著

4649 祐阿(ゆうあ;法諱) ? - ? 南北期;僧/連歌:1356成立「菟玖波集」3句入、[あやめの軒をつたふさゝがに](菟玖;1094/前句;けふの日に袖の薬玉糸かけて/端午)

G4631 祐阿(ゆうあ;法諱) ? - ? 室町期社僧、連歌;1423「応永三十年熱田法楽百韻連歌」連衆(2句入)、[このごろはひなの住ひに明けくれて](熱田法楽;三表5/都遠く身をやつした生活、前句;蓑代衣みのそころも袖ぞやつる;政保)

4650 祐阿(ゆうあ・時雨庵) 1719 - 1799 81 江中期越前福井の富商;大坂屋主人、俳人;廬元坊・以哉坊門、伝芭蕉使用の木枕で芭蕉像を制作;開眼供養を営み句集編纂、1771「旅ほうこ」/82「つみみとせ」/87「飛梅集」編、92「道の恩」著、[祐阿(;号)の通称/別号]通称;大坂屋七左衛門、別号;声々/時雨庵/祐阿坊

有阿(ゆうあ、有阿弥陀仏ゆうあみだぶつ) → 呑海(どんかい;法諱、時宗遊行4世) S 3 1 1 0

祐阿(ゆうあ・実蓮社) → 学天(がくてん;法諱・因順、浄土僧) K 1 5 2 6

西阿(ゆうあ・演蓮社) → 罔鑑(げいかん;法諱・一呼、浄土僧) F 1 8 3 9

融阿(ゆうあ) → 澄月(ちようげつ;号、西山、浄土僧/歌人) 2 8 2 1

友愛(ゆうあい・高崎) → 五六(ごろく・高崎たかさき、藩士/政治家) Q 1 9 9 6

友愛(ゆうあい・藤田) → 友愛(ともちか・藤田ふじた/秦/永本、神職) W 3 1 2 4

遊蛙園(ゆうあえん) → 信之(のぶゆき・吉岡よしおか、藩士/国学) K 3 5 3 2

由阿弥(ゆうあみ・遠藤) → 故厓(こがい・遠藤えんどう、俳人) L 1 9 8 5

由阿弥陀仏(ゆうあみだぶつ) → 由阿(ゆうあ、時宗僧/歌人/和学者) 4 6 0 0

有阿弥陀仏(ゆうあみだぶつ) → 呑海(どんかい;法諱、有阿、時宗遊行4世) S 3 1 1 0

G4650 遊安(ゆうあん;法諱、俗姓;新田) ?-1695 上州邑楽郡小島の浄土僧;15歳で出家、江戸小石川伝通院の春岳門/上方に遊学;諸宗の学を修学/儒学;宇都宮遯庵門、幕命で1686檀林浅草霊山寺の住僧/1688(元禄元)同寺を本所に移転;92堂宇完成、1693常陸常福寺に転住、「安楽集開関鈔」「往生要集指摩き鈔」「化他五重」著 [遊安(;法諱)の字/法名]字;廓瑩かくえい/廓榮、法名;光蓮社明誉念称

4652 友庵(ゆうあん・能美のうみ、初姓;林) 1771-1831 61 周防三田尻の医者;長門藩医能美由庵安世門、その婿養嗣子、妻;能美由庵女、痘科;池田家門、萩藩主毛利斉房・斉熙の側医、「六診提要」「痘疹記聞」、洞庵の父、[友庵(;通称)の名/字/別通称/号]名;敦/安和、字;士厚、初通称;玄順、号;竜洲

4653 祐庵(ゆうあん;通称・高島たかし/本姓;源) 1821-68 48 江後期;代々幕府寄合医師/1845家督継嗣、1866幕府奥医;大坂城で罹病の将軍家茂を診察、医学館で講書;褒賞を受ける、1860頃「小夜時雨」、「瀉疫新論」著、祐啓ゆうけい(久也、竹内下野守遣欧使節に同行)の実兄、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[住む人はよし知らずともとひてみん荒し籬まがきの夕顔の宿]、(大江戸倭歌;夏604/疎屋夕顔)、[祐庵(;通称)の名] 久貫

有庵(ゆうあん、三休) → 敦通(あつみち・久我こが、廷臣/連歌) C 1 0 7 2

有庵(ゆうあん・前田) → 知好(ともよし・前田、城代/文筆) Q 3 1 9 0

友庵(ゆうあん・有松) → 松友庵(しょうゆうあん、伝記作者) B 2 2 8 0

友庵(ゆうあん・沖) → 忠敬(ただたか・沖、藩士/儒者) P 2 6 7 1

祐菴(ゆうあん・河村) → 正和(まさかず・河村かわむら、医者/国学) P 4 0 0 8

柚庵(ゆうあん) → 曰人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1

融庵(ゆうあん・佐藤) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家) D 3 5 1 2

憂庵(ゆうあん) → 舒長(のぶなが・安達あだち、儒/詩歌) C 3 5 5 5

憂庵(ゆうあん・口羽) → 杷山(はざん・口羽くちば/大江、藩士/儒) E 3 6 3 4

- 幽安(祐庵ゆうあん・北村)→ 政従(まさより・北村きたむら、郷土/茶/歌俳) P 4 0 3 1  
 幽庵瓮(ゆうあんおう) → 逸風(いっふう・堀江ほりえ、書家) H 1 1 7 8  
 有庵三休(ゆうあんさんきゅう)→ 敦通(あつみち・久我こが、廷臣/連歌) C 1 0 7 2
- 4654 友意(ゆうい・渡辺わたなべ) ? - ? 江前期尾張名古屋の俳人:令徳門、  
 一雪・友次に点を請う、1673「旅衣たひころも集」編、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [待ちこがれ胸の一声ひとこゑや恋し鳥](手鑑/恋し鳥;郭公ほととぎす)、  
 [友意(;号)の通称/別号]通称;八弥、別号;安住軒
- G4626 友以(ゆうい) ? - ? 江前期摂津狂歌作者;1666行風「古今夷曲集」入  
 H4647 宥威(ゆうい;法諱) ? - 1839 江中後期;陸奥盛岡の真言宗永福寺57世、権僧正、  
 1837七崎山観世音菩薩(観音堂吊灯笼)奉納、  
 友意(ゆうい;法名) → 頼久(よりひさ・松田まつだ、連歌作者) J 4 7 5 1  
 佑矣(ゆうい・浅田) → 佑矣(すけお・浅田あさだ、藩士/歌人) L 2 3 2 3  
 祐以(ゆうい・赤松) → 祐以(すけもち・赤松/福田、国学/歌人) H 2 3 1 2  
 祐為(ゆうい・鴨) → 祐為(すけため・鴨かも/梨木、神職/歌人) C 2 3 3 9  
 祐維(ゆうい・中臣) → 祐維(すけつな・中臣なかとみ/今西、神職) G 2 3 5 0  
 有位(ゆうい・宮坂) → 有位(ありかた・宮坂みやさか、酒造業/国学) L 1 0 5 9  
 有維(ゆうい・千種) → 有維(ありふさ・千種/源、廷臣/大納言) F 1 0 7 3  
 由頤(ゆうい・吉田) → 宗怡(むねひさ・吉田よしだ、幕府医官) C 4 2 3 0
- 4655 有一(ゆういち・三浦みづら) 1792- 1863 72 江後期江戸の俳人、1861(万延2)「俳士年表」著、  
 [有一(;号)の別号] 採蓮社/季中子  
 有一(ゆういち・杉木) → 有一(ありかず・杉木すぎき、村役人/地誌) F 1 0 2 7  
 由一(ゆういち・高橋) → 由一(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師) 4 6 4 3  
 右一(ゆういち・吉田) → 右一(すけかず・吉田よしだ、藩士/歌人) J 2 3 4 1  
 右市(ゆういち・新井) → 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V 2 6 3 0  
 雄市(ゆういち・藤岡) → 有貞(ありさだ・藤岡ふじおか、算学/測量) F 1 0 3 4  
 右一郎(ゆういちろう・吉田) → 右一(すけかず・吉田よしだ、藩士/歌人) J 2 3 4 1  
 雄一郎(ゆういちろう・穂積) → 重胤(しげたね・鈴木/源、国学者/歌人) 2 1 1 2
- 4656 右一(ゆういつ・荒木あさき) ? - 1833 江後期筑後久留米藩士/俳人:存梅門;高弟、  
 1799伊勢神宮参詣;帰途近江義仲寺の重厚を訪問/大坂の八千房駝岳・蓼太と交流、  
 「伊勢日記」著、  
 [右一(;号)の名/通称/別号]名;泰秋/経貞、通称;百右衛門、  
 別号;玄々丸/陶々斎/防林舎  
 有煒楼(ゆういろう) → 采蘋(さいひん・原はら、詩人) B 2 0 0 8
- 4657 幽院(ゆういん) ? - ? 江前期大坂の俳人;  
 1684一水催の三千風歓迎の一座に参加(;日本行脚文集入)
- G4651 祐胤(ゆういん;法諱) ? - ? 江中後期;近江の真宗大谷派光徳寺の住職、  
 1798「御文二帖目第一通聞書」著
- G4661 有允(ゆういん・宇都宮うつのみや、) 1831-66 斬殺 36 豊前英彦山の修験者/英彦山奉行職;執当職、  
 歌;原田種信門、1863(文久3)英彦山役僧の義挙企画の際に盟約連判状を秘匿/志士と謀議、  
 首謀者と目される/小倉藩による弾圧;熊本に逃走;捕縛/投獄、  
 1866長豊戦争中小倉城焼失の際に同志と共に斬殺、維新後;正五位贈与、  
 [有允(;名)の通称] 成円坊貫之じょうえんぼうかんし/貫  
 祐尹(ゆういん・西川) → 祐尹(すけただ・西川にしかわ、絵師/絵本) G 2 3 4 0  
 祐因介(ゆういん・土方) → 有経(ありつね・土方ひじかた、沼津藩家老) G 1 0 5 3  
 祐胤(ゆういん・伊藤) → 祐胤(すけたね・伊藤いとう、藩医/儒者) G 2 3 4 3  
 融因(ゆういん) → 能因(のういん、歌人) 3 5 0 2  
 又陰(ゆういん) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8  
 誘引斎(ゆういんさい) → 尊閑(たかやす・役えき、平賀、修験/古典) N 2 6 5 2  
 友于(ゆうう・在原) → 友于(ともゆき・在原ありはら、廷臣/権帥) X 3 1 5 5  
 友于(ゆうう・神原) → 友于(ともゆき・神原かんばら、醸造家/歌人) U 3 1 9 0

- 友于(ゆう・倉谷) → 友于(ともゆき・倉谷、医/歌人) Q 3 1 8 6  
 友于(ゆう・宝生) → 友于(ともゆき・宝生、能楽師) Q 3 1 8 7
- 4658 **雄運**(ゆうん;法諱) ? - ? 僧侶;法師/歌人:  
 1439成立「新続古今集」入(1928)、  
 [吉野川よしやと思ふこの世をも渡りかねては又歎くかな](新続古;雑1928)
- G4652 **祐運**(ゆうん;法諱) 1560 - ? 戦国期天台僧、「経論章疏要文」著
- 4659 **右運**(友運ゆうん) ? - ? 戦国期連歌作者;元亀天正1570-92頃迄連歌会参加、  
 1573幽斎興行「大覚寺千句(嗟峨千句)」参加、紹巴と百韻
- 4660 **友雲**(ゆうん;法諱・和尚)? - ? 僧侶/詩人;1700三千風「倭漢田鳥わかんでんちよう集」入  
 友雲(ゆうん;道号・士思) → 士愿(しさい;法諱・友山;道号、臨濟僧) D 2 1 6 5  
 友雲(ゆうん;号) → 三江(さんこう;道号・紹益、臨濟僧/聯句) M 2 0 1 3  
 幽雲(ゆうん・目加田) → 守如(もりゆき・目加田めがた、絵師) G 4 4 7 6  
 幽雲斎(ゆうんさい) → 左簾(初世さへん・笠家/三浦、妓楼主人/俳人) E 2 0 0 5  
 遊雲山人(ゆうんさんじん) → 正純(まさずみ・依田よだ、国学/歌人) P 4 0 5 2  
 友雲士思(ゆうんしし) → 士愿(しさい・友山、臨濟僧) D 2 1 6 5  
 有雲上巢居(ゆうんじょうそうきよ) → 万春(ばんしゅん・田中、曆算家) H 3 6 9 7  
 遊雲堂(ゆうんどう) → 水猿(すいえん・広瀬ひろせ、俳人) 2 3 3 2
- 4661 **祐恵**(ゆうえ;法諱) ? - ? 安桃期天正慶長1573-1615頃大坂真宗本願寺僧、  
 連歌作者;大村由己の連歌会に参加/山科言継家に出入/紹巴とも一座、  
 1596(慶長元)能舜・玄仲と「山何百韻」
- H4648 **宥慧**(ゆうえ;法諱、俗姓;中村)?-1792 江中期;陸奥盛岡の真言宗永福寺53世、和学者
- 4662 **宥恵**(ゆうえ;法諱) 1760 - 1837 78 江中後期真言僧;阿波鳴門薬王寺の住職、法印、  
 歌人;外山中納言門、「金剛幻叟随見聞記里蚕」著、  
 [宥恵(;法諱)の号] 幽旨/南里亭/金剛幻叟
- 4663 **宥栄**(ゆうえい;法諱、俗姓;大崎、大阿闍梨法印の月淡男)?-1511 戦国期;奥羽の修験僧、  
 陸前志田郡金剛院観永寺6世、大崎五郡内寺院の惣頭職;奥羽探題大崎義国の孫と称す、  
 大崎地方の神仏の支配権を把握、「羽黒山年代記称」「羽黒山暦代記」「三権現縁起」著
- 4664 **猶影**(ゆうえい) ? - ? 江前期狂歌作者;  
 1671正式まさり「堀川狂歌集」に古典狂歌師として入集
- 4665 **祐栄**(ゆうえい;法諱) ? - 1689 天台僧;比叡山西塔北谷金台院住持、  
 1661伊勢山田法住院に転住/権大僧都、「台密求聞持聞書」著、憲海の師
- 4666 **友英**(ゆうえい・寺田てらだ、重徳じゅうとく男)?-? 書肆、俳;1696父追悼「ねざめの友」編
- 4667 **祐英**(ゆうえい・那波なば) ? - ? 儒詩;仁斎[1627-1705]門、東涯「当世詩林」入  
 祐栄(ゆうえい・中臣) → 祐栄(すけしげ・中臣なかとみ/千鳥、神職) G 2 3 3 2  
 祐栄(ゆうえい・伊東) → 祐栄(すけひで・伊東いとう、藩士/歌人) L 2 3 3 1  
 祐永(ゆうえい・中臣) → 祐永(すけなが・中臣なかとみ/辰市、神職) G 2 3 7 1  
 祐英(ゆうえい・那波) → 蕉臆(しょうおそく・那波なば、漢学者/詩歌) K 2 2 5 3  
 祐英(ゆうえい/すけひで・佐藤) → 晩得(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) I 3 6 4 4  
 友英(ゆうえい・寺田) → 友英(ともひで・寺田てらだ、重徳男/書肆) 3 1 6 2  
 雄英(ゆうえい・小原) → 雄英(たけひで・小原おはら/大江、幕臣/国学) W 2 6 0 2  
 由英(ゆうえい・篠崎) → 由英(よしひで・篠崎しのぎ、歌人) K 4 7 6 6  
 猷栄(ゆうえい・深河) → 猷栄(のりなが・深河、神職) F 3 5 3 4  
 有栄(ゆうえい・津田) → 有栄(ありえ・津田、藩士/儒/神道) F 1 0 2 4  
 有栄(ゆうえい・山田) → 昌巖(しょうがん・山田、藩家老/記録) H 2 2 8 4
- 4668 **由益**(ゆうえき;字・菅かん/蒲田、名;謙、菅得庵男)?-1695 儒者;父門、「本性文教略記」著
- 4669 **有益**(ゆうえき・安藤あんどう) 1624-1708 85 会津藩士/和算家;今村知商・島田貞継門、  
 作暦のため藩主保科正之に登用/1650茶坊主/江戸藩邸勘定役人、  
 猪苗代湖の水利治水・田畑の測量/飯豊山・磐梯山の測量を実施/米価の計算を精査、  
 物価安定に貢献し加増を受/1688事に座し配流;赦免、普請奉行に昇進、「安藤有益記」、

「本朝統曆」「常平法」「六国史曆考」「東国物語」「彼我古曆詳考」「算法改正録」著、  
1662「堅亥録仮名抄」76「東鑑曆算改補」95「奇偶方数」97「先代旧事本紀曆考」外著多数、  
[有益(；名)の通称/法号]通称；市兵衛、法号；雄岳全機居士

- 4670 **有益**(友益ゆうえき；通称・奥田おくた)？-？ 江前中期天和宝永1681-1711頃；奈良の和算家、  
岡田宗春に[宣明曆]を受、1683「算数記」著/1706「算法改正録」編
- 4671 **友益**(ゆうえき・渡辺わたなべ)？-？ 江前期播磨の歌人；烏丸光広[1579-1638]門、法橋、  
「和歌遺言」著、1691了然尼撰[若むらさき]1710静山「和歌継塵集」32「和歌山下水」入、  
梅谷軒求之・植山梅之ばいの師、  
[うつり香の袖にとまらで別れなば今朝も夜比よろの夢になさまし]、  
(若むらさき；143後朝恋)、  
[友益(；通称)の号] 春之しゅん/梅香庵
- 4672 **友益**(ゆうえき・泉原いずはら)？-？ 近江大津の俳人；  
1689言水「前後園」/90「新撰都曲みやこぶり」4句入、  
[白魚しらうをや日のさしかゝる浦の浪](都曲；上213/日の出の赤と魚の白)
- 友益(ゆうえき・速水) → 友益(ともます・速水、歌/連歌) Q 3 1 5 9  
友益(ゆうえき・森もり) → 友益(ともます・森もり、医者) Q 3 1 6 0  
友益(ゆうえき・倉田/横田) → 何求(可及かきゆう・横田、儒者) H 1 5 2 3  
友益(ゆうえき・加藤) → 缶楽(ふがく・加藤、儒者/神儒の学) B 3 8 3 2  
祐益(ゆうえき・千鳥) → 祐益(すけます・千鳥ちどり/中臣、神職/歌) I 2 3 8 0  
裕益(ゆうえき・植木) → 右稻(うとう・植木うえき、俳人) D 1 2 1 8  
由繹(ゆうえき・奈良) → 由繹(よつぐ・奈良なら、藩士/地誌家) E 4 7 6 4
- 4673 **友悦**(ゆうえつ・大田おおた、大田数馬宣晴2男)1641-171979 下野喜連川の生；江戸で医・儒を修学、  
1677陸中盛岡藩主南部重信の医師；盛岡住；のち百石取、俳人；松江維舟系、三千風と交流、  
1674維舟「大井川集」外10余種の撰集に入集、  
1681「それぞれ草」編、「化物さかし」「旅すひつつ」著、  
[友悦(；号)の名/字/別号]名；宣白、字；幽閑、別号；知幾軒/化身齋
- 4674 **有悦**(ゆうえつ；法諱、号；和南)？-？ 陸前仙台の真言僧、  
護国山医王院国分寺の中興開山、1676(延宝4)薬師堂および白山神社建立始末書を編纂、  
「国郡寺社縁起」「金光明四天王護国山国分寺来由記」著
- 樽悦(ゆうえつ・柳) → 樽悦(ならよし・柳やなぎ、藩士/測量術) G 3 2 9 3
- H4609 **祐右衛門**(ゆうえもん・成田なりた、字；子輔)1750-182475 陸奥弘前津軽藩勘定奉行、国学者
- 4675 **勇右衛門**(ゆうえもん・佐羽内さわうち/本姓；源、名；寛紀)1807-5549 陸奥南部盛岡の一和流馬術師範、  
「覈鞭集」「軍馬目録」「庭乗之目」著  
[勇右衛門(；通称)の法号]真乘院和勇明空居士
- 勇右衛門(ゆうえもん・山田) → 森重(もりしげ・山田やまだ、砲術家) F 4 4 4 7  
勇右衛門(ゆうえもん・小山田) → 吉泰(よしやす・小山田おやまだ、和算家) H 4 7 8 1  
勇右衛門(ゆうえもん・亀山) → 嘉治(よしはる・亀山かめやま、国学/歌人) M 4 7 3 0  
雄右衛門(ゆうえもん・塩尻) → 梅宇(ばいう・塩尻しおじり、儒者) 3 6 5 9  
雄右衛門(ゆうえもん・中井) → 柚園(ゆうえん・中井なかい、儒者) 4 6 8 1  
雄右衛門(ゆうえもん・田村) → 克成(かつなり・田村たむら、儒/藩政参画) N 1 5 6 9  
雄右衛門(ゆうえもん・財部) → 実秋(さねあき・財部たからべ、藩士/神職/歌) Q 2 0 8 9  
祐右衛門(ゆうえもん・茂木) → 治具(はるとも・茂木もてぎ、藩士/検地) F 3 6 3 2  
由右衛門(ゆうえもん・植木) → 悦(えつ・植木うえき、藩士/兵学者) E 1 3 0 8  
由右衛門(ゆうえもん・竹内) → 義方(よしかた・竹内/源、絵師/故実家) C 4 7 7 0  
有右衛門(ゆうえもん・新山/池永) → 道雲(どううん・池永、商家/書/篆刻家) B 3 1 2 7  
有右衛門(ゆうえもん・毛内) → 宜応(ぎおう・毛内もうない茂肅、藩士/農政) V 1 6 4 6  
有右衛門(ゆうえもん・毛内) → 雲林(うんりん・毛内茂幹、宜応男/藩士/絵師) E 1 2 9 3  
猶右衛門(ゆうえもん・谷) → 本教(もとりの・谷たに、能吏/記録) D 4 4 8 1
- 4676 **猷円**(ゆうえん；法諱、右馬権頭藤原隆信男)1161-123272 信実の兄、天台宗園城寺の僧、1225僧都、  
1227園城寺別当/29法印、定家と親交；「明月記」入、歌人；「万代集」入、



勅撰4首;新古今(1526)新勅撰(210)玉葉(1899/2674)、

[ながめわびぬ柴の編戸あみどのあけがたに山の端近く残る月影]

(新古;雑1526/山家の心;開けと明けを掛る/終夜月を見てあかす隠者の感傷)

[猷円(法諱)の別法諱/通称]別法諱;泉円、通称;乘乘房法印/別当法印

- 4677 融円(ゆうえん;法諱) ? - ? 鎌倉後期真言宗金剛乘院の住職、  
宇田天皇・性円法親王に出仕、1319(元応元)東寺執行職、「金剛鈔」著
- 4678 祐円(ゆうえん;法諱) ? - ? 安桃江前期;山城愛宕神の社僧;長床坊住、  
連歌作者:1599(慶長4)紹巴と「何人百韻」
- 4679 遊燕(ゆうえん;名・薮しとみ) ? - ? 江中期元禄1688-1736頃河内の和漢学者、  
故事に精通、1691(元禄4)「漢語大和故事」著/1697「年中故事要言」編、「和漢故事聞選」編
- 4680 雄淵(ゆうえん/おぶち・大場おおば) 1758-1829<sup>72</sup> 陸前仙台の大崎八幡神社祠官/俳人:白居門、  
師没後その庵号瓠形庵を継承、名古屋の暁台に私淑;蕉風を探究、皇学にも通ず、  
1798「かたみのすゝき」1801「新鶴芝」著/06「たまくしげ仙台の部」編/07「霜の蜂」著、  
1817「俳諧五十四帖」著、「奥州名所図絵」「瓢屋俳諧言葉集」「文政さる」「雄淵備忘録」著、  
[鳴たつや雄島の海士の夕帰]、  
[雄淵(ゆうえん:号)の名/通称別号]名;雄淵(おぶち)、通称;山城守/大場山城、  
別号;澹斎/瓢瓠庵/古松庵/萍華へいか軒/瓠形庵こけい2世/臥雲山人
- G4653 宥円(ゆうえん;法諱) ? - ? 1830存 江後期真言僧;大和長谷寺桂光院住寺、  
1829(文政12)「天台四教集解玄談」
- 4681 柚園(ゆうえん・中井なかい、名;環、履軒の長男) 1782-1834<sup>53</sup> 大阪の儒者(家学);父門、  
父の業を継嗣;私塾水哉館教授、書;「中井柚園書」書、  
「小説類集」「紫蘭叢」「雌伏見聞記」「柚園数記」「柚園先生首書小学」「文馬篇」著、  
[柚園(;号)の字/通称]字;君玉、通称;菊麿/菊次郎/雄右衛門
- 4682 祐円(ゆうえん;法諱、俗姓;齋藤) ?-1870 備前邑久郡笠加村の真言僧;同村大楽院12世住職、  
歌:業合大枝・中臣正陰門、1816(文化13)「丙午夏ヨリ」編、「伏見船」編
- 4683 誘苑(ゆうえん;法諱) ? - ? 江後期近江の真宗本願寺派真行寺住職、慶恩門、  
真宗經典の研究:解義に専念し卓説を出す/助教、  
1849「愚禿鈔講録」、「王本願随聞記」「大経和讃筆記」著
- 祐円(ゆうえん:法名) → 経教(つねのり・九条くじょう、関白/歌人) D 2 9 0 9  
有園(ゆうえん・植松) → 有園(ありぞの・植松うえまつ、国学/神職/歌) H 1 0 0 9  
宥円(ゆうえん;字) → 亮遍(りょうへん;法諱・宥円、真言僧) J 4 9 3 8  
幽円(ゆうえん・新庄) → 直賢(なおかつ・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 0  
雄園(ゆうえん) → 允中(まさなか・首藤/末長/山高、故実) F 4 0 1 1  
檜園(ゆうえん) → 松根(まつね・古川、歌人) J 4 0 8 3  
猶園(ゆうえん) → 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3  
幽遠岨(ゆうえんくつ:亭号) → 昌喜(まさよし・入江、国学者/歌) I 4 0 5 3  
又筵斎(ゆうえんさい) → 梅戸(ばいこ・又筵斎、俳人) B 3 6 1 5  
遊園堂(ゆうえんどう) → 露沾(ろせん・内藤、俳人) 5 2 0 6
- G4654 祐応(ゆうおう;法諱) ? - ? 江中期江戸の真宗本願寺派延寿寺住職、  
1730(享保15)刊「円戒念仏一致章」著
- 4684 遊翁(ゆうおう・海野うんの/本姓;滋野、名;幸典ゆきのり) 1794-1848<sup>55</sup> 祖は信濃出身、江戸の生、  
出雲松江藩士/のち幕臣、国学/歌:前波黙軒門、本居宣長の学風を慕う、仲田顕忠の師、  
「海野幸典詠草」「柳園家集」「海野遊翁歌集」「たゞごと歌の辨」「七夕百首序文陳状」著、  
1830「紀氏御集」著/36-8「現存歌選類題」編/47「遊翁詠草」48「五十音口訣」著、外著多数、  
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[千代のうへにちよをかさねて引く松は八千代さかえん例とぞみる]、  
(大江戸倭歌;戸田阿波守氏寿の後の子日に小松に添え送られた歌への返歌;、  
氏寿の贈歌;再びの今日の子日に引く松や千代を重ねん例ためしなるべき)  
[游翁(;出家号)の通称/別号]通称;源兵衛、初号;柳園、法号;花月院
- 由翁(ゆうおう) → 由翁(ゆうおう、俳人) E 4 6 1 7

- 西翁(ゆうおう;号) → 宗圭(そうけい;法諱・雪庵;道号、臨濟僧) G 2 5 9 2  
 祐翁(ゆうおう・小津) → 俊資(としたか・小津おづ/松本、国学/歌) U 3 1 4 2  
 雄翁(ゆうおう・氏家) → 雄足(たけたり・氏家うじいえ、国学者) V 2 6 8 3  
 遊鷗(ゆうおう・土屋) → 知虎(ともとら・土屋、家老/詩文) P 3 1 9 6  
 遊翁(ゆうおう・柴田) → 艾軒(がいけん・柴田/笹島、鳩翁嗣子/心学) I 1 5 6 1  
 遊翁(ゆうおう・村田) → 良風(よしかぜ・村田むらた、藩士/歌人) P 4 7 5 5  
 友鷗(ゆうおう・小西) → 可春(よしはる・小西こにし/柳原、藩士/歌) G 4 7 0 9  
 幽翁(ゆうおう・山中) → 為質(ためただ・山中やまなか、藩士/歌人) 2 7 1 8  
 檜翁(ゆうおう・岡) → 吉胤(よしたね・岡おか、藩士/国学者) E 4 7 3 9  
 祐億(ゆうおく・中臣) → 祐弥(すけみつ・中臣/東地井、神職) H 2 3 0 9  
 祐恩(ゆうおん・中臣) → 祐恩(すけよし・中臣/辰巳、神職) D 2 3 6 8
- G4659 祐可(ゆうか・平野ひらの) ? - ? 江前期上方の俳人;  
 1673西鶴「生玉万句」第二莖発句入、  
 [日あやりや南の坊の花莖](生玉万句;莖発句/南の坊;古義真言宗生玉別当法印の住坊)
- 4686 友花(ゆうか) ? - ? 俳人;1776樗良「誹諧月の夜」1句入、  
 [明けわたる野辺や千艸ちぐさの露の玉](月の夜;80)
- 4687 祐可(ゆうか;法諱・唯浄坊、千福寺、空阿2男) ?-1849長寿90余歳没 真宗本願寺派僧、  
 父は越前坂井郡竹田村真宗本願寺派本専寺住職、福井の千福寺祐智の養嗣;千福寺住持、  
 上京/歌人;二条家及び芝山持豊門/諸公卿と交流/詩・俳諧も嗜む、川地義裕よしひろの師、  
 1822(文政5)「越前名所指南草」、「南越志流込久佐しるべき」著、歌人・俳人として活躍、  
 歌;松平慶永(春嶽)「古今百人一首」入、  
 [嬉しさは老を餅のます鏡くもらぬ御代に七十年の春](古今百人一首;68)  
 [祐可(;法諱)の号/法号]号;竜潭/求白/獅嶺(;俳号)/菊庵/唯浄坊、法号;唯浄坊釈祐可
- 友華(ゆうか・田代たしろ) → 常綱(つねつな・田代/上原、藩士/和漢学) C 2 9 5 3  
 友可(ゆうか・生駒) → 万子(まんし・生駒いこま、藩士/俳人) K 4 0 6 0  
 又可(ゆうか・宮下) → 弁覚(3世べんかく・宮下みやした、医者/歌) B 2 7 1 5  
 有果(ゆうか;法諱) → 有果(ゆうこう;法諱、僧/歌/連歌) B 4 6 5 7  
 祐家(ゆうか・藤原) → 祐家(すけいえ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) B 2 3 9 0  
 祐夏(ゆうか・鴨) → 祐夏(すけなつ・鴨かも、神職/歌人) C 2 3 6 5  
 祐夏(ゆうか・中臣) → 祐夏(すけなつ・中臣なかとみ、神職/歌人) C 2 3 6 6
- 4688 有雅(ゆうが;法諱) ? - ? 僧侶;法印/歌人、新後拾遺1399、  
 [あらましのなからましかば何をかは数ならぬ身のなぐさめにせん](新後拾;雑1399)
- 4689 有雅(ゆうが;法諱、初法諱;浄雅) 1625-170783 天台宗園城寺僧;聖護院道晃門;1668伝法灌頂受、  
 積善院に住、「峯中記」1679「両界曼供記」83「庭儀曼供并八講懺法講記」著
- 4691 有雅(ゆうが;法諱、六条有純男) 1634-1728長寿95 前内大臣中院通村の猶子、  
 真言僧;報恩院寛濟門;受法、醍醐山下極楽坊を再興/釈迦院に住、  
 法務大僧正/1678(延宝6)東寺182代長者、  
 1695「秘鈔伝授記」「伝法灌頂金剛界伝授記」1725「幸心訣薄後重」、「結縁灌頂口説」著、  
 「玄秘抄口決」「伝法灌頂三初後」「廟鈔口決」「四度聞書」「伝授記」外著多数、  
 [有雅(;法諱)の通称/諡号]通称;釈迦院大僧正、諡号;蓮蔵院
- 4692 友我(ゆうが・一原) ? - ? 江前期尾張の俳人;  
 1675重徳「新続独吟集」上巻;独吟百韻入、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
 [鶯のつるむやみとのまぐ梅花ばいか](手鑑/鶯と梅花のみとのまぐはひ)
- 4693 友我(ゆうが・山本やまもと/狩野、名;是尚、富尚男) ?-1669刑死 江前期絵師;狩野松栄・休白門、  
 初め江戸で活動/35歳で上京/1644鹿苑寺鳳林承章と親交;公家と交流、  
 1647後水野尾院に「月下花鳥図」献上、院より屏風絵の依頼/48法橋、「印尽」、  
 1669息子泰順たいじゅんの長崎糸荷の偽物入質事件に連座;刑死、  
 息 → 泰順(たいじゅん・山本、儒者) K 2 6 2 6
- 4690 友雅(ゆうが) ? - ? 江前中期俳人;1704?「女郎蜘蛛じょうぐも」編
- 4694 有雅(ゆうが;号・水谷みづたに、寿松園) ?-? 江後期青山流華道家、逸雅の父、

1851「青山御流活花早教論」53「青山御流活花手引種後編」57「青山御流活華千瓶図式」、  
1857-8「青山御流活花九枝九体伝」、「花道初禁甫之巻」「園殿御家青山御流活花九体伝」著

- 祐雅(ゆうが;法名) → 雅世(まさよ・飛鳥井、蹴鞠/歌人) 4 0 2 3  
祐雅(ゆうが;法名) → 親雅(ちかまさ・中山/堀河/藤原、廷臣/歌) B 2 8 8 0  
祐雅(ゆうが;法名) → 季顕(すえあき・四辻/室町/藤原、大納言) B 2 3 0 7  
祐雅(ゆうが・千鳥) → 祐雅(すけまさ・千鳥ちどり/中臣、神職/歌) I 2 3 7 9  
有雅(ゆうが・元慶;道号) → 元慶(げんこう・有雅;法諱、臨濟僧/聯句) I 1 8 7 2  
遊賀(ゆうが・立川) → 政峯(まさみね・立川たちかわ、歌人) Q 4 0 8 3  
幽雅(ゆうが・伊藤) → 允讓(まさよし・伊藤いとう、陶工/里正) N 4 0 4 0
- 4695 祐海(宥海ゆうかい;法諱、通称;式部ノ堅者)?-? 1310存 武州天台僧:仙波仏地院開山の尊海門、  
「肝心要義」「顕密論談抄」「心観明了抄」「要義抄」「纂義」著/「義科聞書」編
- 4696 宥快(ゆうかい;法諱、藤原実光男)1345-1416? 京の真言僧/若くして高野山修業;宝性院信弘門、  
両部灌頂を受/1374宝性院門跡、1377興雅門;安祥寺流修学;興雅より安祥寺を付授される、  
南北合一頃;後円融院平松御所で鎮宅法を修す/南山流の大成者、1386「十八道加行聞書」、  
1403「伝法灌頂授与記」09「月輪観」12「安流折紙伝授日記」13「具支灌頂儀式」、外著多数、  
[宥快(;法諱)の別法諱/号]初法諱;賢栄/瑞巖(いごん、号;宰相房/
- 4699 雄海(ゆうかい;法諱) ? - ? 戦国期永禄1558-70頃天台僧;下総飯沼安楽寺住持  
常陸の小野逢善寺の学頭、別当坊に住、「三大部序見聞」「止観義例雄海鈔」著
- E4605 祐海(ゆうかい;法諱) ? - ? 江前期山城愛宕山の社僧、  
1602陸奥弘前藩主津軽為信が愛宕山から勝軍地藏を浅瀬石村に勧請時に開眼供養を勧む、  
1606「為信公江愛宕山教学院より書牒」著
- 4697 祐海(ゆうかい;法諱・号;徒然庵)?-1689 伊勢度会郡尾上の常明寺住僧/法印、  
歌人:山本正重門;和歌伝授を受/門弟秦直栄に伝授、貞享1648-88頃失明、  
1658「百人一首師説抄」/63「常明寺祐海勸進状」、「歌道秘伝書」著
- 4698 祐海(ゆうかい;法諱・愚蒙;字、俗姓;新妻、祐天の甥)1682-1760? 磐城浄土僧:牛島村隠棲祐天門、  
江戸増上寺に修学/下総大巖寺・飯沼弘経寺・江戸小石川伝通院住/増上寺に再住;研鑽、  
享保1716-36頃師祐天の遺徳を慕い自庵室善久院を拡張;祐天寺を建立、  
1734「威儀略述」、「帰命無量寿和讃」「祐天大僧正利益記」著、  
[祐海(;法諱)の法名]拈蓮社(ねんれんしゃ)香誉信阿
- 祐戒(ゆうかい) → 公雅(きんまさ・三条/正親町三条、歌) E 1 6 6 8  
猶海(ゆうかい;法名) → 操(みさお・玉松たままつ/山本、僧/国学/政治) J 4 1 7 2  
有义(ゆうがい・滝川) → 有义(ありはる・滝川、和算家) F 1 0 6 4  
有涯(ゆうがい・伊東) → 正直(まさなお・伊東いとう、藩士/歌人) N 4 0 3 9  
遊外(ゆうがい・高こう) → 元昭(げんしょう;法諱・月海、黄檗僧/売茶翁) C 1 8 1 9  
遊外(ゆうがい・斎藤) → 豊宣(とよのぶ・斎藤、藩士/記録) R 3 1 4 1  
夕顔庵(ゆうがおあん) → 風光(ふうこう・和知、俳人) 3 8 5 8  
夕顔少将(ゆうがおしょうしょう) → 定信(さだのぶ・松平、藩主/寛政改革) 2 0 2 2  
夕顔亭(ゆうがおてい) → 南瓜宗園(なんかそうえん、狂歌作者) I 3 2 5 8  
木綿垣(ゆうがき) → 内遠(うちとお・本居、国学者) 1 2 7 4
- B4600 有覚(ゆうかく;法諱) ? - ? 1627存 天台叡山僧:のち筑前英彦山大権現中坊住、  
1827(寛永4)「山灌式私抄」著
- G4628 勇覚(ゆうかく) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
- B4601 遊鶴(ゆうかく・池田いけだ、別号;沖雲堂)?-? 江中期:美作津山の滑稽本作者:  
1772(安永元)「伊勢土産志那戸之風」/74「相生玉手箱」/76「風俗つれづれぐさ」、  
1781「円居戯談」著
- 融覚(ゆうかく) → 為家(ためいえ・藤原/御子左、歌人) 2 6 5 5  
融覚(ゆうかく・織田) → 有楽(うらく・織田おだ、武将/茶人) 1 2 9 6  
有恪(ゆうかく・土井) → 鰐牙(ごうが・土井い、藩儒) E 1 9 9 0  
有鶴(ゆうかく・高田) → 清貞(きよさだ・高田たかた、藩士/国学) U 1 6 6 3  
友恪(ゆうかく・後藤/上田) → 古梅堂(こばいどう・上田/後藤、医者/詩) N 1 9 4 0



- 友鶴(ゆうかく・岩崎) → 博秋(ひろあき・岩崎/志賀、藩士/和算) F 3 7 4 7
- B4602 熊嶽(ゆうがく・星野ほしの、名;璞)?-? 江中期伊勢の儒者、  
「四書考証」、「大学考証」、「大学輯録」、「詩経四始考証」、1791「大学証」著、  
[熊嶽(;号)の字] 子常
- B4603 熊嶽(ゆうがく・垣内かきうち、名;文徽/字;鼎輔、東臯男?) 1713-53 41 紀伊湯浅の儒者:伊藤東涯門、  
和歌山藩儒、1737「田間漫録」、「学庸考」、「尚書考」、「熊岳有声集」、「遊学堀河日記」著、
- B4604 熊嶽(ゆうがく・岡おか、名;文暉/嬰) 1762-1833 72 大阪の絵師:福原五岳門、山水・人物画に長ず、  
蘭を愛好、1802「唐土名勝図会」の挿画/1804「山水画」/1811「清明上河図」画、  
[熊嶽(;号)の字/通称/別号]字;世昌/少年、通称;勝之助、別号;余香堂
- B4605 幽学(ゆうがく・大原おおはら) 1797-1858 自刃 62 尾張藩士大道寺家の出身?/1814(18歳)生家を勘当、  
畿内・中四国を漂泊;その間武芸・観相・歌・俳諧・仏教・神道を修学、信州・房総等歴遊教導、  
1835名主遠藤伊兵衛の依頼で下総香取長部村で農民教化/36京阪に上る/42長部を再訪、  
以後農民教化指導に専念/1857百日押込などの処分を受;赦免後に自刃、  
「口まめ草」「大原幽学江戸滞在日記」「血色口伝」「神文及道友録」「道德百話」「発教録」、  
1833-42「道の記」35「残す言の葉集並規式解」36「陸奥つれづれ草」36-40「性学日記」、  
1837「連中誓約之事」47「配剤録抄」48「誓の元づな」57-58「玉の緒のかぞいろ」外著多数、  
[玄学(;号)の通称/法号]通称;左門、法号;理性院
- 雄嶽(ゆうがく;号) → 長世(ながつぐ・小笠原、幕臣/詩) E 3 2 4 1
- 猶学(ゆうがく・三牧) → 秀胤(ひでたね・三牧みまき、僧/尊攘派) L 3 7 3 3
- 有恪公(ゆうかくこう;諡号) → 経幹(つねまさ・吉川きかわ、領主/日記) D 2 9 7 8
- 勇鍛軒(ゆうがけん) → 升庵(しょうあん・吉永/菊池、外科医) G 2 2 5 8
- 有嘉子(ゆうかし) → 爾周(にしゅう・有嘉子、俳人) 3 3 2 0
- 幽花窓(ゆうかそう) → 行権(ゆきのり・藤井ふじい、国学・歌人) H 4 6 2 0
- 幽雅居士(ゆうがこじ) → 吉員(よしかず・百瀬ももせ、国学/歌人) P 4 7 6 1
- 有雅亭光(ゆうがていひかる) → 光(ひかる・有雅亭ゆうがてい、洒落本作者) 3 7 4 7
- 遊画堂(ゆうがどう) → 智角(知角ちかく・興柳堂、俳人/絵師) 2 8 8 4
- G4619 幽閑(ゆうかん) ?-? 江前期安藝広島俳人;貞門系、  
1662安静「鄙諺集」74「如意宝珠」入
- B4606 融観(ゆうかん;法諱、徳田祐徳男) 1649-1716 68 摂津平野の僧;初め天台や禅を修学、  
1681(33歳)上京:大念仏寺45世良観門;出家/融通念仏の修業、  
1688將軍綱吉の許可を得て大念仏寺の堂塔伽藍を整備/宗規制定・教義の大成に尽力、  
1689大念仏寺を継承;融通念仏を一宗として体制を整備、1691「融通大念仏本縁起」著、  
1703「融通円門章」1705「融通大念信解章」、「檀林清規」著、  
[融観(ゆうかん;法諱)の字/号]字;大通、号;忍光
- B4607 友閑(友間/幽閑ゆうかん・藤田ふじた)?-? 江前期摂津富田の書家:松花堂昭乗門;高弟、  
「清流帖」書/1645「本朝筆道入学初門総論筆道志学警策章」1664「倭国筆道三秘鈔」著、  
1664「示愚息乘因及同志学者教誡条章」、「松花堂花法書」「手習器財百首和歌」著、  
俳諧;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[歌に酒に詠も酔ゑひとやもち月夜](手鑑/酔も酔ひたりのもじり)  
[友閑(;号)の通称/別号]通称;一郎兵衛/善兵衛、別号;栄閑(;初号)/彩雲翁(;晩年号)
- B4608 幽閑(ゆうかん;号・河井かわい、名;守清)?-? 江中期和泉堺の茶人/画工、  
1735(享保20)刊「和泉国地図」「堺絵図綱目」画、1746(延享3)「茶人花押藪」著
- 幽閑(ゆうかん・知幾軒) → 友悦(ゆうえつ・大田おおた、医者/俳人) 4 6 7 3
- 幽閑(ゆうかん・佐久間) → 景忠(かげただ・佐久間、兵法家) K 1 5 9 7
- 幽澗(ゆうかん・飯田) → 有倫(ありとも・飯田いいだ、儒医) F 1 0 5 2
- 友翰(ゆうかん・三井) → 三千風(みちかぜ・大淀おおよど、商家/俳人) 4 1 0 3
- 又貫(ゆうかん・山本) → 杉芽(すぎが・山本やまもと、開国説/俳人) L 2 0 8 7
- 誘勸(ゆうかん・梅田) → 春濤(しゅんとう・梅田うめだ、真宗大谷派僧/国典) N 2 1 5 1
- 融観(ゆうかん・法名) → 白河天皇(しらかわてんのう) D 2 2 1 3
- 融観(ゆうかん;法諱) → 良空(りょうくう;法諱、浄土西山派僧) H 4 9 1 4



- 祐堪(ゆうかん・中臣) → 祐任(すけとう・中臣/千鳥、神職/歌) C 2 3 5 0
- B4609 祐顔(ゆうがん;法諱) ? - ? 江中期近江の真宗僧/詩人:  
1786「津田二百詠」89「還念字詩稿」著、「一念多念証文聞思録」著
- H4645 祐巖(ゆうがん;法諱・山本やまと、旧姓;千葉) 1814-84 71 三河吉田の浄土僧;悟眞寺42世、国学、  
[祐巖の号]華雲楼/讓誉上人
- B4610 幽閑齋(ゆうかんさい;号) ? - ? 江前期和泉堺の華道家:生花の奥秘を究める、  
病弱のため薙髮、歌・茶・香道を嗜む、「雅莛挿華集」「花鈴集」著
- 友翰齋(ゆうかんさい) → 三千風(みちかぜ・大淀、俳人) 4 1 0 3
- 悠寛齋(ゆうかんさい) → 香風(こうふう、俳人/連歌) L 1 9 0 5
- 友干亭(ゆうかんでい) → 李流(りりゅう・三宅みやけ、嘯山男/俳人) J 4 9 8 9
- 融観蓮如(ゆうかんれんにょ) → 寂黙(じやくもく;法諱・蓮妙;字、真言僧) W 2 1 2 2
- B4611 遊機(ゆうぎ・一如軒/石浦堂) ? - ? 江前期武士/俳人:京に隠棲、1730「桜雲集」著
- 有季(ゆうき・文屋) → 有季(ありすえ・文屋、歌人) B 1 0 7 1
- 有季(ゆうき→ありすえ・藤原) → 寂忍(じやくにん、僧/連歌師) G 2 1 3 5
- 有季(ゆうき→ありすえ・藤原) → 浄意(じょうい、廷臣/僧/歌人) Q 2 2 8 9
- 有己(ゆうき・広瀬) → 有己(ゆうこ・広瀬ひろせ、俳人) G 4 6 6 1
- 有紀(ゆうき・三角) → 有紀(ありのり、廷臣/医者) I 1 0 5 1
- 有貴(ゆうき・脇) → 有貴(ありたか・脇わき、儒者) F 1 0 3 7
- 有基(ゆうき・津守) → 有基(ありもと・津守つもり、神職/楽/歌) C 1 0 0 0
- 有磯(ゆうき・千秋) → 藤範(ふじのり・千秋せんしゅう、藩士/儒者/尊王) C 3 8 6 0
- 有徽(ゆうき・柴田) → 有徽(ありよし・柴田しばた、歌人) H 1 0 7 3
- 友規(ゆうぎ・多ヶ谷) → 友規(ともり・多ヶ谷たがや、藩士/国学) V 3 1 5 8
- 由己(ゆうぎ→・ゆうこ大村) → 由己(ゆうこ・大村、博学;軍記/連歌) B 4 6 5 1
- 由基(ゆうぎ・仲子) → 岐陽(きやう・仲子なかのこ、藩士/儒者) N 1 6 1 2
- 由記(ゆうぎ・陶山) → 尚迪(ひさみち・陶山すやま、医者) B 3 7 9 8
- 祐規(ゆうぎ/すけり・小栗栖) → 景桃(けいとう・小栗栖おぐるす、神職/俳人) G 1 8 4 3
- 祐紀(ゆうぎ・中臣) → 祐紀(すけり・中臣なかとみ/千鳥、神職) G 2 3 9 0
- 祐磯(ゆうぎ・中臣) → 祐磯(すけいそ・中臣なかとみ/辰巳、神職) G 2 3 0 3
- 祐熙(ゆうぎ・鴨) → 祐熙(すけひろ・鴨かも/梨本、神職/歌人) C 2 3 4 6
- 勇紀(ゆうぎ・新妻) → 信緝(のぶつぐ・新妻あがた、家老/日記) C 3 5 0 6
- 勇記(ゆうぎ・北川) → 歌麿(うたまろ・喜多川、絵師) 1 2 7 0
- 雄記(ゆうぎ・新妻) → 道斎(どうさい・新妻いづま/につま、藩士/儒者) E 3 1 4 2
- 融記(ゆうぎ・新田) → 日信(にっしん・新田/杉岡、大僧正) H 3 3 3 0
- 融機(ゆうぎ・黒川/島川) → 鎌満(かままる・島川、藩士/国学/歌人) F 1 5 8 5
- 結城(ゆうぎ・栗木) → 峯隆(みねたか・栗木くりき、神職/国学者) F 4 1 4 8
- B4613 祐宣(ゆうぎ;法諱・長善;字、俗姓;深沢) 1536-1612 77 下野西方村真言僧:1551同村正安寺に出家、  
紀伊根来寺に入;日秀・頼玄門、京醍醐寺の堯雅より諸秘訣を受/1584下野桑島金剛定寺住、  
1588磐城岩城郡薬王寺住/1604智積院住;脇能化/権僧正/1606同院能化、智積院中興2世、  
1576「愛染法秘伝鈔」77「阿字観秘伝鈔」90「許可秘伝鈔」91「愚伏鈔」「理趣経旧草集」著、  
「理趣経直談」「理趣経秘伝鈔」「疏釈読曲」「大日経談義」「曼荼羅供作法」外著多数
- B4612 由儀(ゆうぎ・鈴木すずき) ? - ? 江後期天保安政1830-60頃上総木更津の俳人:  
1855(安政2)「桐ひとは」編、  
[由儀(;号)の通称/別号]通称;金右衛門、別号;潤葉井2世
- G4646 友戯(ゆうぎ・和合連) ? - ? 江後期大阪の茶番演者・作者、大阪茶番狂言の祖、  
1863「今様茶番硝子鏡いまようちやばんがらすかがみ」第一・二編著(北粹舎芳豊画・瓦隠齋序、  
選者は金糸楼主人、第三編は此道好人著)
- 有儀(ゆうぎ) → 有儀(ありのり、神職/連歌) F 1 0 0 3
- 有儀(ゆうぎ・柏淵) → 有儀(ありのり・柏淵かしぶち/加藤、武芸/剣術) F 1 0 6 1
- 有儀(ゆうぎ・三瀬) → 有儀(ありよし・三瀬みせ、商家/歌人) I 1 0 5 2
- 有義(ゆうぎ;法諱) → 露泉(ろせん;号・宥義、真言僧/俳人) C 5 2 0 3

- 友義(ゆうぎ・高杉) → 友義(ともよし・高杉たかすぎ/源、藩士/歌) V 3 1 6 2  
 友儀(ゆうぎ・岡沢) → 友儀(ともり・岡沢たかざわ、藩士/歌人) U 3 1 5 8  
 祐義(ゆうぎ・長治) → 祐義(すけよし・長治ながはる、庄屋/歌人) D 2 3 2 6  
 祐義(ゆうぎ・伊藤) → 鹿里(ろくり・伊藤いとう、儒者/巷説) B 5 2 1 7  
 祐義(ゆうぎ・牧野) → 祐義(すけよし・牧野まきの、歌人) I 2 3 0 3
- B4614 **猶叟**(ゆうきく・大野おおの、名;盛次)1768-1834<sup>67</sup> 日向城ヶ崎の俳人;蝶夢門/瓦全門、  
 同郷の梅雨と蝶夢三回忌追善集を編纂;1797追善集「俳諧久左能香気」(梅雨と共編)、  
 [猶叟(;号)の通称/別号]通称;権四郎/嘉吉、別号;由菊亭/猶叟亭  
 由菊亭(猶叟亭ゆうきくてい) → 猶叟(ゆうきく・大野おおの、俳人) B 4 6 1 4  
 有期齋(ゆうきさい・中島) → 撫山(ぶざん・中島なかじま、儒者/教育) C 3 8 3 6  
 遊戯三昧室(ゆうぎさんまいしつ) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学者/神職) K 4 0 1 3
- B4615 **友吉**(ゆうきち) ? - ? 江前期京の俳人;1672元隣「諸国独吟集」下巻入、  
 1677高政「後集総合千百韻」七吟入、80自悦「花洛六百句」六吟百韻参加
- B4616 **勇吉**(ゆうきち;名・佐藤さとう、松五郎男)1821-72<sup>52</sup> 越後頸城郡岩手村の旧家佐藤家の分家の生、  
 和算家、啓助の弟、1837「算法指南記」、「算学稽古」著  
 友吉(ゆうきち・伊藤) → 友吉(ともよし・伊藤いとう/伴、藩士/歌人) U 3 1 1 0  
 友吉(ゆうきち・大津屋) → 友吉(ともきち・大津屋おおつや、物真似師) P 3 1 3 7  
 祐吉(ゆうきち・中山) → 胡民(こみん・中山、蒔絵師/茶湯/俳) N 1 9 7 4  
 祐吉(ゆうきち・師田) → 祐吉(すけよし・師田もろた、文筆家) D 2 3 7 4  
 祐吉(ゆうきち・井上) → 眞澄(ますみ・井上いのうえ、神職/国学) N 4 0 2 9  
 猶吉(ゆうきち・小野) → 櫟翁(れきおう・小野おの、農業/歌人) 5 1 0 8  
 勇吉(雄吉ゆうきち・小栗) → 広伴(ひろとも・小栗おぐり、国学/歌人) G 3 7 5 4  
 勇吉(ゆうきち・樺島) → 石梁(せきりょう・樺島かばしま/樺、藩儒/詩) 2 4 1 7  
 勇吉(ゆうきち・小倉) → 正信(まさのぶ・小倉おぐら、商家/国学/神道) F 4 0 6 5  
 勇吉(ゆうきち・井伊) → 直容(なおなり・井伊い/藤原、国学) K 3 2 9 7  
 勇吉(ゆうきち・上西) → 清辰(きよとき・上西うえにし/藤原、藩士/国学) T 1 6 6 1  
 勇吉(ゆうきち・錦織) → 義晔(よしあき・錦織にしじり、商家/庄屋/日記) O 4 7 3 6  
 勇吉(ゆうきち・伴) → 資養(すけやす・伴ばん、商家/歌人) J 2 3 0 1  
 雄吉(ゆうきち・木原) → 老谷(ろうこく・木原きはら/柴沼、儒者) 5 2 2 8  
 雄吉(ゆうきち・有馬) → 泰賢(やすかた・有馬ありま、藩家老/歌人) F 4 5 2 0
- B4617 **有橘**(ゆうきつ・芦田しだ) ? - 1776 但馬出石の醸造業/俳人;風状・蕪村門、  
 霞夫・乙総の父、1776几董「続明烏」1句入、  
 [置く露のこぼれて開く桔梗哉](続明烏;乙499)、  
 参照 → 霞夫(かふ、俳人) D 1 5 1 9  
 → 乙総(おとふさ、俳人) D 1 4 3 0  
 又橘(ゆうきつ・竹村) → 景久(かげひさ・竹村たけむら/橘、藩士/国学) U 1 5 9 7  
 有紀堂(ゆうきどう) → 才尾(さいび・椎本しいのもと・豊島、俳人) B 2 0 0 7  
 遊戯堂(ゆうぎどう、遊戯道人) → 三馬(さんば・式亭、戯作者) 2 0 5 5  
 遊戯坊(ゆうぎぼう) → 永言(ながこと・小栗おぐり、国学/歌人) K 3 2 2 8
- B4618 **遊義門院**(ゆうぎもんいん・始子内親王、後深草天皇第一皇女)1270-1307<sup>38</sup> 母;西園寺実氏女の公子、  
 伏見天皇の妹/1285後宇多天皇皇后;1285立后/1291院号宣下、94後宇多上皇の御所入、  
 亀山院と交渉、歌人;1303(嘉元元)伏見御所歌会参加、女房歌人に大蔵卿、  
 勅撰27首:新後撰(7首124/205/904以下)玉葉(11首816/1274/1342以下)続千(6首)以下、  
 [あだにちるほどをもまたで桜花つらくもさそふ春の風かな](新後撰;春124)  
 遊義門院大蔵卿(ゆうぎもんいんのおおくらきょう) → 大蔵卿(おおくらのきょう、歌) D 1 4 4 8  
 遊義門院権大納言(ゆうぎもんいんのごんだいなごん) → 為子(ためこ・二条、尊良親王の母/為世女) G 2 6 8 0  
 遊義門院宣旨(ゆうぎもんいんのせんじ) → 経子(けいし・藤原経任女/歌人) O 1 8 1 5  
 又久(ゆうきゆう・前田) → 又久(またひさ・前田/菅原/菅、藩士) J 4 0 5 4  
 有躬(ゆうきゆう/ありみ・里村) → 昌周(しょうしゅう・阪/坂、幕府連歌師) S 2 2 9 1  
 有躬(ゆうきゆう・長谷川) → 蟠桃(ばんとう・山片やまがた、商人/実学者) I 3 6 4 3

- 祐久(ゆうきゆう・中臣) → 祐久(すけひさ・中臣なかとみ/新、神職) G 2 3 9 9  
 祐休(ゆうきゆう・伊東) → 祐休(すけよし・伊東いとう、藩士;歌人) D 2 3 7 6  
 祐求(ゆうきゆう・曾我) → 助弼(祐弼すけまさ・曾我そが/平、幕臣) G 2 3 8 3  
 祐躬(ゆうきゆう・鴨) → 祐躬(すけみ・鴨かも、神職/歌人) D 2 3 0 5  
 祐躬(ゆうきゆう・岡本) → 祐躬(すけみ・岡本おかもと、藩士) H 2 3 0 4  
 悠久(ゆうきゆう・堀内) → 立雄(たつお・堀内ほりうち、藩士/国学/歌) Z 2 6 4 3  
 有菑園(ゆうきゆうえん) → 広道(ひろみち・萩原/藤原、藩士/国学/歌) 3 7 2 8  
 祐挙(ゆうきよ・平) → 祐挙(すけたか・平たいら、廷臣/歌人) C 2 3 2 7  
 幽居(ゆうきよ;号) → 義閑(ぎもん;法諱・十阿、浄土僧) M 1 6 1 1  
 幽居(ゆうきよ・吉田) → 豊武(とよたけ・吉田よしだ、弓道家/歌) X 3 1 0 5  
 有魚(勇魚ゆうぎよ・尾崎) → 雅嘉(まさよし・尾崎、医/国学/歌人) 4 0 2 4  
 B4621 有響(ゆうきよう) ? - ? 江中期京の俳人;1772几董「其雪影」1句入、  
 [島原も竜の都歟か霧の海](其雪影;巻尾329/一面霧に覆われた都の中の竜宮城)  
 有恭(ゆうきよう・中西) → 有恭(ありやす・中西なかにし/横橋、神職) I 1 0 1 2  
 有慶(ゆうきよう) → 有慶(ゆうけい・ゆうきよう;法諱、三論僧/歌) B 4 6 3 2  
 有郷(ゆうきよう・本居) → 有郷(ありさと・本居もとおり、国学/歌人) F 1 0 3 5  
 有郷(ゆうきよう・金子) → 有卿(ありのり・金子かねこ、神職/歌人) H 1 0 3 6  
 由恭(ゆうきよう・田中) → 岫嶺(こうろう・田中たなか、藩士/詩人) L 1 9 6 5  
 祐享(きゆうきよう・長野) → 祐享(すけあき・長野ながの、廷臣/国学) I 2 3 9 3  
 祐喬(ゆうきよう・長野) → 祐喬(すけたか・長野ながの、藩士/歌人) G 2 3 3 7  
 雄享(ゆうきよう・川上) → 雄享(おみち・川上わかみ、幕府役人/国学) D 1 4 8 9  
 由郷(ゆうきよう・菱沢) → 由郷(よしさと・菱沢ひしざわ、商家/歌人) O 4 7 7 2  
 友郷(ゆうきよう・浅加) → 友郷(ともさと・浅加/浅香、藩士/詩歌) P 3 1 5 0  
 有業(ゆうぎよう・藤原) → 有業(ありなり・藤原、廷臣/歌) F 1 0 5 9  
 祐業(ゆうぎよう・木脇) → 祐業(すけなり・木脇きのわき、藩士/絵師) C 2 3 6 9  
 熊凝(ゆうぎよう・大伴) → 熊凝(くまこり・大伴君おおとものきみ、万葉集中人物) 1 7 2 5  
 有玉(ゆうぎよく・藤井) → 近道(ちかみち・藤井ふじい、神職/国学) N 2 8 3 9  
 遊魚子(ゆうぎよし) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋/永田、狂歌) 3 0 0 9  
 幽興堂(ゆうきようどう) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/桑そう、絵師) D 1 6 0 2  
 B4622 夕霧(ゆうぎり・中院右大臣家なかのいんうだいじんけ、大進、安井尼、大神おおが基政女)?-1179/80 箏/笛名手、  
 中院右大臣源雅定家の女房、尊円[父;俊成]・建礼門院右京大夫[父;藤原伊行]の母、  
 歌;新勅撰1258、  
 [別れにし日はいくかにもならねども昔の人といふぞかなしき](新勅;雑1258/死別)  
 B4623 夕霧(ゆうぎり) 1657 - 1678早世22(25歳説あり) 京島原の遊女;宮島甚三郎抱えの太夫、  
 のち大阪新町扇屋四郎兵衛の抱え、俳人、  
 1676西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入;[桐の葉も染め分けがたし袖の紋](女哥仙;31、  
 新古今;534式子内親王/桐の葉も踏み分け難くなりにはけり必ず人を待つとなけれど)  
 B4624 夕霧籬(ゆうぎりのまがき、平野ひらの弥市郎)?-? 江戸土手四番町住の狂歌作者、  
 1785後万載集3首/87才蔵集入;  
 [橘のはなとはなとを合せつゝ枕にかほとかほる嬉しさ](才蔵集;三132/橘薫枕)  
 雄気楼(ゆうきろう・橋本) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1  
 B4625 友琴(幽琴ゆうきん・神戸かんべ) 1633-170674 江前期京の俳人:北村季吟門、金沢に移住;  
 糕菓こうか商(和菓子屋経営)、金沢俳壇啓発;重鎮、1680「白根草」「色杉原」「鶴来酒つるぎざけ」、  
 1683「金沢五吟」編(正勝・柳糸・一風・一烟と)、「卯花山集」編、追善「艶賀の松」文志編、  
 [友琴(幽琴;号)の通称/別号]通称;武兵衛、別号;山茶花/識趣斎  
 B4626 雄琴(ゆうきん・川田かわだ、名;資深すけふか) 1684-176077 江戸の人/朱子学;梁田蛻巖ぜいがん門、  
 陽明学;三輪執斎門、執斎の推薦で1732伊予大洲藩主加藤泰温の儒臣、  
 1747創設の藩校止善書院明倫堂の学則制定;教授、堂内に孔子・王陽明・中江藤樹を祀る、  
 教学の精神を主導、1740「学談敗鼓」47「予州祀先聖及二先生祭文」、「琴卿集」「町見術書」、  
 「伝習録筆記」「明倫堂記」「予州大洲好人録」「忠孝学好人録」外著多数、芝嶠しきょうの父



[雄琴(；号)の字/通称/別号]字;君潤/琴卿きんけい、通称;半太夫、別号;北窓翁

- B4627 **有琴**(ゆうきん・林はやし、林泊楓の養嗣子)?-? 美濃長良の富豪/俳人:支考門/のち廬元坊門、鳥を愛する;暮鳥庵/嘯鳥舎の号、支考を療養させた/五竹坊と論戦、1729「ながら川」編、1735泊楓三回忌追善「父の道」編/43「黄山両法会」編/童平と支考追善集/47「鴉の昔」編  
[有琴の別号] 暮鳥庵/嘯鳥舎/青夏坊/冬白坊
- B4628 **雄琴**(ゆうきん・水谷/水之谷みずのや/みずたに、本姓;源)?-?1804頃没 備中の易占家/大坂天満沙原住、易教を教授/占筮に長ず、「日本亀卜考」「易占通」「易占的」「周易衡」「周易正字考」、「定本国字説」「歴代占例考」「国字洛書新説」、1778「洛書新説」/82「易学占的」外著多数、  
[雄琴(；号)の名/字/通称]名;君竜、字;起雲、通称;正介/庄助/庄介
- B4629 **右琴**(ゆうきん・渡辺わたなべ、名;葛民)?-1862 初世桂車堂渡辺李亮の子孫、越後岩船郡関谷村の俳人/経史を涉猟;詩文に長ず、「道の流」著、  
[右琴(；号)の通称/別号]通称;郷右衛門、別号;桂車堂6世/月恵堂  
祐金(ゆうきん・中臣) → 祐金(すけかね・中臣/辰市、神職) G 2 3 2 4  
幽琴(ゆうきん・水沢) → 定毅(さだよし・水沢みずさわ、商家/国学) P 2 0 5 3
- B4630 **幽吟**(ゆうぎん) ?-? 讃岐の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入、  
幽吟(ゆうぎん) → 友琴(ゆうきん・神戸、俳人) B 4 6 2 5
- B4631 **猷空**(ゆうくう;法諱・離言;字、法名;寂蓮社口阿)?-? 江中後期大和の浄土僧、江戸芝増上寺住、京の知恩院にも出入/詩人;1821「寂蓮華詩集」22「寂蓮華雜冊初編」著  
游空(ゆうくう;字) → 逮神(たいしん;法諱・游空;字、真言律僧) K 2 6 3 9  
夕ぐれ坊(ゆうぐれぼう) → 乙児(おつじ・松木、俳人) 1 4 8 7  
由訓(ゆうくん・上江州) → 由訓(ゆくん・上江州うえず/李、廷臣/歌) G 4 6 5 9  
猷訓(ゆうくん・星) → 研堂(けんどう・星ほし、藩士/書家) L 1 8 7 2  
祐訓(ゆうくん・梅内) → 祐訓(すけのり・梅内うめない、藩士/古蹟調査) G 2 3 9 6  
有君舎笑生(ゆうくんしゃしょうせい) → 将茂(まさしげ・石附いじつき、商家/歌/能) N 4 0 6 0
- B4632 **有慶**(ゆうけい・ゆうきょう;法諱、藤原有国男)986-1071<sup>86</sup> 濟慶の弟、三論僧;東大寺東南院住;澄心門、1012維摩会の研学堅義に選出;僧都/1035同会講師の宣旨を受/48権律師、1051東大寺66代別当、1055権少僧都/58元興寺別当/65権大僧都/67東大寺69代別当再任、歌人;千載集1178(続詞花集;物名933)、  
[稲荷山しるしの杉の年ふりて三みつの御社みりし神さびにけり]  
(千載;雑1178/隠し題;みづのみ[水を呑む器]/上・中・下社3社/伏見稲荷の森厳さ)
- B4633 **友継**(ゆうけい;号) ?-? 戦国江戸初期;奈良の連歌作者;  
三河深溝藩主松平忠利のお抱え連歌師(友務と)、1593(文禄2)紹巴と「薄何百韻」
- G4662 **祐慶**(ゆうけい・津村つむら) ?-? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第六秋扇発句入、  
[百韻は扇置く間に果てにけり](秋扇発句)
- B4634 **有慶**(ゆうけい;法諱・真良;字、俗姓;桜井)1709-75<sup>67</sup> 大和宇智郡牧野の真言僧;  
1721(13歳)長谷寺良興院の竜岳門;1722出家、河内通法寺・常陸筑波山金剛院住、のち長谷寺に止法/1766江戸根生院18世/1772護持院主/1773(安永2)長谷寺28世/73僧正、「大日経疏有慶記」「二十論疏私記」「六大法身」「疏草第七有慶記」外著多数
- B4635 **有卿**(ゆうけい・小島こじま、名;高明/明、川崎五市男)1791-1838<sup>48</sup> 館林の医者/医術;朝倉大岳門、館林藩侍医小島玄察の養嗣子;跡を継嗣、藩主松平斉厚より録を賜る、  
1836(天保7)藩主転封で石見浜田に移住、1834「聖剂発蘊」著、  
[有卿(；号)の字/通称/別号]字;子哲、通称;力蔵、別号;瀛州えいしゅう/玄庵、法号;諦観院
- B4636 **宥圭**(ゆうけい;法諱) 1806 - ? 1841存 真言宗高野山の修行僧;  
1841「成唯識論述記懸叙」、「三時教義」「三類境選要玄談并分科」「二教論分科」外著多数
- B4637 **祐啓**(ゆうけい・高島たかしま、名;烈/久也)1832-81<sup>50</sup> 幕府医官/医学校躋寿館司書、1862遣欧使随行、兄祐庵没後;継嗣;将軍家茂の侍医、痘方を修学、維新後;四谷で開業、  
1862-3「欧西紀行」/63「軍陣救急便方」著、「泰西物産考」編、77「躋寿館医籍備考」共編、  
[祐啓(；通称)の号]恒斎、祐庵の弟  
有慶(ゆうけい・杉本) → 義篤(よしあつ・杉本さざもと/藤原、医者) C 4 7 1 5



- 有慶(ゆうけい・武嶋) → 優々斎(ゆうゆうさい・武嶋たけしま、医者) D 4 6 9 7
- 有慶(ゆうけい・清水) → 古博(ひさひろ・清水しみず、国学/歌) L 3 7 9 7
- 有慶(ゆうけい・内藤) → 有慶(ありよし・内藤ないとう/国府/中臣、藩士/神職) I 1 0 0 7
- 有繫(ゆうけい;法名) → 義弘(よしひろ・大内/多々良、武将/歌) G 4 7 5 3
- 有経(ゆうけい・大江) → 有経(ありつね・大江おおえ、廷臣/歌人) J 1 0 0 3
- 有経(ゆうけい・植松) → 有経(ありつね・植松うえまつ、国学/歌人) H 1 0 1 0
- 有敬(ゆうけい・珍田) → 祐之丞(ゆうのじょう・珍田ちんだ、藩士/歌) D 4 6 5 5
- 有卿(ゆうけい・金子) → 有卿(ありのり・金子かねこ、神職/歌人) H 1 0 3 6
- 友景(ゆうけい・中原) → 友景(ともかげ・中原なかはら、檢非違使/歌) P 3 1 2 8
- 由卿(ゆうけい・浅井) → 南溟(なんめい・浅井あさい、医者) J 3 2 5 8
- 祐敬(ゆうけい・牧野) → 祐敬(すけたか・牧野まさの、歌人) L 2 3 1 1
- 祐卿(ゆうけい・長島) → 尉信(やすのぶ・長島ながしま/小泉、農政家) C 4 5 5 7
- 祐桂(ゆうけい・高島) → 章貞(あきさだ・高島たかし、医者/歌人) G 1 0 6 5
- 裕卿(ゆうけい・三浦) → 益徳(ますのり・三浦みうら、藩士/国学者) J 4 0 1 4
- 勇卿(ゆうけい・藤本) → 久葛(ひさつら・藤本/度会/小島、国学者) B 3 7 4 2
- 勇計(ゆうけい・高内) → 松陰(しょういん・高内たかうち、和漢学/武芸) G 2 2 8 3
- 熊溪(ゆうけい・本庄) → 星川(せいせん・本庄/本莊ほんじょう、藩儒) C 2 4 4 7
- 幽契(ゆうけい・本庄) → 貞居(さだすえ・本庄ほんじょう、神道家) P 2 0 3 4
- 遊藝園(ゆうげいえん) → 聖謨(としあきら・川路/内藤、幕臣/詩歌) M 3 1 0 2
- 有景斎(ゆうけいさい) → 友松(ゆうしょう・海北かいほう、絵師) 4 6 0 4
- 遊芸堂(ゆうげいどう) → 頼直(よりなお・成田なりた、藩士/藩史編) J 4 7 2 6
- 幽溪貪子(ゆうけいどんし) → 鳥友(ちょうゆう;法諱、天台僧) J 2 8 9 8
- B4638 遊月(ゆうげつ;法諱) ? - ? 江後期曹洞僧;玄楼奥竜門、「蓮蔵海五分録」編
- 由軌(ゆうげつ・堀) → 轍(わだち・堀ほり、歌人) 5 3 8 8
- 友月(ゆうげつ・明石) → 正貞(まささだ・明石あかし、和学者) N 4 0 0 7
- 友月庵(ゆうげつあん) → 国臣(くにのみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌) 1 7 0 6
- 友月庵常山(ゆうげつあんじょうざん) → 貞長(さだなが・牧野まさの/源、藩主/日記) J 2 0 0 7
- B4639 幽月庵元越(ゆうげつあんもとこし・無仏坊/無仏庵)?-? 江後期江戸小網町の鍼医/狂歌;田原船積の側、合巻作者;十返舎一九と交流、1823(文政6)「滑稽田舎鶯」「附祭踊子新書」著
- 有月堂(勇月堂ゆうげつどう) → 智角(知角ちかく・興柳堂、俳人/絵師) 2 8 8 4
- G4656 祐賢(ゆうけん;法諱) ? - ? 1525存 戦国期天台僧;比叡山無動寺十妙院政所、権大僧都、「山門無動寺諸寺」著
- B4640 由健(ゆうけん・沢田さわだ、名;正成)?-? 江前期京の俳人;立圃or幸和門?、1660俳諧初学者作法集「和歌竹わかたけ」編/65俳諧発句及び作法集「都草みやこぐさ」編、[由健(;号)の通称/別号]通称;三郎左衛門、別号;由雪/友雪/古庸軒/露柔軒
- B4641 友軒(ゆうけん・原はら) ? - ? 江前期軍記作者;1668「太平記綱目」編(;陽翁「太平記評判秘伝理尽鈔」の流れを汲む)
- B4642 幽軒(ゆうけん・渋谷しぶや、名;方均、市右衛門重公男) 1649-1733<sup>85</sup> 和歌山藩士、儒者;永田善斎門、程朱;和漢学通ず、歌を嗜む、「俯心録」「難陳録」「覆隋心録」「学窓左見」/1721「塵坑集」著「川西客談」「竹窓叢話」「竹窓余話」「梨窓漫筆」「渋谷幽軒筆記」「渋谷幽軒叢書」外著多数、[幽軒(;号)の字/通称/別号]字;佳成、通称;儀平、別号;閑棲庵
- B4643 祐賢(ゆうけん・甲賀こうが) ? - ? 江中期江戸の医者/のち京住、1753(宝暦3)「医門丘塚集」著、[祐賢(;名)の通称/号]通称;敬庵、号;得寿軒
- B4644 幽軒(ゆうけん・溝口みぞぐち、名;軌景/景濟) 1732-77<sup>46</sup> 越後新発田藩士/甲州軍学;弓馬剣砲を修得、儒;徂徠の古文辞学を修学、1751(宝暦元)家督継嗣;500石/1772中老;加増百石/組頭、江戸在勤中に詩文;服部南郭門/歌;冷泉為村門/画;狩野梅笑門、聞香・挿花・点茶・能を嗜む、藩主溝口直養が闇齋学以外を禁じたため致仕、晩年;参禅、「論語考」「玉江詩集」「自詠和歌集」著、[幽軒(;号)の字/通称/別号]字;美卿、通称;求馬、別号;隆中/玉江/望月亭/純一庵、

法号;智学院

- B4645 **幽軒**(ゆうけん・菊地きくち、名;履) 1799-1830<sup>32</sup> 宇都宮の儒者:林述斎・佐藤一斎門、渡辺崋山と親交、諸国遊歴/江戸で講説/丹波篠山藩に出仕;世子の侍読、「幽軒遺稿」、[幽軒の字/通称/別号]字;士素、通称;順助、別号;廓堂
- G4688 **祐賢**(ゆうけん・齋藤さいとう、真言僧の祐円男) 1831-59<sup>早世29</sup> 備前邑久郡笠加村の歌人;父門、漢学・詩;矢吹榴堂門
- G4689 **祐賢**(ゆうけん・酒井さかい、) 1842-1909<sup>68</sup> 三河碧海郡高岡村の西雲寺住職、漢籍・国典・歌;村上忠順ただまさ門
- 友軒(ゆうけん・人見) → ト幽軒(ぼくゆうけん・人見/小野/野、儒者) E 3 9 0 2
- 友賢(ゆうけん/ともかた・小池) → 桃洞(とうどう・小池、儒者/暦算) G 3 1 7 5
- 友賢(ゆうけん・小泉) → 友賢(ともかた・小泉、藩士/医者/地誌) P 3 1 2 9
- 友賢(ゆうけん・上田) → 雍洲(ようしゅう・上田うえだ、医者) B 4 7 1 1
- 有賢(ゆうけん・源) → 有賢(ありかた・源、楽家) B 1 0 6 5
- 宥軒(ゆうけん・山岸) → 陽和(ようわ・山岸、芭蕉の義兄/俳人) B 4 7 6 7
- 宥謙(ゆうけん・水上) → 雄風(おかせ・水上みなかみ、修験/国学/歌) E 1 4 1 5
- 宥賢(ゆうけん;字) → 頼慶(らいけい;法諱・宥賢、真言僧) 4 8 3 6
- 由賢(ゆうけん・東方) → 祖山(そざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 5 7 7
- 由賢(ゆうけん・島田) → 由賢(よしかた・島田しまだ、歌人) K 4 7 8 1
- 酉軒(ゆうけん・明石) → 行憲(ゆきのり・明石あかし、藩士/歌文) F 4 6 3 0
- 佑賢(ゆうけん・渋川) → 佑賢(すけかた・渋川しぶかわ、天文暦算家) G 2 3 2 0
- 祐賢(ゆうけん・中臣) → 祐賢(すけかた・中臣/千鳥、神職/歌人) C 2 3 0 0
- 祐賢(ゆうけん・伊東) → 祐賢(すけかた・伊東いとう、幕臣/日記) G 2 3 1 7
- 祐賢(ゆうけん・西浦) → 祐賢(ひろかた・西浦、文筆家) F 3 7 7 1
- 祐賢(ゆうけん・伊東) → 祐賢(すけかた・伊東いとう、藩士/教育) L 2 3 2 8
- 祐憲(ゆうけん・中臣) → 祐憲(すけのり・中臣なかとみ/井戸、神職) G 2 3 8 8
- 祐憲(ゆうけん・志野) → 宗温(そうおん・志野しの、香道家) G 2 5 3 9
- 祐憲(ゆうけん・田辺) → 憲(けん・田辺たなべ、書家/篆刻) H 1 8 4 9
- 祐憲(ゆうけん・杉本) → 祐憲(すけのり・杉本/平、儒詩/歌人) G 2 3 9 4
- 裕軒(ゆうけん・川本) → 幸民(こうみん・川本かわもと、蘭医/理化学) L 1 9 3 0
- 裕軒(ゆうけん・富岡) → 鉄斎(てっさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3
- 裕軒(ゆうけん・阿部) → 正弘(まさひろ・阿部、藩主/老中/条約) H 4 0 0 1
- 邑頭(ゆうけん・藤木) → 邑頭(すみあき・藤木ふじき、国学者) J 2 3 1 8
- 揖軒(ゆうけん・司馬) → 凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学) G 4 9 8 2
- 攸軒(ゆうけん・悠軒ゆうけん・木崎) → 盛標(もりすえ・木崎、藩士/軍師/産業図) F 4 4 4 9
- 幽軒(ゆうけん・松井) → 可楽(からく・松井、藩士/詩歌/紀行) H 1 5 5 4
- B4646 **融源**(ゆうげん;法諱・号;五智房、俗姓;平) ?-?(1147没?) 平安後期肥前の真言僧/高野山僧、親族の覚鑊門、故事;灌頂の開壇に当り融源が開壇すると禍災が起ると誹謗される、しかし三昧耶戒の時大雨が降るが融源の衣は全く濡れなかったという、俗塵を厭い山中に籠もる;嘉応1169-71頃後白河法皇の高野山御幸に招聘;辞退、法皇自ら融源の籠もる草庵に赴いたという、「阿字観鈔」「覚源抄」著
- B4647 **宥源**(ゆうげん;法諱) ? - ? 戦国期社僧;山城愛宕山上之坊大善院の僧、連歌作者:1575紹巴と「何船百韻」/77紹巴と「何田百韻」、1582(天正10).5.24本能寺襲撃前夜の「光秀張行愛宕百韻」に参加、[風に霞を吹き送る暮れ](愛宕百韻;第四句;春風にかすむ夕暮、第三句紹巴;花落つる池の流れをせきとめて)
- G4634 **又玄**(ゆうげん;名・古橋ふるはし、古橋清助[氏保]男) ?-? 加藤清正以来の代々加藤家譜代の被官、「清正記」著
- B4648 **又玄**(ゆうげん・島崎しまざき、味右衛門) ?-? 伊勢の御師/俳人:蕉門、1683三千風・未済みせい・勝筵・益光らと一座:三千風「日本行脚文集」入、

1690可休「物見車」/91江水「元禄百人一句」/91賀子「蓮実」1句入、

[木曾殿と背中合せの寒さ哉](義仲寺無名庵の句碑)、

[若菜摘わかなつみけふはづかしき手の太さ](百人一句;38/七日七草の女性の若菜摘み)

B4649 友元(ゆうげん;法諱) ? - ? 京の沙門/俳人、1690言水「新撰都曲みやこぶり」3句入、  
[春雨やただ空木うつろぎに蛇の貞かほ](都曲;317/空木は樹の洞)

G4629 友言(ゆうげん;号) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入  
[氷ひの御供ごくに我が早脚はやあしを撰ばれて](前句;ほんのりと夜は明けはなれけり)、  
(二葉之松212、氷の御供は山の氷室から氷献上の役人;急いで運んだがもう夜明け)

B4650 又玄(祐玄ゆうげん・小林こばやし/高橋/深川、小林通玄[元直]男)1781-1850 母;杉井重房女、  
武蔵蔵の医者;古医方を修学、深川蟠竜の女婿;高橋家を継嗣/深川とも名乗る、  
祖先は近江甲賀の砲術家、本草家深川元儒もとよしの父、1832「丹桂籍卷之二訳文」訳、  
[又玄(;通称)の幼名/名/法号]幼名;鉄次郎、名;元貞、法号;而介知免居士

又玄(ゆうげん) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8

又玄(ゆうげん・古橋) → 又玄(またはる・古橋、武将/軍記作者) J 4 0 5 3

又玄(ゆうげん・蝦) → 惟義(これよし・蝦えび、藩医者) O 1 9 9 8

又玄(ゆうげん・吉田) → 為幸(ためゆき・吉田よしだ、藩士/和算家) S 2 6 8 6

又玄(ゆうげん・竹内) → 又玄(またくろ・竹内たけうち、医者/本草) J 4 0 3 7

由言(ゆうげん・伊藤) → 莘野(しんや・伊藤いとう、儒者) 2 2 8 2

祐元(ゆうげん;法名) → 親雅(ちかまさ・中山/堀河/藤原、廷臣/歌) B 2 8 8 0

祐元(ゆうげん;法名) → 季顕(すえあき・四辻/室町/藤原、大納言) B 2 3 0 7

祐元(祐玄ゆうげん・三浦) → 乾斎(けんさい・三浦みうら、医者/詩人) I 1 8 9 1

祐元(祐玄ゆうげん・小栗栖) → 示右(しゅう/じゅう・小栗栖おぐらす、神職/俳人) G 2 1 6 9

祐元(ゆうげん・大淵) → 常範(つねのり・大淵おおぶち、幕医/本草学) D 2 9 2 1

祐玄(ゆうげん;法諱) → 法宣(ほうせん;法諱、真宗大谷派僧) C 3 9 1 1

祐厳(ゆうげん;法諱) → 祐厳(ゆうごん;法諱・鳳観、真言僧) B 4 6 6 7

友元(ゆうげん/とももと・人見) → 鶴山(かくざん・人見、儒・詩、俳) B 1 5 4 9

有言(ゆうげん・六条) → 有言(ありあや・六条、廷臣/日記) F 1 0 1 9

有原(ゆうげん・増野) → 雲門(うんもん・増野ますの、儒者) E 1 2 0 8

雄原(ゆうげん;号) → 自謙(じけん;法諱、真宗本願寺派僧) T 2 1 2 7

雄彦(ゆうげん/たけひこ?・小田島) → 允武(まさたけ・小田島おだじま、書肆/国学) O 4 0 1 2

邑彦(ゆうげん・松木) → 邑彦(くにひこ・松木まつき、神職) D 1 7 1 0

幽玄院(ゆうげんいん) → 規長(のりなが・甘露寺かんろじ、廷臣/故実) F 3 5 3 5

又玄斎(ゆうげんさい・千) → 宗室(5世そうしつ・千せん、裏千家8世茶人) H 2 5 6 7

又玄斎(ゆうげんさい・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1

又玄子(ゆうげんし・吉田) → 宗恂(そうじゅん・吉田、秀吉家康の医者) H 2 5 9 2

又玄子(ゆうげんし) → 又玄(ゆうげん・島崎、御師/俳人) B 4 6 4 8

幽玄亭(ゆうげんてい) → 永頼(ながより・小堀、藩士/詩人) G 3 2 5 7

又玄堂(ゆうげんどう) → 灌園(かんえん・岩崎いわさき、本草学者) P 1 5 9 7

B4651 由己(ゆうこ;法諱・大村おおむら、号;梅庵/藻虫齋)1536-9661 播磨三木の臨濟僧/相国寺仁如集堯門、  
1580豊臣秀吉に出仕;右筆/御伽衆となる、大阪天満宮別当を兼任、1592法眼、  
博識;軍記作者/歌/連歌/俳諧/謡曲新作/狂歌など、当時外典における本邦第一の学者、  
軍記物;「本能寺記」「明智討」「天正記」「柴田退治記」「小田原軍記」「三木没落」、  
「太閤任官之事」「聚楽行幸記」「秀吉事記」「高野詣」「温泉紀行」、歌学伝書「梅庵古筆伝」著、  
連歌;1576(天正4)紹巴と「何垣百韻」初出/以後連歌師・武人・五山僧と唱和、  
1591和漢聯句、両吟百韻/独吟百韻、俳諧;犬子集入/狂歌;古今夷曲集3首入、  
[漆色うるいろに似せてぬるでの紅葉もみぢかな](犬子集、白膠木ぬるでと塗るを掛ける)

B4652 由己(ゆうこ・藤本ふじもと)1647- 1726 80歳 京の愛宕の医者;得寿院春沢法印門、  
漢学;宇都宮逕庵門、1688頃水戸家出仕/1711頃柳沢家医官;江戸駒込甲斐府中藩邸出仕、  
1724(享保9)主家転封により大和郡山に移住/医業の傍ら詩歌・狂歌を嗜む、  
天台大僧正豪寛と交流/伊藤仁斎及びその門流田中桐江・服部南郭と交流、

1712「塔沢紀行」、狂歌;1713「春駒狂歌集」18「甲州紀行狂歌」21「続春駒狂歌集」著、  
[由己(;字)の号] 松庵/理庵/春駒翁

G4661 **有己**(ゆうこ・広瀬ひろせ) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」権第三句/第五團発句等入、  
[風の神や下知して曰く大團おうち] (團発句)

B4653 **由己**(ゆうこ;通称・山内やまうち、名;玄春/字;純仁)?-? 江中期大阪の詩人、  
「詩学階梯」、1711「二東唱酬集」著

B4654 **遊子**(ゆうこ・松平まつだいら、安祥院あんしょういん、三浦義周女) 1721-89<sup>69</sup> 幕臣槍奉行松平親春の養女、  
1733正室没後;1736(元文元)西丸出仕;御次/のち9代将軍徳川家重の側室/中蔵:  
1745徳川(清水)重好を産む、家重は正室没後は側室至心院(竹千代[家治]の母)を寵愛、  
のち遊子(安祥院)を寵愛;至心院と確執;至心院を閉牢;吉宗に諫言され解放、  
1761(宝暦11)家重没後薙髪、歌人、1781-2「心乃月」、「安祥院殿詠草千首」著、  
[遊子(;名)の別号/通称/法名]別号;遊/ゆき(遊喜)/いつ(逸)、  
通称;お遊おゆうの方/於遊喜おゆきの方/於千瀬の方、  
法名;安祥院あんしょういん、法号;安祥院受徳光潤大姉

G4646 **雄子**(ゆうこ・青山あおやま) 1754- 1839<sup>86</sup> 播磨加西郡の農業;婿をとり青山家を継嗣、  
歌人;黒坂元静・芝山持豊・村田春門門、詠歌10万首、稲の研究;稲の雌雄を発見  
国学者大国隆正・花垣一衛と交流

G4667 **勇子**(ゆうこ・大岡おおおか) 1759-1811<sup>53</sup> 江戸の大岡中興の妻;夫に早く死別、子息養育、  
書;丸毛権左衛門門;世尊寺流を修得/歌人;石原正明門、

H4628 **祐子**(ゆうこ・知久/松平、知久頼福女)?-1827 父は信濃伊那郡阿島村阿島陣屋の交代寄合家8代、  
松平頼衍(1791-1850/頼亮男)と結婚;婿養子、伊那衆交代寄合は知久・小笠原・座光寺家、  
歌人;高桐源栄(1766-1856/座光寺家家老)門、  
祐子没後;[知久の殿様川流れ]1829(文政12)知衍が帰国中天竜川で船転覆;自身は救助、  
☆知久家11代[則直→直政→昌直→頼久→頼直→頼中→頼膺→頼福→頼衍→頼匡→頼謙]

H4616 **ゆふ子**(ゆうこ・平山ひらやま、旧姓;前田) 1809-94<sup>85</sup> 大隅種子島西之表の歌人;種子島歌壇に貢献、  
孫の西村天因てんしゅう(時彦/碩園/1865-1924/ジャーナリスト)を養育、  
1887知事の面会を断る歌を贈る;税所敦子の目にとまり賞賛

由己(ゆうこ・豊島) → 豊洲(ほうしゅう・豊島としま/中岡、儒者) B 3 9 4 3

由子(ゆうこ・岩佐) → 由子(よしこ・岩佐いわさ、歌人/茶人) L 4 7 6 5

友古(ゆうこ・二川) → 友古(ともひさ・二川ふたがわ/鶴原、書/歌) W 3 1 2 7

木綿子(ゆうこ) → 秋風女房(あきかぜのによぼう、村田まさ女/元成妻、狂歌) C 1 0 5 0

勇子(ゆうこ・石野) → 広通妻(ひろみちのつま・石野いしの/屋代、歌) M 3 7 4 2

勇子(ゆうこ・岩城隆恕室) → 隆恕(たかゆり/たかひろ・岩城いわさ; D 2 6 4 6)を参照

幽古(ゆうこ・片桐) → 宗幽(そうゆう・片桐かたぎり、幕臣/茶人) J 2 5 0 3

幽壺(ゆうこ・保々) → 光等(みつとも・保々ほぼ、藩士/国学) K 4 1 3 9

由虎(ゆうこ・伊能) → 一雲(いちうん・伊能いのう、槍術/一節切) G 1 1 0 0

B4655 **友五**(ゆうご・本間ほんま) ? - ? 常陸の生/潮来の医者本間道悦[松江]の養子、  
医号;道因、俳人;芭蕉門、一時江戸住、1700潮来に帰り本間家を継嗣、  
1686仙化「蛙合」入、1688嵐雪「若水」入/89「あら野」1句入/90嵐雪「其岱そのふくろ」入、  
[暮くれ淋し花の後うしろの鬼瓦](あら野;一花)

B4656 **遊五**(ゆうご・古賀こが、名;治久) 1688-1756<sup>69</sup> 筑前朝倉石成村の庄屋/俳人: 兎城・野坡門、  
1742(寛保2)石成村天神社に鶯塚を建立、1744「雪の尾花」編/42「佐夜の中山」著、  
「初陽炎」「十日山姥」著、  
[遊五(;号)の通称/別号]通称;九兵衛治/後藤正蔵、別号;樗舎/不老坊

友護(ゆうご・滝川) → 遊筋(ゆうせつ・滝田たきた、兵法家) D 4 6 1 0

祐吾(ゆうご・黒須) → 利庸(としつね・黒須くろす、和算家) M 3 1 9 5

佑循(勇吾ゆうご・菅野) → 椿園(ちよえん・菅野かんの、藩士/書家) K 2 8 1 6

B4657 **有果**(ゆうこう;法諱/有果ゆうか、源有通男)?-? 1227<sup>存</sup> 鎌倉期僧;僧都/権大僧都、歌/連歌作者、  
1226西園寺実氏邸の護摩を修す;その後の連歌会に参加/27西園寺懺法会の供僧、



源有教の弟、勅撰2首;新勅撰(293)続後撰(699)、  
[風さむみ月は光ぞまさりけるよもの草木の秋の暮れ方](新勅撰;秋293)

- H4661 **有幸**(ゆうこう;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法橋、  
1237刊[檜葉集]入、  
[ゆふづくひうつりもあへずきえにけりうすくらなるの野辺の淡雪](檜葉;雑759)
- B4658 **西仰**(ゆうこう;法諱・明蓮社聡誉;法名、千葉満胤男) 1418-5942 下総の浄土僧;叔父聖聡門;出家、  
江戸橋場法源寺を再興/1439(永享11)芝増上寺2世、法問論義を行う、  
1437「五重口伝抄」、「大原深義鈔」「玄文深義鈔」「指南目録抄」「無題記」「論義蔵」著
- B4659 **友光**(ゆうこう) ? - ? 俳人;梅盛門、1663木玉千句参;倫員「木玉集」所収、  
1663(寛文3)北村季吟と両吟(;1664刊「両吟集」上巻入)
- B4660 **融光**(ゆうこう;法諱) ? - ? 江前期江戸小石川の浄土宗伝通院僧:  
1716(享保元)「録合積節要」著
- B4661 **西好**(西好ゆうこう) ? - ? 播磨西古瀬の俳人;  
1754雑俳撰集「この手がしは」編
- G4602 **友交**(ゆうこう) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、  
[おどろくや齒の跡さむき今朝の秋](丁卯集;齒落)
- F4628 **有幸**(ゆうこう) ? - ? 1817頃没 江戸下谷入谷の川柳作者;句の集者・会筵に尽力、  
誹風柳多留二七篇に初見、[高い敷居のふみ台に母はなり](柳多留;四三)
- B4662 **有功**(ゆうこう・永田ながた、名;敏政) 1769-183668 尾張藩士;御本丸組同心、関流和算家、  
「算法簡齋録」校/「簡齋算艸卷六」校/「三友軒算艸」校訂、敏昌としまの養父、  
[有功(;字)の幼名/通称/号]幼名;丑之助、通称;善蔵/牧右衛門、号;簡齋/板橋

友興(ゆうこう・葦田)	→	友興(ともおき・葦田、武将/連歌)	P 3 1 2 4
友光(ゆうこう・武野)	→	友光(ともみつ・武野/竹野、藩士/料理/歌)	V 3 1 7 1
友光(ゆうこう・佐伯)	→	友光(ともみつ・佐伯さえき、国学)	V 3 1 2 6
友幸(ゆうこう・寺沢;改名)	→	麦宇(ぼう・小川おがわ、俳人)	C 3 6 5 9
友幸(ゆうこう・林)	→	友幸(ともゆき・林はやし、藩士/武術/政治)	W 3 1 1 4
友好(ゆうこう・吉田)	→	友好(ともよし・吉田よしだ、藩儒/墳墓録)	R 3 1 0 0
友行(ゆうこう・佐野)	→	友行(ともゆき・佐野さの、藩士/歌人)	V 3 1 3 1
西公(ゆうこう)	→	聖聡(しょうそう;法諱、浄土僧)	T 2 2 9 7
有功(ゆうこう・千種)	→	有功(ありこと・千種、歌人)	B 1 0 6 8
有功(ゆうこう・横井)	→	時敏(ときとし・横井、儒者/詩)	J 3 1 4 5
有功(ゆうこう・福井/山本)	→	達所(たつしよ・山本/福井、典薬寮医者)	R 2 6 6 2
有功(ゆうこう・津阪)	→	拙脩(せつしゅう・津阪、儒者)	N 2 4 7 1
有功(ゆうこう・高橋)	→	敏(さとし・高橋たかはし、村長/教育者)	Q 2 0 8 7
有行(ゆうこう・村上)	→	円方(まどかた・村上、国学者/歌人)	J 4 0 9 2
有孝(ゆうこう・三角)	→	有孝(ありたか・三角みすみ、廷臣/医官)	I 1 0 5 0
有恒(ゆうこう・中川)	→	有恒(ありつね・中川、書肆)	F 1 0 4 6
有恒(ゆうこう・杉木)	→	有恒(ありつね・杉木すぎき、村役人/記録)	F 1 0 4 7
有恒(ゆうこう・宜湾)	→	朝保(ちようほ・宜湾ざわ、琉球廷臣/歌)	J 2 8 8 5
有恒(ゆうこう→ありつね・丸山)	→	武雄(たけお・丸山、藩家老/歌/香道)	O 2 6 2 9
有恒(ゆうこう・山田)	→	道貞(みちさだ・山田やまだ、文筆家)	B 4 1 5 4
有恒(ゆうこう・久保田)	→	有恒(ありつね・久保田くぼた、国学/歌人)	H 1 0 4 4
蓬庵(ほうあん・久保田)	→	有恒(ありつね・久保田くぼた、国学/歌人)	H 1 0 4 4
有高(ゆうこう・近藤)	→	有高(ありたか・近藤・藤原、武家/歌人)	B 1 0 7 5
有煌(ゆうこう・森)	→	春溪(しゅんけい;号・森もり、絵師)	I 2 1 8 8
祐光(ゆうこう;法名)	→	有光(ありみつ・日野/藤原、廷臣/歌)	F 1 0 8 4
祐光(ゆうこう)	→	慧鑑(えかん;法諱・法明、真言僧)	D 1 3 5 7
祐光(ゆうこう・中臣)	→	祐光(すけみつ・中臣なかとみ/千鳥、神職)	H 2 3 0 8
祐光(ゆうこう・久須美)	→	祐光(すけてる・久須美・藤原、幕臣/文筆)	G 2 3 5 4
祐行(ゆうこう・伊藤)	→	祐行(すけゆき・伊藤いとう、和算家)	H 2 3 2 1

祐行(ゆうこう・笹木) → 祐行(すけゆき・笹木ささき、国学者) I 2 3 5 7  
 祐功(ゆうこう・福永) → 祐功(すけのり・福永ふくなが、歌人) J 2 3 1 6  
 祐綱(ゆうこう・伊東) → 祐綱(すけつな・伊東いとう、郷土史家) G 2 3 5 1  
 雄綱(ゆうこう→かつつな・真名介まなのすけ) → 黙霖(もくりん・宇都宮うつのみや、真宗僧/勤王) J 4 4 0 0  
 雄興(ゆうこう・土方) → 雄興(かつおき・土方ひじかた、藩主/歌人) V 1 5 4 9  
 雄香(ゆうこう・松浦) → 棟(たかし・松浦まつら、藩主/兵法家) L 2 6 9 4  
 猶興(ゆうこう・河田) → 迪斎(てきさい・河田/川田、儒者/幕臣) B 3 0 9 3  
 猶興(ゆうこう・大沢/印牧かねまき) → 君山(くんざん・大沢、儒者/詩文) D 1 7 6 4  
 幽岡(ゆうこう・稲束) → 嘉包(よしかね・稲束いなづか、商家/記録) L 4 7 6 0  
 幽篁(ゆうこう;号) → 瑞宝(ずいほう;法諱・幽篁;号、真言僧) F 2 3 0 1  
 幽篁(ゆうこう・宮地) → 風石(ふうせき・宮地みやじ、藩士/俳人) 3 8 8 5  
 幽篁庵(ゆうこうあん) → 伝笑(でんしょう・関亭、合巻/読本祖) D 3 0 8 3  
 幽篁庵(ゆうこうあん) → 祐之(すけゆき・久松、幕臣/歌人) D 2 3 2 2  
 雄香院(ゆうこういん) → 棟(たかし・松浦まつら、藩主/兵法家) L 2 6 9 4  
 邑巷軒(ゆうこうけん) → 四郎左衛門(しろうざえもん・丹羽にわ、藩士) N 2 2 1 0  
 幽篁軒世父(ゆうこうけんせいふ) → 祐胤(すけたね・伊藤いとう、藩医/儒者) G 2 3 4 3  
 幽篁斎(有功斎ゆうこうさい) → 忠升(ただたか・本多、藩主/儒/詩歌) F 2 6 2 3  
 幽篁斎(ゆうこうさい・有賀) → 豊秋(とよあき・有賀ありが/菅原、国学/歌/俳) U 3 1 0 2  
 幽香斎(ゆうこうさい) → 柳栄(りゅうえい・桃田ももた、絵師) C 4 9 8 3  
 由甲斎(ゆうこうさい・仙果亭嘉栗) → 上太郎(じょうたろう・紀、浄瑠璃/狂歌) 2 1 9 4  
 幽更斎天信(ゆうこうさいてんしん) → 宗及(そうきゅう・津田、連歌) B 2 5 0 2  
 友江子(ゆうこうし) → 正三(初世しょうざ・並木、浄/歌伎作者) 2 1 9 0  
 幽香草堂(ゆうこうそうどう) → 慈音(じおん;法諱・水原、真宗勤王僧) Z 2 1 9 0

B4663 幽香亭(ゆうこうてい;号) ? - ? 江後期伊勢山田の本草家、  
 1825蘭栽培法「やしなひぐさ」著

幽香亭角子(ゆうこうていかくし・中尾) → 樗軒(ちよけん・中尾、鑑定/文筆) K 2 8 3 6

4601 幽谷(ゆうこく・藤田ふじた、名;一正、言徳2男) 1774-1826 53 常陸水戸の古着屋の生/儒;立原翠軒門、  
 1788(15歳)彰考館総裁の翠軒の推挙で彰考館入門/89史館正員/96彰考館編修、  
 1797「丁巳封事」を藩主徳川治保に提出;藩政批判として罷免/自宅謹慎、  
 大日本史編纂方針の違いで翠軒と不和、1799彰考館に復職/1802自宅に私塾青藍舎開設;  
 尊攘教育/のち藩主治保の信任を得る、1803翠軒致仕;翠軒派が彰考館を去る、  
 1807彰考館総裁、09浜田郡奉行兼任/24兼通事列、東湖の父、  
 「葦原集」編/1791「正名論」97「修史始末」99「勸農或問」、「幽谷詩集」「幽谷隨筆」「曆志稿」著、  
 「二連異称」「梅巷筆叢」「幽谷詩纂」「幽谷先生文集」外著多、「幽谷先生遺稿」(息東湖編)、  
 [幽谷(;号)の字/通称]字;子定、通称;熊之介/与介/次郎左衛門  
 門弟;息子藤田東湖・会沢正志斎・豊田天功ら

B4664 幽谷(ゆうこく・倉田くらた、名;導/施報、立見直施男) 1827-1900 74 父は下総佐倉藩士、儒;安井息軒門、  
 佐倉藩主の出資で昌平黌に修学;藩主の都講、藩風に合わず致仕、姓名を倉田務に変更、  
 上野・信濃間を歴遊/上州吉井藩主に招聘され出仕、廃藩後埼玉県学;のち東京住、  
 歌・書画を嗜む、「幽谷文稿」著/「句帖」書、  
 [幽谷(;号)の変名/字/通称]変名;倉田務、字;善友/務卿、通称;亥之助/直八

B4665 幽谷(ゆうこく・正木まさき、名;哲夫) ?-? 江後期上総高柳の儒者/詩人、佐藤一斎と交流、  
 1858(安政5)刊「南総鈔絶」著

有国(ゆうこく・森もり) → 有国(ありくに・森もり、歌人) G 1 0 7 1

幽谷(ゆうこく・平田) → 可竹(かちく・平田ひらた、藩士/兵法家) N 1 5 1 2

幽谷(ゆうこく・鈴・鱸/鈴木) → 椿亭(ちんてい・鈴木、幕臣/儒者/狂歌) K 2 8 9 1

祐国(ゆうこく・中臣) → 祐国(すけくに・中臣なかとみ/今西、神職) G 2 3 2 8

雄国院(ゆうこくいん) → 斉敏(なりとし・池田/島津、藩主/日記) H 3 2 7 4

幽谷斎(ゆうこくさい) → 直入(ちよくにゅう・田能村、絵師) K 2 8 3 2

遊谷子(ゆうこくし) → 嘉三(かざう・敦賀屋つるがや、薬種商/談義本作者) M 1 5 7 6

- 遊国子(ゆうこくし;号) → 慧鑑(えがい・誓禪、真宗本願寺派僧) D 1 3 5 4  
 由己亭(ゆうこてい・豊島) → 豊洲(ほうしゅう・豊島としま/中岡、儒者) B 3 9 4 3  
 勇五郎(ゆうごろう・九鬼) → 隆徳(たかのり・九鬼くき、藩主/歌) U 2 6 1 5  
 祐根(ゆうこん・中臣) → 祐根(すけもと・中臣/千鳥、神官/連歌) D 2 3 1 4  
 祐根(ゆうこん・伊東) → 祐根(すけね・伊東/藤原/弓削、藩士/水練) G 2 3 7 9
- B4667 祐厳(ゆうごん;法諱・鳳観;字、俗姓;加藤) 1711-8676 江中期下総葛飾郡二郷半領の真言僧、  
 1734(享保19)大和長谷寺金蓮院の信忍門、のち長勝寺/月輪院に住、  
 1764武蔵宝仙寺に移住、「豊山玉石集」著
- B4668 有佐(ゆうさ・富岡とみおか) ? - 1758 江戸湯島俳人:貞佐門/江戸其角座宗匠/点者、  
 1735師貞佐追善「隙の駒」編、40「其砧」編、45「江戸廿歌仙」入、49「桑々畔発句集」共編、  
 1752「誹諧湯嶋集」/54「誹諧北海荘発句集」編/54「雪満呂気ゆきまろげ」著、  
 「玉花おうか勝覧」「逸題歌仙集」著、  
 [有佐の別号] 露円(初号)/露園/露庵/露々庵、北海荘/北海子/北海市
- B4669 祐佐(ゆうさ・伴はん) ? - ? 江中期大坂南久太郎町の書肆;  
 博労町・順慶町等でも営業、浮世草子の作者・刊行、  
 1732「大平百物語」「風流話やき軍談」著、1737泰全「大友眞鳥おおとものまとり実記」参関/序/刊  
 [祐佐(:名)の通称/号]通称:河内屋宇兵衛、  
 号;菅生堂/菅生堂人/恵忠居士/浪華散人/市中散人
- 有佐(ゆうさ・藤原) → 有祐(有佐ありすけ・藤原、歌人) B 1 0 7 3
- 4602 幽斎(ゆうさい・細川ほそかわ/本姓;源、三淵/長岡、三淵晴員2男or將軍足利義晴男) 1534-161077歳、  
 母;清原宣賢女智慶尼、細川元常の養子、武将;1554(天文23)家督継嗣;従四下/兵部大輔、  
 侍従、足利幕臣;義晴・義輝・義昭近侍;三好一派に追われた將軍義輝に随従、  
 義輝暗殺後;1568明智光秀・織田信長の援助を得て一乗院覚慶(將軍義昭)上洛を支援、  
 義昭追放後;信長の重臣;山城長岡に所領;長岡姓/本能寺変後剃髪;幽斎玄旨を名乗る、  
 秀吉に近仕、関ヶ原後は徳川家康に知遇/出仕;豊前の入国/上洛し吉田に隠居、  
 若年より歌人;三条実枝さねき門、1576古今伝授受;二条派歌学大成、秀吉の歌・連歌会の中心、  
 智仁親王・中院通勝・烏丸光広に古今伝授相伝、飛鳥井雅枝・木下長嘯子・松永貞徳の師、  
 1600(慶長5)石田光成に居城田辺城を包囲された時歌学伝受絶滅を恐れ勅使差遣される、  
 有職故実・料理・音曲にも通ず/茶道;武野紹鷗門、利休・津田宗及と親交、  
 「耳底記」、「闕疑抄」「玄旨歌」「詠歌大概抄」「春樹頭秘抄」「夢想記」「二条家人丸相伝」、  
 歌集「衆妙集」「幽斎歌集」、「九州道の記」「東国陣道の記」外著多数、  
 [いにしへも今も変らぬ世の中に心の種を残す言の葉]、  
 [おしなべてけふこそ霞め四方山のこのもかのもに春屋立つらん](衆妙集;冒頭立春)、  
 連歌;宗養・紹巴門、1563初出;百韻8句/大原野・大覚寺千句参加/1579定家色紙開百韻張行、  
 1782信長没後に追善懐旧連歌催/以後も百韻多数、  
 [花の時も風をやまたん夕涼](1573紹巴と両吟;何人百韻)、  
 [幽斎(:剃髪号)の幼名/名/通称/別号]幼名;万吉、名;藤孝ふじたか、通称;与一郎/兵部大輔、  
 剃髪別号;玄旨げんし、法号;泰勝院徹宗玄旨、細川忠興・幸隆の父
- B4670 有哉(ゆうさい) ? - ? 江前期江戸の俳人;立圍門、  
 1668親信「己己己己いしき」4吟千句参加
- B4671 友斎(ゆうさい・寺沢てらさわ、名;政辰) 1671-174171 江戸の書家;寺沢流書法の祖、  
 「手紙文集」「幸文往来」「筆の要」「書札筆用集」/1707「当用往来」14「江戸往来」書;外多数、  
 [友斎(:号)の通称/別号]通称;友太夫、別号;深淵堂、法号;眞光院
- B4672 優才(ゆうさい) ? - ? 俳人;春夜楼連/1776几董「続明鳥」4句入、  
 [一条と二条の間あひやおぼろ月](続明鳥;甲51/京の優雅な町)
- B4673 有齋(ゆうさい・賀川ががわ、玄悦の長男) 1733-9361 京の医者:父の産科術継嗣、  
 自ら家を出て京油小路に開業、門人に賀川姓を与え大坂に開業させる、  
 「産科口伝」「有齋産術記」「産術秘要」「口決並手術解及産論」「賀川秘書」「産術免許口訣」、  
 「産道口訣並手術解」「産科口授手術解」/天明1781-89頃「有齋先生産道秘書」著、  
 [有齋(:号)の名/字/法号]名;満卿/玄吾、字;徳夫、法号;烏有齋玄道無隠、蘭齋の父



- B4674 **右齋** (ゆうさい; 号・佐藤さとう) ?- ? 江中期仙台藩士; 大番組、弓術: 長崎柳也門、八幡墓目流小弓の術の伝授を受、「八幡墓目流小弓添伝而左之四箇神秘之大概」著
- B4675 **雄齋** (ゆうさい・佐々木ささき、名; 惟賢) ?-? 江後期文政1818-30頃大坂の医者/歌人、「長桑録」「痘科鍵傍注」著、  
[雄齋(;)の字/通称/別号]字; 子直、通称; 隆策、別号; 桑山人
- B4676 **悠齋** (有齋ゆうさい・高村たかむら、名; 周平) ?-1844? 淡路江井浦の庄屋の分家筋の船乗、医者; 溝上孝琢門/石門心学: 京の上河洪水門; その高弟、帰郷; 家塾大洋舎開塾; 心学指導、徳島藩の命で領内を巡講、1834(天保5)「大洋雑話」著、  
[悠齋(;)の字/通称]字; 謙光、通称; 米屋宗兵衛
- G4627 **友齋** (ゆうさい・松山、青龍軒) ?- ? 江戸俳人; 沾山7世[?-1851]門/沾徳座点者、1848「俳諧觸はいかいけい」入
- B4677 **融齋** (ゆうさい・大山おおやま、名; 誠、貞寛[寿翁]男) 1794-1863 70 常陸儒者: 江戸浅草田原町で私塾開、安中藩主板倉勝明に招聘; 藩儒として藩校教授、国学・書にも通ず、「事類詩談」編、1837「読書余論」、「采薪藻」「覆載詩鈔」「対問余興」「戊戌漫草」/60・62「薪樗吟藻」著、  
[融齋(;)の字/通称/別号]字; 成言、通称; 呉一郎、別号; 書痴/梅所/語一、法号; 弘教院
- B4678 **有齋** (ゆうさい・春廼家/春野家はるのや: 号) ?-? 江後期大阪の浄瑠璃作者、1839-41(天保10-12)大坂稻荷社東芝居の専属作者; 山田案山子と10余編共作・添削、1840「契情小倉の色紙」41「詠開うたびらき秋七草」著、「絵合太功記」添削
- G4650 **幽齋** (ゆうさい・梅田うめだ、) 1809-1870 62 江戸の医者; 坪井信道門; 蘭方医学を修学、1842(34歳) 宍戸丹後家臣の医家; 周防三田尻新道に開業/開塾; 盪流亭かんりゆうてい・沈流亭、長崎で種痘法修学/蘭書モヨールの翻訳「牛痘徴候論」著; 三田尻で種痘実施; 藩より禁止、1861(文久元) 秋本里美と医学館好生堂御用達/藩の蘭学教授、長州の医科学者とし活動、明治初年に阿東町での鉱山事業に失敗; 失意のうちに門弟山根秀策宅に没
- B4679 **由齋** (ゆうさい・清水しみず、名: 由) 1828-1906 79 越後新関村の医者: 小川竜仙院・岡櫟仙院門、産科; 賀川玄悦門、医業の傍ら児童に読書を授/俳人; 抱儀門、「辨恙虫」著、  
[由齋(;)の字/通称/別号]字; 静義、通称; 賢林、別号; 三余、従祖父; 賢林
- B4680 **輶齋** (ゆうさい・伊藤いとう、名; 重光、東峰男) 1831-1907 77 儒者(家学): 父門; 古義堂6世襲名、維新後宮内省出仕、「伊呂波大概」「聴雨桂風」「韻府便覧」「訓詁字府」「名字訓輯」編、1854「錦繡淵海」60「新婚諸録」、「伊藤家諸記録集」「見聞雑記」「三家録」「辨正手録」外著多、  
[輶齋(;)の幼名/字/通称/別号]幼名; 多米吉、字; 徳蔵、通称; 由蔵、別号; 東原/六有齋
- B4681 **雄齋** (ゆうさい; 号・小嶋こじま) ?- ? 江後期洋学者: 英米蘭語に通ず、1860「商用通語」著
- |               |   |                         |           |
|---------------|---|-------------------------|-----------|
| 幽齋(ゆうさい・谷)    | → | 松茂(まつしげ・谷たに、和算家)        | J 4 0 7 5 |
| 尤最(ゆうさい・山崎)   | → | 尤最(もとよし・山崎芥花堂、語学者)      | E 4 4 7 1 |
| 友齋(ゆうさい・玉花坊)  | → | 沾山(6・7世せんざん・内田、俳人)      | F 2 4 5 7 |
| 有齋(ゆうさい・青山)   | → | 忠高(ただたか・青山正幸まさよし、藩主)    | P 2 6 7 4 |
| 有齋(ゆうさい・賀川)   | → | 玄迪(げんてき・賀川かがわ/岡本、産科医)   | L 1 8 6 2 |
| 有濟(ゆうさい・宇田)   | → | 深林(しんりん・宇田うだ、藩士/書家)     | Q 2 2 1 6 |
| 有哉(ゆうさい: 薙髮号) | → | 有次(ゆうじ・岩田いわた、俳人)        | C 4 6 1 6 |
| 有載(ゆうさい・米倉)   | → | 有載(有年ありとし・米倉よねくら、歌人)    | G 1 0 5 7 |
| 攸齋(ゆうさい・一井)   | → | 鳳梧(ほうご・一井いちのい/一色、儒者)    | F 3 9 1 6 |
| 勇齋(ゆうさい・中村)   | → | 漆翁(しつおう・3代中村宗哲、千家塗師/俳人) | F 2 1 1 1 |
| 裕齋(ゆうさい・堀田)   | → | 正衡(まさひら・堀田/紀、藩主/画)      | G 4 0 8 4 |
| 裕齋(ゆうさい・平沼)   | → | 晋(すすむ・平沼ひらぬま、藩士/詩・書)    | D 2 3 8 1 |
| 遊齋(ゆうさい・加門)   | → | 恭輔(きょうすけ・加門かもん、医者)      | O 1 6 1 7 |
| 雄齋(ゆうさい・歌川)   | → | 国輝(初世くにてる・歌川うたがわ、絵師)    | B 1 7 9 8 |
| 雄齋(ゆうさい・狩野)   | → | 善久(よしひさ・狩野かのう、医者/国学)    | M 4 7 1 5 |
| 雄齋(ゆうさい・齋木)   | → | 巖(いわお・齋木さいき/藤原、神職/国学)   | K 1 1 2 8 |
| 融齋(ゆうさい・高島)   | → | 千春(ちはる・高島/高嶋たかしま、絵師)    | F 2 8 1 9 |
| 融齋(祐齋ゆうさい・佐藤) | → | 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家/医者)      | D 3 5 1 2 |
| 悠哉(ゆうさい・伊藤)   | → | 澹齋(たんさい・伊藤/伊東、医/儒者)     | I 2 6 1 4 |



- 悠齋(ゆうさい・加藤) → 洞庭(どうてい・加藤かとう、医者) G 3 1 6 3
- B4682 熊在(ゆうざい;名・藤原ふじわら)?- ? 江中期尾張鳴海の文筆家、1772「詞草小苑」著有材(ゆうざい→ありき・文屋)→ 有季(ありすえ・文屋、歌人) B 1 0 7 1
- 幽柴庵(ゆうさいあん) → 利巖(りがん・樸くぬぎ、真宗僧/歌人) M 4 9 1 3
- 遊哉館(ゆうさいかん) → 之孝(ゆきたか・三井、書家/篆刻) E 4 6 6 2
- 遊西子(ゆうさいし) → 亮英(りょうえい;法諱・円空;字、天台僧) G 4 9 4 8
- 雄左衛門(ゆうざえもん・江尻)→ 菘松(おしょう・江尻えり、儒者/詩文) C 1 4 1 4
- 勇左衛門(ゆうざえもん・坂部)→ 広胖(こうはん・坂部/戸田/山田、和算家) K 1 9 9 7
- H4656 友作(ゆうさく・早川はやかわ)?- ? 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、同集入の早川瑞竿と同族?  
[おとづれぬ人もわが身もおなじ世にふるき軒ばの雪ぞ寒けき](麓の塵;雑640)
- 祐作(ゆうさく;剃髮号) → 田福(でんぶく・川田、呉服商/俳人) E 3 0 1 8
- 侑作(ゆうさく・佐藤) → 義風(よしかぜ・佐藤さとう、国学者) N 4 7 1 4
- B4683 祐察(ゆうさつ;法諱・法名;直蓮社心譽本阿) 1622-8160 浄土僧;1634(13歳)江戸伝通院聞悦門、学究者;経蔵と渾名、南都・京に游学/1670武蔵川越蓮馨寺12世、江戸鳥越の大秀寺開創、「安楽集要解」著
- 祐三郎(ゆうさぶろう・中村屋)→ 朝暉(ちょうき・中村屋、俳人) H 2 8 7 9
- 勇三郎(ゆうさぶろう・園山)→ 西山(ゆうざん・園山そのやま/加藤、藩儒) B 4 6 9 7
- 勇三郎(ゆうさぶろう・坂口屋)→ 克典(かつのり・岡おか、商家/国学者) T 1 5 9 9
- 勇三郎(ゆうさぶろう・高宮)→ 元雄(もとお・高宮たかみや/柿原、藩医) K 4 4 4 2
- 雄三郎(ゆうさぶろう・山口)→ 弘教(ひろのり・山口やまぐち/山本、里正) M 3 7 1 5
- 猶三郎(ゆうさぶろう・福住)→ 貞庸(さだつね・福住ふくずみ/桜井、商家/歌) P 2 0 2 3
- B4684 友左坊(ゆうさぼう・山本やまもと) 1757-1846長寿90歳 美濃本巢郡美江寺本陣、大垣の俳人;美濃派から分離の以哉派に属す;美濃派(以哉派)道統9世、「朝露集」編/1820「老の旅」23「塚之栄」27「世の上」44「千代のさか」編、[友左坊(;号)の名/別号]名;卓路、別号;梅州/雪香/雪香園/百茎仙/雪白主人
- B4685 宥算(ゆうざん;法諱・宗純;字、佐藤道悦3男)?-1689 真言僧;15歳大和郡山で出家/高野山で修学、中院・竜光院住/1684無量寿院に住、「釈疏論稿」著
- G4666 友三(ゆうざん・奥西おくにし)?- ? 江前期京の俳人、1676西鶴「俳諧師手鑑」入、[盤石とならんすなほな御代の春](手鑑)
- B4686 熊三(ゆうざん;号・藤本ふじもと)?- ? 江中後期俳人;1781春夜楼に入社;以後毎年初懐紙に入集、1782蕪村「花鳥篇」3句入、83維駒「五車反古」2句入、[花を見て帰るうしろや朧月](花鳥篇;17/家路にてふと振り返るとあの花山に春月が)
- 幽三(ゆうざん・高野、歌人)→ 幽山(ゆうざん・高野たかの、俳人/?-1702)と同一? B 4 6 8 9
- B4687 遊山(ゆうざん;法諱)?- ? 近江木之本の浄信寺僧/軍記作者;1673?「浅井三代記」著
- B4688 友山(ゆうざん・大道寺だいでうじ/本姓;平、繁久男) 1639-1730長寿92歳 山城伏見の兵法家、祖父直繁は將軍徳川秀忠の小姓/父は秀忠弟松平忠輝に出仕、軍学;東下し小幡景憲門、北条氏長・遠山信景門、山鹿高祐より軍学奥義の伝授を受、一時会津藩出仕、のち福井藩に招聘され出仕;科あり追放/武蔵岩淵に寓居、1714福井藩主松平吉邦に招聘、1717(享保2)家督を息子重高に譲渡し隠居、妻;俳人徳元の孫娘の阿栗、重高・建部綾足母の父、「岩淵がんえん物語」「岩淵夜話」「岩淵夜話別集」「越後亀鑑」著、1728「落穂集」「落穂集続編」「落穂集追加」「靈巖夜話十意之辨」、「禁秘録」「五臣論」著、「友山物語」「武道初心集」「大道寺友山筆記」「友山随筆」「越叟夜話」「文慶落穂集」外著多数、[友山(;号)の名/通称/別号]名;重祐じひろ、通称;孫九郎、別号;知足軒、法号;寿徳院
- B4689 幽山(ゆうざん・高野たかの、名;直重)?-1702 京の俳人;江戸の貞門松江重頼[惟舟]門、1661頃より諸国歴遊、1670(寛文10)「奥州名所八色」の句を集める;1672風虎[奥州名所百番俳諧発句合]に入集、1674頃江戸本町河岸に住、江戸の風虎(内藤義泰)邸に出入/西山宗因の俳席参加、芭蕉とも交流、1697(元禄10)頃伊勢久居藩主藤堂高通(任口)に出仕;久居に移住;同地没、

1678「江戸八百韻」編(言水・素堂らと八吟)/80俳諧地誌「誹枕はいまくら」編(諸国の国別発句)、  
1699「伊賀国誌」著、「歌林名所追考」著、1680言水「江戸弁慶」82如扶「三ヶ津さなかのつ」入、  
[卵の国すかすに清きよし日農始ひのはじめ](三ヶ津/卵の国;当時の世界地図は卵形、  
鶏卵に擬し元日朝の清新な気を詠む)、

[幽山(;)号)の通称/別号]通称;孫兵衛/竹内為入(;)伊勢久居での称)、別号;丁々軒、  
法号;徳誉宗心信士

☆戸田茂睡[鳥の迹]入の歌人高野幽三と同一?、

[行きくればゆかりの草をよすがにて枕からなんむさしの原]([鳥の迹]雑上573、  
また水野守矩1693没後に追善歌を勧進)

G4603 勇山(ゆうざん・深江ふかえ) ? - ? 江前期大阪の俳人/のち京室町三条下ル住、  
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入/1691林鴻「誹諧京羽二重」入、  
[松茸や蟻の帝みかどの雨宿り](難波色紙;50/蟻の群が松茸の笠の下で雨宿り;  
秦の始皇帝が泰山の松樹の下に風雨を避けその樹を五大夫に封じた故事)

B4690 祐山(ゆうざん) ? - ? 江前期丹後宮津の俳人、  
1689言水「誹諧前後園」/90「新撰都曲みやこぶり」2句入、  
[鮎肥こえぬ問はで渡りし五十鈴川](都曲;下410/伊勢を流れる川;鮎は肥えていそうだ)

B4691 友山(ゆうざん・奥貫おくぬき/本姓;荻生、武右衛門正清男) 1708-8780 武蔵入間郡久下戸村の名主、  
儒;成島信遍門/徂徠学修学、細井平洲・青木昆陽・中村蘭林と交流、慈善事業;  
1742(寛保2)寛保の洪水に私財を投じ飢民救済;川越藩主秋元凉朝より褒賞、  
自費で水塚の植林を継続/1764(明和元)寺子屋兼漢学塾開設;子弟教育、  
国学;成島信遍・冷泉為綱門、「大水記」「救荒余話」「宝暦八年之記」著、  
1763(宝暦13)「産事箋」/1777「子孫江申置ことば」/85「荻氏遺書」著、  
[友山(;)号)の名/字/通称]名;正卿まさり、字;伯雅、通称;小平次/五平次

B4692 雄山(ゆうざん・西川にしかわ、名;知崇、瀬右衛門男) 1711-5949 近江坂田郡柏原村の儒者;  
1733上京し伊藤東涯門、帰郷し子弟教育、「名所旧跡編」「郷童須知」「東海道都詣之記」著、  
[雄山(;)号)の通称/別号]通称;平之丞、別号;長敬斎

B4693 雄山(ゆうざん、方空子;剃髮号)?-? 大阪の酒店主人/俳人;  
1773几董「明鳥」2句/76「続明鳥」1句/82蕪村「花鳥篇」1句入、  
[朝露や是も案内あいの不調法](あけ鳥;221/露深い中での招待客への挨拶)

B4694 西山(ゆうざん・佐野さの、名;富成、伊勢久居藩士中井元武男) 1740-181475 幼時外祖母の佐野家継嗣、  
儒者;1750藩儒平井藍山門/1752(宝暦2/13歳)藩主藤堂高雅の儒員に抜擢;  
1755藍山の代講、58藍山没後;侍読/儒官;伊勢久居藩儒、1762京の古義堂入門/伊藤東所門、  
8代の藩主に出仕/多くの子弟教育/1806隠居、橘南谿・小谷巢松・中山竹山らの師、  
「西山詩集」「西山文集」「自得余言」「廃書篋はいしよろく」、  
[西山(;)号)の幼名/字]幼名;金八/嘉兵衛、字;君実/汝稷じよしよく

B4695 遊山(ゆうざん・高瀬たかせ、名;季昌すえまさ/季正/勝正/武豊、不破昌命男) 1748-183487 肥後熊本藩士、  
1764高瀬武延の養嗣/65家督;若殿附/郡代/用人、1800不祥事により処罰;阿高村に潜居、  
歌人、1818「一己心備集」、口述「肥落穂集」(細川重賢の逸話;高瀬武昭たけあき筆記/編)、  
[遊山(;)号)の通称/法号]通称;文平、法号;鷲峰院

B4696 雄山(ゆうざん・加藤かとう、名;義適) 1749-179850 岩代会津雄国芦平村の肝煎、漢学;北川親懿門、  
神道家;中野惜我門/吉川従門より神道免許証を受;心学指導者として活躍、  
「雄山義適詠草集」著/「岡山先生示教録追加」編、  
[雄山(;)号)の通称]銀蔵/藤九郎/雄三

B4697 西山(ゆうざん・園山そのやま、名;雄、加藤正喬[文耕]3男) 1753-182169 父は;出雲松江藩士、儒者、  
松江藩校明教官入学;桃白鹿門/1775(安政4)園山満山の養嗣子、  
1776江戸で江戸詰藩儒宇佐美瀧水しんすい門;古文辞学修学/瀧水没後門人小川豊洲門、  
1779帰郷;藩儒/92江戸藩邸の漢学教授/94世子松平斉恒(雪川)の侍読、  
1917明教官教授/祭酒;侍読を兼任、「淮南子考」「易学略説」「稽古図説」「受業略説」、  
「大戴礼備攷」「読書備考」「読呂氏春秋補」「明主謨訓」著、  
[西山(;)号)の字/通称/諡号]字;叔飛、通称;勇三郎、諡号;文恭先生

- B4698 **友山** (ゆうざん・中島なかしま、通称; 甚吉、別号; 水韻亭) ?-? 江後期三河宝飯郡御油の俳人: 雪中庵系、1833「はるの霜」編、羽田野敬雄(たかお/神職・国学者)の母方の伯父
- B4699 **熊山** (ゆうざん・沢さわ、名; 徽) 1779-1855 77 阿波徳島or伊予の儒者/徳島藩士長谷川家に出仕、儒; 佐野山陰門/1812(文化9)伊勢神戸藩に出仕; 江戸藩邸内進徳堂儒官、私塾海鷗社を開、古賀穀堂・林述斎・安積良斎・斎藤拙堂と交流、1799「文慶北伐記」/1840「独喩集」著、1847「詩語群玉」編、「多芸録」「長野録」「赤穂義士論」「安土史記」「大坂史記」「鎌倉史記」著、「韻鏡集成」「著論大成」「広文語解」「選詩爛」「熊山広志」「読荘子」「読列子」「読老子」外著多、[熊山(;)号]の字/通称/別号]字; 子慎、通称; 三郎、別号; 育英塾、法号; 勇心院
- C4600 **熊山** (ゆうざん・太田おた、名; 保) ?-1854? (60余歳没) 江後期佐渡大野村の儒者: 本間黙斎門、江戸の朝川善庵門、文政1818-30頃下野壬生藩主鳥居家の江戸藩邸学塾自成堂学頭、のち壬生藩校学習館教授; 経学を講ず、詩人; 1851「江都名家詩選」11首入、1838「師善録」、「論語証注」「政典先例」「如是我聞」「寓東笈塵」、[熊山(;)号]の字/通称/別号]字; 君明、通称; 退蔵/泰蔵(たいぞう)、別号; 方斎
- C4601 **熊山** (ゆうざん・鴨井かもい、名; 西銘/正銘、宗男) 1803-1857 55 備前児島郡浦田儒者/句読; 鷓鴣春斎門、のち儒・詩; 菅茶山門、詩文に長ず、江戸遊学; 昌平黌入学; 古賀洞庵門、帰郷; 嘉永1848-54頃岡山藩老池田家の儒臣、「嘉政伝聞録」「熊山詩文集」著、[熊山(;)号]の字/通称/別号]字; 東仲、通称; 耕太郎、別号; 探山野人/愛吾廬
- C4602 **友山** (ゆうざん・根岸ねぎし、名; 信輔、信保男) 1809-90 82 武蔵大里郡吉見村冑山の農家、儒者/国学者、儒; 山本北山・寺門静軒門/剣術; 千葉周作門、諸藩の志士と交流/自邸内に振武所を設置、三余堂を建立; 郷党の勉学を奨励/1863新徴組に参加; 国事に奔走/明治; 郷里で治水事業、明道社を組織し皇道復興に努力、「三余詩稿」/1863「吐血論」、「田園雑興」「治水考」著、[友山(;)号]の字/通称/別号]字; 輔卿、通称; 房吉/伴七/瓊枝、別号; 晚晴楼、武香の父、
- C4603 **雄山** (ゆうざん; 道号・千峰せんぼう; 法諱) ?-? 曹洞僧: 本能恵覚門/羽後能代の長慶寺7世、1837(天保8)刊「禅余稿」著
- C4604 **友山** (ゆうざん・川瀬/河瀬かわせ/本姓; 菅原) ?-? 京の水火天神社の神職/孝積道を主唱; 諸国巡廻、孝道を奨励、1832「孝養門」35「三野人物考」37「孝学人物考和合編」48「孝学感養記和合篇」、「孝学食慎録和合篇」著、[友山(;)号]の別号] 孝学道人/清水堂主人

雄山 (ゆうざん)	→	綱宗(つなむね・伊達、藩主/歌人)	B 2 9 3 6
雄山 (ゆうざん・秋田)	→	伊任(いにん・秋田・安倍、和算家)	I 1 1 1 4
雄山 (ゆうざん・藤田)	→	定資(貞資さだすけ・藤田/藤/本田、和算家)	B 2 0 9 1
雄山 (ゆうざん・平尾)	→	魯仙(ろせん・平尾ひらお、商家/絵師)	C 5 2 0 5
酉山 (ゆうざん)	→	忠寿(ただより・大久保、蔵書家)	G 2 6 1 3
幽山 (ゆうざん・井上)	→	政重(まさしげ・井上、藩主/宗門改役)	C 4 0 7 1
幽山 (ゆうざん・黒岩)	→	慈庵(じあん・黒岩くろいわ、儒者; 南学)	B 2 1 0 5
幽山 (ゆうざん・今村)	→	正相(まさすけ・今村/源、藩士/兵法家)	C 4 0 9 0
幽山 (ゆうざん・上坂)	→	嵐枝(らんし・上坂うえさか、藩士/俳人)	C 4 8 3 8
幽山 (ゆうざん・五花堂)	→	東行(とうこう・樋口、俳人)	D 3 1 7 4
幽山 (ゆうざん)	→	直重(ただしげ、幽山、俳人)	F 2 6 1 3
幽山 (ゆうざん・鷹司)	→	輔照(すけひろ・鷹司/藤原、関白/攘夷論)	C 2 3 6 1
雄山 (ゆうざん; 号)	→	綱宗(つなむね・伊達だて、藩主/歌人)	B 2 9 3 6
雄山 (ゆうざん)	→	魯仙(ろせん・平尾、絵師/国学/俳)	C 5 2 0 5
雄山 (ゆうざん・津田)	→	元願(もとみ・津田つだ、医者/俳諧)	E 4 4 3 4
友山 (ゆうざん; 道号)	→	士愿(しさい; 法諱・友山; 道号、臨濟僧)	D 2 1 6 5
友山 (ゆうざん・北田)	→	忠之丞(ちゅうのじょう・北田、藩士/農政)	G 2 8 7 9
友山 (ゆうざん; 号)	→	具視(ともみ・岩倉、公武合体派)	Q 3 1 6 2
友山 (ゆうざん・伊能)	→	友寿(ともなが・伊能いのう、藩士/神職)	U 3 1 1 1
友山 (ゆうざん・風間)	→	武国(たけくに・風間かざま、藩士/歌人)	W 2 6 4 4
有山 (友山ゆうざん・加藤)	→	景範(かげのり・加藤かとう、儒/歌学者)	B 1 5 9 0
悠山 (ゆうざん; 黄檗道号)	→	基照(もとひろ・近衛/藤原、関白/歌人)	E 4 4 0 9



- 遊山(ゆうざん・新納) → 久詮(ひさあき・新納にいろ、領主/和学) K 3 7 5 4  
 遊山(ゆうざん・松波) → 資之(すけゆき・松波/岡田、廷臣/歌人) D 2 3 2 3  
 遊山(ゆうざん・片桐) → 為清(ためきよ・片桐かたぎり、家老/歌人) W 2 6 4 8  
 檜山(ゆうざん・野上) → 陳令(のぶはる・野上、藩士/儒者) C 3 5 8 5  
 勇山(ゆうざん・中村) → 八兵衛(はちべえ・初代中村宗哲、千家塗師) J 3 6 4 3  
 友山(ゆうざん;道号・士偲) → 士偲(しさい;法諱・友山、臨濟僧) D 2 1 6 5  
 幽山亭(ゆうざんてい) → 燕石(えんせき・富永、連歌/俳人) B 1 3 1 7  
 C4605 西山堂(ゆうざんどう) ? - ? 江戸後期文筆;書目録  
 「西山堂筆記」(1840抽斎編「江戸鑑かみ図目録」入)、  
 2説あり → 忠寄(ただより・大久保、幕臣/蔵書家) G 2 6 1 3  
 → 保次郎(やすじろう・西山堂、書肆) B 4 5 6 9  
 C4606 由之(ゆうし) ? - ? 江前期京の俳人;1633重頼「犬子えの集」1句入、  
 [手やさゝん寒き夜据よすへの高炬燵たかごたつ](犬子集;1507)  
 (夜据の鷹:鷹狩の鷹を手に据え夜連れ出す/鷹と高の掛詞/寒夜炬燵に手をかざす)  
 C4607 幽子(ゆうし) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」3句入、  
 [夕貞ゆうがほの咲けども遅き夫をつと哉](卯辰集;二280/帰りの遅い夫を待つ妻)  
 C4608 邑姿(ゆうし) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」2句入、  
 [鴨の子や袋に入れしまこも刈かり](卯辰集;208/真菰刈をしていて子鴨を捕えた)  
 C4609 猶始(ゆうし) ? - ? 京の俳人;1690順水「俳諧破曉集」入、  
 1690言水「新撰都曲」1句入、  
 [白魚しらうをに価あひ有るこそうらみなれ](都曲;上197)  
 F4628 誘子(ゆうし) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」1句入、  
 [古戦場華に夕ゆふべの骨を踏む](二葉之松;262/前句;世は忽ゆるがせに成ってすみよき)、  
 (かつての戦場は今は花見の場/夕暮れには昔の骨も踏むがそれも世の安泰)  
 B4620 夕志(ゆうし) ? - ? 江前期江戸俳人;1692不角「千代見草」入  
 [姑女しゅうとめとなるより嫁の気に返り](千代見草/嫁入当時の気持に返れば円満)  
 (「わが嫁の時を忘れぬいゝ姑」柳多留160)  
 C4610 遊糸(ゆうし) ? - ? 美濃の俳人;1698「続猿蓑」1句入  
 [身につけと祈るや梅の籬まがきぎは](続猿蓑;下梅/天神のやしろに詣でて/加護と梅香)  
 C4611 由至(ゆうし・小川おがわ、別号;来川庵)?-? 江中期京油小路通上長者町上町の俳人:移竹門、  
 1764移竹遺稿「乙御前をとこそ」編  
 C4612 有支(ゆうし) ? - ? 俳人:也有門、  
 1766也有「蘿葉集」第一篇編纂[2篇は蓑月/3篇は文樵が編]  
 C4613 融思(ゆうし・石崎いさぎ、荒木元融男)1768-1846 79 長崎の代々唐絵目利の家業、画;石崎元徳門、  
 油絵;父元融門/石崎元徳の養嗣子;御用絵師兼絵目利として活躍、和洋折衷画を描く、  
 山水・花鳥・人物画に長ず、詩文;吉村迂斎門/篆刻;清水伯民門、  
 1792「長崎古今集覧名勝図会」99「清俗紀聞」画、1813(文化10)「全象活眼」画、  
 「海舶来禽図譜」著/「舶載諸鳥譜」画、  
 [融思(;通称)の幼名/字/号]幼名;慶太郎、字;士齊/士齋、号;鳳嶺/放齡/鶴鳴堂/梅竹園  
 C4615 祐之(ゆうし) ? - ? 江後期俳人;岡田氷壺門、  
 1851「俳諧龍雀りゆうじゃく」一春らと共編;北総の文哉に反駁  
 祐子(ゆうし) → 祐子内親王(ゆうしなしいんのう、後朱雀皇女)  
 祐之(ゆうし・中臣) → 祐之(すけゆき・中臣なかとみ/千鳥、神職) H 2 3 2 0  
 祐之(ゆうし・関) → 延陵(えんりょう・関せき、医者) 1 3 5 0  
 祐之(ゆうし/すけゆき・村上) → 影面(かげおも/かげおも・村上、藩士/国学者) B 1 5 9 7  
 祐之(ゆうし・鴨) → 祐之(すけゆき・鴨かも/梨本、神職/国学/歌) D 2 3 2 1  
 祐之(ゆうし・小川) → 顕道(あきみち・小川おがわ、医者) D 1 0 9 5  
 祐之(ゆうし・戸田) → 祐之(すけゆき・戸田とだ、幕臣/本草家) H 2 3 2 2  
 祐之(ゆうし・武谷) → 澧蘭(れいらん・武谷たけや、蘭医) 5 1 7 0  
 祐之(ゆうし/すけゆき・吉川) → 五明(ごめい・吉川/那波、商家/俳人) D 1 9 9 3



祐之(ゆうし・伊藤)	→	莘野(しんや・伊藤いとう、儒者)	2 2 8 2
祐之(ゆうし・村上)	→	祐之(ひろゆき・村上むらかみ、文筆家)	H 3 7 6 1
祐之(ゆうし・佐藤)	→	祐之(すけゆき・佐藤さとう、和算・天文家)	H 2 3 2 3
祐之(ゆうし・河合)	→	祐之(すけゆき・河合かわい、藩士)	H 2 3 2 4
祐之(ゆうし・久松)	→	祐之(すけゆき・久松ひさまつ、幕臣/歌人)	D 2 3 2 2
祐之(ゆうし・安井)	→	祐之(ひろゆき・安井やすい、和算家)	H 3 7 6 2
祐之(ゆうし・大野)	→	祐之(ひろゆき・大野おおの、和算家)	H 3 7 6 5
祐之(ゆうし・足立)	→	秋英(あきひで・足立あだち、藩士/絵師)	G 1 0 8 2
祐之(ゆうし・河津)	→	祐之(すけゆき・河津かわづ/船橋、医者/歌)	I 2 3 2 8
祐之(ゆうし・伊東)	→	祐之(すけゆき・伊東いとう/牛島、藩士/歌)	L 2 3 3 4
祐之(ゆうし・伊藤)	→	祐之(すけゆき・伊藤いとう/広沢、剣道/歌)	L 2 3 3 7
祐之(ゆうし・原)	→	祐之(すけゆき・原はら、国学/歌人)	I 2 3 9 8
祐之(ゆうし・佐伯)	→	祐之(すけゆき・佐伯さえき、国学者)	I 2 3 5 4
祐之(ゆうし・杉本)	→	祐之(すけゆき・杉本すぎもと、和学者)	I 2 3 6 5
祐思(ゆうし・伊東)	→	祐思(すけもと・伊東いとう/真鍋、藩儒/歌)	L 2 3 3 3
友之(ゆうし/ともゆき?・桂川)	→	邦教(くにみち・桂川/家祖、幕府蘭医)	D 1 7 2 1
友之(ゆうし・若林)	→	友之(ともゆき・若林わかばやし、藩士/砲術)	Q 3 1 8 3
友之(ゆうし・山口)	→	友之(ともゆき・山口やまぐち/源、国学/歌)	W 3 1 8 3
由之(ゆうし・小寺)	→	玉晁(ぎよくちよう・小寺こでら、随筆家/俳)	H 1 6 3 1
由之(ゆうし/よしゆき・鈴木)	→	道彦(みちひこ・鈴木/村上、医者/俳人)	4 1 1 5
由之(ゆうし・菅原)	→	洞斎(とうさい・菅原、絵師/鑑定家)	E 3 1 2 2
由之(ゆうし・亀山)	→	筋宇(せつう・亀山かめやま、藩儒)	K 2 4 7 0
由之(ゆうし・坂場)	→	与蔵(よぞう・坂場さかば、藩士/奉行)	I 4 7 1 0
由之(ゆうし・山本)	→	由之(よしゆき・山本、良寛実弟/国学/歌)	K 4 7 3 1
由之(ゆうし・前嶋)	→	由之(よしゆき・前嶋まえじま、和算家)	I 4 7 0 2
由子(ゆうし・岩佐)	→	由子(よしこ・岩佐いわさ、歌人/茶人)	L 4 7 6 5
由枝(ゆうし・間島)	→	由枝(ゆき・間島まじま/大塩、歌人)	H 4 6 2 4
由師(ゆうし・牧田/枚田まきた)	→	唐九郎(とうくろう・牧田、藩士/記録)	C 3 1 9 8
有師(ゆうし・並江/外村)	→	半雲(はんうん・外村とのむら、藩士/儒者)	H 3 6 2 3
有嗣(ゆうし→ありつぐ・塩路)	→	貢(みつぐ・塩路しおじ/物部、薬/医/国学)	D 4 1 3 0
酉師(ゆうし)	→	聖聡(しょうそう;法諱、浄土僧)	T 2 2 9 7
幽旨(ゆうし;号)	→	宥恵(ゆうえ;法諱、真言僧/歌)	4 6 6 2
勇士(ゆうし・水野)	→	保豊(やすとよ・水野みずの/藤原、神職/国学)	G 4 5 8 2
優士(ゆうし・下村)	→	言石(ごんせき・下村、紫藤軒2世/俳人)	E 1 9 7 4
雄司(ゆうし・奥村)	→	道賢(みちまさ・奥村おくむら/桜井、陪臣/歌)	I 4 1 6 1
雄氏(ゆうし・土方)	→	雄氏(かつうじ・土方ひじかた、藩主)	N 1 5 2 4
猷之(ゆうし・芳賀)	→	細道(ほそみち・浅竜庵、医者/狂歌)	E 3 9 4 3
熊史(ゆうし/くまふみ・水山/生駒/土師)	→	熊文(くまぶん・生駒/土師はじ、国学)	D 1 7 4 3
熊子(ゆうし・佐竹/松平)	→	熊子(くまこ・松平まつだいら、熊姫、直春室/歌)	D 1 7 9 0

C4616 有次(ゆうじ・岩田いわた) ? - ? 江戸の俳人:立圃門、1659「俳諧仙台紀行」、  
1652友直「若狐」立圃との三つ物入、

[有次(;号)の通称/別号]通称;二郎兵衛、別号;有哉(:薙髪後)

C4617 友次(ゆうじ・吉田よしだ) 1615?- 1669?55? 江前期尾張名古屋の俳人:貞門/尾陽の三哲の1、  
歌・古典にも通ず、横船・流水の父、1658「尾張八百韻」/64「阿波手あはで集」編、  
1671「俳諧藪香物やぶのこうのもの」編、「也足漢和両吟」著、

[友次(;号)の通称/別号]通称;六左衛門、別号;一水/一醉/一水軒/無能子

C4618 有時(ゆうじ) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲」2句入、  
[左遷さすらへの舟賑ははす千鳥かな]、

(都曲;下384/失意の左遷者を見送る;千鳥のみ無心に騒ぐ)

C4619 熊耳(ゆうじ・大内おおうち/本姓:余) 1697-177680 祖先は馬韓国余璋王太子の余琳という、

陸奥三春熊耳村の儒者:1713江戸の秋元澹園門/のち荻生徂徠門/上京し伊藤東涯と交流、  
長崎で講説/江戸の服部南郭門、のち肥前唐津藩儒、長坂円陵の師、  
「作文一斑」「家世遺聞」「熊耳山人文集」「熊耳文集後編」著、遺稿「熊耳先生文集」、  
[熊耳(;号)の名/字/通称/法号]名;承祐/承裕、字:子綽、通称;忠太夫、

法号;敬心齋義山紹勇

又治(ゆうじ・熱海)	→	又治(またじ・熱海あつみ、和算家/教育)	J 4 0 4 4
有自(ゆうじ;道号)	→	瑞承(ずいしょう;法諱・有自、臨濟僧)	2 3 6 8
有耳(ゆうじ・無心亭)	→	無心亭有耳(むしんていゆうじ、狂歌作者)	4 2 7 6
友自(ゆうじ)	→	閑醉(閑水かんすい・梅月堂、俳人)	D 1 5 9 8
友爾(ゆうじ・堀田)	→	省軒(せいけん・堀田/本間、藩士/儒者)	G 2 4 8 9
勇治(ゆうじ・梅津)	→	月橋(げつきょう・梅津うめつ、藩士/画)	G 1 8 9 5
勇次(ゆうじ・武元)	→	北林(ほくりん・武元/明石、庄屋/儒者)	E 3 9 0 8
勇次(ゆうじ・曾田)	→	勇次郎(勇治郎ゆうじろう・曾田そだ、兵学)	C 4 6 6 9
雄次(ゆうじ・阿部)	→	重道(しげみち・阿部あべ、藩士/和算家)	S 2 1 8 1
西爾(ゆうじ・勝川)	→	春章(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師)	J 2 1 9 4
祐字(ゆうじ・中臣)	→	祐字(すけな・中臣なかとみ/千鳥、神職)	G 2 3 6 9
祐治(ゆうじ・鴨)	→	祐治(すけはる・鴨かも、神職/歌人)	C 2 3 8 3
祐治(ゆうじ・池田)	→	玄斎(げんさい・池田いけだ、藩士/歌人)	J 1 8 0 5
祐治(ゆうじ・前谷)	→	時和(ときかず・前谷またたに、歌人)	U 3 1 5 9
祐時(ゆうじ・中臣)	→	祐時(すけとき・中臣なかとみ/辰市、神職)	G 2 3 5 7
遊糸庵(ゆうしあん)	→	巴文(はぶん、松村甚七、俳人)	F 3 6 6 1
遊字庵(ゆうじあん)	→	些兮(さけい・遊字庵、俳人)	B 2 0 5 3
遊字庵些兮(ゆうじあんさけい)	→	誉草(たかあき・桂かつら、大庄屋/国学/俳諧)	W 2 6 5 1

C4620 **友識**(ゆうしき・ともり・小池こいけ、友貞男)1753-1825 73 小池桃洞の裔/友賢の孫、常陸水戸藩士;  
書院番/史館編集兼任/1787(天明7)水戸彰考館積万葉懸

武芸者;東軍流・田宮流剣術と宝蔵院流槍術に長ず/歌人:日野資枝門;二条家歌学修学、  
寛政初1789頃上洛;裏松謙光かたみつ門;歌学研修、「小池友識草稿」著、  
[友識(;名)の通称]源太左衛門

遊識(ゆうしき;字)	→	宗興(しゅうこう;法諱、真宗本願寺派僧)	X 2 1 2 2
熊四絃(ゆうしげん)	→	大阜(たいふ・村瀬、書肆/俳人)	K 2 6 9 9

C4621 **由之軒政房**(ゆうしけんまさふさ)?- ? 浮世草子作;1699?「好色文伝受ふみでんじゅ」著

雄七(ゆうしち・千葉)	→	胤秀(たねひで・千葉ちば、和算家)	G 2 6 4 2
雄七(ゆうしち・千葉)	→	胤道(たねみち・千葉ちば、胤秀男/和算家)	S 2 6 0 9
勇七(ゆうしち・樺島)	→	石梁(せきりょう・樺島かばしま/樺、藩儒/詩)	2 4 1 7

C4622 **木綿四手**(ゆうしで・高陽院/賀陽院かやのいん)?-? 鳥羽院皇后高陽院(藤原忠美女泰子)の女房、  
平安後期歌人:勅撰3首;新古今(769)続後撰(991)続後拾(1257)、  
続詞花集入(新古と同歌)、  
[あやめ草誰しのべとか植えをきて蓬よもぎがもとの露と消えけん]、  
(新古;哀傷769/亡くなった幼児が生前植えた菖蒲を見ての詠/蓬がもとは墓を暗示)、  
金葉集の前太政大臣家木綿四手と同一か?

C4623 **木綿四手**(ゆうしで・前太政大臣家)?-? 平安後期歌人:前太政大臣藤原忠実家の女房、  
金葉集711(連歌)、  
[風のまにまに打てばなりけり](金葉;補遺歌711付句)、  
(前句;花くぎは散るてふことぞなかりける/読人しらず)  
高陽院木綿四手(新古今作者)と同一人物?

有実(ゆうじつ・藤原)	→	有実(ありざね・藤原、廷臣/歌人)	C 1 0 7 9
有実(ゆうじつ・上江州)	→	由恕(ゆじよ・上江州うえざう/李、歌人)	G 4 6 6 0
有実(ゆうじつ・山脇)	→	有実(ありざね・山脇やまわき、医者/歌人)	I 1 0 7 4
友実(ゆうじつ)すべて	→	友実(ともざね)	
佑実(ゆうじつ・鄭)	→	秉哲(へいてつ・鄭てい/伊差川、史学者)	2 7 7 3

- 祐実(ゆうじつ;法名) → 実秀(さねひで・正親町/藤原/裏辻、権大納言/箏/歌) D 2 0 5 0  
 又日庵(ゆうじつあん) → 規綱(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸) F 3 5 0 9  
 有日庵(ゆうじつあん) → 我泉(がせん・高畑、俳人) M 1 5 7 4  
 雄芝堂(ゆうしどう) → 春潮(しゅんちよう・勝川、絵師) K 2 1 2 5
- C4624 **祐子内親王**(ゆうしないしんのう、後朱雀天皇第3皇女、母;中宮嬪子) 1038-1106<sup>69</sup> 平安後期の歌人、幼時に母と死別/母の養父藤原頼通の庇護を受ける/乳母は歌人伊賀少将いがのしょうしょう、数度歌合主催:1041・51・60「庚申歌合」/1061「祐子内親王家歌合」「同名所歌合」などを催、祿子内親王の同母姉/関白頼通邸を御座所とし高倉一宮と呼ばれる、女房に小弁・小式部・紀伊・駿河・宮少将などの歌人
- 4603 **祐子内親王家紀伊**(ゆうしないしんのうけのきい、高倉一宮紀伊、平経方女) ?-?1113存 母:小弁、紀伊守藤原重経(紀伊入道素意そい)の妻or妹か?、後朱雀天皇皇女一宮祐子内親王家女房、歌人;1056「寛子春秋歌合」/78「内裏後番歌合」/94「高陽院かやういん歌合」参加、1102「堀河艶書合」参加、堀河百首に出詠、家集「祐子内親王家一宮紀伊集」、寂超「後葉集」(3首)入/雲葉集入、勅撰32首:後拾(686)金葉(Ⅱ196/469/483)詞花(21/242)新古(332/646)新勅(146)以下、[音に聞く高師の浦《浜》のあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ]、(金葉469:堀河艶書合、《》は百人一首)
- 祐子内親王家小式部(ゆうしないしんのうけのこしきぶ) → 小式部(こしきぶ、歌人/物語作者) C 1 9 7 6  
 祐子内親王家小弁(ゆうしないしんのうけのこべん) → 小弁(こべん、歌人/物語作者) D 1 9 7 4  
 祐子内親王家駿河(ゆうしないしんのうけのするが) → 駿河(するが・一宮、歌人) D 2 3 5 9
- I4563 **友社**(ゆうしゃ) ? - ? 江中期京俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」2句入、[読む者に鶏とりを振舞ふ和字作り](万国燕;66/組合せ字作りに熱中;読者に鶏肉の馳走)
- 祐舎(ゆうしゃ・中臣/今西) → 祐舎(すけいゑ・中臣/今西、神職) G 2 3 0 2  
 祐寂(ゆうじやく;法名) → 資矩(すけつね・日野/藤原、大納言/歌) G 2 3 5 3  
 遊雀亭(ゆうじやくてい) → 等亀(とうかみ・とらぎ・佐藤/遊雀亭、俳人) C 3 1 4 8
- C4625 **有種**(ゆうしゆ) ? - ? 江中期俳人;1772几董「其雪影」1句入、[豆腐挽ひく寝ざめの友や寒念仏かんだんぶつ](其雪影;421/豆を挽く耳に30日間の念仏の声)
- 祐守(ゆうしゆ・鴨) → 祐守(すけもり・鴨かも、神職/歌人) D 2 3 1 6
- C4626 **宥寿**(ゆうじゆ;法諱) ? - ? 南北期真言僧;東寺住/権少僧都、1385「至徳二年道快僧正拜堂下行物記」著
- 友寿(ゆうじゆ・渡辺) → 友寿(ともひさ・渡辺わたなべ、家譜作製) Q 3 1 3 4  
 友寿(ゆうじゆ・桐) → 友壽(ともよし・桐ゆずりは、神職/国学) W 3 1 8 9  
 友寿(ゆうじゆ・伊能) → 友寿(ともなが・伊能いのう、藩士/神職) U 3 1 1 1  
 祐寿(ゆうじゆ・池野) → 祐寿(すけひさ・池野いけの、商家/歌人) L 2 3 3 8  
 有寿(ゆうじゆ・谷頭) → 溟南(めいなん・谷頭やがしら、藩士、儒者) 4 3 3 2  
 有樹(ゆうじゆ・内田) → 有木(有樹ありき・内田うちだ、商家/歌) H 1 0 1 4  
 熊寿(ゆうじゆ・岩堀) → 氏広(うじまさ・岩堀いわぼり、藩士/国学) E 1 2 5 5  
 熊寿(ゆうじゆ・倉八) → 隣(となり・倉八くらはち/梶原、神職/歌人) V 3 1 0 8  
 幽趣庵(ゆうしゆあん) → 寧山(ねいざん;道号・禅慧ぜんね、臨濟僧) 3 4 5 4
- C4627 **祐秀**(ゆうしゆう;法諱・号;覚養房) 1508-? 1564存 戦国期相模愛甲郡八菅山の天台僧、1564「修験宗旨」著
- C4628 **友秋**(ゆうしゆう) ? - ? 江前期俳人;1683自悦「空林風葉」入
- C4629 **祐秀**(ゆうしゆう;法諱・諡号:大闡院) 1803-73<sup>71</sup> 播磨姫路真宗大谷派西勝寺の住僧、越後の徳竜門/東福寺で臨濟を修学、1839(37歳)西勝寺に帰り道俗の教化に尽力、寮司/1869擬講、「願々鈔聴記」著
- 有終(ゆうしゆう・斎藤) → 拙堂(せつどう・斎藤、儒者/藩学/詩歌) 2 4 2 1  
 有終(ゆうしゆう・池尻) → 始(はじめ・池尻いけじり、儒者/勤王) E 3 6 4 2  
 有秋(ゆうしゆう・堀尾) → 有秋(ありあき・堀尾/庵原[千村]、医者) F 1 0 1 8  
 有秋(ゆうしゆう・逸見) → 在綱(ありつな・逸見へんみ、医者/勤王派) F 1 0 4 4  
 有秋(ゆうしゆう・上田) → 公長(こうちよう・上田、紀伊国屋/絵師) K 1 9 6 5

- 有秋(ゆうしゅう・中津川/玉川)→ 春庵(しゅんあん・玉川、医者/詩文) 2 1 9 6  
 有秋(ゆうしゅう・豊田) → 美稻(よしね・豊田とよだ、文武/勤王家) O 4 7 0 5  
 有秀(ゆうしゅう・ありひで・宮戸/松浦)→ 羽洲(うしゅう・松浦、商家/俳人) C 1 2 8 1  
 有秀(ゆうしゅう・ありひで・岸)→ 粟里(ぞくり・岸きし、儒者) J 2 5 5 5  
 有秀(ゆうしゅう・ありひで・蜂須賀)→ 常栄(じょうえい・蜂須賀はちすか、神職) H 2 2 2 0  
 有修(ゆうしゅう・広津) → 藍溪(らんけい・広津ひろつ、農業/儒者/教育) B 4 8 8 2  
 有脩(ゆうしゅう・榊原) → 有脩(ありなが・榊原さかきばら、歌人) G 1 0 7 6  
 有脩(ゆうしゅう・村松) → 有脩(ありなが・村松むらまつ、歌人) G 1 0 8 0  
 由就(ゆうしゅう・原田) → 無関(むかん・原田はらだ、医者/鍼術) 4 2 3 5  
 祐修(ゆうしゅう・桐山) → 祐修(すけのぶ・桐山きりやま/野村、国学者) I 2 3 4 3
- C4630 友重(ゆうじゅう) ? - ? 江戸の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」1句入、  
 [一ばいにあまるか坪のこぼれ梅](犬子集;一173/壺と中庭とを掛る)
- C4666 友重(ゆうじゅう・梶谷かじたに)? - ? 大和三輪の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
 1689「あら野」1句入  
 [人霞む舟と陸くがとの塩干かな](あら野;一/はるか沖合までの広大な干潟の潮干狩)
- C4631 友重(ゆうじゅう・山浦やまうら)? - ? 越後三条の俳人;1690言水「新撰都曲」2句入  
 [時雨来て風鈴ふりやう包まん軒端哉](新撰都曲;下396)
- 祐什(ゆうじゅう;法名) → 宣親(のぶちか・中山、廷臣/歌・連歌) B 3 5 9 5  
 祐重(ゆうじゅう・中臣) → 祐重(すけしげ・中臣/千鳥、神職/記録) C 2 3 2 0  
 友従(ゆうじゅう→ともゆき・片桐)→ 宗幽(そうゆう・片桐かたぎり、幕臣/茶人) J 2 5 0 3  
 有従(ゆうじゅう・蘆野) → 三省(さんせい・蘆野/金野、漢学者) M 2 0 4 4  
 有重(有成じゅう・大江) → 有重(有成ありしげ・大江おおえ、文章生/法師) H 1 0 0 2  
 有終庵主(ゆうしゅうあんしゅ)→ 蕃山(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学) 3 6 4 2
- C4632 有秀齋蘭亭(ゆうしゅうざいらんてい、姓;山本やまもと、名;直秀)1764-? 尾張名古屋の絵師:狩野友竹門、  
 のち駒新門、名古屋門前町善篤寺辺住/のち東橋町・日置蛭子町移住、  
 市中の社寺の扁額を制作/大須観音に毎年7月10日夜[太閤記]絵柄の大掛行灯を掲げる、  
 1819(文政2)「復讐梨園」画、鈴村景山・貝谷采堂の師、  
 [有秀齋蘭亭(;号)の通称] 熊野屋弥十郎
- 有終先生(ゆうしゅうせんせい;諡号)→ 絢斎(けいさい・綾部、儒者/詩歌) E 1 8 6 6  
 有述先生(ゆうじゅうせんせい;諡号)→ 誠斎(せいさい・村田むらた、医者) I 2 4 2 8
- C4633 雄舜(ゆうしゆん;法諱)1293? - ? 1372存 鎌倉南北期二条派歌僧:  
 1372「二条為定十三回忌一品経和歌」勸進/詠歌、勅撰3首;新千(1344)新後拾(738/1461)、  
 [偽いはりと思ひながらもおこたらず待つ夜の数のつもりぬるかな](新千載;恋1344)
- C4634 有俊(ゆうしゆん;法諱) ? - ? 戦国期天台僧:叡山西谷行光房住/法印、  
 加賀白山寺地蔵院光欽に種々の伝法をす、1496(明応5)「十度見聞」
- C4635 宥舜(ゆうしゆん;法諱) ? - ? 戦国期天台宗相生流の学僧:美濃谷汲村華厳寺住、  
 法印、「宗要私聞書」「義科抄即身義私」「即身義案立竜女分極」
- C4636 融舜(ゆうしゆん;法諱) ? - 1523 戦国期浄土僧;山城浄土宗西山派禅林寺の召運門、  
 尾張常念寺住/備後宝土寺住/のち禅林寺33世、「観無量寿経厭欣鈔」著
- C4637 祐舜(ゆうしゆん;法諱) ? - ? 1531存 戦国期天台僧;比叡山南光房住、  
 上野府中昌楽寺に転住、1481吉田兼俱の比叡山での[中臣祓]講釈の聞書作成、法印、  
 「中臣祓抄」「五逆謗法」「十行出仮」「梨耶一念」著/1519「行林聞書抄」30「仁王経私記」著
- C4638 祐俊(ゆうしゆん;法諱、祐従男)1601-8282 京の真宗本願寺派西光寺の生/住職継嗣、  
 1644退隠、1615「元祖聖人三百五十年忌日記」/31「准宗主送終記」、「顕如上人御往生記」著、  
 1653(承応2)西吟・月感の論争収拾に尽力;その記録類を著、  
 1663「承応閨牆記」「延寿寺月感騒動記」著
- C4639 友俊(ゆうしゆん・杵春きねはる)? - ? 江前期阿波の俳人、  
 1676椋梨一雪「言之羽織」(現存2冊)入(句引には186句入と編者以外で最も多い)
- C4640 裕春(祐春ゆうしゆん・伊東/伊藤いとう)?-? 江後期文政1818-30頃陸前仙台の和算家:  
 菊池長良門、陸中磐井郡流郷に住;算術を教授、1826「堆積逐式」編、



「算学楷梯新法」「六斜矩合之解」編、

[裕春(；名)の通称/号]通称；条蔵/久米蔵、号；米海

友俊(ゆうしゆん)訓読はすべて→ 友俊(ともとし)

友春(ゆうしゆん)すべて→ 友春(ともはる)

祐春(ゆうしゆん・中臣)→ 祐春(すけはる・中臣/千鳥、神職/歌人) C 2 3 8 2

祐春(ゆうしゆん・西川)→ 祐春(すけはる・西川にしかわ/紀、絵師) G 2 3 9 8

祐春(ゆうしゆん・伊東)→ 祐春(すけはる・伊東いとう、幕臣/旗本) L 2 3 2 9

祐春(ゆうしゆん・伊東)→ 祐春(すけはる・伊東いとう、藩士/歌人) L 2 3 3 0

祐俊(ゆうしゆん・平)→ 祐俊(すけとし・平たいら、廷臣/歌人) C 2 3 5 5

祐俊(ゆうしゆん・鴨)→ 祐俊(すけとし・鴨かも、神職) G 2 3 6 0

祐俊(ゆうしゆん・中臣)→ 祐俊(すけとし・中臣なかとみ/新、神職) G 2 3 6 1

祐雋(ゆうしゆん・久須美)→ 祐雋(すけとし・久須美/藤原、幕臣/文筆) G 2 3 6 5

宥俊(ゆうしゆん；字)→ 政遍(せいへん；法諱、真言僧) J 2 4 6 1

C4641 有淳(ゆうじゆん；法諱) ? - ? 鎌倉南北期僧；法印/権律師、

歌：1346成立[風雅集]入；1830、1345?刊[藤葉とうよう集]入、

[世の中のうきはうれしきものぞともいつ捨てはてて思ひあはせん](風雅；雑1830)

[きえぬただ思ひのけぶり立つとてもなびかぬ人はあはれとも見じ](藤葉；恋428)

祐順(ゆうじゆん・小出)→ 宗之助(そうのすけ・小出こいで/藤原、歌人) J 2 5 9 5

祐順(ゆうじゆん・千鳥)→ 祐順(すけのぶ・千鳥ちどり、神職/国学) I 2 3 7 7

祐順(ゆうじゆん・山地)→ 祐順(すけまさ・山地やまじ、和学/歌人) J 2 3 3 4

祐淳(ゆうじゆん・河津)→ 直入(なおいり・河津がかわう、藩士/歌人) L 3 2 7 6

有順(ゆうじゆん・今井)→ 桐軒(とうけん・今井、国学/神道) D 3 1 2 9

有純(ゆうじゆん・六条)→ 有純(ありすみ・六条/源、廷臣/狂歌) D 1 0 1 2

有純(ゆうじゆん・万年)→ 櫟山(れきざん・万年まんねん、医者) 5 1 7 7

由順(ゆうじゆん・秋野)→ 興順(こうじゆん・秋野あきの、公文所職員) J 1 9 6 0

由順(ゆうじゆん・天野)→ 松斎(しょうさい・天野あまの、藩士) J 2 2 0 8

由準(ゆうじゆん・高杉/田上)→ 宇平太(うへいた・田上たがみ、藩士/蘭学) D 1 2 3 0

有諸(ゆうしよ；法諱)→ 大有(だいう；道号・有諸；法諱、臨濟僧) L 2 6 1 2

優所(ゆうしよ・原)→ 松洲(しょうしゅう・原/大泉、儒者/藩士) S 2 2 9 3

H4667 有序(ゆうじよ・藤原、参議藤原有相女?)?-? 平安前期女官；村上天皇期の更衣(弁の更衣)、

歌；960(天徳4)三月内裏歌合に右方の頭(左方は中将の更衣藤原脩子)(；袋草紙入)

C4643 猷助(ゆうじよ；法諱・号；知見院) ?-? 1557存 天台僧；園城寺住/両峯修行の先達、権僧正、

1557「猷助僧正記」、「両峯問答鈔」「修験道秘鑿」著

勇助(ゆうじよ・伊藤)→ 勇助(ゆうすけ・伊藤) C 4 6 8 9

由恕(ゆうじよ・上江州)→ 由恕(ゆじよ・上江州うえざ/李、歌人) G 4 6 6 0

祐恕(ゆうじよ・後藤)→ 祐恕(すけひろ・後藤ごとう、藩士/国学者) I 2 3 5 0

幽助(ゆうじよ)→ 巖男(いざお/よしお・広瀬、商家/国学者) F 1 1 7 1

遊女あづま(ゆうじよあづま)→ あづま(あづま・遊女、狂歌) G 1 0 2 4

有序庵(ゆうじよあん)→ 太老(たいろう・鈴木すざき、俳人) C 2 6 4 0

遊女岩越(ゆうじよいわこし)→ 岩越(いわこし・遊女、狂歌) E 1 1 3 2

C4644 祐盛(ゆうしゅう・ゆうじゅう・ゆうせい；法諱、源俊頼男) 1118-? 1200存 天台比叡山阿闍梨/歌人；俊恵の弟、

歌林苑会衆の1、「難歌撰」著(散佚)；俊恵「歌撰合」に論駁/[色葉和難抄]に所説を伝える、

1160太皇太后宮大進清輔朝臣家歌合/70住吉社/72広田社/78別雷社歌合参加、

1186/95経房家歌合参加、万代・続詞花・御裳濯・雲葉・閑月集入集、

無名抄・顕昭古今集註にも所説、

勅撰12首；千載(349/688/931)新勅(177)続古(242/854/1810/1853)続拾(1349)以下、

[あさなあさな籬の菊のうつろへば露さへ色のかはりゆくかな](千載；秋349/菊の歌)、

[祐盛(；法諱)の通称]式部公/大法師、

C4645 宥祥(ゆうしゅう；法諱・妙浄みょうじゅう；字) ?-? 鎌倉期真言僧；幼時に高野山で東密修学、

のち比叡山で台密修学、理海・全考門；安祥寺流を修学、伊豆走湯山遍照寺院に住、

- 1294東寺・1305鎌倉理智光寺において大日經疏を講ず、「玄記抄」「大日經玄記」著、  
1322「大日經疏義述」、「大日經徹肝鈔」「大日經品目大意」「大日經疏大意抄」「不二記」著、  
[宥祥(；法諱)の字/通称/号]字；妙淨/妙祥、通称；伊豆上人、号；清淨金剛/不二、
- C4646 祐性(ゆうしょう；法諱) ? - ? 僧/歌人、権大僧都、歌；新統古今817、  
[梅の花色をも香をも御法とはさとひらけてみる人ぞみる]、  
(新統古；釈教817/一色一香無非中道の心を)
- 4604 友松(ゆうしょう・海北かいほう、海北綱親5男) 1533-1615<sup>83</sup> 安桃期武将の家の生；父は浅井家家臣、  
1535父戦死；京の東福寺に入/狩野派の画を修得(元信or永徳門)、1573兄達も戦死、  
還俗し一時海北家再興を図るが絵師として画業に専念；宋元画の梁楷の筆法に影響を受、  
減筆法による独自の画風創設；海北派の祖/俚俗袋人物と評される、海北友雪の父、  
「建仁寺本坊方丈障壁画」「琴棋書画図」「松竹梅図」「四季山水図」外画多数、  
[友松(；字)の名/号]名；友徳/紹益、号；如切斎/有景斎
- C4647 幽松(ゆうしょう) ? - ? 因幡の俳人；1633重頼「犬子えのこ集」2句入、  
[もえ出でてまた芹やきの肴かな](犬子集；一98/芹焼は焼石の上で芹を蒸焼の料理)
- C4648 勇招(ゆうしょう) ? - ? 江戸の俳人；不卜門?、1688不卜「続つぎの原」4句入、  
1691不角「二葉之松」3句入、[虹消えてあとを尋ぬる菌きのこかな](続の原；67)
- C4649 又笑(ゆうしょう) ? - ? 俳人；1690北枝「卯辰集」1句入、  
[蟬の鳴く中に起きたる鶉哉](卯辰集；二243)
- G4657 友勝(ゆうしょう・新屋しんや) ? - ? 江前期大阪の俳人、  
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
[蓬萊や昆布帯に似て山の腰](難波色紙；51/正月の蓬萊飾りに昆布を带状に巻く、  
謡曲「白楽天」；青苔衣をおびて巖の肩にかかり白雲帯に似て山の腰をめぐる)、
- C4650 友勝(ゆうしょう・榊原さかきばら) ? - ? 江前期京の俳人；1672元隣「諸国独吟集」入、  
1690順水「俳諧破曉集」/1690言水「新撰都曲」2句入、  
[野宮のみやに人ふたりなき覆盆子いちご哉](都曲；下343/自分だけの静寂の中に赤い苺)
- C4651 友晶(ゆうしょう) ? - ? 京の俳人；1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、  
[名月やくもりても水の清いさぎよき](都曲；下359/月は曇っても水は澄む)
- C4652 熊掌(ゆうしょう) ? - ? 俳人；1693?幸佐「一番船」滑稽和漢入
- C4653 友松(ゆうしょう・坂田さかた、友松軒)?-? 江中期播磨加古川の俳人、  
1718(享保3)「本の雫」編/「坂田友松息追善歌集」編
- H4666 祐将(ゆうしょう・五十嵐いがらし) ? - ? 江中期；歌人、伝不詳、  
1722頃内海頭糺[倭詞五十人一首追加]入、  
[物ごとにつゝめばもるゝならひにて雪ににほへる梅の下風](五十人一首追加；雪中梅)
- C4654 宥証(ゆうしょう；法諱) 1715 - 1788<sup>74</sup> 江中期真言僧；1724(10歳)出家、  
1760(46歳)仁和寺の結縁灌頂を再興、1765東寺法務/66東寺長者；71辞任、大僧正、  
伝法灌頂を智山・豊山の学儒に授与、1753「北斗曼荼羅秘記」59「伝法院流授受記」著
- C4655 雄尚(ゆうしょう；号) ? - ? 俳人；1773几董「明鳥」6句入(九湖発句歌仙5句)、  
[古嶮ふるがやのほころび口やけさの秋](あけ鳥；121/秋の気配と綻びの蚊帳の侘びしさ)
- C4656 祐昌(ゆうしょう) ? - ? 俳人、  
1798-1807「時雨会」句集編纂；重厚から受/千影に譲る
- C4657 幽嘯(幽松ゆうしょう・青山あおやま) ? - ? 江後期越後十日町の俳人；成美門、  
1804(文化元)「たひからず」著/11「芭蕉独吟五歌仙考」編、「繫橋」編、  
[幽嘯(；号)の別号] 海印庵
- C4658 宥性(ゆうしょう；法諱・智友；字、小川孫左衛門2男) 1821-95<sup>75</sup> 安房長狭郡大山の真言僧、  
1832智積院頼如門/長狭郡成就院慶真門；得度/1837入壇灌頂を受/38智積院学林に入門、  
隆栄門；17年間頭密教学を研鑽/1844安房清澄寺主、維新後醍醐三宝院住職/醍醐寺座主、  
智積院43世能化職、辞任；東京浅草吉祥院住、大僧正、金剛氏を称す、  
「成唯識述記分科」「大乘起信論義記補忘録」「大乘起信論義記分科私」著  
[宥性(；法諱)の号] 不可得/如意金剛
- C4659 雄松(ゆうしょう) ? - ? 北越の俳人；1857玄茂編「狐の茶袋」三編序

- 祐称(ゆうしょう・中臣) → 祐称(すけよし・中臣なかとみ/新、神職) D 2 3 6 7  
 祐昭(ゆうしょう;法名) → 長賢(ながかた・庭田にわた、廷臣/歌/連歌) D 3 2 4 2  
 祐昌(ゆうしょう・森谷) → 斑鳩(はんきゅう・森谷、僧/俳人) H 3 6 3 7  
 祐肖(ゆうしょう・西川) → 祐肖(すけのり/すけゆき・西川にしかわ、絵師) B 2 3 0 2  
 祐祥(ゆうしょう・伊藤) → 祐祥(すけよし・伊藤いとう、藩士/教育) D 2 3 7 3  
 祐尚(ゆうしょう・中臣) → 祐紀(すけのり・中臣なかとみ/千鳥、神職) G 2 3 9 0  
 祐尚(ゆうしょう・木脇) → 祐業(すけなり・木脇きのわき、藩士/絵師) C 2 3 6 9  
 祐松(ゆうしょう・中臣) → 祐松(すけまつ・中臣なかとみ/新、神職) H 2 3 0 3  
 祐昌(ゆうしょう・瀬川) → 祐昌(すけまさ・瀬川せがわ、医者/国学/歌) I 2 3 6 7  
 祐証(ゆうしょう;法名) → 緑泉(りよくせん・中村/中、酒造業/詩人) J 4 9 7 9  
 友松(ゆうしょう・小谷) → 巢松(そうしょう・小谷おたに、藩儒/詩文) C 2 5 0 8  
 友松(ゆうしょう・吉田) → 右一(すけかず・吉田よしだ、藩士/歌人) J 2 3 4 1  
 友尚(ゆうしょう・藤原) → 友尚(ともひさ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) X 3 1 1 7  
 友尚(ゆうしょう・星野) → 元道(げんどう・星野ほしの、藩士/医者) L 1 8 8 7  
 友敞(ゆうしょう・高杉) → 友敞(ともひさ・高杉たかすぎ/源、藩士/歌) V 3 1 6 1  
 友勝(ゆうしょう・山角) → 友勝(ともかつ・山角、神道家) P 3 1 3 3  
 友勝(ゆうしょう・岩橋) → 友勝(ともかつ・岩橋いわはし、藩士/国学) U 3 1 3 3  
 友章(ゆうしょう/ともあき・向井) → 滄浪(そうろう・向井、藩士/儒/詩人) J 2 5 2 2  
 友章(ゆうしょう/ともあき・小島) → 晴海(せいかい;号・小島、藩士/儒者/詩) H 2 4 7 1  
 友章(有昌ゆうしょう・橘) → 孝平(たかひら・橘たちばな、医者/国学/歌) Y 2 6 1 1  
 由章(ゆうしょう・下村) → 由章(よしあき・下村しもむら、藩士/詩歌) B 4 7 8 8  
 由章(ゆうしょう・長崎) → 亀洞(きどう・長崎ながさき、医者/詩人) L 1 6 6 1  
 由章(ゆうしょう・萱生) → 由章(よりふみ・萱生かよう/紀、国学者/歌) J 4 7 7 2  
 由章(ゆうしょう・高宮) → 由章(よしあき・高宮たかみや、儒者) C 4 7 0 0  
 由昌(ゆうしょう・大高) → 由昌(よしまさ・大高おおたか、和算家) H 4 7 0 3  
 有章(ゆうしょう・藤原) → 有章(ありあきら・藤原ふじわら、廷臣/漢学) G 1 0 4 9  
 有勝(ゆうしょう;法諱・琳賢坊) → 琳賢(りんけん;号・有勝、仏絵師) K 4 9 1 6  
 有彰(ゆうしょう・桂) → 青洋(せいよう、桂有彰、商家/狂歌) J 2 4 6 9  
 有尚(ゆうしょう・山崎) → 宗円(そうえん・山崎/源、幕府鍼医) G 2 5 3 2  
 有尚(ゆうしょう・大友) → 随和(ずいわ・大友おおとも、俳人) F 2 3 1 9  
 宥勝(ゆうしょう;法諱) → 淋山(りんざん;号・鹿苑舎、僧/俳人) K 4 9 3 4  
 西松(ゆうしょう・蘆野) → 三省(さんせい・蘆野/金野、漢学者) M 2 0 4 4  
 幽鐘(ゆうしょう・北村) → 政重(まさしげ・北村きたむら、神職/歌人) P 4 0 3 0  
 幽樵(ゆうしょう・山田) → 斗養一(とよいち・山田、箏曲/作曲家) R 3 1 0 5  
 勇松(ゆうしょう/いさまつ?・喜多川/根木屋) → 孟敦(たけあつ・喜多川/福田/松原、和算家) O 2 6 2 5  
 猶昌(ゆうしょう・芳賀) → 猶昌(なおまさ・芳賀はが、国学者) O 3 2 2 7  
 揖松(ゆうしょう;号) → 古桂(こけい;道号・弘稽;法諱、臨濟僧) 1 9 9 7  
 C4660 遊城(ゆうじょう) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」入、  
 [白鷺よ鳴かすは雪の一丸ひとまろげ](犬子集;六1416)  
 G4647 友浄(ゆうじょう・青木あおき、通称;藤兵衛)?-? 大阪の俳人、1673西鶴「生玉万句」の執筆しゅひつもの1、  
 1677大坂生玉本覚寺で興行の[西鶴大句数おおくかず]独吟千六百句の執筆、  
 (執筆は水田西吟と2人/指合見さしあみは児玉菊砌・桑門順座)、青木友雪ゆうせつの一族?  
 C4661 祐常(ゆうじょう;法諱、関白二条吉忠3男) 1723-7351 母;霊元天皇皇女栄子内親王、天台僧;  
 円満院37世門跡/大僧正/園城寺長吏、1750女院薙髮の戒師・護持僧、画:円山応挙門、  
 「七難七福図注文画稿」画、  
 [祐常(;法諱)の号]号;月渚/素円/由清、法号;無量寿院  
 C4662 祐誠(ゆうじょう;法諱・字;玄明/玄通)?-? 常陸多賀郡諏訪村の多宝院修験僧;戸崎淡園門、  
 1758「徴業録」80「車記」、「高祖役公徴業録」著、  
 [祐誠(;法諱)の通称/号]通称;役祐誠えんのゆうじょう、号;旭峰道人  
 祐盛(ゆうじょう) → 祐盛(ゆうしょう;法諱、源俊頼男/天台僧/歌人) C 4 6 4 4

- 祐城(ゆうじょう・河津) → 祐城(すけき・河津かわづ、歌人) I 2 3 0 7  
 有常(ゆうじょう・宮下) → 尚綱(しょうけい・宮下みやした、藩士/儒家) I 2 2 2 4  
 有常(ゆうじょう・白木) → 半山(はんざん・白木しらき、藩儒/詩人/僧) H 3 6 7 7  
 C4663 有松庵(ゆうしょうあん、姓名不詳)?-? 江後期尾張名古屋の人:伝記/墓石調査、  
 1847「芳躅集」編  
 幽松庵(ゆうしょうあん) → 青蘿(せいら・松岡/竹沢/栗本、俳人) 2 4 1 4  
 幽松庵(ゆうしょうあん) → 巴凌(はりょう・垣見かきみ/かけみ、俳人) F 3 6 8 6  
 幽松庵(ゆうしょうあん) → 左簾(4世されん・笠家かさや、俳人) L 2 0 6 8  
 又生庵(ゆうしょうあん) → 貞佐(ていさ・芥川[河]、狂歌)  
 有松庵(友松庵ゆうしょうあん) → 一珪(いっけい・英はなぶさ、絵師) H 1 1 0 1  
 悠照居主人(ゆうしょうきょしゅじん) → 清之(きよゆき・小寺、神職/国学/歌) H 1 6 5 8  
 C4664 友松軒(ゆうしょうけん、長ちよう信治) 1718-8770 江中期大阪の書家/往来物作、「女今川教文」著  
 幽賞軒(ゆうしょうけん) → 永敬(えいけい・狩野、絵師) C 1 3 6 5  
 友松軒(ゆうしょうけん) → 固浄(こじょう;法諱、真宗僧/歌人) M 1 9 7 8  
 友松軒(ゆうしょうけん) → 友松(ゆうしょう・坂田さかた、俳人) C 4 6 5 3  
 友松子(ゆうしょうし) → 壽安(じゅあん・北山きたやま/馬、医者) W 2 1 4 2  
 友松子(ゆうしょうし) → 橘庵(きつあん・北山きたやま/橘、医/儒者) F 1 6 8 8  
 游賞子(ゆうしょうし) → 可彦(よしひこ・陸くが、医者) G 4 7 2 3  
 幽讓先生(ゆうじょうせんせい) → 蘆岸(ろがん・伊藤いとう、藩儒者) 5 2 6 2  
 遊女歌姫(ゆうじょうたひめ) → 歌姫(うたひめ・遊女、狂歌) B 1 2 4 5  
 C4665 祐助親王(ゆうじよしんのう、後二条天皇第3皇子) 1302-5958 母:藤原公泰女/太政大臣藤原公孝に養育、  
 1319青蓮院に出家/桂林院門跡、良助親王・慈道親王より灌頂を受、1341天台座主、  
 1342光明天皇の護持僧/1344座主を辞任/葛川明王院で修業/1350鞍馬寺で四天王法実施、  
 「薬師諸次第」著、  
 [祐助(;法諱)の通称]桂林院無品法親王  
 祐殖(ゆうしょく・中臣) → 祐殖(すけえ・中臣/千鳥、神職/歌人) G 2 3 0 7  
 遊女玉つる(ゆうじょたまつる) → 玉つる(たまつる・遊女、狂歌) J 2 6 6 6  
 遊女はた巻(ゆうじょはたまき) → はた巻(はたまき・遊女、狂歌) I 3 6 7 4  
 有所不為軒(ゆうじょふいけん) → 白華(はくか・菅野すげの、藩儒者) C 3 6 8 1  
 有所不為斎(ゆうじょふいさい) → 廉斎(れんさい・添川そえかわ、染色/儒者) B 5 1 0 8  
 遊諸仏国子(ゆうじょぶつこくし;号) → 慧鑑(えがい・誓禪、真宗本願寺派僧) D 1 3 5 4  
 有所遊居(ゆうじょゆうきょ) → 殘夢(ざんむ・高橋、国学/歌学) 2 0 5 7  
 遊女吉野(ゆうじょよしの、灰屋紹益妻) → 吉野(よしの、俳人) F 4 7 5 1  
 C4667 勇四郎(ゆうしろう・竹原たけはら)?-? 江後期蘭学者;  
 1862堀達之助「英和对訳袖珍辞書」共編(堀を中心に西周・千村五郎・箕作麟祥らと共編)  
 裕四郎(ゆうしろう・佐々木) → 雪峰(せっぽう・佐々木ささき、儒者) L 2 4 3 7  
 C4668 祐次郎(ゆうじろう・小島こじま)?-? 江後期寛政1789-1801頃但馬養父郡市場の人、  
 1891刊「明孝賀集」編:(母百歳の賀の記念集)  
 C4669 勇次郎(勇治郎ゆうじろう・曾田そだ)?-? 江後期出雲松江藩士/脱藩し浪人、  
 蘭学を修学/江戸で西洋兵学を講ず、1854(安政元)幕吏に随い蝦夷・樺太に赴く、  
 1863「慕氏兵論」訳、  
 [勇次郎(;通称)の別通称/号]別通称;勇次、号;松山堂  
 勇次郎(ゆうじろう・森島/永田) → 敏昌(としまさ・永田/森島、和算家) N 3 1 7 2  
 勇次郎(ゆうじろう・高木) → 正剛(まさかた・高木たかぎ/松平/源、藩士/歌) L 4 0 6 9  
 勇次郎(勇治郎ゆうじろう・川崎) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3  
 勇次郎(ゆうじろう・藤原/勝川) → 春章(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師) J 2 1 9 4  
 勇次郎(ゆうじろう・鈴藤) → 致孝(むねたか・鈴藤すずみ/鈴木/藤枝、幕臣/造船) B 4 2 5 1  
 雄次郎(ゆうじろう・松平) → 頼寛(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家) J 4 7 6 5  
 雄次郎(ゆうじろう・瀬川) → 高助(たかすけ・助高屋、歌舞伎役者) C 2 6 9 1  
 雄次郎(ゆうじろう・上田) → 善淵(ぜんえん・上田うえだ、藩儒) L 2 4 8 0



- 雄次郎(ゆうじろう・山田) → 久秋(ひさあき・山田/源/岡本、藩士/国学) I 3 7 3 5  
 雄次郎(ゆうじろう・丸橋) → 東倭(もとかず・丸橋まるはし、農業、和算家) C 4 4 2 8  
 雄次郎(雄二郎ゆうじろう・館) → 柳湾(りゅうわん・館たち/小山、役人/詩人) F 4 9 9 3  
 雄次郎(ゆうじろう・浅山) → 純尹(すみただ・浅山/大村、藩士/茶/歌) D 2 3 9 1  
 雄次郎(ゆうじろう・瀬見) → 善水(よしみ・瀬見せみ、大庄屋/歌人) H 4 7 2 8  
 雄次郎(ゆうじろう・雲谷) → 任斎(じんさい・雲谷うんや/水野/兵藤、藩士/和漢学) E 2 2 2 3  
 雄二郎(ゆうじろう・丁野) → 南洋(なんよう・丁/丁野ちようの、商家/儒者) 3 2 4 6  
 雄二郎(ゆうじろう・秋田) → 伊任(いじん・秋田・安倍、和算家) I 1 1 1 4  
 友次郎(ゆうじろう・本間) → 光丘(みつおか・本間ほんま、豪商/藩政参画) K 4 1 4 5  
 佑次郎(ゆうじろう・鉏) → 景村(かげむら・鉏いかり/河野、町年寄) T 1 5 5 9  
 祐次郎(ゆうじろう・高橋) → 三平(さんぺい・美玉みたま、高橋、尊攘派) M 2 0 7 4  
 優次郎(ゆうじろう・柴野) → 美啓(よしひろ・柴野しばの/梅沢、地誌/和算) G 4 7 6 7  
 猶次郎(ゆうじろう・玉井/遠藤) → 高璟(たかのり・遠藤/玉井、藩士/測量) M 2 6 8 0  
 右次郎(ゆうじろう・小原) → 春造(2世しゅんぞう・小原おはら、藩医) L 2 1 3 5
- C4670 雄津(ゆうしん・金、金[?]か?)?- ? 平安期漢詩人;経国集入
- C4671 宥信(ゆうしん;法諱・行嚴ぎょうごん;字) ?-1432 南北室町期;常陸佐竹の真言僧、幼時高野山入、宝性院宥快門;事相・声明に長ず、如意輪寺住、1392後円融天皇より称され僧都となる、1411宥快より宝祥寺流を伝受/1424(応永31)高野山検校、1383「四度伝受抄」、1386「東寺真言宗血脈」1401「最勝王経開題抄」、「三宝院相承次第」外著多数
- C4672 宥真(ゆうしん;法諱) ? - ? 戦国期真言僧;醍醐松橋流大阿闍梨/先達、少僧都、東光坊住、1574「大峯日記」著
- C4673 祐心(ゆうしん;法諱、俗姓;稻田) ?- 1625 安桃江前期;撰津真宗源光寺11世、天正-慶長(1575-1615)頃屢々連歌に一座、和泉堺の宗柳より古今伝授を受、1596宗啞そうてつと「薄何百韻」/98宗柳と「何船百韻」1600(慶長5)宗柳と百韻、1615至鎮と両吟「何人百韻」/21高台院正次と「千句三物」など
- C4674 宥信(ゆうしん;法諱) ? - ? 江前期武州足立郡田宮村の放光寺住僧、1672(寛文12)「糠田山放光寺略記」著
- G4644 遊身(ゆうしん) ? - ? 江前期上州吉井の俳人;1694不角「うたたね」入
- C4675 有莘(ゆうしん・姥柳うばやなぎ、名;元聖) 1721-8666 江中期豊後岡藩士/儒;荻生徂徠に私淑、藩儒加治鳳山門、1748江戸の服部南郭門、易学に通ず、鶴殿士寧・宇佐美子迪と交流、江戸藩邸で藩政参画;藩主後継問題に連座し27年間幽居、1779赦免、以後子弟教育、「周易解」、「遭難記事」著、[有莘(;号)の字/通称]字;子文、通称;左格
- C4676 勇心(ゆうしん;法諱・真常;字) 1721-180282 江中後期真言律僧;初め笠置寺の僧、のち河内延命寺の法瑞門、宗法;武蔵宝泉寺無等・靈雲寺光海門、1771法瑞を継嗣;延命寺住、1795職を法真に譲渡、1739「理趣純秘鈔聞書」、「諸儀軌伝授口決」「如法不動護摩供私記」、「大法護摩用心」「秘密儀軌伝授口決」/1796「諸儀軌稟承録」著
- C4677 幽真(ゆうしん;法諱、俗姓;大塚) 1812-7665 江後期紀伊海草郡加茂村丸田の真言僧、幼時より高野不動院に修学、1839紀ノ川辺の藤崎山住;居を挹翠琴房ゆうすいきんぼう(琴堂)と称、詩:菅茶山門/歌;加納諸平門、七絃琴を嗜む、諸国歴遊、伊藤博文・三条実美と交流、1866(慶応2)「空谷伝声やまひに集(山彦集)」著/1867「山水志」編、[幽真(;法諱)の号]古岳/翠山人/挹翠琴房ゆうすいきんぼう/琴堂/昨夢、
- G4639 祐真(ゆうしん/すけまさ?・小堀こほり、名;成) ?-? 江後期;法眼、歌人、1858蜂屋光世[大江戸倭歌集]入、[千代ふとも変らぬものか老松の色は常盤の若みどりなる](大江戸倭歌;雑1764)
- 有信(ゆうしん・植松) → 有信(ありのぶ・植松うえまつ、版木師/国学) 1 0 3 2  
 有信(ゆうしん・松本) → 有信(ありのぶ・松本まつもと、歌人) G 1 0 7 9  
 有信(ゆうしん・佐治) → 有信(ありのぶ・佐治さじ、官人/国学/歌) H 1 0 6 4  
 有信(ゆうしん・野村) → 有信(ありのぶ・野村のむら/竹村、藩士/国老/歌) I 1 0 2 4

有信(ゆうしん・三谷) → 有信(ありのぶ・三谷みたに/狩野、藩絵師/政治) L 1 0 5 3  
 有岑(ゆうしん・紀) → 有岑(ありみね・紀、歌人) B 1 0 9 8  
 祐申(ゆうしん・曾我) → 祐申(すけのぶ・曾我そが/岡本、藩士/教育) I 2 3 7 0  
 祐臣(ゆうしん・中臣) → 祐臣(すけおみ・中臣/新薬師/千鳥、神職/歌人) B 2 3 9 4  
 祐辰(ゆうしん・中臣) → 祐辰(すけとき・中臣なかとみ/今西、神職) G 2 3 5 8  
 祐信(ゆうしん)すべて → 祐信(すけのぶ)  
 祐親(ゆうしん;法名) → 満親(みつちか・中山/藤原、廷臣/歌人) D 4 1 8 5  
 祐親(ゆうしん・中臣) → 祐親(すけちか・中臣/千鳥、神職/歌人) C 2 3 4 0  
 祐親(ゆうしん・蒔田) → 祐親(すけちか・蒔田まきた、廷臣) G 2 3 4 9  
 祐真(ゆうしん;法名) → 重嗣(しげつぐ・庭田/源、大納言/歌人) C 2 1 4 3  
 祐真(ゆうしん・土門/間山) → 祐真(すけまさ・間山まやま/土門、藩士/歌) G 2 3 4 6  
 由真(ゆうしん・田中) → 由真(よしざね・田中たなか/源、和算家) D 4 7 5 2  
 由信(ゆうしん・砂川) → 由信(よしのぶ・砂川/物部、儒者) F 4 7 7 0  
 友真(ゆうしん・野間) → 友真(ともまさ・野間、医者) Q 3 1 5 6  
 友眞(ゆうしん・天川) → 友春(ともはる・天川あまかわ/赤松、酒造業/歌) Q 3 1 2 9  
 友心(ゆうしん・山本) → 正重(まさしげ・山本やまもと、歌人) C 4 0 7 2  
 友信(ゆうしん・どものぶ・狩野) → 伯円(はくえん・狩野かのう、絵師) C 3 6 6 5  
 友信(ゆうしん・賀茂) → 友信(どものぶ・賀茂/幸徳井、陰陽家) Q 3 1 1 8  
 友信(ゆうしん・井上) → 友碩(ゆうせき・井上いのうえ/高橋、棋士;碁) D 4 6 0 3  
 友信(ゆうしん/どものぶ・留守) → 希斎(きさい・留守す/遊佐ゆさ、儒者) I 1 6 5 2  
 友信(ゆうしん・武田) → 友信(どものぶ・武田たけだ、藩士/記録) Q 3 1 2 4  
 友信(ゆうしん・石川) → 友信(どものぶ・石川いしかわ、歌人) T 3 1 5 0  
 友信(ゆうしん・佐藤) → 友信(どものぶ・佐藤さとう、国学/歌) V 3 1 1 3  
 雄心(ゆうしん・坂本) → 英臣(ひでとみ・坂本、藩士/砲術師範) D 3 7 3 3  
 雄真(ゆうしん・宇井) → 愷翁(いおう・宇井うい、儒者) F 1 1 1 0  
 融心(ゆうしん・甘露寺) → 愛長(なるなが・甘露寺かんろじ、廷臣/記録) I 3 2 4 6  
 勇進(ゆうしん・脇坂) → 義端(ぎたん;法諱、真宗仏光寺派僧/漢学) L 1 6 1 8  
 熊臣(ゆうしん・岡) → 熊臣(くまおみ・岡おか、神職/国学) 1 7 2 4

C4678 有儘(ゆうじん・東条とうじょう、命雅男)?-1788 尾張名古屋藩士/俳人:後年中島郡花井方村住、  
 1767「あやめぐさ」72「類玄翁」、「一叢師添削詠藻」著、  
 [有儘(;号)の名/通称/別号]名;行登ゆきなり/行堅/高香、通称;岡右衛門/覚左衛門、  
 別号;節頭斎/節東斎

友仁(ゆうじん・鈴木) → 柰右衛門(もくえもん・鈴木、藩士/武術家) 4 4 7 0  
 幽人(ゆうじん・中井) → 履軒(りけん・中井なかい、漢学者) 4 9 0 1  
 猶人(ゆうじん・鈴・鱸/鈴木) → 椿亭(ちんてい・鈴木、幕臣/儒者) K 2 8 9 1  
 雄心院(ゆうしんいん;法号) → 長盛(ながもり・岡部おかべ、城主/歌/連歌) G 3 2 1 1  
 遊心院(ゆうしんいん) → 忠和(ただとも・松平、藩主/天文暦学) Q 2 6 1 6  
 遊心院(ゆうしんいん;諡号) → 慈空(じくう;法諱、真宗本願寺派僧) Q 2 1 3 5  
 祐信院(ゆうしんいん) → 高嶺(たかさど・藤堂、藩主/詩文) L 2 6 9 1  
 遊心閣(ゆうしんかく) → 理山(りざん;法諱・三津みつ、真宗仏光寺派僧) B 4 9 1 3  
 有眞斎(ゆうしんさい) → 淑人(よしと・福永、儒者) E 4 7 8 2  
 雄心斎(ゆうしんさい) → 吉益(よします・中川なかがわ、神職) H 4 7 1 9  
 遊心斎(ゆうしんさい) → 智暹(ちせん;法諱、真宗本願寺派僧) E 2 8 5 5  
 又新斎(ゆうしんさい・湯浅) → 進良(のぶよし・湯浅ゆあさ、藩士/典故) D 3 5 9 2  
 友尽斎(ゆうしんさい) → 清親(きよちか・日置へき、友禅染画工) P 1 6 8 9  
 有心判事(ゆうしんはんじ) → 為経(ためつね・惟宗これむね、廷臣/歌人) H 2 6 0 5  
 勇心房(ゆうしんぼう;号) → 隆然(りゅうねん;法諱・勇心房、真言僧/声明) F 4 9 3 6

G4636 誘誰(ゆうすい) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入(206)、  
 [胸の月廻る古則こそくの輪をぬけて](二葉;206/前句;ほんのりと夜は明けはなれけり)、  
 (禅の先達の残した規範公案の謎がやっと解け束縛の輪を脱すると夜明けだった)

- G4637 幽水(ゆうすい) ? - ? 江前期甲州の俳人;1693「二息ふたいき」入  
[分別の外は物ほしき秋の暮れ](二息/分別の外は恋/秋夕暮れはむやみと人恋しい)
- G4643 友水(ゆうすい) ? - ? 江前期遠江金谷の俳人、1694不角「へらず口」入
- G4645 酉水(ゆうすい) ? - ? 江前期遠江金谷の俳人、1695不角「昼礫ひるつぶて」入  
[黒む乳ちに化粧けはひ鳥を驚にする](妊娠後の結婚は姑にばれないよう乳首を化粧する)
- C4679 勇水(ゆうすい、直江木導の外姪)?-? 江中期;1723木導の句集「水の音」を代書
- G4638 誘水(ゆうすい) ? - ? 江中期京の俳人;1729隆志「俳諧草結」3句入  
[あの雲といふ雲もなしけふの月](俳諧草結くさむすび;222、完璧なる明月)
- C4680 祐水(ゆうすい;法諱、俗姓;中島)?-1815 信濃高梨の浄土僧;江戸目黒祐天寺祐海門;出家、芝増上寺に修学;学頭となる/1784深川靈巖寺住職/1792將軍家斉の命で京智恩寺54世、在職中に諸堂新築/1813智恩寺山内の瑞林院に隠棲、1805「日野資枝室五十年忌法疏」著、「順誉祐水名号書状」、[祐水(;法諱)の法名] 円蓮社順誉
- C4681 熊水(ゆうすい・佐久間さくま、名;欽)1751-181767 陸奥森山の儒者;江戸で仙台藩儒源子敬門、さらに伯父斎藤東海門/鶴殿士寧門、40年間講説/詩人、伊藤万年・中根東平と交流、「大椿楼集」「大椿楼会集詩」「書経図考」著、北山に反駁:84「討作詩穀とうさくじう」著、[熊水(:号)の字/通称/別号]字;士文、通称;英二、別号;東里
- C4682 友水(ゆうすい・渡辺わたなべ、名;保)1792-186473 佐渡相川の役人;金蔵役/地方掛/小木定番役次席、金蔵定番役、武芸;剣・槍術・田村流砲術、俳人;安田花狂門、仮名詩も嗜む、「初心手引草」[友水(:号)の通称/別号]通称;佑左衛門、別号;詠帰堂/朔六、息子;盧舟/息女;沖津由水(ゆうすい・藤森/島屋)→ 素檠(そはく・藤森/島屋、商家/俳人) E 2 5 2 5  
由水(ゆうすい・山本) → 由水(よしみ・山本やまと/源、国学者) H 4 7 2 7  
猶水(ゆうすい・荒木) → 痴堂(ちどう・荒木、書家/歌) E 2 8 9 2  
友水(ゆうすい・河井) → 恒久(つねひさ・河井、史家) D 2 9 3 7  
友水(ゆうすい・横沢) → 兵庫(ひょうご・横沢よこざわ/柴内、家老/画) F 3 7 2 3  
友水(ゆうすい・田中) → 友水子(ゆうすいし・田中、俳人/文筆家) C 4 6 8 5  
勇水(ゆうすい・小池) → 政永(まさなが・小池こいけ、藩士/記録) F 4 0 3 0  
幽水(ゆうすい・脇坂) → 安照(やすてる・脇坂わささか、藩主) C 4 5 1 5  
挹翠(ゆうすい・橋本) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1
- C4683 友水庵(ゆうすいあん) ? - ? 伊勢の俳人;雑俳点者/1692菊子「咲やこの花」入  
友椎庵(ゆうすいあん) → 老山(ろうざん・友椎庵、俳人) 5 2 3 0
- C4684 酉水庵無底居士(ゆうすいあんむていこじ)?-? 大阪の仮名草子作者;1680「難波鉦なにわどら」著  
有椎翁(ゆうすいおう) → 雲裡(うんり・渡辺、無名庵5世/俳人) B 1 2 6 3  
挹翠琴房(ゆうすいきんぼう) → 幽真(ゆうしん;法諱、真言僧/詩歌) C 4 6 7 7
- C4685 友水子(由水子ゆうすいし・田中たなか、名;長与)?-? 江中期大坂北久宝町の俳人/文筆家、淡々と親交、1742「夢中一休」43「文林節用筆海綱目」「面影莊子」著/44「女文台綾囊」編/「太平鶴譜」著、1745俳文「風狂文艸」48「百人一首大全」著/49「女子のみやび」50「算法初心車」編、1757「古曆便覧備考」著、「鶴譜」「教訓生業宝」「書通大成」著、外編著多数、[友水子(;号)の通称/別号]通称;甚助、別号;冥山/桜亭/友水/由水子、屋号;近江屋  
友嵩(ゆうすう・伊藤) → 友嵩(ともたか・伊藤いとう、藩士/老中) U 3 1 0 9  
友嵩(ゆうすう・渥美) → 友嵩(ともたか・渥美あつみ、藩士/国学/歌) T 3 1 9 9
- 4616 由輔(初世ゆうすけ・金井かない、金井三笑3男)?-?1803頃没 京の歌舞伎作者;京北側芝居に勤務、歌舞伎役者尾上菊五郎付作者として江戸に下る;1792二枚目作者/94江戸都座の立作者、1798(寛政10)市村座立作者;金井由輔を名乗る、世話物に長ず、金井由輔3世の父、1779初世並木五瓶「金門きんもん五三桐」助作、94立作「色競比翼塚」98「花檜橋系図」、1798「道行恋の橋尽し」「道行菜種裳」/99「江戸紫男鑑」「女文字筆陸」「花姿詠千金」外著多、[初世由輔(;名号)の別号]筒井半二/金井一笑/松井由輔初世/金井由輔初世/三幸、屋号;井筒屋、
- C4686 由輔(2世ゆうすけ・金井かない)?- ? 江戸三川島村の植木屋の生、歌舞伎役者;尾上松助門/江戸河原崎座で敵役を勤める、師の没後作者に転向;



1818松井三笑の娘より松井由輔を譲渡され襲名/四代目鶴屋南北に引立られ多数助作、  
 1826金井由輔2世と改名/27金井三暁に改名、隠退後は吉原仲町に蕎麦屋を開く、  
 1819「女商心手綱」20「梅暦曙曾我」21「郭公翌衢占」「其噂吹川風」/22「色山解松深川」著、  
 1823南北4世「浮世柄比翼稻妻」番付、24「男山恵源氏」28「二葉春花麗曾我」外著多数、  
 [2世金井由輔(；名号)の別号] 役者号；尾上斧蔵/重扇助かきねんすけ(初世)、  
 作者号；松井由輔2世/金井三暁/鍋太

C4687 **由輔**(3世ゆうすけ・金井かない、初世金井由輔男)?-? 金井三笑の孫/文政天保1818-44頃歌舞伎作者、  
 初め江戸長谷川町の縫箔師職人/歌舞伎作者：三升屋二三治門、江戸中村座で創作助作、  
 森田座・市村座でも創作協力、1832松井由輔3世を襲名/37(天保3)金井由輔3世を名乗る、  
 6世岩井半四郎の取立もあつたが二枚目作者に終わる、  
 1833「初芝居愛敬曾我」37「曾我蝶衛比翼結」著、  
 [3世金井由輔(；名号)の別号] 松井半次[半二]/1832松井由輔3世

C4688 **勇助**(ゆうすけ・関せき) 1798 - 1855 58 江後期薩摩藩士；鹿児島 の国学者、  
 お由羅騒動に連座；1849謹慎/51新藩主島津斉彬に重用；郷校建設など藩政に参画、  
 斉彬没後は政治から離れた、西郷隆盛・大久保利通の師、「正気歌解」著/「貧家記」注、  
 [勇助(；通称)の名/号]名；**広国**ひろくに、号；南塘、養子；広喬ひろたか

C4689 **勇助**(ゆうすけ・佐藤さとう) ? - ? 江後期江戸記録・地誌家、  
 1819「江都古墳志」収集(；佐藤子徳が記録；編)

G4622 **雄助**(ゆうすけ・有村ありむら、兼善男) 1835-60切腹26 母；連寿尼、薩摩藩士/勤王の志士、  
 1860桜田門外変に弟次左衛門と参加；四日市で捕縛/薩摩に護送

- 由輔(初世ゆうすけ・松井) → 由輔(初世ゆうすけ・金井、歌舞伎作者) 4 6 1 6
- 由輔(2世ゆうすけ・松井) → 由輔(2世ゆうすけ・金井、歌舞伎作者) C 4 6 8 6
- 由輔(3世ゆうすけ・松井) → 由輔(3世ゆうすけ・金井、歌舞伎作者) C 4 6 8 7
- 雄助(ゆうすけ・阿部) → 有清(ありきよ・阿部、和算家/天文) F 1 0 3 2
- 雄助(ゆうすけ・友野) → 霞舟(かじゆう・友野とももの、幕臣/詩人) C 1 5 1 1
- 雄助(ゆうすけ・平野) → 国臣(くにのみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌) 1 7 0 6
- 雄助(勇助ゆうすけ・加藤) → 山寿(さんじゅ・加藤かとう、郷土史家) M 2 0 3 6
- 雄助(ゆうすけ・大田) → 英実(ひでざね・大田おた、藩士/教育者) I 3 7 8 3
- 雄輔(ゆうすけ・野沢) → 岐山(きざん・野沢、梧庵、儒者/詩) K 1 6 6 5
- 雄輔(ゆうすけ・浦野) → 雅典(まさのり・浦野うらの、藩士/国学/歌) O 4 0 0 4
- 雄輔(ゆうすけ・勝田) → 紫文斎(初世しぶんさい・宇治、名主/一中節/狂歌) F 2 1 6 0
- 有輔(ゆうすけ→ありすけ) → 有輔(有助ありすけ・御春みはる、歌人) B 1 0 7 2
- 有助(ゆうすけ・石井) → 鶴山(かくざん・石井いしい、儒者) H 1 5 2 8
- 宥助(ゆうすけ・松村) → 李郭(りかく・松村まつむら、商家/俳人) 4 9 4 5
- 祐助(ゆうすけ・安藤/今泉/安積) → 辰斎(こんさい・安積あさか、漢学/詩) 1 9 5 3
- 祐助(ゆうすけ・藤原/勝川) → 春章(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師) J 2 1 9 4
- 祐助(ゆうすけ・萩原) → 秋巖(しゅうがん・萩原はぎわら、書家/詩) W 2 1 8 7
- 佑甫(ゆうすけ・服部) → 栗斎(りつさい・服部はっとり、藩儒/教育) B 4 9 8 8
- 祐輔(ゆうすけ・丹羽) → 仙庵(せんあん・丹羽にわ/浅野、医者) L 2 4 4 9
- 勇助(ゆうすけ・小倉) → 正信(まさのぶ・小倉おぐら、商家/国学/神道) F 4 0 6 5
- 勇助(ゆうすけ・北川) → 歌麿(うたまろ・喜多川、絵師) 1 2 7 0
- 勇助(ゆうすけ・戸田/大巻) → 秀詮(ひであき/ひであきら・大巻/戸田、藩士/郷土史) C 3 7 7 7
- 勇助(ゆうすけ・猿橋) → 義近(よしちか・猿橋さるはし、書家/狂歌) E 4 7 5 0
- 勇助(ゆうすけ・今福屋) → 来留(きたる・今福いまふく、書肆/狂歌) F 1 6 7 7
- 勇助(ゆうすけ・桑原) → 君仲(くんちゆう・桑原くわばら、湯屋/将棋) C 1 7 1 5
- 勇助(ゆうすけ・真崎) → 季顕(すえあき・真崎まさき、藩士/記録収集) F 2 3 3 4
- 勇助(ゆうすけ・石渡) → 芳勝(よしかつ・歌川うたがわ/石渡、絵師) C 4 7 8 9
- 勇助(ゆうすけ・林田) → 守秋(もりあき・林田はやしだ、藩士/国学/歌) L 4 4 0 4
- 勇輔(ゆうすけ・藤田) → 友愛(ともちか・藤田ふじた/秦/永本、神職) W 3 1 2 4
- 勇輔(ゆうすけ・宮原) → 景賢(かげかた・宮原みやはら、国学/歌人) V 1 5 8 7



- 友輔(ゆうすけ・内村) → 鱸香(ろこう・内村うちむら/本郷屋、藩儒) B 5 2 4 7  
 友助(ゆうすけ・岡田) → 玉山(ぎよくざん・岡田おかだ、絵師) D 1 6 0 0  
 裕甫(ゆうすけ・松村) → 月溪(げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4  
 猷輔(ゆうすけ・富岡) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3  
 猷輔(ゆうすけ・桂) → 周水(しゅうすい・桂かつら、藩士/儒者) H 2 1 7 6
- C4690 祐是(ゆうぜい) ? - ? 俳人;1874宗旦「遠山鳥とおやまどり」10吟百韻入  
 C4691 祐盛(ゆうせい;法諱) 1309 - ? 1379存 南北期僧、「諸印信口訣」著、  
 1379足利義詮13回忌法会の結縁灌頂記録「結縁灌頂雑記」著  
 C4692 祐成(ゆうせい;法諱・号;春道、俗姓;中臣?) 1386-? 1458存 大和宇智郡南宇智村の僧、  
 1401良峯寺に出家/阿闍梨、1422東大寺に移住;惣持院住、御霊神社を氏神として信仰、  
 1458「靈安寺御霊大明神略縁起」著、貞慶(じょうけい)「愚迷発心集」真名本を書写  
 C4693 祐濟(ゆうぜい;法名、号;無量寿院、青蓮院坊官刑部法印泰算男)?-? 室町前期天台僧;青蓮院出生、  
 僧正、1443法華大会探題・青蓮院門跡尊応の出家式に陪従/1475尊応天台座主補任式参加、  
 1463「経供養」著、「伝法灌頂日記」著、連歌作者:新菟玖波集1句入  
 C4694 幽静(ゆうせい) ? - ? 連歌;1557公条催「弘治三年千句」参  
 C4695 雄盛(ゆうせい;法諱、俗姓;小寺) 1533-1605 73 越前足南郡筋田の天台僧;1557比叡山入、  
 仏頂華王院住、1571比叡山焼討に遭遇;諸方を遊学/1583帰山;祖山の行光房を起す、  
 叡山復興に尽力/探題/法印、賢祐の師、「三部灌頂事業」「御八講祈句并論題」著  
 C4696 友静(ゆうせい・井狩いかり、名:常与)?-? 京の俳人;立圃門・のち季吟門、京談林連中と交流、  
 1664重頼「佐夜中山」/65立圃「小町躍」/67貞室「玉海集追加」入/67湖春「続山井」版下、  
 1671重以「新百人一句」/72梅盛「山水」/76季吟「続連珠」/80自悦「洛陽集」入、  
 1681似船「安楽音あんらくおん」/85風瀑「一楼賦」/89言水「俳諧前後園」入、  
 1690言水「新撰都曲」4句入、1691江水「元禄百人一句」入、  
 [躍をどり見に踏むらん夜よるの花野かな](都曲;上255)、  
 [友静(;号)の通称/別号]通称;二郎兵衛、別号;春夕子  
 G4660 友正(ゆうせい) ? - ? 江前期俳人;  
 1673西鶴「生玉万句」第五梅雨発句入、  
 [傘からかさも句ふにしるし梅の雨](生玉万句;梅雨発句、  
 夫木集卷二十野宮左大臣;梅の花遠の麓に咲きにけり句ふにしるし風越しの山)  
 G4665 友世(ゆうせい・金松かねまつ) ? - ? 江前期山城伏見の俳人;  
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [折柯をりえだや肩車かたくまに乗る稚児櫻](手鑑/柯;大枝)  
 C4697 幽静(ゆうせい・柏原かしわばら/本姓;橘、名;公英きみひで) 1662-1745 84 薩摩鹿児島藩士/剣術家/詩歌人、  
 示現流剣道;本田甚右衛門親信門、詩・歌を嗜む、「伊呂波歌」「醒眠集」著、  
 [幽静(;隠居後の号)の通称/法号]通称;市右衛門、法号;竹庵幽静  
 G4639 西生(ゆうせい・山口やまぐち、喜鶴きかく堂/露吹庵2世) 1672-1742 71 京の俳人;和及門のち鞭石門、  
 1729隆志「俳諧草結」1句入、  
 [片そぎや行ゆき合ふ千鳥歌の辻](草結;250/今の辻[隆志の会席]は千鳥の如く盛会)、  
 (本歌;新古今1855;夜や寒き衣や薄き片そぎのゆきあひの間より霜や置くらん;  
 住吉明神の歌/片そぎは神明造の破風板が棟で交叉し先端は片側が削られている千木)  
 4605 遊清(遊清ゆうせい・本間ほんま) 1776-1850 75歳 江後期江戸の医者・国学者・歌人、儒;古屋昔陽門、  
 国学;村田春海門、本草学;曾槃門、語学に通じ歌に長ず、1819伊予吉田藩江戸詰典医、  
 1831伊達村芳に出仕;夫人満喜子の歌道師範、山田常典・横山桂子・横山由清の師、  
 江戸南八丁堀住、「九江詠草」「花月詠草」/1811「雑字編」14「雑詠百首歌」15「視聽筆筆」、  
 1816「つげまくら」/19「五百重波」「耳敏みと川」/28「にはたつみ」34「玉川の水」、  
 1846「みつのながめ」47「五十音図」49「もとかしは」、「江戸名所歌」「詩歌類纂」「嘯月余草」、  
 「潜斎医話」「九江医話」外著多、1850(嘉永3)9月10-12日太田子徳の瀬田村の集いに参加;  
 歌[川辺夕烟]詠(江口忠房「瀬戸之記」入);その2ヶ月後11月16日に没、  
 平田篤胤・伴信友と共に和学三大家と称される、蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [めでぬべき花もなけれど刈萱はなびく姿のなつかしきかな](大江戸倭歌;秋7499)、

- [遊清(；名)の字/号]字；士竜、号；眠雲/九江/九阜/潜斎/蛛庵ちゅうあん/消閑子、法号；眠雲院
- C4698 **幽栖**(ゆうせい・坂尾さかお、名；万年、宗吾男)1786-1863 78 出羽庄内藩士/儒；家学を受、1808藩校致道館の句読師/藩主近習、1810父の事件により近習を罷免；翌年復職、舎長/典学/司業を歴任、代官・元締を兼任、1843致仕、「丑蔵寅松復讐記」著、父を継承；「大泉叢誌」を編纂(息子清風と共編)、1850「荘内謡曲」「荘内謡曲中入間語」著、[幽栖(；号)の字/通称/別号]字；君頤、通称；一蔵/甚平、別号；鶴陵
- C4699 **祐清**(ゆうせい・狩野かのう；中橋家、守邦[探牧]男)1787-1840 54 絵師；1798狩野泰信(永賢)の養子；中橋狩野家14世を継嗣、1799「中橋狩野系譜」著、[祐清(；号)の名/初号]名；邦信、初号；探秀
- 4617 **由誓**(ゆうせい・豊嶋/豊島としま)1789-1859 71 江戸浅草蔵前札差井筒屋(夏目成美の家)の番頭、俳人；成美門、のち宗匠として立つ、天保1830-44頃の江戸俳壇で活躍、晩年は弟の事件に連座し江戸払い；千住在竹塚に隠棲、一具と親交、1810「木葉駒」編、1811随筆「俳諧如是我聞によぜがもん」著、14「其角発句集」考訂/15「俳諧鼠道行」、1816「成美家集」補訂/19成美追善「三霜」序/21成美文集「四山藁」成美息子3人と編纂、1826「成美発句集」/27「宮戸川句合」/45「一掬集」/51「俳諧正風題林発句集」編、1854「俳諧脇歌仙」著/59「俳諧穂扇録」編、「俳諧木の葉集」「こぼれもみ」「霜のひかり」著、「名家附合集」編、外編著多数、[二人居てたまにもの言ふ若葉かな]、追善集；1861三周忌「為誰集」(新甫編)/65七周忌「由誓文集」(花外・杉暁・抱叔ら5人編)、[由誓(；号)の通称/別号]通称；久臧きゆうざう、別号；坎窩かんか久臧/為誰庵/浮簽ふせん主人/豊久臧
- G4628 **由晴**(ゆうせい/よしはる？・高島たかばたけ)？-？ 江後期歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[夏さへも霜とまがひし月影もまさごに氷る有明の空](大江戸倭歌；冬1174/冬残月)
- D4600 **融濟**(ゆうせい・石崎いしざき、融思ゆうし男)1810-62 53 長崎の絵師；父門/草花・人物画を得意とす、1850(嘉永3)「拾品考」画、[融濟(；通称)の幼名/字/号]幼名；寅太郎、字；世美、号；玉浦/手峯
- D4601 **幽清**(ゆうせい・浅井あさい)1851- ？ 撰津住吉社の社家、国学者；平田鉄胤門、「纂収風土記」「亭記」著/「撰津抄」「撰津徴」「撰津徴書」編、[幽清(；名)の通称] 安太郎
- |                      |   |                          |           |
|----------------------|---|--------------------------|-----------|
| 友清(ゆうせい・岡嶋)          | → | 友清(ともきよ・岡嶋おかじま、和算家)      | P 3 1 3 9 |
| 友政(ゆうせい・宇佐美)         | → | 友政(ともまさ・宇佐美うさみ、藩士/史家)    | Q 3 1 5 5 |
| 友成(ゆうせい・川北)          | → | 友成(ともなり・川北かわきた、語学者)      | Q 3 1 0 9 |
| 友成(ゆうせい・晒見さいみ?)      | → | さん馬(初世さんば・翁家おこなや、落語家)    | E 2 0 6 1 |
| 友成(ゆうせい・向坂)          | → | 友成(ともなり・向坂ささか、歌人)        | V 3 1 3 6 |
| 右生(ゆうせい・藤原)          | → | 菅根(すがね・藤原ふじわら、廷臣/和漢学)    | B 2 3 6 3 |
| 祐正(ゆうせい・賀茂)          | → | 祐正(すけまさ・賀茂かも、神職)         | C 2 3 7 9 |
| 祐性(ゆうせい；法諱)          | → | 祐性(ゆうしょう；法諱、僧/歌人)        | C 4 6 4 6 |
| 祐世(ゆうせい・鴨)           | → | 祐世(すけよ・鴨かも、神職)           | D 2 3 2 4 |
| 祐世(ゆうせい・中臣)          | → | 祐世(すけよ・中臣/今西家祖、神職)       | D 2 3 2 5 |
| 祐世(ゆうせい・神田)          | → | 祐世(すけよ・神田かんだ/源、廷臣/歌人)    | I 2 3 3 3 |
| 祐盛(ゆうせい)             | → | 祐盛(ゆうしょう；法諱、源俊頼男/天台僧/歌人) | C 4 6 4 4 |
| 祐誠(ゆうせい)             | → | 祐誠(ゆうじょう；法諱・字；玄明、修験僧)    | C 4 6 6 2 |
| 祐勢(ゆうせい・狩野)          | → | 正信(まさのぶ・狩野、幕府絵師/狩野派祖)    | F 4 0 5 2 |
| 祐清(ゆうせい；法名)          | → | 康親(やすちか・中山/藤原、廷臣/記録)     | C 4 5 0 0 |
| 祐清(ゆうせい・狩野)          | → | 英信(てるのぶ・狩野、幕府絵師)         | C 3 0 8 3 |
| 祐清(ゆうせい・佐々井)         | → | 祐清(すけきよ・佐々井、語学者)         | C 2 3 0 7 |
| 祐清(ゆうせい・伊藤)          | → | 祐清(すけきよ・伊藤いとう、藩士/文筆家)    | G 2 3 2 5 |
| 祐清(ゆうせい・宇佐美)         | → | 祐清(すけきよ・宇佐美、廷臣)          | G 2 3 2 6 |
| 裕誓(ゆうせい・鳥井)          | → | 楚由(そゆう・鳥井とりい、商家/俳人)      | K 2 5 4 7 |
| 融成(ゆうせい/とおなり・田中/板部岡) | → | 江雪(こうせつ・板部岡/田中、歌)        | B 1 9 5 4 |
| 由清(ゆうせい；号)           | → | 祐常(ゆうじょう；法諱、天台僧/画)       | C 4 6 6 1 |
| 由清(ゆうせい・横山)          | → | 由清(よしきよ・横山、国学/歌人)        | D 4 7 2 0 |

由清(ゆうせい・村井)	→	由清(よしきよ・村井むらい、心学者)	D 4 7 1 9
由清(ゆうせい・横山/小野)	→	由清(よしきよ・横山/塚越、国学/歌人)	D 4 7 2 0
由正(ゆうせい・建部)	→	清庵(2世せいあん・建部たけべ、蘭方医者)	H 2 4 1 8
由生(ゆうせい:字・今井)	→	紐蘭(ちゅうらん・今井、藩奉行/俳仙)	G 2 8 9 2
由性(ゆせい・良岑)	→	由性(ゆせい・良岑よしみね、遍昭男/僧)	H 4 6 6 9
有正(ゆうせい・近藤)	→	有正(ありまさ・近藤こんどう、国学者/歌)	H 1 0 6 1
有世(ゆうせい・土御門)	→	有世(ありよ・土御門/安倍、陰陽家/歌)	C 1 0 0 2
有清(ゆうせい・阿部)	→	有清(ありきよ・阿部、和算家/天文)	F 1 0 3 2
有清(ゆうせい/ありきよ・佐伯)	→	桜谷(おうこく・佐伯ささき、儒者/詩人)	C 1 4 1 2
有声(ゆうせい:名・林)	→	宣敬(のぶたか・林はやし、藩士/国学/歌)	B 3 5 7 5
有声(ゆうせい)	→	風水(ふうずい・日置へき/島、神職/俳人)	3 8 8 4
有制(ゆうせい・高木)	→	有制(ありのり・高木、藩士/国学)	F 1 0 6 2
有制(ゆうせい・滝田)	→	きく(・滝田たきた、歌人)	U 1 6 6 8
有成(ゆうせい・荒木田)	→	有成(ありなり・荒木田あらかだ、神職/歌人)	I 1 0 8 9
有成(ゆうせい・大坪)	→	道禅(どうぜん・大坪おつぼ、馬術家)	G 3 1 2 3
有成(ゆうせい・大江)	→	有重(有成ありしげ・大江おおえ、文章生/法師)	H 1 0 0 2
有成(ゆうせい・後藤)	→	良山(こんざん・後藤ごとう、医者)	P 1 9 2 4
有成(ゆうせい・宮崎)	→	雲台(うんだい・宮崎みやざき、医者/儒者)	D 1 2 9 2
有成(ゆうせい・宮崎)	→	鯢思(げいし・宮崎みやざき、儒者/教育)	F 1 8 9 1
有成(ゆうせい・倉田)	→	有成(ありなり・倉田くらた/桂、神職/国学)	M 1 0 4 6
有政(ゆうせい/ありまさ・浅野)	→	主計(かづえ・浅野あさの、医者)	F 1 5 1 8
有政(ゆうせい・渥美)	→	有政(ありまさ・渥美あつみ、歌人)	G 1 0 7 4
有整(ゆうせい・安斎)	→	希言(まれこと・安斎あんざい、町年寄/歌)	N 4 0 2 6
有濟(西星ゆうせい・岩瀬)	→	京伝(きょうでん・山東、質商/戯作)	1 6 3 7
宥性(ゆうせい;法諱)	→	宥性(ゆうしょう;法諱・智友、真言僧)	C 4 6 5 8
幽静(ゆうせい・酒井)	→	利亮(としすけ・酒井さかい、医者/歌人)	V 3 1 3 4
有税(ゆうせい・檜村)	→	守国(もりくに・橋たちばな/檜村、絵師)	F 4 4 3 7
又生庵(ゆうせいあん)	→	貞佐(ていさ・芥河、商家/狂歌)	3 0 7 8

G4664 **友碩**(ゆうせき・井岡いおか、名;喜之よしゆき) ?-? 江前期大阪の俳人;

1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[毛の穴やとをして内に胸の霧](手鑑)

D4602 **友夕**(ゆうせき) ? - ? 江戸俳人;1681言水「東あずま日記」4吟歌仙入、  
1691不角「二葉之松」1句入、  
[錦着る人も死んででは素鞆いろ一重](二葉之松;68/素鞆は死装束)、  
(前句;灯を吹消せば目に欲のなき)

D4603 **友碩**(ゆうせき・井上のうえ/旧姓;高橋たかはし) 1681-1726<sup>46</sup> 美濃の棋士/囲碁;本因坊道策門、  
道策没後;4世井上因碩門、1720(享保5)5世井上因碩(策雲)の跡目を継嗣;  
1721井上友碩として御城碁に出仕;上手(7段)、1706「伝信録」編、  
[友碩(;初名)の後名] 因節/友信

D4604 **右跡**(ゆうせき;号) ? - ? 江中期俳人;1776樗良「俳諧月の夜」入、  
[船の脚あし月三寸の隠れかな](月の夜;128/雲に隠れる月を船の喫水線に喩える)

友石(ゆうせき・蜷川)	→	親元(ちかもと・蜷川、武士/連歌作者)	C 2 8 0 4
友石(ゆうせき・山本)	→	健斎(けんさい・山本やまもと、藩士/儒者)	I 1 8 8 9
有石(ゆうせき・竹内)	→	為明(ためあき・竹内たけうち/岩田、浄土僧/歌)	Y 2 6 0 9
融石(ゆうせき;法諱)	→	天性(てんしょう;道号・融石、曹洞僧)	D 3 0 8 2
幽石(ゆうせき・小川)	→	眞澄(ますみ・小川おがわ、里正/歌人/茶)	O 4 0 0 6
幽石[亭](ゆうせき[てい])	→	南湖(なんこ・春木はるき、絵師/狂歌)	I 3 2 9 3
遊石(ゆうせき・貝掛)	→	浜雄(はまお・貝掛かいがけ、酒造業/国学)	J 3 6 9 0
友石山人(ゆうせきさんじん)	→	健斎(けんさい・山本やまもと、藩士/儒者)	I 1 8 8 9

D4605 **有節**(ゆうせつ;道号・瑞保ずいほ/周保;法諱、俗姓;市村) 1548-1633<sup>86</sup> 近江の臨濟僧;祐谷瑞延門、



祐谷の法嗣/相国寺93世/鹿苑院住、1595豊臣秀次命の「謡抄」の編集責任(注釈主管)、詩:文禄・慶長・元和期の各種和漢聯句に参加、昕叔頭暉・智仁親王の師、英甫永雄と交流、「下火拈香」「有節瑞保入寺一会」1591-96「鹿苑日録」著、1595-1622和漢聯句に12回参加、[有節瑞保の号] 東湖/生闇

- D4606 **友雪**(ゆうせつ・石田いだ、通称;少左衛門)?-? 江前期近江海津出身の能役者;観世身愛ただか門、書家;光悦流/連歌作者、1620-3身愛編纂「元和卯月本全百番」刊行(節付など記入)、1631「三十六歌仙図」(;1630長谷川左近画)を海津天神社に奉納、38(寛永15)「蘭曲集」書写
- D4607 **友雪**(ゆうせつ・海北かいほう、名;道暉/道輝、友松の長男)1598-1677<sup>80</sup> 絵師;父門、のち古画を追慕、狩野画風に近い、禁裏・院中・東福門院の絵師、1664(寛文4)隠元に参禅;偈を受、「空也上人絵詞伝」「総持寺縁起絵巻」「法金剛院略縁起」「太平記絵」画、[友雪(;号)の通称/法号]通称;忠左衛門、法号;覚翁友雪斎道暉
- D4608 **友雪**(ゆうせつ・青木あおき、別号;松水軒)?-? 大阪の談林俳人:由平・益友・西鶴らと句会を興行、1678「大坂檀林三日桜千句」催/編、1679「両吟一日千句」編、1681賀子「山海集」入、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、[山桜雲やとぎ出す高蒔絵](大坂檀林三日桜千句)、1677大坂本覚寺で興行[西鶴大句数おおくず]の執筆しゆひつ青木藤兵衛友浄は一族か?
- D4609 **幽雪**(ゆうせつ・池上いけがみ) ? - ? 謡曲音韻研究;1697「当流謡百番仮名遣開合」著
- D4610 **遊節**(ゆうせつ・滝田たきた) ? - ? 江前期兵法家/軍書読として秋田で太平記講釈、羽後秋田藩士今村幽山・梅津敬忠・福原資央に統伝孔明流軍学を教授、「統伝秘図蔵書惣論之辨」「三略講解校訂」著、[遊節(;号)の別号/変名]別号;友節/友説、変名;滝川益長・輝光・友護、変名;熊谷三郎兵衛(由比正雪の残党と称す)
- H4665 **友雪**(ゆうせつ・山路やまじ、) ? - ? 江中期/歌人;宮川松堅門、1722松堅[倭譚五十人一首]入、[里々の散りつくさずば春霞かゝるみ山の花はたづねじ](倭譚五十人一首:39尋花、かゝる:[霞がかかる]と[斯くある]を掛ける)
- D4611 **有節**(ゆうせつ・堤つみ/本姓;石川)?-? 江中期江戸の儒者;太宰春台門、一橋家に出仕、1752(宝暦2)「春台先生紫芝園稿」編、[有節(;名)の字/通称]字;仲文、通称;文右衛門
- D4612 **雄節**(ゆうせつ・服部はつとり/初姓;黒川、別名;立卓)1802-42<sup>41</sup> 江戸の医家の生/棋士(碁)、服部因淑いんしゆく(幻庵因碩)が井上家に入籍後に代わりに因淑の養子になる、1832(天保3)5段で御城碁に初出仕/のち7段、1837「石配自在」著
- D4613 **有節**(ゆうせつ・滝沢たきざわ/沢)1805-72<sup>68</sup> 信濃上田在生塚の大工/俳人:碓嶺門、江戸で碓嶺の執筆役、諸国行脚/1837京の蒼虬門/1840四条通立売町住/一時近江大津住、明治初年祇園下河原鷺尾丁に移住、関西旧派俳諧屈指の存在、「俳諧拾葉集」編、1843「花せんふ」45「かみかせ帖」45-55「芳新集」/66「華廼井集」「岩城山句集」編、[有節(;号)の名/通称/別号]名;元衡、通称;与四郎、別号;椿海/五仲庵/陽直斎/嵐堂/俳波羅密
- |               |   |                        |           |
|---------------|---|------------------------|-----------|
| 有節(ゆうせつ・鶴舎)   | → | 有節(ありとき・鶴舎つるや/武田、国学/俳) | F 1 0 4 9 |
| 有節(ゆうせつ・竹内)   | → | 義方(よしかた・竹内/源、絵師/故実家)   | C 4 7 7 0 |
| 有節(ゆうせつ・西村)   | → | 忠実(たださね・西村にしむら、茶商/歌人)  | Y 2 6 8 5 |
| 有節(ゆうせつ・湯谷)   | → | 維熙(これひろ・湯谷ゆや、国学者)      | R 1 9 4 9 |
| 友説(ゆうせつ・横山)   | → | 玄周(げんしゅう・横山よこやま、鍼医)    | J 1 8 6 3 |
| 友節(ゆうせつ・渡辺)   | → | 蒙庵(もうあん・渡辺わたなべ、藩医/漢学)  | 4 4 4 0   |
| 由雪(友雪ゆうせつ・沢田) | → | 由健(ゆうけん・沢田さわだ、俳人)      | B 4 6 4 0 |
| 宥節(ゆうせつ・野間)   | → | 友真(ともまさ・野間、医者)         | Q 3 1 5 6 |
| 有雪軒(ゆうせつけん)   | → | 澄固(ちようこ;法諱、社僧/紀行)      | I 2 8 1 8 |
- D4614 **幽仙**(ゆうせん;法諱、別法諱;幽仁、名;末実、藤原宗道男)836-900<sup>65</sup> 平安前期天台僧;859得度受戒、円仁門、895律師/899延暦寺別当/仁和寺初代別当を務める、西坂本の月輪寺に急死、歌人:古今393/395(僧正遍昭と唱和)、



[別れをば山の桜にまかせてむ止めむとめじは花のまにまに](古今;八離別393)、  
(比叡山の桜の下で人々と別れ帰る時の詠)

- D4615 **有任**(ゆうぜん;法諱・通称;榮泉房)?-? 戦国期天文慶長1532-1615頃;真言僧、  
高野山で悉曇学修学、和泉・安藝に住、「悉曇十八章建立抄」「心経私直談」「梵文伝来事」著
- D4616 **友詮**(ゆうせん) ? - ? 戦国期安藝宮島の連歌宗匠
- D4617 **有詮**(有詮ゆうせん;法諱・号;成円房)?-? 江前期修験僧;筑前英彦山大権現の先達、権律師、  
1644(寛永21)宣度大先達を務める/のち伝灯大越家法印、1648「彦山峯中記」
- D4618 **友仙**(ゆうせん・有馬ありま) ? - ? 近江坂本の医者・俳人;松永貞徳門、  
1653貞徳「紅梅千句」主催(師の教えを直接請うため興行、  
貞徳の発句[紅梅やかの銀公のからころも]百韻に始まる)、  
[白虎か竹の林のまだら雪](紅梅千句;第九百韻発句)、  
[鶴の巢か門松にかくるかざり藁](紅梅千句;末尾追加発句)、  
1656貞室「玉海集」/76西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[友仙(;号)の通称/別号]通称;意庵、別号;壽白じゅはく(;医号)
- G4640 **幽船**(ゆうせん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
- D4619 **融仙**(ゆうせん;法諱・石雲せきうん;道号)?-? 江前期筑前内野村浦谷住の曹洞僧:  
長崎皓台寺4世独庵玄光門/1712檜尾山普聞律師より戒を受、1719刊「叢林葉樹」
- D4620 **友扇**(ゆうせん・佐藤さとう) 1661- 1730 70 京の俳人:似船門、廬山寺通大宮西に住、  
舟露の兄、1691(元禄4)「友扇批点発句帖」評、1691江水「元禄百人一句」入、  
[煤掃すはきの寝起きに拝む竈かどかな](元禄百人一句;64/煤掃は旧暦12月13日)  
[友扇(;号)の別号]杏花亭/桂花庵/桂花翁
- E4669 **友専**(ゆうせん) ? - ? 江中期大和今井町の俳人、  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、  
[名と徳の重きを問ふや冬牡丹](しぐれの碑/発句)
- D4621 **融川**(ゆうせん・狩野かのう/本姓;藤原、昆信男) 1778-1815切腹 38 浜町5世狩野家5世/1799奥絵師、  
1808法眼、作品の金砂子の厚薄を咎められ下城途中で切腹、「草花写生」画、  
[融川(;号)の名/別号]名;寛信、別号;友川/青梧斎、法号;青梧斎日行
- D4622 **友仙**(ゆうせん・天羽あもり) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃阿波の医者、  
1798「二神伝」、「医言緒録」著
- D4623 **猶川**(ゆうせん;号・大田垣/太田垣おたがき、名;七精)?-1819 但馬関宮の心学者:京の手島堵庵門、  
京で医術修学;帰郷し医を開業、1787頃敬忠舎を創設、医業を弟に譲渡/心学の普及に尽力、  
1797(寛政9)「御代の腹鼓」著
- D4624 **祐仙**(ゆうせん;法諱・字;寿山)?-? 江後期天台僧;上州渋川の真光寺47世、権僧正、  
1823「頭密五重相伝掌筌」40「悉曇本章頌」著
- 友千(ゆうせん・倉谷) → 友子(ともゆき・倉谷、医/歌人)
- 友佐(ゆうせん・村上) → 冬續(とうれい・村上、医/詩人) I 3 1 4 4
- 由仙(ゆうせん・檜林) → 忠綱(ただつな・檜林ならばやし、医者/和学) Y 2 6 7 7
- 祐宣(すけせん・中臣) → 祐宣(すけのり・中臣なかとみ/東地井、神職) G 2 3 9 1
- 祐詮(幽仙/祐仙ゆうせん・藤田) → 祐詮(すけあき・藤田ふじた、藩士) F 2 3 9 5
- 遊仙(ゆうせん・橘) → 元景(もとかげ・橘たちばな/浦、医者) C 4 4 2 2
- 幽仙(ゆうせん;法号) → 正盛(政盛まさもり・中根/近藤、幕臣) H 4 0 9 9
- D4625 **有禅**(祐禅ゆうぜん;法諱・得業、永縁えいえん/ようえん男) 1084-1126 43 興福寺花林院の法相僧;得業、  
清水寺別当/1124(天治元)父永縁より中宮璋子の興福寺東円堂供養の賞を譲られ法橋、  
歌:1124永縁催?「奈良花林院歌合」右方参加、後葉集・檜葉集入、金葉解63/詞花集179、  
[別れ路の草葉をわけむ旅衣たつよりかねてぬるゝ袖かな]、  
(詞花;別179、親に具し他国に行く弟子の童に装束を贈る時の詠/裁つと立つを掛る)  
[たきのうへのみふねの山のほととぎすさしはへいづちなきてゆくらむ](檜葉:夏137、  
万葉242[滝の上の三船の山に居る雲のつねにあらむと我が思はなくに])
- H4658 **祐禅**(ゆうぜん;法諱、) ? - ? 鎌倉南北期僧;浄土寺門徒/権律師、  
1350-54公文職、1350(観応3)承澄著「悉曇字記正決」を书写、歌人;1345刊「藤葉集」入、

[おもはずよあふせたえぬる水無瀬河ありて月日をすごすべしとは] (藤葉;恋591)

- D4626 **友禪**(ゆうぜん・宮崎みやざき) 1654-1736 83 江前中期の画工:友禪染創始者とされる、元禄1688-1704頃京の東山知恩院の門前に住;扇面・小袖模様を画き名声、門弟日置友尽斎清親の協力で友禪染技法を創始?、1692(元禄5)「余勢ひいなかた」著、「梶の葉」「和歌笑眉草」画
- D4627 **祐全**(ゆうぜん;法諱・法名;得誉) ?-? 江中後期江戸の浄土僧;目黒祐天寺6世:祐海門、1759(宝暦9)祐海より祐天大僧正正伝法口訣と伝法法具を継承、1795芝増上寺大僧正智堂より教化を賞される、1808「祐天大僧正利益記」補
- D4628 **雄禪**(ゆうぜん;道号・宗虎そうこ;法諱、俗姓;服部) 1763-1857長寿95 美濃楡俣の臨濟僧;1770(8歳)伊勢の瑞雲庵頤心門;出家、江戸竜興寺の天啓禪威門;嗣法/1803竜興寺住持、1813京妙心寺住持/1849禪師号を贈与される、「雄禪宗虎禪師語録」著、  
[雄禪宗虎の初法諱/号]初法諱;宗庸、号;如是室/妙性宝覚禪師
- 友善(ゆうぜん・住友) → 友善(ともよし・住友すみとも、金融業/歌) Q 3 1 9 9  
有善(ゆうぜん・今泉) → 有善(ありよし・今泉いまいずみ/福井、幕臣/国学) H 1 0 0 5  
幽然(ゆうぜん・本沢) → 斧之助(おののすけ・本沢もとざわ、兵学者) B 1 4 1 0  
祐仙院(ゆうせんいん) → 暢子(のぶこ・前田まえだ暢、歌人) B 3 5 3 7  
遊泉院(ゆうせんいん) → 法梁(ほうりょう;法諱、真宗高田派僧) C 3 9 7 2  
悠然院(ゆうぜんいん/ゆうねいん) → 宗武(むねたけ・田安/徳川/松平/源、国学者/歌人) 4 2 0 6  
遊仙窟(ゆうせんくつ) → 義讓(ぎじょう;法諱・了淳、真宗僧) K 1 6 9 5  
幽泉齋(ゆうせんさい) → 彦太郎(ひこたろう・菊屋、目薬商、歌人) 3 7 6 6  
檜川釣客(ゆうせんちようきやく) → 念斎(ねんさい・大縄おおなわ、藩士/詩人) 3 4 6 4  
幽泉亭(ゆうせんてい) → 是夢(ぜむ・幽泉亭、天台僧/俳人) L 2 4 4 4  
悠然亭(ゆうぜんてい) → 蒙(もう・石原いしはら、医者) 4 4 3 9  
悠然亭(ゆうぜんてい) → 朝保(ちようほ・宜湾ざわ、琉球廷臣/歌) J 2 8 8 5  
湧泉堂真清(ゆうせんどうしんせい) → 笑顔(えがお・美岡垣みづがき、書肆/戯作) 1 3 5 2  
有銭堂清霞(ゆうせんどうせいか) → 清霞(せいか・有銭堂、河東節) 2 4 7 8  
悠然夜逸(ゆうぜんやいつ) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9
- D4629 **猷祖**(ゆうそ・中尾なかお/本姓;藤原、奥沢興仲男) 1799-1869 71 京油小路四条北の医者、中尾に改姓、父を継嗣し主殿寮官吏、1840三河介/51従六位/のち正六下;主殿大允、1804(文化元)「薬性解」著、  
[猷祖(;号)の名/字/別号]名;基之/昴きよ・つとむ、字;功一/尚綱、別号;曝々齋こうこうさい
- 有素(ゆうそ・林野/小石) → 元俊(げんしゆん・小石こいし、医者) J 1 8 7 3
- D4630 **宥宗**(ゆうそう;法諱・大寛たいかん;字) ?-? 江前期武州葛飾郡高野村の真言宗永福寺住僧、1077(正保4)「竜燈山伝燈記」著
- D4631 **祐崇**(ゆうそう;法諱) ? - 1509 戦国期上総の浄土僧;鎌倉光明寺7世慶順門;出家/のち1482光明寺8世/1895後土御門天皇の命で宮中で浄土教を講説;光明寺は勅願寺となり関東総本山とす、紫宸殿で十夜法要を修す;のち光明寺の法式とす、「観経要義鈔」「二蔵頌義見聞」「円戒略法式」/1490「阿弥陀経秘直談抄」著、  
[祐崇(;法諱)の法名]長蓮社観嘗如空浄業
- 圍窓(ゆうそう・田本/深川) → 秋色(2世しゅうしき・田本、野菊女、俳人) H 2 1 5 6  
有宗(ゆうそう・源) → 有宗(ありむね・源、歌人) B 1 0 9 9  
有宗(ゆうそう・安倍) → 有宗(ありむね・安倍、陰陽師) I 1 0 9 8  
祐相(ゆうそう・伊東) → 祐相(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌) G 2 3 6 8  
祐壮(ゆうそう・後藤) → 祐壮(すけまさ・後藤ごとう、藩校国学教授) I 2 3 5 2  
祐叟(ゆうそう・春海) → 痴漸(ちぜん・春海はるみ、茶人/鑑定/商家) N 2 8 3 5  
莠叟(ゆうそう・高野) → 武貞(たけさだ・高野、藩士/記録/地誌) O 2 6 3 6  
雄曹(ゆうそう・芳賀) → 細道(ほそみち・浅竜庵、医者/狂歌) E 3 9 4 3  
幽叟(ゆうそう・藤井) → 高雅(たかまさ・藤井ふじい、神職/歌人) D 2 6 7 4
- H4662 **祐増**(ゆうそう;法名) ? - ? 鎌倉南北期;法師・歌人;1330北野宝前和歌参加、  
[いづる日のかげを待ちえてあふひぐさなびくすゑばに山風ぞ吹く] (北野歌;7/山朝葵)

- D4632 **勇蔵**(ゆうぞう・中田なかだ/なかつ、彦左衛門経武2男) 1764-1834 71 陸奥弘前藩士；  
1796藩校稽古館の初代数学学頭、竹内甚左衛門と翌年の暦作成(稽古館暦)、  
江戸で吉田軒負・高橋至時・間重富・伊能忠敬門、稽古館廃止後；学問所数学御用、  
町奉行/国産片御用掛を歴任、「投掲実記」著、  
[勇蔵(；通称)の名/字/別通称]名；武軌、字；子量、別通称；兵蔵/閑智
- D4633 **雄蔵**(ゆうぞう・太田おた、初姓；河原) 1807-56 50 江戸横山町の商家(or糸屋丁字屋)の生、  
棋士；安井家門/1848七段に進級；剃髪を嫌い御城碁を勤めず、太田に改姓、天保4傑の1、  
1856(安政3)越後に遊び梶屋敷の旅舎に病氣；客死、1841「西征手談」編、  
[雄蔵(；通称)の名/字]初名；卯之介/良輔(；河原姓)、字；正典
- 雄蔵(ゆうぞう・大谷；変名)→ 八郎(はちろう・清河/清川/齋藤、教育/尊攘) F 3 6 0 1
- 雄三(ゆうぞう・加藤) → 雄山(ゆうざん・加藤かとう、肝煎/神道家) B 4 6 9 6
- 雄三(ゆうぞう・妹尾) → 浴風(よくふう・妹尾せのお/佐上、藩士) N 4 7 5 1
- 由蔵(ゆうぞう・須藤) → 由蔵(よしぞう・須藤すどう、商家/日記) D 4 7 8 8
- 祐像(ゆうぞう・伊藤いとう) → 祐像(すけかた・伊藤いとう、禊教伝道/歌) L 2 3 3 5
- 祐蔵(ゆうぞう・阿久津) → 政房(まさふさ・阿久津あくつ、藩士/詩人) H 4 0 1 3
- 祐蔵(ゆうぞう・高垣) → 重枝(しげえ・高垣たかがき、藩士) Q 2 1 6 5
- 祐蔵(ゆうぞう・西川) → 祐尹(すけただ・西川にしかわ、絵師/絵本) G 2 3 4 0
- 祐蔵(すけぞう・長和) → 千尋(ちひろ・長和ながわ/高橋、国学者) N 2 8 2 3
- 祐右蔵(ゆうぞう・戸川) → 雪年(せつねん・戸川とがわ、俳人) L 2 4 3 5
- 有造(ゆうぞう・小山) → 肆成(しせい・小山こやま、医者/牛痘接種) U 2 1 1 0
- 有蔵(ゆうぞう・高木) → 慎三(しんぞう・大橋おおはし/橋本、土佐勤王党) P 2 2 2 8
- 勇造(ゆうぞう・沼) → 梧窓(ごそう・沼ぬま、医者) N 1 9 0 0
- 勇三(ゆうぞう・河原) → 桃水(とうすい・河原/五々庵、医者/俳人) F 3 1 7 8
- 勇蔵(ゆうぞう・大村) → 恒全(つねあき・大村おむら、歌人) F 2 9 4 2
- 勇蔵(ゆうぞう・鈴木) → 修安(ながやす・鈴木すずき、藩士/国学者) N 3 2 5 4
- 勇蔵(ゆうぞう・高橋) → 乗寛(のりのぶ・高橋たかはし/佐野、国学) I 3 5 9 6
- 勇蔵(ゆうぞう・原田) → 延行(のぶゆき・原田はらだ、商家/国学者) J 3 5 7 1
- 勇蔵(ゆうぞう・安原) → 種友(たねとも・安原やすはら、国学/歌人) 2 7 0 8
- 融蔵(ゆうぞう・小国) → 玉淵(ぎよくえん・小国おぐに、儒者) I 1 6 8 3
- 融蔵(ゆうぞう・皆川) → 篁斎(こうさい・皆川みながわ、儒者) B 1 9 1 6
- 融蔵(ゆうぞう・小国) → 嵩陽(すうよう・小国おぐに、儒者/国事) B 2 3 0 4
- 友三(ゆうぞう・奥西) → 友三(ゆうさん・奥西おくにし、俳人) G 4 6 6 6
- 友三(ゆうぞう・寺崎) → 梅坡(ばいは・寺崎てらさき、儒者) B 3 6 9 5
- 挹蒼斎(ゆうそうさい・近藤) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7
- 友草子(ゆうそうし) → 透玄(とうげん・夏井、医者) D 3 1 4 0
- 有則(ゆうそく・紀) → 友則(ともり・紀き、廷臣/歌人) 3 1 6 1
- 有則(ゆうそく・辻/土生) → 横塘(おうとう・春田/角野/海老名、儒者) C 1 4 1 5
- 有則(ゆうそく・長谷川) → 有則(ありのり・長谷川はせがわ、歌人) I 1 0 2 7
- 有則(ゆうそく・原田) → 鵲斎(せきさい・原田はらだ、医者/詩歌) K 2 4 0 4
- 有則(ゆうそく・原田) → 保孝(やすたか・原田はらだ、和算家) B 4 5 8 8
- 有則(ゆうそく・石尾) → 有則(ありのり・石尾いしお、藩士/歌/宗教) G 1 0 9 9
- 雄足(ゆうそく・氏家) → 雄足(たけたり・氏家うじいえ、国学者) V 2 6 8 3
- 祐則(ゆうそく・伊東) → 祐則(すけのり・伊東/伊藤いとう、藩士) G 2 3 9 2
- 祐続(ゆうそく・磯部) → 祐続(すけつぐ・磯部いそべ、神職/国学) L 2 3 4 3
- 有職四天王**(ゆうそくしてんのう)：江戸前中期の優れた故実家
- 時方(ときかた・平松) 1651-1710 J 3 1 0 3
- 基量(もとかず・東園ひがしぞの) 1653-1710 C 4 4 2 6
- 定基(さだもと・野宮) 1669-1711 2 0 2 6
- 公澄(きんすみ・滋野井) 1670-1756 I 1 6 0 7
- 西卒(ゆうそく・南部) → 重信(しげのぶ・南部・花輪/七戸、藩主/歌) C 2 1 7 0

- 木綿苑(ゆうぞの) → 千秋(ちあき・横井、藩士/国学者/歌) 2801  
 木綿園(ゆうぞの) → 保美(やすよし・安斎あんざい、名主/歌人) F4524  
 木綿園(ゆうぞの) → 教子(のりこ・安斎あんざい/北野、保美の妻/歌人) H3519  
 H4660 有尊(ゆうそん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の法師、1237刊[檜葉集]入、  
 [冬さむみののがひの駒のいかならむ霜にもれたる草のはもなし](檜葉;冬303)  
 D4634 西尊(ゆうそん;法諱) 1616 - 168570 江前期加賀金沢の浄土僧;江戸芝増上寺の露白門、  
 江戸下谷幡随院住職/京の金戒光明寺34世、阿弥陀堂改築/善導大師一千年遠忌を務む、  
 1681源崇院に隠棲、「浄家伝書」「曼荼羅鈔」「三経略解」著、  
 [西尊(;法諱)の法名]心蓮社叶誉故阿見竿  
 D4635 猶存(ゆうそん) ? - ? 姫路の俳人;1692才麿「椎の葉」4句入(112/123/142157)、  
 [風の簸ひて軒はたるもうとし草の窓](椎の葉;112/風に煽られ螢も近づかない)  
 猶存(ゆうそん・小山) → 杉溪(三逕さんけい・小山おやま、儒/蘭学) E2027  
 猶存(ゆうそん・高垣) → 重枝(しげえ・高垣たかがき、藩士) Q2165  
 猶存(ゆうそん・今) → 幹斎(かんさい・今こん、藩侍医/詩文) V1552  
 檜邨(ゆうそん・岡) → 吉胤(よしただね・岡おか、藩士/国学者) E4739  
 宥尊(ゆうそん;初法諱) → 尊実(そんじつ;法諱、天台園城寺僧正) F2544  
 猶存舎(ゆうそんしゃ) → 舒長(のぶなが・安達あだち、儒/詩歌) C3555  
 友太(ゆうた・春日) → 易重(やすしげ・春日かすが/藤原、神職/国学) F4576  
 由太(ゆうた・千々和) → 俊(たかし・千々和ちぢわ、医者/国学/歌) Y2620  
 祐太(ゆうた・小出) → 直城(なおき・小出こいで/大江、国学者/歌) M3206  
 熊太(ゆうたい・石井) → 熊太(くまた・石井いし、藩士/武道家) D1742  
 友泰(ゆうたい・上田) → 友泰(ともやす・上田うえだ、藩士/軍学) Q3174  
 勇太(ゆうたい・石川) → 大椿(たいちん・石川いしかわ、儒者/詩) K2666  
 D4636 勇大(ゆうだい;法諱) ? - ? 江前期京の浄土僧;円山法雲禅庵の住僧、  
 1658刊「扶桑往生伝」著  
 D4637 熊台(ゆうだい・杉山すぎやま) 1755-182268 伊予松山藩士/儒者;古義学派尾崎訥斎門、  
 古文辞学派円光寺僧明月門、1790幕府の異学禁令に朱子学に転向、江戸在勤;古賀精里門、  
 1805藩校考徳館督学、日下陶溪・鈴木良翰・谷寛得の師、「熊台詩鈔」著、「熊台遺稿」、  
 [熊台(;号)の名/字/通称/別号]名;惟修/惟脩/檀、字;公敏、通称;平之丞/平兵衛/平之允、  
 別号;東郭/遜志斎  
 優大(ゆうだい・中西) → 弘繩(ひろつな・中西/度会、神職/国学) G3741  
 祐代(ゆうだい・西川/武村) → 祐代(すけよ・西川いしかわ、絵師/軽口本) D2364  
 幽提(ゆうだい) → 成直(なりなお・源、武将/歌人) H3283  
 有椎翁(ゆうたいおう) → 雲裡(うんり・渡辺、無名庵5世/俳人) B1263  
 有待居主人(ゆうたいきよしゅじん) → 梧楼(ごろう・那珂なか/江楮、藩士/儒者) G1956  
 有沢斎(ゆうたくさい) → 貞庸(さだつね・有沢ありさわ、藩士/記録) I2065  
 融達(ゆうたつ・石井) → 雅穎(まさかひ・石井/清原、和算家) B4065  
 友達(ゆうたつ・永邨/屋代) → 師道(しどう・屋代/源/永邨、幕臣/書家) V2126  
 優陀那(ゆうだな) → 日峰(にちほう;法諱・義斎;字、日蓮僧) H3312  
 由多禰(ゆうたね・潮田) → 藻苅(もがり・潮田うしおだ、藩士/国学) J4436  
 H4604 猶太郎(ゆうたろう・中村なかむら) 1728-188356 武蔵多摩郡上長淵の名主、  
 国学;権田直助(1809-87)門、  
 1870(明治3)斎藤眞指の学校建設建言書に4名の名主で副申し長淵村玉泉寺に開校、  
 (他の名主は小丹波村名主原島定平・沢井村上分名主福田勝三・上広瀬村清水寛一郎)  
 H4633 勇太郎(ゆうたろう・宮和田みやわだ/本姓;平、光胤長男) 1839-7739 下総相馬郡宮和田村名主の家の生、  
 国学者;平田鍊胤門、剣術;千葉周作門、尊攘運動家、  
 1863(文久3)等持院足利三代将軍木像の三条河原梟首事件に参加;逮捕/菰野藩預け、  
 [勇太郎(;通称)の名/号]名;胤影たねかげ、号;竹廼舎  
 右太郎(ゆうたろう・福知) → 兢(きょう・福知ふくち/源、幕臣/歌) S1687  
 雄太郎(ゆうたろう・楠瀬) → 大枝(おおえ・楠瀬くすのせ、藩士/国学/画) C1474



- 雄太郎(ゆうたろう・伊島) → 重枝(しげえ・伊島いじま、藩士/歌人) N 2 1 2 5  
 勇太郎(ゆうたろう・丸山) → 作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3  
 勇太郎(ゆうたろう・郷) → 実善(さねよし・郷ごう、国学/歌) N 2 0 3 5  
 勇太郎(ゆうたろう・柏淵) → 静夫(しずお・柏淵かしづら、里正/儒・国学) N 2 1 9 9  
 勇太郎(ゆうたろう・清水) → 広景(ひろかげ・清水しみず、国学/歌人) J 3 7 7 6  
 勇太郎(ゆうたろう・的場) → 勝督(かつただ・的場まとは、藩士/歌人) V 1 5 7 9
- D4638 游湛(ゆうたん;法諱・理伝;字) 1639-1710 72 真言律僧:江戸湯島靈雲寺開基の浄厳門、博覧強記;注釈書を多く著す、下野那須の般若寺中興、宥偏・覚運・芳仙の師、「卍字義註註」「般若心経秘鍵註註」「声字義註註」「秘蔵宝鑰註註」「菩提心論註註」、「辨頭密二教論註註」「即身成仏義註註」著
- D4639 宥智(ゆうち;法諱・賢乗;字) 1519-69 51 戦国期但馬東河郡宮村の真言僧:高野山入、高野山南院の賢全僧都門;金剛・胎蔵両部の大法を修学/1544中院流奥義の印可を受、1551賢全の跡を継嗣;南院住/のち宝性院快旻門;小野・広沢の諸流を修学、「明算流大事私記」「子嶋許可作法」「秘蔵記聞書」「宝伝対受記」「安祥寺諸尊法伝授目録」著
- D4640 友知(ゆうち・塩田、冷泉) ? - ? 長州萩俳人;重頼系、1664重頼「佐夜中山集」入、種寛「続詞友俳諧集」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」3首入、  
 [大空を夜歩よりきしつゝ明かせるは月の桂の男ざがりか](古今夷曲集;三秋歌)
- G4620 由池(ゆうち、多賀庵 6 世) 1825- ? 安藝広島 of 俳人;1838和切門、多賀庵を継承、1856菊年「やまかつら」入、[いさよひに活直いけおし置て芒かな](「やまかつら」)
- 有恥(ゆうち・古久保) → 実行(さねゆき・古久保ふるくぼ、神職/国学) P 2 0 2 8  
 雄雉(ゆうち・梶原) → 景紹(かげつぐ・梶原かじわら、郷土史家) E 1 5 2 2
- D4641 幽竹(ゆうちく・徳山とくやま) ? - ? 江前期岩代会津藩士/俳人、1677(延宝5)「儒俳諧百韻」著、  
 [幽竹(;号)の別号]幽竹子/芳雪軒
- 友竹(ゆうちく;号) → 三江(さんこう;道号・紹益・臨濟僧/聯句) M 2 0 1 3  
 友竹(ゆうちく;剃髮号) → 師宣(もろのぶ・菱川/菱河、浮世絵師) H 4 4 6 6  
 友竹(ゆうちく・深川) → 水貫(みづら・深川ふかがわ、国学/詩歌) K 4 1 3 0  
 有竹(ゆうちく・細川) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7  
 有竹(ゆうちく・宮崎) → 露牛(ろぎゅう・宮崎みやざき、商家/俳人) 5 2 6 7  
 有竹居(ゆうちくきよ) → 万和(まんわ、俳人) K 4 0 8 8  
 有竹居(ゆうちくきよ) → 貞一(さだかず・池田/紀、幕臣/和算家) H 2 0 9 4  
 友竹斎(ゆうちくさい) → 寛胤(ひろたね・轟木とどろき、藩士/尊攘) K 3 7 3 2  
 友竹斎主人(ゆうちくさいしゅじん) → 鳩邨(きゅうそん・三浦みづら、医者/儒者) M 1 6 7 8  
 幽竹山窓(ゆうちくさんそう) → 香村(こうそん・遠藤・猪狩いかり、絵師/詩) K 1 9 4 1  
 幽竹窓(ゆうちくそう) → 多一郎(たいちろう・高橋、藩士/尊王派) K 2 6 6 5  
 友竹艸居(ゆうちくそうきよ) → 梅逸(ばいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3  
 有竹亭(ゆうちくてい) → 南山(なんざん・津田、俳人) J 3 2 0 7  
 幽竹堂(ゆうちくどう) → 幸佐(こうさ・高田、俳人/仮名草子作) B 1 9 1 0  
 有智子内親王(ゆうちしなしいんのう) → 有智子内親王(うちこないしのう、嵯峨天皇皇女/漢詩文) 1 2 7 1  
 有知新斎(ゆうちしんさい) → 養斎(ようさい・奈良なら/青山、藩士/儒者) 4 7 9 7
- D4642 有中(ゆうちゆう;法諱) ? - ? 江中期近江彦根の真宗僧:  
 愛知えち郡稲村薩摩善照寺住/俳人:祇川門、蕉門俳諧、1779「風の蟬」編、飛川ひせんの師、  
 [有中(;法諱)の号]蒼浪観/滄浪観
- G4621 有中(ゆうちゆう・星鳥亭) ? - ? 70歳存 江後期安藝仁方の俳人、1843筵史「やまかつら」入;  
 [道はたへ来るや田植のあまり水](「やまかつら」)
- 有中(ゆうちゆう・桂) → 金溪(きんけい・桂かつら、藩士/儒者) I 1 6 9 8  
 友忠(ゆうちゆう・岡本/小川) → 友忠(ともただ・小川/岡本、藩士/天文) P 3 1 6 9  
 友忠(ゆうちゆう・佐田) → 友忠(ともただ・佐田さだ/藤原、国学/勤王) V 3 1 3 0  
 祐著(ゆうちよ・河端) → 道碩(どうせき・河端かわはた、和算家) F 3 1 9 7
- D4643 祐朝(ゆうちよう;法諱・蓮実房;号、下野僧都) ?-? 1282存 天台学僧:恵心流静明・心賀・心聡・良意門、

伊賀山田郡往生院の学頭/師説を中心に天台三大部の注釈書編纂;「三大部伊賀抄」著、  
伊賀流天台学の代表者、宏賢の師

友張(ゆうちやう・小見山) → 天老(てんろう・小見山、医/俳人) E 3 0 6 2  
有長(ゆうちやう) すべて → 有長(ありなが)  
有頂(ゆうちやう・川北) → 朝鄰(ちやうりん・川北かわきた、数学者) K 2 8 1 3  
祐長(ゆうちやう・中臣) → 祐長(すけなが・中臣なかとみ/辰市、神職) G 2 3 7 2  
祐長(ゆうちやう/すけなが・平野) → 繁十郎(しげじゅうろう・平野ひらの、唐通事) R 2 1 0 6  
祐長(ゆうちやう/すけなが・清水) → 春道(しゅんどう・清水しみず、藩の医者) L 2 1 6 1  
由徴(ゆうちやう・朝田) → 由豆伎(ゆずき・朝田/岸本、由豆流男/国学) G 4 6 0 5  
幽暢園(ゆうちやうえん) → 聴雪(ちやうせつ・平井、儒/詩人) J 2 8 2 5  
有聴堂(ゆうちやうどう) → 天嶺(てんれい;道号・性空;法諱、臨濟僧) E 3 0 6 0  
雄長老(ゆうちやうろう) → 永雄(えいゆう・英甫、臨濟僧、近世狂歌祖) 1 3 0 5  
友直(ゆうちよく) すべて → 友直(ともなお)  
祐直(ゆうちよく/すけなお・乾) → 荘嶽(そうがく・乾いぬい、藩士/詩人) G 2 5 6 1  
雄直(ゆうちよく・木村) → 雄直(たけなお・木村きむら、国学者) W 2 6 6 8  
有枕斎如芸(友枕斎-ゆうちんさいじよげい) → 貞知(さだとも・伊勢、故実家) I 2 0 9 0  
有椎翁(ゆうつゐおう) → 雲裡坊(うんりぼう、渡辺、俳人) B 1 2 6 3  
祐通(ゆうつう・鳥丸) → 豊光(とよみつ・鳥丸からすまる、廷臣/歌人) R 3 1 6 6  
夕つつの屋(ゆうつづのや) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4

G4625 由貞(ゆうてい・小野おの、名;見伯)?-? 河内松原の俳人;1656梅盛「鸚鵡集」/57西武「砂金袋」入、  
狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、

[去年ごぞまでの貧報がみこ脱ぎ捨てて春きにけりな福の上下かみしも](夷曲集;一春11)、  
(貧報がみこは貧乏紙子;貧乏神に掛る/来と着・福の神と礼服袴を掛る)

G4667 由貞(ゆうてい・和気わけ) ? - ? 江前期大阪の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[初雁も廿日はおそし新参](手鑑/雁の渡来は秋の出代り8月2日より20日位遅い)

幽提(ゆうてい) → 成直(なりなお・源、武将/歌人) H 3 2 8 3  
有貞(ゆうてい・藤岡) → 有貞(ありさだ・藤岡ふじおか、算学/測量) F 1 0 3 4  
有貞(ゆうてい・船曳) → 谷園(こくえん・船曳ふなびき、医者) E 1 9 9 1  
有禎(ゆうてい→ありさだ・津田) → 有栄(ありえ・津田、藩士/儒/神道) F 1 0 2 4  
有禎(ゆうてい・葛巻) → 昌興(まさおき・葛巻かざらまき、藩士/歌) B 4 0 4 9  
有定(ゆうてい・中根) → 元珪(元圭げんけい・中根なかね、暦算家) B 1 8 6 3  
有定(ゆうてい・大西) → 有定(ありさだ・大西おおいし/岡本、神職/絵師) H 1 0 2 8  
友貞(ゆうてい・井上) → 友貞(ともさだ・井上、俳人/歌人) P 3 1 4 8  
友貞(ゆうてい・長尾) → 友貞(ともさだ・長尾ながお、神職/歌人) T 3 1 9 3  
由貞(ゆうてい・よしさだ・伊藤) → 万年(まんねん・伊藤/藤原、儒者/講説) K 4 0 7 8  
祐定(ゆうてい/すけさだ・中臣) → 祐茂(すけしげ・中臣/千鳥、神職/歌人) C 2 3 2 1  
雄貞(ゆうてい・樋口) → 雄貞(たけさだ・樋口ひぐち、農業/啓蒙書) Y 2 6 2 4  
有底窩(ゆうていか) → 韋吹(いすい・天井、商人/俳人) 1 1 9 3  
遊泥居(ゆうていきよ) → 龜輔(初世かめすけ・奈河、歌舞伎作者) 1 5 4 1

D4644 雄亭多満人(ゆうていたまひと)? - ? 戯作者:初世為永春水(2世南仙笑楚満人)門、  
1827「武者絵早学」/29「功草泰平の錦絵」著

由的(ゆうてき→ゆてき・宇都宮/俳人) → 遯菴(とんあん・宇都宮うつのみや、藩儒/詩) 3 1 6 8

D4645 勇哲(ゆうてつ:法諱) ? - ? 江後期真宗本願寺派学僧:  
「宝章聴記」「信願交際」「本典会説決採録」1857「因明入正理論聴記」著

勇哲(ゆうてつ:法号) → 邦孝(くにたか・新井あらい、幕臣/故実家) C 1 7 8 2

祐哲(ゆうてつ・小林) → 西岳(せいがく・小林こばやし、藩儒) 2 4 9 0

D4646 祐天(ゆうてん:法諱、新妻重政男)1637-1718<sup>82</sup> 磐城の浄土僧;

1645(正保2)伯父の増上寺池徳院休波に随い江戸で修学;袋谷檀通に修学/諸国行脚;布教、  
1686増上寺から牛島に隠遁;念仏修行/1699下総生実の大巖寺住持、  
将軍綱吉・母桂昌院の帰依を受く/霜房飯沼弘経寺住持/江戸小石川伝通院住寺、

1711將軍家宣の命で江戸増上寺36世/鎌倉大仏再興を發願:幕府の護持僧となる/大僧正、  
 1714真乗院に隱居;麻布竜土に没;遺骸を武蔵目黒に葬り門弟祐海が祐天寺建立、  
 「浄土宗教義講義録」「宗戒口決五重口決」/1708「十六章仮歎徳文偈」著、  
 没後伝説化;伝記「祐天上人御一代記」/読本「祐天上人一代記」など、  
 [祐天(:法諱)の法名]明蓮社顕誉愚心

柚顛(ゆうてん・皆川) → 梅翁(ばいおう・皆川みながわ、藩士/儒者) 3 6 7 0

D4647 祐伝(ゆうでん) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子集」入、  
 [花咲けと催促するや雨の声](犬子集;二666/雨は花の親という)

D4648 雄伝(ゆうでん・増田ますだ、良富男) 1693-1769 77 幕臣/1719家督継嗣;奥医/1729江戸城西丸詰、  
 1753致仕、1736「往古令法集」編、  
 [雄伝(;名)の通称/法名]通称;寿春/寿得、法名;帰信

憂天生(ゆうてんせい) → 茶溪(さけい・古賀こが/劉、幕府儒官) G 2 0 1 4

D4649 有兎(ゆうと;号・秋霽観しゅうせいかん) 1737-1801 65 江中後期;美濃派俳人:  
 1800「芭蕉翁発句集蒙引」、1803「冬の日集辨議」著

有図(ゆうと・切部) → 桃隣(とうりん・切部、太白堂、俳人) I 3 1 3 5

祐登(ゆうと→すけたか・新井) → 白蛾(はくが・新井あらい、儒者) C 3 6 8 3

D4650 游刀(ゆうとう・垂葉堂) ? - ? 近江膳所の住/能太夫か?/俳人;芭蕉門、  
 1691「猿蓑」1句入/91ノ松べっしょう「西の雲」入、93洒堂「俳諧深川」2句/94「炭俵」2句入、  
 1694泥足「其便」入、97玄梅「鳥の道」序/98「続猿蓑」4句入、  
 [ばせを翁を茅屋に招きて;涼風も出来でかした壁のこはれ哉](続猿蓑)、  
 膳所の俳人探志の句;[妻持たぬ游刀 寺住居ずまゐ]

祐等(ゆうとう・伊東) → 祐等(すけとし・伊東いとう、兵法家) G 2 3 6 2

D4651 融道(ゆうどう;法諱・勸善;字) 1723-95 73 真言智山派学僧、初め佐渡蓮華峰寺住、  
 京の六波羅蜜寺住、「即身成仏義講述」「唯識論迦記」「釈摩訶衍論玄談」「瑜伽師地論条目」、  
 1775「大乗義章科図」88「諸論宗計拔萃」93「成唯識論述記聞書」94「法苑義林聞書」外著多数

H4646 有道(ゆうどう;法諱・仙英;号) ?-1819 江中後期;出羽村山郡(山形寒河江)の曹洞宗光徳寺11世、  
 和漢学者

有道(ゆうどう・深見) → 有道(ありみち・深見ふかみ/高、歌人) G 1 0 6 7

有道(ゆうどう・高橋) → 善慶(ぜんけい・高橋たかはし、商家/歌人) O 2 4 0 5

雄道(ゆうどう;法諱) → 府貫(ふくかん;道号・雄道、曹洞僧) B 3 8 3 6

由道(ゆうどう・蓮沼) → 由道(よしみち・蓮沼はすぬま、藩士/神道家) H 4 7 3 5

由道(ゆうどう・よしみち・城) → 鞠洲(きくしゅう・城じょう、医者) K 1 6 1 0

由道(ゆうどう・神戸) → 由道(よしみち・神戸かんべ、詩人) H 4 7 3 9

祐道(ゆうどう/すけみち・伊東) → 奚疑(けいぎ・伊東いとう、藩士/儒/易学) F 1 8 4 2

祐道(ゆうどう・後藤) → 祐道(すけみち・後藤ごとう、藩士/国学者) I 2 3 5 1

祐道(ゆうどう・千鳥) → 祐道(すけみち・千鳥ちどり/中臣、神職/歌) I 2 3 8 1

祐堂(ゆうどう・松平) → 容保(かたもり・松平まつだいら、藩主/朝政) V 1 5 7 7

搦堂(ゆうどう) → 凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学) G 4 9 8 2

友徳(ゆうとく・海北) → 友松(ゆうしょう・海北かいほう、絵師) 4 6 0 4

友徳(ゆうとく・加藤) → 豈苟(かいかう・加藤かとう、儒/神道家) I 1 5 6 3

友徳(ゆうとく・守元) → 溪圃(けいほ・守元もりもと、儒者) G 1 8 6 2

祐篤(ゆうとく・賀茂) → 祐篤(すけあつ・賀茂かも、神職) G 2 3 0 0

祐篤(ゆうとく・河津) → 祐篤(すけあつ・河津かわづ/本姓;松井、医者) I 2 3 2 9

有徳院(ゆうとくいん) → 吉宗(よしまね・徳川、將軍) H 4 7 5 9

雄徳山玉雲(ゆうとくさんぎよくうん) → 信海(しんかい・豊蔵坊、社僧/狂歌/書) 2 2 1 8

祐敦(ゆうとん・鴨) → 祐敦(すけあつ・鴨かも、神職/歌) B 2 3 7 8

祐内(ゆうない・中臣) → 祐内(すけうち・中臣なかとみ、神職・歌人) J 2 3 5 2

右南(ゆうなん・楡村/河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7

幽南(ゆうなん;号) → 北禪(ほくぜん;道号・禪秀;法諱、臨濟僧) D 3 9 5 9

右楠園(ゆうなんえん) → 莘斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧) O 2 2 4 4

- D4652 **有南齋** (ゆうなんさい・鈴木すずき) ? - ? 江後期三河吉田の医社; 江馬蘭齋門、  
1830(天保)頃「痲瘡養生記」著  
勇人道 (ゆうにゆうどう; 剃髮号) → 忠利 ((ただし・神保じんぼ、兵学者) Q 2 6 0 9  
幽仁 (ゆうにん; 法諱) → 幽仙 (ゆうせん; 法諱、天台僧/歌人) D 4 6 1 4
- G4663 **有年** (ゆうねん、仁和寺) ? - ? 江前期仁和寺の僧/俳人、  
1678西鶴「物種集」入、  
[月は三五夜中扈従こしやうなみ] (物種集/前句; 雁金は十両の内わたり来て/雁金; 借金、  
十文字に飛ぶ; 十両に見立/渡奉公のひと月十五両は中小姓並の給金、  
白居易; 三五夜中新月色)  
祐年 (ゆうねん/すけとし・北田) → 堪忍舎二字守 (かんにんしゃにじもり、狂歌) R 1 5 5 9  
有年 (ゆうねん・山田) → 有年 (ありとし・山田やまだ、故実家) C 1 0 8 1  
有年 (ゆうねん・花野井) → 有年 (ありとし・花野井はなのい、医/国学者) F 1 0 5 0  
有年 (ゆうねん → ありとし・鐫木/八木) → 静修 (しずさね・八木/鐫木/橘、国学者) U 2 1 0 1  
有年 (ゆうねん → ありとし・大田) → 稻香 (とうこう・大田おおた、儒者/砲術) D 3 1 9 4  
有年 (ゆうねん・豊田) → 勝義 (かつよし・豊田とよだ、算学者) O 1 5 0 3  
有年 (ゆうねん・近藤) → 有年 (ありとし・近藤こんどう、大里正/国学) H 1 0 6 0  
有年 (ゆうねん・西村) → 有年 (ありとし・西村にむら、藤原、藩士/歌) I 1 0 2 2
- G4630 **宥任** (ゆうにん) ? - ? 室町期; 尾張熱田神宮社僧、伝灯大阿闍梨、  
連歌作者; 1423「熱田法楽連歌」連衆(5句)、  
[月までも三みつの宝の光にて] (熱田法楽; 初裏3/三種の神器/前句の貢ぎを御継とす、  
前句; 海一; 御つぎぞ露の玉金たまこがね)
- H4649 **宥仁** (ゆうにん; 法諱、号; 松筠しょういん、通称; 麟孝) 1825-6642 常陸行方郡の真言宗僧、国学者、  
常陸茨城郡の真言宗小松寺こまつじ48世  
幽仁 (ゆうにん、藤原) → 幽仙 (ゆうせん、仁和寺別当/歌人) D 4 6 1 4  
祐任 (ゆうにん・中臣) → 祐任 (すけとう・中臣/千鳥、神職/歌) C 2 3 5 0  
有任 (ゆうにん・千種) → 有任 (ありとう・千種ちぐさ、廷臣/歌人) H 1 0 9 6
- D4653 **雄仁親王** (ゆうにんしんのう、伏見宮邦家親王2男) 1821-6848 天台修験僧; 1831聖護院盈仁の付弟、  
1832親王宣下; 聖護院入寺; 得度/最後の聖護院門跡、のち熊野三山・新熊野檢校、  
1838近江園城寺156世長吏/入峰・奥駟等の修業; 修験道に達す、  
1868(慶応4)勅命で還俗; 嘉言親王と称す; 海軍総督に就任、「蓑笠相伝」「諸尊秘要」、  
「諸尊法拾遺」/1839「小木闕伽讚嘆」「略三摩耶戒儀」著、  
[雄仁(; 法諱)の俗名/通称/諡号] 俗名; 嘉言よしこと(還俗; 嘉言親王)、  
通称; 多嘉宮/巍宮たかのみや/聖護院宮/長吏宮/普賢心寺宮、諡号; 普賢心院
- G4658 **有年** (ゆうねん、仁和寺) ? - ? 江前期; 京の仁和寺住僧?、俳人;  
1673西鶴「生玉万句」初穂千句脇句/椿発句等入、  
[啼く虫の音ねは何とやら唯] (初穂; 脇句/発句西随; 今朝とかはり秋の夕といふ物あり、  
玉葉集; 秋上618読人不知; 憂世ぞと思はぬ虫の鳴く声も聞くから悲し秋の夕暮)  
[玉椿八千代を籠こめし万句哉] (第三椿発句;  
謡曲「三輪」; 八千代をこめし玉椿変らぬ色を頼みける)  
有年 (ゆうねん・大田おおた) → 稻香 (とうこう・大田、儒者) D 3 1 9 4  
有年 (ゆうねん・八木) → 静修 (しずさね・八木/鐫木/橘、国学者) U 2 1 0 1  
有年 (ゆうねん・米倉) → 有載 (有年ありとし・米倉よねくら、歌人) G 1 0 5 7  
有年 (ゆうねん・植田) → 有年 (ありとし・植田うえだ、医者/勤王) H 1 0 0 8  
有稔 (ゆうねん・山県) → 有稔 (ありとし・山県やまがた/中村、藩士/国学) I 1 0 6 4  
融然 (ゆうねん; 法諱) → 天性 (てんしょう; 道号・融石、曹洞僧) D 3 0 8 2  
有年庵 (ゆうねんあん) → 卓堂 (たくどう・貫洞ぬきどう、俳人) O 2 6 1 5
- D4654 **祐能** (ゆうのう; 法諱) ? - 1602 天台比叡山南光房住僧; 祐増門、  
信長の焼討後諸国勧進により比叡山再興に尽力、法印/擬講、  
1601(慶長6)「楞嚴講記」「山王講次第」著
- D4655 **祐之丞** (ゆうのじょう・珍田ちんだ、名; 有敬、吉太郎男) 1791-186575 陸奥弘前藩士; 歩卒/のち郡奉行、



勘定奉行、1833事に連座し塾居/藩主津軽順承の代に両奉行に復任/世子承祐に付く、晩年は稽古館小司、歌人、「駒水物語」著、有孚の父、

[祐之丞(；通称)の別通称]祐之助

有之丞(ゆうのじょう・鈴木)→ 新(あらた・鈴木すずき、国学者/歌人) B 1 0 6 3  
祐之丞(ゆうのじょう・岡本)→ 秋暉(しゅうき・岡本おかもと、絵師) H 2 1 0 4  
悠之丞(ゆうのじょう・酒井)→ 忠義(ただあき・酒井さかい、藩主/日記) P 2 6 1 2  
勇之丞(ゆうのじょう・石丸)→ 定静(さだやす・石丸いしまる、幕臣) K 2 0 0 6

D4656 猶迺進(ゆうのしん・福田ふくだ) ? - ? 江後期肥前長崎の代々町年寄、1850蛮語兼学令に基づく言語和解取締役に任命、1856「安政三辰年手許日記」著、「禅宗人別改帳」著

祐之進(ゆうのしん・戸倉/坪内)→ 伊八郎(いはちろう・戸倉、洋学者) I 1 1 1 8  
祐之進(ゆうのしん・山本)→ 霞嶽(かがく・山本やまもと、医/儒者) H 1 5 2 2  
祐之進(ゆうのしん・池上)→ 陳暁(のぶあき・池上いかがみ、藩士/勤王) H 3 5 3 0  
祐之進(ゆうのしん・村田)→ 正宣(まさのぶ・村田むらた/検本、藩士/国学) T 4 0 1 1  
雄之進(ゆうのしん・本多)→ 忠籌(ただかず・本多ほんだ、藩主/改革) P 2 6 3 0  
雄之進(ゆうのしん・本多)→ 忠雄(ただお・本多ほんだ、忠籌男/心学) P 2 6 2 5  
雄之進(ゆうのしん・荻原)→ 厳雄(よしお・荻原おざわら/日下部、歌人) M 4 7 0 7  
友之進(ゆうのしん・阿部)→ 樸斎(れきさい・阿部あべ、医者/本草家) 5 1 7 5  
勇之進(ゆうのしん・松田)→ 朴斎(ぼくさい・松田まつだ、藩儒/詩) D 3 9 1 5  
勇之助(ゆうのすけ・近藤)→ 南海(なんかい・近藤こんどう、儒者) I 3 2 6 2  
勇之助(ゆうのすけ・増山)→ 正同(まさとも・増山ますやま/永井、藩主) S 4 0 5 9  
祐之助(ゆうのすけ・珍田)→ 祐之丞(ゆうのじょう・珍田ちんだ、藩士/歌) D 4 6 5 5  
雄之助(ゆうのすけ・渡辺)→ 為良(ためよし・渡辺わたなべ、商家/歌/俳) 2 7 4 4  
西之助(ゆうのすけ・小島)→ 洪卿(こうけい・小島/児島、商家/漢学) I 1 9 4 2  
西之助(ゆうのすけ・小島)→ 大梅(だいばい・小島/児島、洪卿男/詩/俳人) C 2 6 0 9  
熊之進(ゆうのしん・本多)→ 俊民(としたみ・本多ほんだ、藩士/神職/歌) V 3 1 3 5

D4657 友梅(ゆうばい；法名・慶松けいしょう；号、姓；小武こたけ、名；広賢ひろかた) 1655-173480 越前福井の菓種業、1694(40歳)家督を息広富に譲渡、諸国遊覧/70余歳で富士登山、国学者、「辛崎詣記」「大仏寺詣記」著、

[慶松友梅の別号]道温子/松雪軒、法号；元芳友梅居士、法名友梅は隠元禅師からの授与

友梅(ゆうばい；法諱)→ 雪村(せつそん；道号・友梅、臨濟僧/文学) 2 4 2 0  
有梅(ゆうばい・堀)→ 利熙(としひろ・堀、幕臣/箱館奉行) N 3 1 6 2

D4658 右麦(ゆうばく・桑原くわばら) 1807-185650 美濃石津郡市之瀬村の俳人；美濃派俳人、巒山らんか(獅子門13世)の跡を継嗣；獅子門以哉派14世、1855「竹の春」編、「集虚斎句集」著、曲齋[1817-74]の師、[山寺の夕めしかけて夏の月](短冊)、

[右麦(；号)の別号]友麦/集虚斎/抱一山人/一笑庵

有麦庵(ゆうばくあん)→ 普斎(ふさい・杉木すぎき/荒木田、茶人) B 3 8 9 9  
雄八(ゆうはち・小町)→ 玉川(ぎょくせん・小町おまち、儒者/詩文) P 1 6 2 0  
勇八(ゆうはち・玉虫)→ 誼茂(よしげ・玉虫たまむし/荒井、藩士/儒者) D 4 7 6 8  
勇八郎(ゆうはちろう・永根)→ 伍石(ごせき・永根ながね/北条、書/篆刻) M 1 9 8 7  
雄八郎(ゆうはちろう・直江)→ 重枝(しげえ・伊島いじま/直江/伊藤、庄屋/勘定奉行) N 2 1 2 5  
有髮散人(ゆうはつさんじん)→ 白雪(はくせつ・太田、庄屋/商業/俳人) D 3 6 4 8

D4659 友繁(ゆうはん) ? - ? 京の俳人；1690言水「新撰都曲みやこぶり」2句入、[蘭鉢らんぱちに羽織着せたる霜夜哉](都曲；上187/大切な蘭に羽織をかけて寒さを防ぐ)

D4660 右範(有範ゆうはん・渡辺わたなべ/各務かがみ) ?-1752 美濃北方の俳人；各務支考門、支考母方の猶子；各務姓、黄山に遁世、師と友に耕耘に従う、  
[右範(；号)の通称/別号]通称；弥惣治、別号；雲土園

X3154 友範(友則ともり・姓不詳) ? - ? 平安前中期廷臣；加賀守/歌人；

友範(ゆうはん)→ 友範(友則ともり・姓不詳/廷臣/歌) X 3 1 5 4  
有璠(ゆうはん)→ 有俊(ありとし・綾小路あやのこうじ、廷臣/郢曲) C 1 0 3 2

- 祐範(ゆうはん・中臣) → 祐範(すけのり・中臣/東地井、神職/連歌) C 2 3 8 1  
 祐繁(ゆうはん・法名) → 定親(さだちか・中山/藤原、廷臣/故実/歌) 2 0 1 9
- D4661 有範(有鏝ゆうばん;法諱) 1270-1352 83 讃岐中郡榑梨莊の僧/初め中郡浄土宗新善寺入、  
 出家/讃岐無量寿寺覚道門;真言僧;事相を究める/1294高野山入;修学できず下山、  
 下野鶏足寺頼尊門;三宝院流を修学/以後講経・著述に専念、1331讃岐善通寺住/権大僧都、  
 「阿宥抄」「阿鏝法楽鈔」「面授秘符」「般若心経秘鍵玄談」/1330「大日経疏妙印鈔」外著多数、  
 [有範(;法諱)の別法諱/号]初法諱;了源、号;大弑房
- G4655 有鏝(ゆうばん;法諱) ? - ? 1643 存 江前期;天台修験僧;日向見性寺住持、僧都、  
 近江園城寺に住か?、「資道什物記」注/「山伏二字義」注
- D4662 融鏝(ゆうばん;法諱) ? - ? 江前期;役氏末流の本山派修験僧:  
 「和漢群談故事」著  
 有範(ゆうはん・山下/福沢) → 玄門(げんもん/はるかど・山下/福沢、修験/医者/俳人) M 1 8 5 2
- D4663 有斐(ゆうひ・大森おもしろ、名;重厚、号;清閑斎/三千貫、杖信男) 1721-84 京の遠州流茶道家:父門、  
 「百会茶湯之記」著
- D4664 有斐(ゆうひ・石原いしはら) ? - 1819 甲斐八代郡市川大門のの薬種商、俳人、  
 1807高柳信之(菜英)が行脚途中に訪問/一茶と親交、  
 1805「会津盆」編/05「画賛句集」/13「星づくり」編、「調布集」「続調布集」著、  
 [有斐(;号)の通称/別号]通称;治兵衛、別号;篆亭、屋号;江戸屋/近江屋
- 有斐(ゆうひ・西村) → 直方(なおかた・西村、薬種/本草家) 3 2 9 0  
 有斐(ゆうひ・金子) → 鶴村(かくそん・金子かねこ、漢学/藩儒) H 1 5 3 3  
 有飛(ゆうひ・鱸) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学/俳人) F 1 0 5 1  
 雄飛(ゆうひ・鈴木) → 鷺湖(がこ・鈴木すずき、絵師) L 1 5 5 6  
 雄飛(ゆうひ・福住) → 貞固(さだかた・福住ふくずみ/川上、商家/歌) P 2 0 2 2  
 熊斐(ゆうひ、絵師) → 繡江(しゅうこう・熊代/神代くましろ、通事/絵師) H 2 1 3 6
- D4665 友尾(ゆうび;号) ? - ? 戦国期永正1504-21頃;播磨揖西郡室津の文筆家、  
 「播陽謡之抄」著(天川友親「播陽満宝智恵袋」入)
- 祐弥(ゆうび・中臣) → 祐弥(すけみつ・中臣/東地井、神職) H 2 3 0 9  
 有美(ゆうび・天沼/伊藤) → 恒庵(こうあん・天沼あまぬま/伊藤、儒/書) E 1 9 8 5  
 有美(ゆうび・坂田) → 繁樹(しげき・坂田さかた/森、国学者) O 2 1 6 2  
 有非庵(ゆうひあん・上里) → 済(わたる・上里こうざと、神職/国学) 5 3 8 3  
 有斐斎(ゆうひさい・皆川) → 淇園(きえん・皆川みながわ、儒者) 1 6 0 4  
 祐弼(ゆうひつ・曾我) → 助弼(祐弼すけまさ・曾我そが/平、幕臣) G 2 3 8 3  
 祐姫(ゆうひめ・池田) → 暎子(とんこ・池田いけだ/伊達、藩主室/歌) M 3 1 3 7  
 遊姫(ゆうひめ・松平) → 頼起夫人(よりおきふじん・松平まつだいら、藩主室/歌) P 4 7 1 9  
 由賓(ゆうひん・宮坂) → 恒由(つねよし・宮坂みやさか、酒造業/国学) E 2 9 9 1  
 雄敏(ゆうびん・藤原) → 雄敏(おとし・藤原おじむら、廷臣) B 1 4 2 3  
 祐敏(ゆうびん/すけとし・吉川) → 春朝(春潮しゅんちよう・吉川、商家/俳人) K 2 1 2 6  
 祐父(ゆうふ・中臣) → 祐父(すけおや・中臣/東地井、神職) G 2 3 1 4  
 祐夫(ゆうふ・渡辺) → 三休(さんきゅう・渡辺わたなべ、藩儒) M 2 0 0 0  
 祐富(ゆうふ・中臣) → 祐富(すけとみ・中臣なかとみ/千鳥、神職) G 2 3 6 6  
 友傳(ゆうふ・賀茂) → 友傳(ともすけ・賀茂/幸徳井、陰陽家) P 3 1 5 9  
 有富(ゆうふ・太田) → 有富(ありとみ・太田おた、神職/国学/歌) H 1 0 3 2  
 有孚(ゆうふ・川北) → 梅山(ばいざん・川北/川喜田かわきた、儒者) B 3 6 3 3  
 有孚(ゆうふ・田中) → 有孚(ありざね・田中たなか、藩医/歌人) H 1 0 8 4  
 有孚(ゆうふ・横川) → 有孚(ありざね・横川よこかわ、医者) F 1 0 3 6  
 有孚(ゆうふ・小倉/建部) → 雲如(うんじょ・遠山とおやま・建部、詩人) B 1 2 1 7  
 有孚(ゆうふ・高橋) → 有孚(ありざね・高橋たかはし、商家/歌人) H 1 0 9 5  
 有孚(ゆうふ・林) → 蘭雅(らんが・林はやし/賀茂、絵師) B 4 8 6 4  
 熊夫(ゆうふ・森) → 熊夫(くまお・森もり、医者/国学) E 1 7 5 7  
 有不為楼(ゆうふいろう) → 孝平(こうへい・たかひら・神田かんだ、蘭学者) F 1 9 3 8

- G4641 **有風**(ゆうふう) ? - ? 京俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」入
- D4666 **猷風**(ゆうふう・小山おやま、春山男) 1847-65**斬首19歳** 下野の儒者:父門、勤王家/詩人、王室の衰微を憂う/常陸水戸で藤田小四郎と親交、1864天狗党の筑波山挙兵に参加、上京途中で降伏;1865越前敦賀で斬首、「殉難余響」著  
[猷風(;号)の名/通称/変名]名;惟馨/朝義、通称;馨三郎、変名;小野馨之允けいのすけ  
友風(ゆうふう/ともかぜ・植木) → 環山(かんざん・植木うえき、儒者) Q 1 5 8 2  
雄風(ゆうふう・水野) → 正信(まさのぶ・水野みずの、藩士/国学者) F 4 0 8 2  
雄風(ゆうふう・水上) → 雄風(おかせ・水上みなかみ、修験/国学/歌) E 1 4 1 5  
雄風館(ゆうふうかん) → 大峯(たいほう・冢田つかた、儒者) C 2 6 1 8
- D4667 **遊蝠**(ゆうぶく・紀き、姓;原田はらだ、別号;晩来堂) ?-? 紀伊田辺藩の御典医、江戸在勤中の見聞を記録、安政1854-60頃地誌「江戸自慢」著  
有物(ゆうぶつ) → 有物(うぶつ・石原いしはら、俳人) D 1 2 2 8  
有物(ゆうぶつ・辻/土生) → 横塘(おうとう・春田/角野/海老名、儒者) C 1 4 1 5
- H4650 **祐文**(ゆうぶん;法諱、俗名;船越將監可貞) 1790-1852**63** 京の天台僧;聖護院宮坊官、国学者  
歌;香川景樹門/歌;1848(嘉永元)[類題鴨川集太郎篇]入、  
[鈴屋大人五十回靈祭歌・中仁]に法印祐文の名で献詠、1852(嘉永5)没  
[祐文の通称]岩坊法印  
有文(ゆうぶん・雨森) → 炎洲(えんしゅう・雨森あめのもり、藩士/儒者) E 1 3 9 0  
有文(ゆうぶん・武田) → 琴亭(きんてい・武田たけだ、儒者/卜筮) R 1 6 4 7  
有文(ゆうぶん・千種) → 有文(ありぶみ・千種ちかき/源、廷臣/歌) F 1 0 7 8  
右文(ゆうぶん・八木) → 文琳(ぶんりん・八木やぎ、藩士/儒者) G 3 8 7 8  
祐文(ゆうぶん・井上) → 祐文(すけぶみ・井上いづえ、神職/国学) L 2 3 2 6  
熊文(ゆうぶん・水山/生駒/土師) → 熊文(くまぶん・生駒/土師はじ、国学) D 1 7 4 3  
遊文館(ゆうぶんかん・泉) → 豊洲(ほうしゅう・泉いづみ、儒者) B 3 9 4 4
- D4668 **由平**(ゆうへい・よしひら・前川まなかわ、俳人和気大圃[由貞]男) ?-1707? 大坂平野町の談林俳人:宗因門、西鶴・遠舟と親交;大坂俳壇の三巨頭の1、元禄(1688-1704)以降は雑俳点業に専念、1671蛙井集「73西鶴?「哥仙大坂俳諧師」西鶴「生玉万句」水祝発句等入、1674「由平独百韻」著/78「明骨集」「俳諧胴ほね」編、1681賀子「山海集」82春林「俳諧百人一句難波色紙」/82如扶「三ヶ津さんかのつ」入、1691江水「元禄百人一句」91賀子「蓮実」4句/95草也「備後砂」入、1702轍士「花見車」/04潮白「多美農草」入、  
[晦日つごりの暮にもしろき蓮はちすかな](百人一句;36/月末の闇夜にも白く浮ぶ)、  
[由平(よしひら;名)の通称/号]通称;江助/江介/由兵衛、  
号;由平ゆうへい/舟夕子/半幽/半幽軒/瓢叟/破瓢叟/自入(;剃髮禪号)
- D4669 **雄平**(ゆうへい・中山なかやま、号;水竹亭) ?-? 江後期大阪の本草家:活花用植物の研究;形・栽培、1847「剪花翁伝前編」著
- D4670 **勇平**(ゆうへい・吉岡よしおか/初姓;鈴木) 1830-70**斬首41** 陸奥(岩代)白川郡石井村の農業、1853幕臣吉岡家の養子/54家督継嗣:幕臣/1859幕府軍艦取調役、1860木村芥舟・勝海舟らと咸臨丸乗船;渡米、帰国後;神奈川奉行支配定番役頭取取締、1867別手組頭取締/二丸御留守格布衣、江戸開城時に別手組中心に倒幕派に敵対;市中騒乱の主魁とされ1870捕縛;斬首、「奥州日記」/1860(万延元)「亜行日記」著、  
[勇平(;通称)の名/別通称/号]名;政成まさなり、別通称;良太夫/徳順、号;瑞秋  
雄平(ゆうへい・津田) → 政隣(まさちか・津田つた、藩士/記録) D 4 0 7 7  
雄平(ゆうへい・佐藤) → 斌彦(あきひこ・佐藤まさとう/飯塚、里正/国学) H 1 0 6 5  
雄平(ゆうへい・橋本) → 真幸(まさき・橋本はしもと、藩士/国学者) R 4 0 7 4  
祐平(ゆうへい・高木) → 祐平(すけひら・高木たかぎ、藩士/服忌学) H 2 3 0 0  
祐平(ゆうへい・伊東) → 祐平(すけひら・伊東いとう、藩士/歌人) L 2 3 3 2  
祐兵(ゆうへい・伊東) → 祐兵(すけたけ/すけたか・伊東いとう、武将/藩主) I 2 3 4 7  
由平(ゆうへい・比良野) → 由平(よしへい・比良野/平野/ひらの、歌舞伎作者) G 4 7 8 9

- 由平(ゆうへい・大岡) → 馬丹(馬遠ばえん・一峯齋いっぽうさい、絵師) C 3 6 4 1  
 有平(ゆうへい・河村) → 正文(まさふみ・河村かわむら、国学) P 4 0 0 9  
 猶平(ゆうへい・山中) → 天水(てんすい・山中やまなか、儒者/詩) D 3 0 9 3  
 悠平(遊平/由平ゆうへい・押野屋/後藤/大聖寺屋) → 雪袋(せつたい、俳人) L 2 4 2 0  
 熊平(ゆうへい・五十嵐) → 正之(正行まさゆき・五十嵐いがらし、藩士/歌) N 4 0 2 8  
 由兵衛(ゆうへい・前川) → 由平(ゆうへい・よしひら・前川まえかわ、俳人) D 4 6 6 8  
 夕少将(ゆうべのしょうしょう) → 義孝(よししたか/のりたか・藤原、廷臣/歌人) 4 7 1 3
- D4671 **宥弁**(ゆうべん;法諱・眞念)? - ? 大坂西浜町寺島の真言僧;高野山宝光印寂本門、  
江卓らと四国霊場遍路;遍路の道標設置・宿坊真念庵の建設、  
1687「四国遍礼道指南」/89「四国徧礼功德記」著
- D4672 **宥伴**(ゆうべん;法諱) ? - ? 武州入間郡越生の真言宗医王寺19世、  
「薬師縁起」著
- D4673 **友甫**(ゆうほ;号) ? - ? 江前期京の歌謡作者;口説歌くどきうたの創始者、  
1660刊「万歳躍」編?
- D4674 **祐甫**(ゆうほ;号・通称;神戸屋八郎右衛門) 1632-1710? 伊賀上野の商家;富商/俳人;芭蕉門、  
1691「猿蓑」;1句/94「炭俵」;3句入、95浪化「有磯海」/95支考「笈日記」入/98「続猿蓑」;1句入、  
晩年は剃髪し禅門に入/法号;清月祐甫居士、  
[鷓鴣みそざい家はとぎるゝはだれ雪](続猿蓑;下雪/寒さに弱い小鳥と自分に呼びかける)
- D4675 **友甫**(ゆうほ;号・山田やまだ)? - ? 江後期;常陸鹿島郡二重作村の俳人、  
1841一具の支援を受け年刊月並句集「たづき集」創刊、  
[友甫(;号)の通称/別号]通称;吉右衛門、別号;咬菜軒
- D4676 **遊圃**(ゆうほ・山瀬やませ、名;饜吾) 1806-9388 羽前山形藩士;藩主秋元家に出仕/広間番給人、  
1845主家転封により上野館林に移住、文筆家;主家山形入府以来の事蹟・風物など記録、  
見聞録「山形雑記」著、  
[遊圃(;号)の通称] 新左衛門/新五兵衛しんごべい
- 友甫(ゆうほ・藤井) → 常枝(つねえだ・藤井ふじい、医者/語学) B 2 9 7 5  
 友甫(ゆうほ・室) → 美勝(よしかつ・室むろ、茶人/藩茶博士) P 4 7 5 7  
 友輔(ゆうほ;通称/連歌名) → 智仁親王(としひとしんのう・八条宮/桂宮、歌/連歌) N 3 1 5 5  
 友輔(ゆうほ・久世) → 友輔(ともすけ・久世くぜ、心学者/俳人) P 3 1 6 1  
 裕甫(ゆうほ/ゆうすけ・森脇/玉乃) → 九華(きゅうか・玉乃たまの/森脇、藩士/儒者) I 1 6 7 0  
 裕甫(ゆうほ/ゆうすけ・松村) → 月溪(げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4  
 雄輔(ゆうほ/ゆうすけ・野沢) → 岐山(きざん・野沢、儒者/詩) K 1 6 6 5
- D4677 **宥峰**(ゆうほう;道号・宗恕そうじよ;法諱) 1634-8956 江前期京の臨濟僧;大徳寺211世一溪宗什門;法嗣、  
1685大徳寺入寺;240世/大徳寺芳春院4世、近江土山永雲寺の中興の祖、1713禅師号を勅諡、  
1686(貞享3)「紫野芳春院縁起」著、  
[宥峰宗恕の号]号;知足、諡号;明覚円源禅師
- D4678 **祐宝**(ゆうほう;法諱・円海;字) 1656-? 1727存 大阪の真言僧;1676(21歳)京醍醐寺に修学、  
のち智積院に修学/1681(天和元)肥前佐賀藩主鍋島光茂の招聘で佐賀福満護国寺108世、  
元禄1666-1700頃福満寺を辞し山城西明寺で律を修学、1701-02頃江戸円明山に住、  
「伝燈広録」「続伝燈広録」「密林伝燈広録」「伝燈広録後」編、1725「幸心訣薄後重」外著多数、  
[祐宝の通称] 天竜比丘
- D4679 **宥豊**(ゆうほう;法諱・大識;字) 1759-182365 安房和宗村の真言僧;出家後京の智積院に修学、  
のち京の清和院に住;権僧正、1799「妙玄聞恵記」、「起信論大識記」「華嚴五教章蠡海記」、  
「塵壺集」「秘蔵宝鑰科文」「秘蔵宝鑰私記」「四教儀集註講柄」「大疏第三重私記」外著多数
- 祐邦(ゆうほう・久須美) → 祐邦(すけくに・久須美/久住/藤原、幕臣) G 2 3 2 9  
 祐邦(ゆうほう・河津) → 祐邦(すけくに・河津かわづ/藤原、幕臣/奉行) H 2 3 9 5  
 有芳(ゆうほう・小西) → 長子(ちようこ・小西こにし/牛谷、国学・歌) M 2 8 5 1  
 有邦(ゆうほう)すべて → 有邦(ありくに)  
 幽峰(ゆうほう・黒岩) → 慈庵(じあん・黒岩くろいわ、儒者;南学) B 2 1 0 5  
 幽峰(ゆうほう・寺西) → 乘輿(じようこう・寺西、幽峰/俳人) Q 2 2 3 5



- 雄鳳(ゆうほう・冢田) → 謙堂(けんどう・冢田つかだ、藩士/儒者) E 1 8 9 8
- D4680 有房(ゆうぼう) ? - ? 狂歌作者;1742百子「狂歌時雨の橋」入
- 友房(ゆうぼう・小見山) → 友房(ともふさ・小見山こみやま、医者/歌人) Q 3 1 5 1
- 祐房(ゆうぼう・中臣) → 祐房(すけふさ・中臣/千鳥家祖、神職) C 2 3 6 8
- 祐望(ゆうぼう/すけもち・森) → 省斎(せいさい・森もり、神職/儒者) G 2 4 9 0
- 裕房(ゆうぼう・横山) → 裕房(ひろふさ・横山よこやま、神職/歌人) L 3 7 8 7
- 有芳庵(ゆうほうあん) → 宗因(そういん・西山/西、俳人/連歌) 2 5 0 3
- 有芳館(ゆうほうかん) → 専明(せんみょう・池坊いけのぼう、僧、華道家) N 2 4 1 3
- 有朋軒(ゆうほうけん) → 良詮(良侘りょうせん・中村、俳人) I 4 9 5 3
- 挹芳齋(ゆうほうさい) → 国雄(くにお・橋たちばな・酢屋、絵師) C 1 7 6 4
- 有蓬齋(ゆうほうさい) → 弘道(ひろみち・吉川よしかわ、絵師) H 3 7 3 5
- 幽宝子(ゆうほうし) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3
- 幽芳亭(ゆうほうてい) → 安貞(やすさだ・高戸たかと/守屋、醸造/歌) B 4 5 4 5
- 邑芳亭(ゆうほうてい) → 正修(まさなが・佐野さの、藩士/歌人) P 4 0 9 0
- 有芳亭(ゆうほうてい) → 英露(えいろ・秀島ひでしま、養菊家) D 1 3 4 3
- 有芳亭(ゆうほうてい) → 寿(ひさし・小野おの、庄屋/詩歌人) I 3 7 7 1
- 有芳亭(ゆうほうてい) → 敏政(としまさ・上代かみしろ、歌人) U 3 1 8 1
- 郁芳門院(ゆうほうもんいん) → 郁芳門院媍子内親王(いくほうもんいんていしんしのう) 1 1 0 7
- H4654 幽卜(ゆうぼく・森本もりもと) ? - ? 江前期;大坂の医者/歌人;  
1688浅井忠能「難波捨草」4首入、  
[心にもあらで待ちえぬ月影とみるも珍し庭の卯花] (難波捨草;633/忠能家歌会にて)
- D4681 由卜(ゆうぼく・遠藤えんどう、名;元重) ?-? 京の俳人;常矩つねのり門、  
1678常矩「ねざめ」6吟四十四よし参加/80自悦「洛陽集」・90?秋風「誹諧吐綬鶏」入、  
1692常牧「冬ごもり」入、91江水「元禄百人一句」目録入
- 由朴(ゆうぼく・建部) → 清庵(2世せいあん・建部たけべ、蘭方医者) H 2 4 1 8
- 有木(ゆうぼく・内田) → 有木(有樹ありき・内田うちだ、商家/歌) H 1 0 1 4
- 憂北生(ゆうほくせい) → 武四郎(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親) E 2 6 3 8
- 有本(ゆうほん・村瀬) → 立斎(りつさい・村瀬むらせ、医者) B 4 9 9 4
- 勇馬(ゆうま・松下) → 筑陰(ちくいん・松下まつした、藩士/儒者) C 2 8 5 1
- 勇馬(ゆうま・安富) → 季記(すえのり・安富やすとみ、家老/歌人) J 2 3 3 2
- 祐弥(ゆうみ・中臣) → 祐弥(すけみつ・中臣/東地井、神官)
- D4682 幽眠(ゆうみん・三国みくに、豪商三国鶴叟[森与兵衛]男) 1810-9687 越前三国の儒者;中川六郎の門、  
1832上京/詩文;摩島松南門、38鷹司家儒官/尊攘論、安政大獄捕縛追放;近江石山に寓居、  
明治政府教部省権大講義、歌人、  
「幽眠詩稿」「幽眠歌稿」「三国みくに叢書」「印影集」「金言録」著、  
[幽眠(;号)の名/字/通称/別号]名;直準(なおのり、字;士縄、通称;与吉郎/大学、  
別号;鷹巢/碌々山人/鈍仏庵一笑
- D4683 友務(ゆうむ) ? - ? 江前期連歌:紹巴門、  
三河深溝藩主松平忠利のお抱連歌師(友継と同僚)、  
1617(元和3)独吟「何人百韻」/22(元和8)独吟「夢想百韻」
- D4684 又夢(ゆうむ・風後庵ふうごあん、姓;久保/名;可季) ?-? 江中期の茶人/庸軒流茶道:横井不見門、  
1723「茶道望月集」
- 猶夢(ゆうむ・田中) → 小右衛門(こえもん・田中/松宮、藩士/兵・農学) L 1 9 7 3
- 猶夢齋(ゆうむさい) → 広典(ひろのり・吉田、武家/出家/語学) G 3 7 8 6
- D4685 幽明(ゆうめい) ? - ? 江前期和泉堺の俳人;1672顕成あきなり「手繰舟」入
- D4686 有明(ゆうめい;号・富山とみやま、名;維章、字;士煥) ?-? 大阪の詩人;混沌社友、  
1761雪巖「白雪余歌」入/65「混沌社吟稿」入
- D4687 遊冥(ゆうめい・広井ひろい、名;鴻、迪徳男) 1770-185384 土佐高岡郡佐川儒者;佐川の入交幽山門、  
代々邑主深尾家(土佐藩国老)の儒臣、佐川郷校名教館教授;経義を講ず、和算家、  
書・刀鎗にも通ず、「嗜痴録」「遊冥館詩文集」「廬山筆乗」著、

[遊冥(；号)の字/通称]字;千里、通称;喜十郎

幽明(ゆうめい;字)	→	日周(にっしゅう・常寂院、日蓮僧/歌)	E 3 3 0 4
祐明(ゆうめい・中臣)	→	祐明(すけあきら・中臣なかとみ/千鳥、神職)	B 2 3 7 7
祐明(ゆうめい・久須美)	→	祐明(すけあきら・久須美くずみ、幕臣/文筆)	F 2 3 9 9
祐明(ゆうめい・伊東)	→	祐雄(すけお・伊東、藩士/武芸;泳法)	G 2 3 0 9
祐命(ゆうめい・伊東/伊藤)	→	祐命(すけのぶ・伊東//伊藤/藤原、藩士/歌人)	C 2 3 1 3
有明(ゆうめい・秦)	→	有明(ありあき・秦はた、廷臣/漢学者)	G 1 0 4 8
有命(ゆうめい・高橋)	→	坦堂(たんだう・高橋たかはし、藩士/勤王)	I 2 6 5 5
友明(ゆうめい・堀)	→	友明(ともあき・堀ほり、藩士/神道)	P 3 1 1 3
游冥(ゆうめい・轟木)	→	寛胤(ひろたね・轟木とどろき、藩士/尊攘)	K 3 7 3 2
有明庵(ゆうめいあん/ありあけあん)	→	一之(いっし・白井、俳人)	B 1 1 4 6
友鳴庵(ゆうめいあん)	→	松旭(しょうぎよく・知足館、読本作者)	G 2 2 1 1
有明山人(ゆうめいさんじん)	→	祐義(すけよし・長治ながはる、庄屋/歌人)	D 2 3 2 6
有茂(ゆうも・藤原)	→	有茂(ありもち・藤原、廷臣/歌人)	F 1 0 8 7
友茂(ゆうも・藤原)	→	友茂(ともしげ・藤原、廷臣/歌人)	P 3 1 5 6
祐茂(ゆうも・中臣)	→	祐茂(すけしげ・中臣/千鳥、神職/歌人)	C 2 3 2 1
有毛(ゆうもう・河村)	→	文鳳(ぶんぼう・河村かわむら、絵師)	G 3 8 4 8
勇猛院(ゆうもういん)	→	日麿(にちげい;法諱・恵亮、日蓮僧)	B 3 3 5 1
勇猛院(ゆうもういん)	→	日是(にちぜ;法諱・潮音、日蓮僧)	C 3 3 5 7
勇猛院(ゆうもういん)	→	日統(にっとう;法諱・乾恕、日蓮僧)	F 3 3 3 9
勇猛院(ゆうもういん;法号)	→	矩佳(のりとも・内藤、幕臣/記録)	F 3 5 2 6
勇猛観(ゆうもうかん;号)	→	東暉(とうき;法諱・良聞;法名、浄土僧)	C 3 1 4 6
柚門(ゆうもん・高橋)	→	多一郎(たいちろう・高橋、藩士/尊王派)	K 2 6 6 5
有門庵(ゆうもんあん)	→	光謙(こうけん;法諱、天台僧/教観中興)	I 1 9 5 6

D4688 友也(ゆうや) ? - ? 俳人;慶友・顕成・西翁(宗因)らと交流、  
1672(寛文12)顕成あきなり「手繰舟てぐりぶね」入

D4689 熊野(ゆうや・岸さし/修姓;崖、名;弘毅ひろたけ・弘敦、岸次助弘載3男)1734-181380 紀州熊野の儒者、  
紀伊和歌山藩士/1790紀州本藩に出仕;文学、1806(文化3)「紀伊続風土記」新撰に参画、  
1782「日本書紀古訓抄」「佔畢波及抄」/89「熊野先生南山紀行」1805「日本紀歌注解古訓抄」、  
「楽山亭記」著、

[熊野(；号)の字/通称]字;剛先/剛煥、通称;順輔/順助/権兵衛

由也(ゆうや・佐々木/粟津)→ 照元(しょうげん・佐々木ささき/粟津、書家) I 2 2 5 6

優也(ゆうや・津田) → 伝兵衛(でんべえ・津田、藩校学頭/海防) E 3 0 2 3

悠哉(ゆうや→ゆうさい・伊藤)→ 澹斎(たんさい・伊藤/伊東、医/儒者) I 2 6 1 4

D4690 宥雄(ゆうゆう;法諱) 1603 - ? 周防吉敷郡の真言:1612(10歳)長門浅願寺宥英門、  
出家、のち遍明院堯盛門;五部灌頂を受/神護寺恭畏門;秘密諸軌を修学;1630具支灌頂受、  
仁和寺密蔵院を開山、門弟亮典に地蔵院流を相承、「扛鼎記」「扛鼎遺記」「利情抄」著

G4642 又々(ゆうゆう) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入

D4691 祐雄(ゆうゆう;名・真鍋まなべ、通称;彦五郎)?-? 江中期下総古河藩士、1748「朝鮮人騎射之記」著

D4692 有游(ゆうゆう・笠倉屋かさくらや平十郎)?-? 江中期安永天明1772-89頃江戸の札差、  
二三治「十八大通」入

D4693 悠々(ゆうゆう・川原かわはら、名;元治/元次、忠孝男)1776-185681 肥前大村藩士;藩校五教館に修学、  
1801江戸詰;病により辞任/肥前彼杵郡川棚村に住、1817(文政2)千綿村の代官、  
1830藩主大村純昌の世子純頭の守役/33世子及び五男(阿部正備)の守役;再び江戸に赴く、  
俳人:蒼虬門/在府中江戸の俳人と交流、句作精進;宗匠の地位、1837帰国;40致仕、  
大村城下久原に住;俳諧に専念/御家流能書家/華道・碁・将棋に通ず、  
1836「薄苞集」44「秋時雨集」著、

[悠々(；号)の別号] 槐窓

D4694 優游(ゆうゆう・原田はらだ、名;亮)1778-185174 美作津山の医者;古医方と儒の古学を修学、  
大阪の仲之島で医業、詩文・書画を嗜む、のち讃岐高松藩の俸を受ける、藤沢東暉と交流、

「五行弁」「優游文集」「本朝忠孝伝」(未完)著、  
[優游(；号)の字/通称]字；伯恵、通称；眞卿/節齋

- 有祐(ゆうゆう・藤原) → 有祐(有佐ありすけ・藤原、歌人) B 1 0 7 3  
有裕(ゆうゆう・山田) → 有裕(ありひろ・山田、書家/詩文) F 1 0 7 2  
有裕(ゆうゆう・辻村/三角) → 東圃(とうほ・三角みすみ、医者) H 3 1 1 2  
有友(ゆうゆう・田林) → 有友(ありとも・田林たばやし、商家/国学) H 1 0 8 5  
有雄(ゆうゆう・新井) → 有雄(在雄/蟻雄ありお・新井あり、国学) C 1 0 3 1  
有雄(ゆうゆう・山田) → 月洲(げっしゅう・山田、藩士/儒者/詩) E 1 8 8 1  
有融(ゆうゆう・佐伯) → 鍾山(しょうざん・佐伯さえき、藩儒/詩) J 2 2 2 4  
友右(ゆうゆう・江村) → 剛齋(こうさい/ごうさい・江村えむら、儒者) B 1 9 1 3  
友裕(ゆうゆう・赤松/芦田) → 小三郎(こさぶろう・赤松/源、兵学者) M 1 9 5 5  
祐雄(ゆうゆう・鴨) → 祐雄(すけたけ・鴨かも、神職) G 2 3 0 8  
祐雄(ゆうゆう・中臣) → 祐茂(すけしげ・中臣/千鳥、神職/歌人) C 2 3 2 1  
祐雄(ゆうゆう・高橋) → 祐雄(すけお・高橋たかはし、藩士/代官/儒) G 2 3 1 1  
祐雄(ゆうゆう・伊東) → 祐雄(すけお・伊東、藩士/武芸；泳法) G 2 3 0 9  
祐雄(ゆうゆう・笹木) → 祐雄(すけお・笹木ささき、神職/国学) I 2 3 5 6  
祐邑(ゆうゆう・鴨) → 祐邑(すけむら・鴨かも、神職) H 2 3 1 0  
祐猷(ゆうゆう・小林) → 祐猷(すけみち・小林こばやし、藩士/兵学) H 2 3 0 5  
悠々(ゆうゆう) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3  
有友庵(ゆうゆうあん) → 我泉(がせん・高畑、俳人；素丸門) M 1 5 7 4  
優遊館(ゆうゆうかん) → 瀟水(しんすい・宇佐美うさみ、儒者/詩人) E 2 2 7 3  
優々館(ゆうゆうかん) → 敬齋(けいさい・片山かたやま、書家) F 1 8 6 4  
D4695 悠々館湖遊(ゆうゆうかんこゆう、別号；待人) ?-? 江後期江戸小石川の狂歌作者：便々館湖鯉鮒門、  
山の手側社中、1804「狂歌いそ千鳥」「狂歌百千鳥」「磯千鳥五十人十首」編  
優々館主人(ゆうゆうかんしゅじん) → 花丸(はなまる・春光園・優々館、戯作/狂歌) F 3 6 4 9  
D4696 悠々館大人(ゆうゆうかんだいじん/ゆうゆうかんのうし) ?-? 大阪の川柳作者：松鱸社中、  
1824奥手迹路おくてのにげみち編「浪華柳多留」選(；大阪の川柳風狂句の最初)  
優々館花丸(ゆうゆうかのはなまる) → 花丸(はなまる・春光園・優々館、戯作/狂歌) F 3 6 4 9  
悠々軒(ゆうゆうけん) → 盛標(もりすえ・木崎、藩士/軍師/産業図) F 4 4 4 9  
D4697 優々齋(ゆうゆうさい；号・武嶋たけしま、名；頼之/字；有慶) ?-1840 武蔵秩父大田村の医者：設楽滴水門、  
医業、「滴水医話」編/「優々齋試功方」著  
悠々齋(ゆうゆうさい) → 政行(まさゆき・本多ほんだ、藩士/記録) I 4 0 2 5  
D4698 優遊齋桃川(ゆうゆうさいとうせん) ?- ? 大阪の絵師：文化1804-18頃読本挿絵を描く、  
1807種彦「奴の小万」/1808・9「総角物語」画、「江戸紫三人同胞」画  
悠々子(ゆうゆうし) → 光暉(こうき；法諱・文如、真宗僧) I 1 9 1 5  
優遊自在(ゆうゆうじざい) → 宗璠(そうはん；法諱・玉舟、臨濟僧) I 2 5 7 4  
優游社(ゆうゆうしゃ) → 江南(こうなん・田中/高島/宇留野/山野辺、儒/医/投壺) G 1 9 4 3  
優游楼(ゆうゆうろう) → 忠保(ただやす・岡田/近江屋、歌人) E 2 6 5 4  
由予(ゆうよ・田中) → 小右衛門(こえもん・田中/松宮、藩士/兵・農学) L 1 9 7 3  
由予(ゆうよ・向井) → 履視(りし・向井むかい、藩士/俳人) B 4 9 1 5  
西誉(ゆうよ・大蓮社) → 聖聡(しょうそう；法諱、浄土僧) T 2 2 9 7  
祐誉(ゆうよ・愛蓮社) → 天從(てんじゅう；法諱・愛蓮社、浄土僧) D 3 0 7 5  
宥誉(ゆうよ；修験僧名) → 天宥(てんゆう；法諱、羽黒天台僧) E 3 0 4 2  
雄誉(ゆうよ・檀蓮社) → 靈巖(れいがん；法諱、浄土僧) 5 1 1 7  
D4699 熊陽(ゆうよう・藤江ふじえ、名；忠廉ただやす、忠重男) 1683-1751 69 播磨赤穂の医家の生/儒者、  
赤穂藩家老大石良雄に学才を愛でられる；1701播磨竜野藩儒官/京で伊藤仁斎・東涯門、  
竜野藩政に参画/1744致仕、有馬で没、1725安元「下館日記」加注本の著、  
1747「赤穂郡志」、「竜野志」、「退居日抄」著、東江の父、竜山は女婿、  
[熊陽(；号)の通称/別号]通称；直蔵/平助/平介/平輔、別号；良亭、諡号；文肅先生  
有用(ゆうよう・山口) → 九腕(きゅうえん・山口やまぐち、藩士/儒者) M 1 6 3 2

有庸(ゆうよう・六条)	→	有庸(ありもち・六条/源、廷臣/詩人)	F 1 0 8 8
祐用(ゆうよう・中臣)	→	祐用(すけゆ・中臣なかとみ/辰市、神職)	H 2 3 1 8
祐膺(ゆうよう・伊東)	→	祐膺(すけむね・伊東いとう/藤原、幕臣/歌)	H 2 3 8 6
莠菟(莠要ゆうよう・山本)	→	蕉逸(しょういつ・山本やまもと、儒者/教育)	F 2 2 1 0
有翼(ゆうよく・市川)	→	松筠(しょういん・市川、幕臣/兵学者)	G 2 2 8 4
幽誉上人(ゆうよしょうにん)	→	幾暁(きぎょう、雲蝶、僧/俳人)	1 6 9 2
有瀬(ゆうらい・綾小路)	→	有瀬(あるせ・綾小路/源、廷臣/日記)	C 1 0 0 5
又楽(ゆうらく・栗原)	→	信充(のぶみつ・栗原、幕臣/故実家)	3 5 1 5
遊楽(ゆうらく・賀茂)	→	経樹(つねき・賀茂/岡本、神職/日記/歌)	C 2 9 0 1
有楽斎(ゆうらくさい・後藤)	→	義質(よしただ・後藤ごとう、医者/国学)	H 4 7 8 8
友蘭(ゆうらん・西郷)	→	多香子(たかこ・西郷さいごう/宇佐美、国学・歌)	X 2 6 3 1
幽蘭(ゆうらん;法諱・本秀)	→	本秀(ほんしゅう;道号・幽蘭、曹洞僧)	F 3 9 4 4
幽蘭(ゆうらん・越村、幽蘭齋)	→	凶南(となん・越村こしむら、蘭方外科医)	O 3 1 6 4
幽蘭館(ゆうらんかん)	→	東柯(とうか・鷲見すみ、儒者/教育者)	B 3 1 7 0
幽蘭堂(ゆうらんどう)	→	玉川(ぎよくせん・股野またの、藩士/儒/詩)	I 1 6 8 6
祐利(ゆうり・山地)	→	介寿(すけとし・山地やまじ、藩士/国学者)	G 2 3 6 3
祐利(ゆうり・久田)	→	祐利(すけとし・久田ひさだ、紺屋/歌人)	J 2 3 0 4
遊里山人(ゆうりさんじん)	→	谷峨(初世こくが・梅暮里、洒落本作者)	1 9 2 6
有李[堂](ゆうりどう)	→	桃溪(とうけい・青木、藩士/俳人)	D 3 1 0 9

4615 **雄略天皇**(ゆうりやくてんのう、允恭天皇5皇子) 418-478:記/479:紀62 母;忍坂大中姫、  
同母兄木梨輕皇子・安康天皇、456泊瀬はつせ朝倉宮で即位;泊瀬朝倉宮御于天皇と称す、  
武による版図拡大、倭王武か?、万葉一期歌人2首(1長歌/1664)、紀3首;但しすべて伝説歌、  
[籠もよみ籠持ちちふくしもよみぶくし持ち・・・](万葉第一首)

[雄略天皇の名]大長谷命/大泊瀬皇子/大長谷若建命

E4600 **融隆**(ゆうりゅう;法諱) ? - 1595 戦国安桃期;浄土僧;1566より「曼陀羅註記」講釈、  
門弟立存が筆受を勤める、伊勢桑名の性恨寺住/京の禅林寺転住、「当麻曼陀羅融隆鈔」著

E4601 **有柳**(ゆうりゅう/うりゅう・樋口ひぐち、吉兵衛[橘雫]男)?-? 江後期相模浦賀俳人、石叟3回忌追善集編纂、  
1790「此うらふね」/1828「近世浦賀崎人伝」著、1830「久岐良廼跡」編、  
[有柳(;号)の通称/別号]通称;吉右衛門、別号;陶亭

4685 **宥竜**(ゆうりゅう;法諱、字;羽丹)?- ? 1856存 江後期;大和長谷寺の真言僧;天台学にも精通、  
1856「天台法華玄義聞書」著

由隆(ゆうりゅう・浅野)	→	由隆(よしたか・浅野あさの、藩士/歌人)	D 4 7 9 6
友隆(ゆうりゅう・阿蘇)	→	友隆(ともたか・阿蘇あそ、神職)	P 3 1 6 3
祐隆(ゆうりゅう・清原)	→	祐隆(すけたか・清原きよはら、廷臣/歌人)	G 2 3 3 4
猶竜(ゆうりゅう・岡)	→	起雲(きうん;字・岡おか、儒者)	J 1 6 6 3
猶竜(ゆうりゅう・座田)	→	重就(しげなり・座田さいた/紀、廷臣/絵師/歌)	O 2 1 5 9
遊竜園(ゆうりゅうえん)	→	嘉陵(かりょう・若林わかばやし、儒者)	H 1 5 5 6
友柳軒(ゆうりゅうけん)	→	不肩(ふけい・立羽たちば、俳人)	B 3 8 7 4
友柳居士(ゆうりゅうこじ)	→	常郷(つねさと・北村きたむら、国学/歌人)	F 2 9 6 1

E4602 **檜陵**(ひりょう・伊古田いこだ、治太夫の長男) 1802-8685 武蔵秩父郡大宮生or同郡大田村伊古田生、  
医学;小室元兆門/長崎で蘭方修学/大宮で産科医開業;1852帝王切開に成功、詩文を嗜む、  
のち上州藤岡に移住、「檜陵詩稿」/1852「帝王切開術実記」66「賊民略記」68「新政或問」著、  
1873「志学大意」、「列布羅治療書」、「散花錦囊」、「撒羅満氏産論抄書」著、詩文集「檜陵遺稿」、  
[檜陵(;号)の幼名/名/字/別号]幼名;富次郎、名;純道/寧、諱;重満、字;致遠/敬道、  
別号;城茅樵舎

友諒(ゆうりょう・加藤)	→	德基(のりもと・加藤かとう/清水、藩儒)	H 3 5 8 6
幽了(ゆうりょう・高津)	→	梅橋(ばいきょう・向陽軒、華道家)	3 6 9 8
由良(ゆうりょう・押上)	→	美香(よしか・押上おしあげ、役人/国学者)	M 4 7 0 9
祐良(ゆうりょう・長野)	→	祐良(すけよし・長野ながの/藤原/蒔田、官人/歌)	I 2 3 9 4
祐良(ゆうりょう・後藤)	→	祐良(すけよし・後藤ごとう、文筆家)	D 2 3 7 1



- 祐梁(ゆうりょう・伊東/藤原)→祐梁(すけやな・伊東/藤原、戦国武将) D 2 3 1 9  
 有縁園(ゆうりくえん) → 千族(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人) N 2 8 1 5
- E4603 有林(有隣ゆうりん;法諱) ? - 1410 南北室町期;河内の臨濟僧/医者:京南禪寺住、  
 常陸鹿島郡東福寺を開山、和漢の医書を涉獵、  
 1363頃仏説と自己の経験を加え「有林福田方」著、  
 [有林(;法諱)の通称/号]通称;徳禅師、号;壺隱庵
- E4604 祐倫(ゆうりん、比丘尼) ? - ? 室町期連歌作者;源氏物語研究;  
 1449(文安6)「源氏貫雲伝」「山頂湖面抄」、1453「光源氏一部譚」著、  
 1454頃?中原康富邸で源氏物語数巻を講義
- E4606 遊林(ゆうりん・珍書堂:号)? - ? 江前期河内山田の俳人:  
 1696俳諧辞書「俳諧反故集」編、  
 [遊林(;号)の別号]珍書堂/珍著堂/詠嘉/遊林子
- E4607 有隣(ゆうりん) ? - ? 江前期美濃山県郡岩崎の俳人、  
 1704(宝永元)刊「花鳥六景」著、  
 [有隣(;号)の別号]二竹堂/鶴亀/峰陳人
- E4608 有隣(ゆうりん・菊田きくた) ? - 1741 筑前飯塚の医者/俳人:朱拙門、  
 1723(享保9)刊「芭蕉盃はせをたらひ」編、妻ひさき も俳諧を嗜む、  
 [有隣(;号)の通称/法号]通称;道専、法号;釈道専医令
- G4624 遊林(ゆうりん;法諱) ? - ? 江中期越後の真宗遠見寺住職、  
 「愚禿鈔内立序分章」著
- E4609 有隣(ゆうりん/ありちか・深見ふかみ/本姓;高こう、深見玄岱[高天瀹]男)1691-1773 先祖は明福建省の高氏、  
 幕臣/儒者、頤齋の弟、1710徳川家宣に目見得/18家督嗣;寄合儒者/1734書物奉行;30年間、  
 図書校訂・紅葉山文庫買上図書上申に当る、1765西丸御裏門番之頭;布衣を許可、  
 1768(78歳)致仕;寄合、「大清会典和解」父と翻訳、「明清会典考」/1736「図書集成大意」著、  
 「通典五尺歩之事考」「奇器図説和解十一条」「医林余談」「茅亭夜話」「養花録」著、  
 [有隣(ありちか;名)の初名/字通称/号]初名;但賢、字;松年、通称;松之助/久太夫/新兵衛、  
 号;右翁、法号;尚義院
- E4610 有隣(ゆうりん・本間ほんま) ? - ? 江中期;羽後仙北郡刈和野の俳人:其雫門、  
 1746(延享3)「刈和野八景」編、  
 [有隣(;号)の通称/別号]通称;太右衛門、別号;喜雨亭
- E4611 由林(ゆうりん・山田やまだ) ? - 1767 江中期;江戸の俳人:米仲門、其角座点者、  
 1752刊「江戸十余歌仙」独吟歌仙入、1756存義の俳諧句集「新六歌仙」入、  
 1764「甲申歳旦」編/1768「花千句」著、  
 [由林(;号)の別号]一棒庵/一棒子
- E4612 有隣(ゆうりん・大久保おおくぼ、忠宣/忠信)1742-1821<sup>80</sup> 代々小田原藩家老職/学問に優れる、  
 宝蔵院流槍術を修業;日本三名槍の1、俳人:小田原俳壇の指導者/春鴻と交流、  
 茶・舞・謡も嗜む、1806「春帖」編、「歳旦春興」著、楚南(忠洪)の父、  
 [有隣(;号)の通称/別号]通称;又右衛門、別号;有隣軒/長松観/清幽庵/宝円齋、  
 隠居後;宇都宮有隣軒、法号;有隣軒方円日万居士
- H4632 有隣(ゆうりん・宮田みやた、旧姓;服部)1761-1829<sup>69</sup> 越前今立郡の和学者、  
 [有隣(;名)の字/通称/号]字;公実、通称;惣治/奥右衛門、号;春山
- E4613 祐倫(ゆうりん;法諱、俗姓;近藤)1805-56<sup>52</sup> 撰津三田藩士家の生/1812(8歳)善導寺倫誉門、  
 出家/浄土僧、のち江戸檀林に修学;増上寺学頭、1853武蔵岩槻の浄国寺43世、  
 京の金戒光明寺55世、歌:1850(嘉永3)「くれの秋のさうし」編、  
 [祐倫(;法諱)の法名]常蓮社在誉聖阿慈悲加
- 友林(ゆうりん;号) → 三江(さんこう;道号・紹益、臨濟僧/聯句)M 2 0 1 3  
 祐倫(ゆうりん・寺澤) → 牛岩(ぎゅうがん・寺澤てらさわ、詩人) T 1 6 5 2  
 有隣(ゆうりん・安部) → 石斎(せきさい・黒沢/安部/与村、藩儒) D 2 4 4 8  
 有隣(ゆうりん・吉田) → 孤山(こざん・吉田よしだ、藩士/儒者) M 1 9 5 8  
 有隣(ゆうりん・山根) → 南溟(なんめい・山根やまね、藩士/儒者) J 3 2 5 9

有隣(ゆうりん・小松) → 有隣(ありちか・小松こまつ、名主/国学/歌) H 1 0 5 0  
 有隣(ゆうりん・吉村) → 光徳(みつり・吉村よしむら、里正/国学者) K 4 1 9 4  
 有隣(ゆうりん・南里) → 有隣(ありちか・南里なんり、藩士/国学者) F 1 0 4 2  
 有隣(ゆうりん・檜原) → 国徳(くにのり・檜原ならはら、藩士/歌人) E 1 7 3 9  
 有隣(ゆうりん・斎藤) → 彝斎(いさい・斎藤さいとう、藩士/儒者) F 1 1 4 5  
 有隣(ゆうりん・大島) → 有隣(うりん・大島おおしま、心学者) D 1 2 5 0  
 有隣(ゆうりん・小松) → 有隣(ありちか・小松こまつ、名主/歌人) H 1 0 5 0  
 有隣(ゆうりん・加藤) → 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派) C 1 4 7 3  
 有隣(ゆうりん・熊谷) → 千邦(ちくに・熊谷くまがい、藩医/国学) M 2 8 2 3  
 有隣(ゆうりん・土屋) → 邦敬(くにたか・土屋つちや、農業/庄屋) E 1 7 3 5  
 有隣(ゆうりん・久郷) → 恭慶(たかよし・久郷ひささと、被官/歌人) Z 2 6 2 2  
 有鄰(ゆうりん・津野) → 滄洲(そうしゅう・津野つ、商家/詩歌人) B 2 5 8 5  
 有鄰(ゆうりん・橋本) → 雲鶴(うんかく・杉林すぎばやし、書家) D 1 2 6 4  
 有鄰(ゆうりん・渥美) → 忠直(ただなお・高山・渥美、幕臣/和算) Q 2 6 2 4  
 有倫(ゆうりん・飯田) → 有倫(ありとも・飯田い、儒医) F 1 0 5 2  
 西林軒(ゆうりんけん) → 辰寿(しんじゅ:俳名、富永平兵衛、歌伎舞役/作者) E 2 2 4 4  
 有隣軒(ゆうりんけん) → 高潔(たかきよ・小野、幕臣/国学者) C 2 6 6 9  
 有隣軒(ゆうりんけん・宇都宮) → 有隣(ゆうりん・大久保、藩家老/俳人) E 4 6 1 2

E4614 **有隣齋**(ゆうりんさい・三浦みづら、名;信成) 1674-1754<sup>81</sup> 播磨高砂の大庄屋/製塩業、歌人、紀行文、1740紀行「東海濟勝せいしやう記前編」著(後編は1762息子迂斎著)、

[有隣齋(;)号)の字/通称/屋号]字:道貞、通称:甚兵衛、屋号:塩屋、法号:亨徳院

有隣齋(ゆうりんさい・伊藤) → 玄筋(げんせつ・伊藤いとう、藩医/儒者) K 1 8 5 5  
 有隣齋(ゆうりんさい・神谷) → 藍水(らんすい・神谷かみや、幕臣/和算家) C 4 8 7 5  
 遊林子(ゆうりんし) → 遊林(ゆうりん・珍書堂、俳人) E 4 6 0 6  
 有隣亭(ゆうりんでい・里村) → 昌逸(しょういつ・里村さとむら、幕府連歌師) F 2 2 0 9  
 有隣亭(ゆうりんでい・里村) → 昌雲(しょううん・里村さとむら、連歌宗匠) F 2 2 3 3  
 祐類(ゆうるい・山地) → 祐類(すけとも・山地やまじ、和学/歌人) J 2 3 3 5  
 涌蓮(ゆうれん) → 涌蓮(ようれん・慧亮、真言僧/歌人)  
 雄蓮社(ゆうれんしゃ) → 詮察(せんさつ;法諱、浄土僧) M 2 4 3 5  
 友廬(ゆうろ・山田) → 大堅(ひろかた・山田やまだ、大肝煎/歌人) M 3 7 2 1  
 友浪(ゆうろう) → 二蔵(にぞう・坂野/阪野、農業/地誌) 3 3 3 6  
 遊六乞士(ゆうろくこつし;号) → 如海(にょかい;法諱・性寂、真言僧) F 3 3 8 5  
 有鹿邨(ゆうろくそん・阿部) → 縵州(けんしゅう・阿部あべ、篆刻家) J 1 8 5 2

E4616 **有和**(ゆうわ;道号・寿筠じゆいん;法諱、吉田宗忠男)?-? 臨濟宗仏光派僧;敵甫寿楞じゆりょう門/京の竜安寺養花院住職、1570和漢聯句/76如雪と両吟漢和聯句/1585和漢聯句、[有和寿筠の号] 曲庵、宗桂(角倉了以の父)の弟

E4615 **友和**(ゆうわ/ともかず・細井ほそい)?-? 江前期大和今井の俳人;

1671重徳「新独吟集」独吟百韻入、

狂歌:1672行風「後撰夷曲集」入/79行風「銀葉夷歌集」35首入

有和(ゆうわ・鈴木/北) → 静廬(せいりょ・北きた、町人/国学/狂歌) D 2 4 2 3  
 榆園(ゆえん・古山) → 千丈(ちたけ・古山こやま、藩士/国学/歌) M 2 8 4 9  
 油煙齋貞柳(ゆえんさいていりゅう) → 貞柳(ていりゅう・油煙齋/鯛屋、狂歌) 3 0 0 9

E4617 **由翁**(ゆうおう) ?-? 江中期俳人;1776几董「続明烏」1句入、[笞とま撫でて見るや霜夜の山賤やまがつら](続明烏;657/冷込みに外に出て苦屋を見る杣人)

G4677 **遊堀**(ゆか・川喜田かわきた、遊堀女ゆがじよ、竹川政胖の妹) 1829-1906<sup>78</sup> 伊勢射和の生、伊勢津の商家;久太夫家14代川喜田政明まさあきの妻、政豊の母、国学/歌、[遊堀(;)名)の号] 政/正子

G4664 **遊歌子**(ゆかこ・内田うちだ) ?-? 江後期;江戸の歌人;村田春路門、薙刀;矩芳流三間矩廉門、薩摩島津家・秋田佐竹家の姫に出仕、維新後;東伏見宮嘉彰親王に出仕;親王の渡欧後帰郷

- 遊堀女(ゆかじよ・川喜田)→ 遊堀(ゆか・川喜田かわきた/竹川、歌人) G 4 6 7 7  
 由加之助(牀之助ゆかのすけ・西野)→ 古海(ふるみ・西野にし、国学/歴史) I 3 8 5 9  
 湯川新庄司(ゆかわしんしょうじ)→ 政春(まさはる・湯川/源、武将/連歌) G 4 0 3 5
- E4618 儉閑(ゆかん) ? - ? 江前期京の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」2句入、  
 [子日ねのびには足を休むる今年哉](犬子集;115/今年の子日の遊びは寝伸び)
- E4619 由貴(ゆき・藺田そのだ/初姓;向井)1792-184150 志摩槌柄の歌人、藺田守良の妻、  
 1839(天保10)「西園示児草」著(息子守経筆写);家庭教育の資料、  
 [由貴(;名)の別名/法号]別名;由貴子/悠機子、法号;貞恵院
- H4624 由枝(ゆき・間島まじま、旧姓;大塩)1831-9464 尾張名古屋藩士間島冬道の妻、歌人;夫門、  
 ゆき(中川/浅井、政辰妻)→ 可葉(かよう・風姿園、俳人) P 1 5 6 1  
 ゆき(斎藤) → ゆき女(ゆきじよ・斎藤さいとう、歌人)  
 雪(ゆき・久隅/清原) → 雪信(ゆきのぶ・清原、久隅守景女/絵師) F 4 6 2 2  
 雪(ゆき) → 雪女(ゆきじよ、歌人/俳人) E 4 6 5 3  
 雪(ゆき・木津屋/三好) → 正慶尼(しょうけいに、書画/故実) I 2 2 3 0  
 遊喜(ゆき・三浦) → 遊子(ゆうこ・松平/三浦、中藤/歌人) B 4 6 5 4  
 喩義(ゆぎ・熊野/饒田) → 西疇(せいちゆう・饒田にぎた、儒者/崎門学) J 2 4 2 3
- H4663 行晟(ゆきあき/ゆきあきら・度会、) ?- ? 鎌倉南北期;伊勢外宮神職;権禰宜、  
 歌人;1334(建武元)度会朝棟亭八月十五夜歌会参加、  
 [五十鈴川神世の秋を移してやかはらぬ月の影は澄むらん](朝棟亭歌会;73)  
 [結びえぬ我がことのはの露をさへ今夜は玉にまじへてぞみる](同;75)
- E4620 幸秋(ゆきあき・豊原とよはら、英秋男) ?-? 室町中期楽人;兄量秋の養子、家業の笙に長ず、  
 従五位筑後守、称光天皇の笙の師、1425「豊原幸秋鳳笙譜」編、治秋はるあきの父
- H4657 行顕(ゆきあき・下山しもやま、) ? - ? 江前期;上方の武士/歌人、  
 1670下河辺長流[林葉累塵集]9首入、  
 [ならしばの夏の木かげの涼しさもかりばの雪のなごりなるらん]、  
 (林葉累塵;夏355/檜柴は檜の小枝/一般には[檜柴の]は[馴れ]の序詞)
- H4610 行明(ゆきあき・成田なりた、)1770-183869 江戸の生/伊勢桑名藩士  
 国学;富樫広蔭(1793-1873)門、  
 [行明(;名)の字/通称/号]字;士騏、通称;藤右衛門、号;竹軒/汀鷗
- E4621 行詮(ゆきあきら・二階堂にかいどう/本姓;藤原、行持男) ?-? 南北期武家;五位信濃守/歌人、  
 新後拾遺1180、  
 [今ははやよそにみつものこも枕かりねの後は夢だにもなし](新後拾;恋1180)
- E4622 五明(ゆきあきら・塚谷つかたに、通称;沢右衛門)1756-182469 加賀大聖寺藩士;1774(安永3)家督継嗣、  
 作事奉行/1798新知60石受;郡奉行、領内巡検/伝説・歴史・産物を調査・記録、  
 1803(享和3)「芟憩ばつげい紀聞」著、市佑の父/浅の祖父  
 行晟(ゆきあきら・度会) → 行晟(ゆきあき/ゆきあきら・度会、神職/歌) H 4 6 6 3
- E4623 行明親王(ゆきあきらしんのう・ゆきあきらのみこ、宇多天皇第10皇子)925-948早世24 母;藤原時平女京極御息所、  
 宇多天皇出家後の誕生/天皇没後醍醐天皇の猶子、927(延長5)親王宣下/937元服、  
 上総太守;早世、通称;十二皇子じゅうにのみこ、顕忠女との間に一子を儲ける、  
 平安前期歌人後撰集2首(10/1230;眞延法師への返歌)、  
 [ふるさとの野辺見にゆくといふめるをいざもろともに若菜摘みてん]、  
 (後撰;春10/宇多院の子の日に式部卿敦実親王を誘う詠)
- E4624 之淳(ゆきあつ・陸原くがはら) ? - ? 江後期越中の農家/幼少より漢学を好む、  
 加賀藩儒奥村止斎に才を認められ儒臣となる、藩校明倫堂教授に抜擢され藩侯の侍読、  
 140石を受/孫の慎太郎を嗣子とし1852家督譲渡、隠居後;十人扶持、  
 詩人;「藤蔭詩稿」「七家詩存」「大学説聞書」著/1850「松雲御坐右銘浅解」著  
 [之淳(;名)の別名/通称号]別名;淳、通称;大次郎、  
 号;藤蔭/蒼厓そうがい/(隠居後の号);韋斎/水石居
- E4625 幸敦(ゆきあつ・木崎きさき) ? - ? 江後期若狭小浜の国学者;  
 1804(文化元)「皇国韻鏡」著、木崎正敏(まさとし1689-1766/商家/歌人)の後裔?



- E4626 **行厚**(ゆきあつ・山口やまぐち/本姓;紀、神職賀茂賢頭男)1773-1838<sup>66</sup> 兄山口厚敷の養嗣子、廷臣/官人、右少史/主殿権助/治部少丞/左少史/大丞/1808右大史/1820正五下/1836書博士/甲斐守、書;賀茂保考門/大師流書家、山城塔の壇に住、養嗣子;厚生、「文政度大祀主基行事記」著、[行厚(;名)の別名/法号]別名;居頭、法号;元眞院
- G4699 **行篤**(ゆきあつ・玉井たまい、)1792-1874<sup>83</sup> 讃岐高松藩士、国学者、[行篤(;名)の字/通称/号]字;忠言、通称;正太郎/縫之助、号;休叟/知足
- H4607 **行篤**(ゆきあつ・中山なかやま/柴田、中山道彦[1782-1832]4男)?-? 江後期;讃岐高松藩執政、国学者、雪子(1799-1868/歌人)の弟、[行篤(;名)の通称]半三郎/千馬之助(父の称継嗣)
- G4643 **行有**(ゆきあり・青木あおき/本姓;宗岡、通称;中務大録)1763-1818<sup>56</sup> 京の官人、歌人
- E4627 **行家**(ゆきいえ・藤原ふじわら、讃岐入道、文章博士藤原家経男)1029-1106<sup>78</sup> 母;藤原公業女、廷臣、文章得業生/1060対策/正五下/阿波・讃岐・美作守、文章博士、弾正大弼/正四下、1085具平親王の仏像建立の願文を書く/88三井寺常行堂供養願文を書く、1100出家、詩歌人、長済・正家の弟、行盛・宗国・有業の父、1106(嘉承元)没、詩;鳥羽殿行幸における詩宴の講師/願文集・本朝小序集に3篇の詩文入、中右記部類紙背漢詩集・教家摘句に詩句10首入、続文粹入、歌;堀河天皇大嘗会和歌参加/1094関白師実高陽院歌合参加、金葉2首;679/681(金葉Ⅲ240)、雲葉集入、[秋ならで妻呼ぶ鹿をきゝしかな折から声の身にはしむかと](金葉;補遺679)(しかなは詠嘆のこもった願望/秋だから悲しいのか否かと[確かめるために])[吉野川滝の上なる山桜岩越す波の花と散るらし](雲葉;春177)
- E4628 **行家**(ゆきいえ・藤原ふじわら、日向守行国男)?-?<sup>1183</sup>存 平安後期廷臣;四位左近将監/上西門院判官代、歌人;月詣集入、勅撰2首;千載(254)新勅撰446、[吹く風に折れふしぬれば女郎花まがきぞ花のまくらなりける](千載集;秋254)
- E4629 **行家**(ゆきいえ・源、新宮十郎、為義男)?-1186 平安末期熊野新宮の武将/義仲と平家を追討、義経と共に頼朝討伐を謀る;陸奥平泉で殺害
- 4606 **行家**(ゆきいえ・九条くじょう/本姓;藤原、六条知家男)1223-75<sup>53</sup> 歌道の家六条家の嫡流、鎌倉期廷臣、侍従/1255(建長7)従三位非参議/67左京大夫/治部卿/従二位、1275(建治元)没、隆博の父、歌人;反御子左家派の立場、1243河合社歌合/46春日若宮社/48宝治百首/51影供、1253定家13回忌追善詩歌(為家勸進)参、1261弘長百首出詠、1265龜山五首歌合・白河殿七百首参加、光俊(真観)の推挙で「続古今和歌集」撰者(1265藤原為家・基家・家良・光俊と共編)、1265白河殿七百首参加/1271-4頃私撰集「人家和歌集」編、詩;和漢兼作集入、連歌;菟久波集8句入/連歌式目を制作、勅撰81首;続後撰(169/859)続古(17首106/218/269以下)続拾(14首96/117/122以下)、新後撰(7首93/178/215以下)玉(4首)続千(6首)続後拾(4首)風(4首)以下、[かつ見てもあかぬ心の色ならばうつるばかりや花に染めまし]、(続古今;二春106/建長六1254年三月三首歌合の詠)
- 行家(ゆきいえ・渡会) → 家行(いゆき・渡会わたらい/村松、神職/歌) 1 1 6 8  
幸家(ゆきいえ・藤原・九条) → 忠栄(ただひで・九条、関白) Q 2 6 5 8
- E4630 **行氏**(ゆきうじ・祝部ほうりべ/はふりべ/生源寺、行言男)?-? 1323[80歳位]存 日吉社禰宜/惣官、従四下、のち正四下?、行親の父、二条派歌人;頓阿「井蛙抄」に入、拾遺現藻・続現葉・藤葉集入集、勅撰12首;新後撰(759)続千(903/1675/1971)続後拾(1190/1346)新千(3首)新拾(2首)以下、[年をへて祈る心を敷島の道ある御代に神もあらはせ](新後撰;十神祇759)、[たのめぬにとふべきものとまたるはいつならひける夕なるらん](藤葉;恋474)
- E4631 **行氏**(ゆきうじ・東とう/本姓;平、胤行[素暹]男)?-1325 母;藤原為家女、武将;中務丞/左衛門尉、氏村の兄、通称;六郎/法名;素道、歌人;二条為氏門、勅撰22首;続拾(715/866/943)新後撰(6首181/279以下)続千(5首)続後拾(1192)新千以下、[かへりみるあとに重なる山のはの遠き雲みや都なるらん](続拾遺;羈旅715)
- E4632 **幸氏**(ゆきうじ・伊藤いとう、通称;甚右衛門)1655?-? 江前中期小笠原流武家故実家;水島之成門;高弟、



- 1700「射揚的伝記」04「犬追物大意」27「犬追物覚悟集」29「伊藤流礼式百ヶ条口伝」著、  
「故実撰要集」「女礼集」「宝永志記」「流罪之法式」「若水祝」「文字集」「積方口伝」外著多数
- E4633 **雪江**(ゆきえ/せつこう・中根なかね/本姓;平、衆諧の長男)1807-7771 越前福井藩士;1830家督嗣、  
1838田安家からの11歳の養子藩主松平春嶽の御用掛;46藩主の側用人、藩命で国事奔走、  
藩主春嶽の安政大獄幽閉時に奔走、将軍継嗣・条約勅許問題に奔走/公武合体推進;  
1863藩論分裂の責を負い隠居/1864再び国事に参加;1867新政府の参与職;  
徳川家のため尽力/68辞任;越前宿浦に隠棲、国学者:平田篤胤門/漢学;高野真斎門、  
橘曙覧を後援、「昨夢紀事」「再夢紀事」/1867「丁卯日記」、「中根鞆負書翰集」著、  
[夏としも浪のよるよる雪とちる磯回いそみの月の影の涼しさ]、  
(1861春嶽[古今百人一首]入;80/変名師資名)、  
[雪江(;号)の名/通称/別号]名;師質/師賢もろかた、通称;栄太郎/鞆負/七郎右衛門、  
別号;拘堂/拙舟/松陰漁屋、神号;堅磐松蔭命  
鞆負(ゆきえ・浦) → 元襄(もとまさ・浦うら/国司くにし、家老/日記) E 4 4 3 2  
由喜恵(ゆきえ・為永) → 春晔(しゅんぎょう・為永、人情本作者) J 2 1 3 9
- H4655 **之雄**(ゆきお・藤原ふじわら、) ? - ? 江前期;廷臣?/歌人、  
1682河瀬菅雄[麓の塵]15首入、  
[春ふかくなるみの浦の海士小舟こぎ行く末や猶霞むらん](麓の塵;春22)
- E4634 **幸雄**(ゆきお・齋藤さいとう)1737- 179963歳 江中期江戸神田雉子町の名主、博聞/文事を好む、  
「江戸名所図会」を企画(未完のためのち孫の月岑が刊行)、幸孝の父/幸成(月岑)の祖父、  
[幸雄(;名)の別名/字/通称/号]別名;貞竜、字;幸興、通称;市左衛門、  
号;完斎/松濤軒・長秋/淡水子、法号;切翅院
- H4623 **之雄**(ゆきお・堀田ほつた、通称;折之助)1787-185771 尾張海東郡の津島神社社家、  
国学者;本居宣長・春庭門、妻;倉女くらじよ(1809-75/富樫広蔭門の歌人)
- G4663 **幸夫**(ゆきお・内田うちだ、則明のりあき[1763-1814]男)1788-181831 備前児島郡天城藩池田家典医、  
国学者;内藤中心なかご[桜舎さくらのや]門、  
[幸夫(;名)の別名/号]別名;御年/御歳/美年みとし、号;桜廼屋さくらのや(師の号を継嗣)
- G4683 **幸雄**(ゆきお・後藤ごとう、)1795-187379 陸奥安達郡の国学者・歌;小沼幸彦・松本茂彦門、  
[幸雄(;名)の通称/号]通称;孫七、号;十駕/山入樵入/むさゝび山人
- E4635 **幸雄**(ゆきお・鹿取かとり、通称;彦兵衛)1797-? 1860存 江後期歌人;富樫広蔭門、  
1840「常磐蔭ときわかげ集」著(1823-60[27-64歳]の歌を収める)
- E4636 **幸雄**(ゆきお・二斗庵、浅処) ? - ? 大阪の洒落本作者;  
1826「北川蜆殻ほくせんじみのから」著(;蔵二庵五六の関/序、一楊歳正信画)
- G4693 **幸雄**(ゆきお・島田しまだ、)1801- ? 周防山口の長門藩士;山口講習堂稽古係、国学者、  
[幸雄(;名)の通称/号]通称;清吉、号;水琴
- H4614 **幸雄**(ゆきお・幡鎌はたかま、本姓;勾坂さぎさか)1808-9083 遠江周智吟の神職;山名神社祠官、  
歌人;石川依平よりひら門/国学;八木美穂よし門、戊辰戦に隆俊らと討幕軍遠州報国隊を結成、  
のち招魂社(靖国神社)社司/帰郷後;山名神社の神職、隆俊の父、  
[幸雄(;名)の初名/通称]初名;苞隆、通称;左仲
- H4636 **幸夫**(ゆきお・森岡もりおか、別名;通雄/通称;新五右衛門) ? - 1878 石見津和野藩士、国学者/歌人、  
国学・歌;大国隆正(1792-1871)門、藩の勤王派石河いに正義まさかいと交流;京で情報収集、  
維新後;神祇官出仕;宣教大主典
- G4623 **幸雄**(ゆきお・鐺木かぶらき) ? - ? 江後期安政(1854-60)頃の神職、  
江戸芝神明社神主、国学;小山田与清ともきよ門、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[独り寝の枕の山のほととぎす夢かあらぬか夜半よはの一声](大江戸倭歌;夏439)、  
[春立つといひくら山の朝霞しめの内外に柵引きにけり](現存百人一首;70)、  
[幸雄(;名)の通称/号]通称;内膳/内人、号;鼎湖/唯一閑人/載竜堂
- G4666 **幸雄**(ゆきお・小野おの、通称;常陸)1822-9271 筑後久留米の国学者/歌人;安元真満まさみつ門
- G4691 **行雄**(ゆきお・鳴原しぎはら、通称;長太郎)1827-190781 陸奥仙台藩士[世臣]、  
国学・歌;西山隆従たかより門

[行雄(；名)の号] 今日庵(；師の号を嗣)

幸夫(ゆきお・糸永) → 忠昌(ただまさ・糸永いとなが、神職/国学) V 2 6 6 8

幸雄(ゆきお・土持) → 幸雄(さちお・土持つちもち/山室、国学・神道) Q 2 0 9 8

以緒(ゆきお・菅原/橘) → 以緒(もちお・ゆきお・橘/薄/菅原、廷臣/詩) B 4 4 3 3

義篤(ゆきお・杉本) → 義篤(よしあつ・杉本すぎもと/藤原、医者) C 4 7 1 5

雪雄(ゆきお・桜井) → 梅室(ばいしつ・桜井、俳人) 3 6 0 4

G4692 靱夫(ゆきお・静しずか、旧姓；諏訪) 1826-1899 74 石見邑智郡の多嶋神社祠官、

国学；松田大平・平田鉄胤門、

[靱夫(；名)の別名/通称/号]別名；重濤、通称；信濃、号；射山々人/陶々生/勁節

靱雄(ゆきお・橋本) → 直香(ただか/なおか・橋本、国学/歌人) E 2 6 8 7

幸興(ゆきおき・斎藤) → 幸雄(ゆきお・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 3 4

E4637 雪臣(ゆきおみ・垣本かきもと/本姓；菅原) 1777-1839 63 伊勢の生/上京し漢学；竜公美門、

歌人；伴蒿谿・賀茂季鷹門、有職；橘(橋本)経亮つねあきら門、仁和寺に出仕、

絵師；松村呉春(月溪)門、歌・狂歌・狂詩・狂文・画・書を嗜む、

大坂に遊ぶ/のち石清水八幡宮に奉仕；同地に没、

季鷹「雲錦翁家集」跋、「けむり草」「葎たでの落穂」著/「二十四番歌合」判者、

[雪臣(；名)の通称/号]通称；貢、号；葎町(こうちよう/たでまち)/蓼舎たでのや

H4643 靱臣(ゆきおみ・山田やまだ、正昌男) 1804-91 88 周防都濃郡の国学者；鈴木直道門、

[靱臣(；名)の字/通称/号]字；敬美、通称；郁之丞、号；松窓/八束園

E4638 随景(ゆきかげ・小林こばやし、号；掃雲堂) ?-? 江中期尾張名古屋の儒者/暦占に精通、

1748(延享5)「日用曆談」、「宗徳経抄」「河図洛書大極深密口訣」著

G4697 行和(ゆきかず・丹治たじ、初名；行年/通称；近江守) ?-1841 陸奥信夫郡黒岩の春日神社社司、

国学；本居春雄門

E4639 以一(ゆきかず・いっ・高橋たかはし) 1829-1879 51 佐渡相川の薬舗/俳人；小築庵春湖門；佐渡訪問時、

佐渡の殖産に尽力；佐渡県・相川県勤務、東京府書籍しよじやく館員、「以一師説」著

[以一(ゆきかず；通称/いっ；号)の初通称/別号]初通称；伊左衛門、別号；節堂、法号；釈廓居士

幸一(ゆきかず・永井) → 幸直(さちなお・永井ながい、名主/国学/歌) N 2 0 2 4

幸和(ゆきかず・吉見) → 幸和(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6

氏計(ゆきかず・小泉) → 蒼軒(そうけん・小泉こいずみ、地誌/測量家) H 2 5 0 8

E4641 行方(ゆきかた・藤原、行村男) ?-1267 鎌倉期廷臣；和泉守/式部丞、

歌人；1261「宗尊親王百五十番歌合」参加、

[山がつの垣根つづきに声すなり梅が香かあかぬ春の鶯](宗尊歌合；九番左17)

幸方(ゆきかた・安平次) → 幸方(こうほう/ゆきかた？・安平次あへいじ、俳人) L 1 9 2 1

E4640 幸勝(ゆきかつ/よしかつ・吉見よしみ/初姓；園崎、本姓；菅原/源) 1615-76 62 伊勢の神道家、

1627尾張名古屋藩主徳川義直に出仕；近侍、名古屋東照宮の祭祀/1662(寛文2)正五下、

宮内大輔；園崎を吉見に改姓、1642「隠頭集」52「伊勢皇太神宮参詣記」、「三社託宣解」著、

[幸勝(；名)の別名/通称/号]初名；直勝、通称；左近、号；隠頭府君、恒幸つねゆきの父

行勝(ゆきかつ・伊藤) → 玄筋(げんせつ・伊藤いとう、藩医/儒者) K 1 8 5 5

E4642 ゆきから(良岑よしみね) ? - ? 平安前期保明親王(903-923)の帯刀、

歌；920頃「保明親王帯刀陣歌合」(保明親王の春宮坊護衛の帯刀陣で開いた歌合)入、

[ゆふされば声ふりたててきりぎりす露を寒みやよもすがら鳴く]

(帯刀陣歌合；蟋蟀左3)

H4605 雪樹(ゆきき・中村なかむら、) 1831-1890 60 長門萩藩士、兵学；吉田松陰門/国学；山田重作門、

皇学・歌；近藤芳樹門、維新後；萩中学校長/萩町長、

[夏ごろもうすき袖にはありし世のあつき恵をついゝみかねつゝ]([萩の歌人]入)、

[雪樹(；名)の別名/字/号]初名；昌蔵/誠一(成一)、字；子彬、号；栗軒/天海/草茵

之吉(ゆききち・林) → 蘭雅(らんが・林はやし/賀茂、絵師) B 4 8 6 4

G4633 行清(ゆききよ・市川いちかわ) ? - ? 江後期；歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ゆふだすきかけてあふせを祈れども幾年月かふるの神垣](大江戸倭歌；恋1406)

- E4643 **之清**(ゆききよ・桂かつら、通称;礼助)1821-? 1863存 秋田藩士;江戸住/国学者:平田鉄胤門、  
「佐竹軍功記」/1861「佐竹藩史又略」著
- E4644 **行葛**(ゆきくず・藤原ふじわら、忠邦男)?-? 平安前期廷臣;従五下、953学生(字;藤淑);  
鹿島香取両社幣帛使、959内裏詩合(学生で念人として参加)、960文章生試に詩(;学生)  
963(応和3)善秀才宅詩合;内記として評定で参加)、和漢朗詠集・類聚句題抄・江談抄入、  
文粹1篇入
- G4629 **之邦**(ゆきくに・鈴木すずき、通称;安房守)?-? 江後期;幕臣/安房守、歌人、和宮奉歓役、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[立ち寄れば涼しき風のかよひきて松にも波の声はありけり](大江戸倭歌;夏644)  
幸国(ゆきくに・花垣) → 一衛(かづえ・花垣はながき/北原、国学者) M 1 5 1 1
- H4629 **幸子**(ゆきこ・松平まつだいら、烏丸光栄[1689-1748]女)?-1763 京の生/歌人;父門、  
陸奥白河藩主松平定賢さだよし(1709-70)継室;定邦(1728-90)の母
- G4638 **幸子**(ゆきこ・毛利もより、有栖川織仁女)1782-1852 71 京の歌人、長門萩藩9代藩主毛利斉房の正室、  
[幸子(;名)の別号/号]初名;同宮/栄宮、号;貞操院
- G4685 **雪子**(ゆきこ・近藤こんどう、名;雪、堀尾直賢3女)1782-1852 71 信濃伊那郡の生/国学;父直賢門、  
松本の酒造・薬舗業の近藤茂左衛門弘美と結婚、茂左衛門弘方・山本貞一郎の母、  
国学・歌;出雲神官中村守臣門、歌人  
父 → 直賢(なおかた・堀尾ほりお/倉科、国学/歌) M 3 2 1 6  
子 → 弘方(ひろかた・近藤こんどう、商家/尊攘/国学) J 3 7 6 0  
→ 弘素(ひろもと・山本やまもと/近藤、貞一郎/国学/尊攘) J 3 7 6 1
- H4606 **雪子**(ゆきこ・中山なかやま、家老中山道彦長女)1799-1868 70 讃岐高松の歌人、行篤ゆきあつの姉
- G4686 **幸子**(ゆきこ・権藤こんどう、旧姓;水間)1814-83 70 筑後久留米の国学/歌人、  
医者権藤百々丸ももまる(旧姓;別府)の妻
- G4677 **幸子**(ゆきこ・川瀬かわせ、名;幸こう、旧姓;飯島)1818-65 自刃 48 近江彦根の生、国学・歌人、  
近江膳所の儒者川瀬太幸ださい(1819-66処刑)の妻、尊攘派の夫を助け諸藩の志士を匿う、  
1864(元治元)長州藩士救助計画中夫が捕縛され新撰組と京都町奉行所が自宅搜索;  
夫の残した書類を燃やし自殺を図る;怒った幕吏が幸の頭を蹴り立ち去る;憤り絶食自刃  
夫は翌年斬首
- E4645 **幸子**(ゆきこ・足代あじろ/本姓;度会、足代弘訓女)1819-68 50 伊勢度会の歌人、  
幼時より文学・歌;父門、「足代幸子歌集」著  
由貴子(悠機子ゆきこ・藺田) → 由貴(ゆき・藺田そのだ/向井、歌人) E 4 6 1 9  
由岐左衛門(ゆきざえもん・小出) → 光教(みつり・小出/北野/数藤、暦算家) E 4 1 4 9
- H4659 **行貞**(ゆきさだ・二階堂にかいどう/本姓藤原、行宗[1256-96]男)?-? 鎌倉幕府執事/従五下左衛門尉、  
信濃・山城守、1301(正安3)出家;法名行暁、貞衡(左衛門尉/1331没)・高貞(行広)・顕行の父、  
歌人;柳風抄入、  
[山かぜのさそはぬかたによわるなり木ずゑをこゆるさをしかの声](柳風抄;秋91)
- E4646 **行定**(ゆきさだ・土佐とさ、広周ひろかね男)?-? 室町期土佐派絵師;父土佐広周門、  
右京亮、幕府絵事従事、1479父と合作「明恵上人絵巻」画
- E4647 **幸定**(ゆきさだ・反町そりまち) ? - ? 安桃-江前期の武将;武田勝頼・北条氏直に出仕、  
上杉景勝・結城秀泰に出仕/関東各地を転戦、1617高崎城下で浪人;  
仕官を求め水戸徳川家に「反町大膳訴状」を提出、  
[幸定(;名)の通称] 大膳亮/大膳
- G4642 **行貞**(ゆきさだ・安部あべ、武貞[勝貞]男)?-1830 長門萩藩士/歌人、  
[花の春たつ方なれや朝日影長閑に見えて匂ふ山の端](;萩の歌人)  
[行貞(;名)の通称] 吉兵衛  
行貞(ゆきさだ・張) → 月樵(げっしょう・張ちよう、絵師) H 1 8 1 0
- E4648 **行実**(ゆきさね・中原なかはら、行範男)?-? 鎌倉中期廷臣;左衛門尉/築後守/四位、  
後嵯峨上皇の近臣、歌;1265後嵯峨院当座歌合参、75家経「撰政家月十首歌合」参加、  
勅撰4首;続古(1733)続拾遺(585/939)新後撰(1546)、  
[ふけゆけば山かげもなし吉野なるなつみのかはの秋の夜の月](続古今;十九1733)、



(本歌;万葉[吉野なるなつみの川の川淀に鴨そ鳴くなる山かげにして]湯原王)

- E4649 **以守**(ゆきざね・本保ほんぼ、長置2男)1725-9470 本家の加賀金沢藩士本保敬止の養子、  
金沢藩士/1752家督継嗣;馬廻組に列す/作事奉行・物頭並・勝手方を歴任、1786遠慮を下命、  
1791先筒頭に復す、京に勤番中に暦学;西村遠里門/象緯術数の測遠山崎流を修学、  
藩校明倫堂天文教授、1774「造作辨」著、「加州改算曆推歩並立成」編、  
[以守(;名)の通称/号]通称;杳之助もくのすけ/十太夫、号;離側軒
- G4673 **致真**(ゆきざね・片桐かたぎり、)1811-188070 信濃伊那郡阿島藩の間屋、片桐致知ゆきとも兄、  
儒;長谷川宗右衛門(峻阜)門、歌人、  
[致真(;名)の通称/号]通称;長九郎、号;三省/松庵
- E4650 **行重**(ゆきしげ・大江おおえ) ? - ? 1132存 平安後期廷臣;左兵衛少志/檢非違使/河内守、  
隱岐守、中右記長治元(1104)年7月9日条に[左衛門志大江行重;藏人所出納]とある、  
大江季重すえしげ・藤原孝範の母・藤原範貞の母らの父、  
歌人;1104(長治元)「散位広綱後番歌合」参加、金葉集(650;連歌)、  
[いかなる神のつくにかあるらん](金葉;連歌650/搗くと憑くを掛る、  
詞書;賀茂の社にて物搗くおとのしけるを聞きて、  
前句;標しめのうちにきねの音こそ聞ゆなれ;神主成助/標は注連繩/杵に巫覡きねを掛る)
- G4632 **幸重**(ゆきしげ) ? - ? 室町期;尾張熱田神宮の神職、  
連歌作者;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、  
[捨てもせで住むこそ人のうき世なれ](熱田法楽;賦山河三表7、  
出家出来ないで侘びしく暮らす我が身こそ憂き世の人;述懐、  
前句;宥任;ところがらなる身のいやしさよ)
- 4607 **之重**(ゆきしげ・観世かんぜ、政盛男)?-1519 能楽師;観世大夫5世/若年父没;叔父信光が補佐、  
後年は技芸熟達;名人と称される、「能優須知」著、  
[之重(;名)の通称/法名]通称;三郎、法名;祐賢
- E4651 **征成**(ゆきしげ・滝川たきがわ、之成男)1650-170556 尾張藩士;1693家督継嗣、1701寄合触流、  
「滝川弥一右衛門蔵秘覚書」著、  
[征成(;名)の初名/通称]初名;常成、通称;弥一右衛門/弥市右衛門/豊前
- E4652 **行茂**(ゆきしげ・祝部ほうりべ/はふりべ/生源寺、行富男)1653-173785 日吉社司/1719従三位、  
1713(正徳3)「日吉雑記」著
- G4630 **恭重**(ゆきしげ・鈴木すずき) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[めできつつ老となる身もあかずなほ月に千年の秋やちぎらん](大江戸倭歌;911、  
仲之が家の尚齒会に月契千秋といふ題にて/篠木信節のぶらと)
- G4648 **之重**(ゆきしげ・赤塚あかつか/本姓;財、号;楽翁)?-? 江後期;嘉永1848-54頃の出雲大社上官、  
国学/歌人;千家俊信門
- H4603 **恭重**(ゆきしげ・中川なかがわ、)? - 1857 躬之岩村の生/駿河島田に住/医者、  
医・国学;森広主門/歌;福住清風門、信濃飯田藩医、  
[恭重(;名)の別号/通称/号]別号;中恭/由季重ゆきしげ/比古重、通称;周碩、号;静斎
- G4657 **雪重**(ゆきしげ・今村いまむら、初名;樞雄、万兵衛宗重の長男)?-1880 信濃伊那郡座光寺村の旧家の生、  
学問;大伯父今村蛙村門、歌人;福住清風門、座光寺村組頭/副戸長、歌人  
歌人の北原稲雄・佐々木吉晴・今村信敬・今村隆氏・池田重安・串原祥房と交流
- |             |   |                      |           |
|-------------|---|----------------------|-----------|
| 行成(ゆきしげ・藤原) | → | 行成(こうぜい・藤原、廷臣/書家;三蹟) | 1 9 1 3   |
| 行重(ゆきしげ・近松) | → | 勘六(かんろく・近松ちかまつ、赤穂義士) | R 1 5 8 8 |
| 幸重(ゆきしげ・春日) | → | 延重(のぶしげ・春日かすが、神職/国学) | H 3 5 9 0 |
| 幸成(ゆきしげ・青山) | → | 幸成(ゆきなり・青山、歌人)       | 4 6 2 3   |
| 雪柴亭(ゆきしばてい) | → | 猪来(ちよらい・服部、俳人)       | K 2 8 4 6 |
- E4653 **雪女**(ゆきじよ) ? - ? 京の岡崎の歌人/俳人、琴を嗜む、妾、  
俳人;1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入;[雨の月曇る鏡のうらめいしや](女哥仙;27)
- G4634 **ゆき女**(ゆきじよ・斎藤さいとう)?- ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、



- [知ざりき又と契りて別れしも一夜かぎりの逢瀬なりとは](大江戸倭歌;恋1472)
- G4635 **ゆき女**(ゆきじよ・松崎まつざき)?- ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[いひよらんゆかり尋ねてけふよりぞ露わけそむる武蔵野の原](大江戸倭歌;恋1518)  
雪女(ゆきじよ・木津屋/三好)→ 正慶尼(しょうけいに、書画/故実/歌) I 2 2 3 0
- 4608 **行季**(ゆきすえ・世尊寺せそんじ/本姓;藤原、清水谷実久男)1476-1532<sup>57</sup> 世尊寺伊忠(行高)の養子、  
戦国期廷臣;1512従三位/16正三位参議/29正二位/32出家、能書家、行季没後に家断絶、  
書流は持明院基春に相伝、1526「閑窓私記」、「世尊寺色紙十八形」「続色紙書法」著  
于季(ゆきすえ・秋田) → 侑季(よすえ・秋田あきた/安倍、藩主) D 4 7 7 2
- E4654 **行資**(ゆきすけ・橘たちばな、為政男/好古ここの孫)?-? 平安中期廷臣;伊予守/従四上、式部大夫、  
歌;1003(長保5)左大臣道長催「大殿(太政大臣家)三十講歌合」参加(判者;公任)、  
[いづくにもをしみやすらん五月雨の空をもわかず照らす月をば](卅講歌合;左5)
- E4655 **行輔**(ゆきすけ・九条くじょう/本姓;藤原、九条隆朝男)?-? 歌道六条家末裔、南北期廷臣;正四下左中将、  
歌;1357「延文百首」追加作者/「一万首作者」入/1367「新玉津島社歌合」参加、  
勅撰5首;新千載(1104)新拾(306/1211)新後拾(304/1349)  
[恋ひしなん思ひの煙せめてただあふにかへたる名にだにも立て]、  
(新千載;恋1104/延文百首歌;寄煙恋/三句せめてさは)  
六条家歌道嫡流九条家はこののち断絶、徽安門院小宰相と兄弟、  
参考 → 小宰相(こさいしょう・徽安門院きあんもんいん、女房歌人) C 1 9 5 9  
之輔(ゆきすけ・坂倉) → 澹翠(たんすい・坂倉さかくら、詩人) I 2 6 9 1  
之相(ゆきすけ・堀田) → 之岳(ゆきむら・堀田ほった/紀、神職) F 4 6 7 8
- G4633 **行澄**(ゆきずみ・東とう、通称;六郎兵衛)?-? 戦国期武将;明智光秀家臣、  
連歌;1582(天正10).5.24本能寺襲撃前夜光秀催「愛宕百韻」参加、  
[聞きなれにたる野辺の松虫](愛宕百韻;第8句/幾夜重ねた旅寝に聞き馴れた声、  
前句兼如;うらがれになりぬる草の枕して)  
行澄(ゆきずみ・倉部) → 倉部行澄(くらべのゆきずみ、酒問屋小島屋/狂歌) B 1 7 7 6  
由岐太(ゆきた・小出) → 光教(みつなり・小出/北野/数藤、曆算家) E 4 1 4 9
- E4656 **行高**(ゆきたか・狛こま、高季の長男)1062?-1120<sup>59</sup>? 楽人;左方一者を8年勤める、  
1114従五上/左近将監、大神おが惟季これすえの女婿;笛を相伝、「五鼓譜」著
- E4657 **行隆**(ゆきたか・藤原ふじわら、顕時男)1130-87<sup>58</sup> 母;有業女、平安後期廷臣;中宮大進/治部大輔、  
平家物語巻三に逸話、信濃前司行長(原平家物語作者?)の父
- E4659 **幸高**(ゆきたか・三枝さえぐさ)?- ? 戦国期廷臣、連歌作者;  
1470教具催「北畠家連歌合」参加、  
[むなしく過ぐる夕べ明けぼの  
うば玉の夜のまを夢の契りにて](北畠家連歌合;恋百四十五右、左は顕豊)
- 4620 **幸隆**(ゆきたか・細川ほそかわ/本姓;源、法号;妙庵、幽斎3男)?-? 母;沼田光兼女の麝香、戦国期武士:  
刑部少輔、出家;愛宕山福寿院住職、歌学:連歌、1593(文禄2)紹巴と「何人百韻」
- 4618 **行孝**(ゆきたか・細川ほそかわ/本姓;源、立孝[たつたか/忠興4男]の男)1637-90<sup>54</sup> 母;慈広院(布施野家)、  
肥後宇土初代藩主、熊本藩主細川光尚より3万石割譲される、1652初めて領地に赴く、  
1653丹後守/従五下、歌人:烏丸資慶門、正室;佐舞(三・さん・加来佐左衛門[細川家臣]女)、  
1669「浜の真砂」、「葵花集」「続葵花集」編、「続耳底記」問、「百首」「細川行孝公家集」著、  
「細川行孝三十首」「霊元院御添削和歌」「烏丸資慶卿覚書」外著多、宮松・三之助・有孝の父、  
[行孝(;名)の幼名/通称/法号]幼名;宮松、通称;帯刀、法号;泰源院  
妻も歌人 → 行孝室(ゆきたかのしつ・細川、歌人) E 4 6 6 7
- E4660 **幸隆**(ゆきたか/こうりゅう・松井まつい/本姓;山田/源)1643-? 1728存 江前中期;遠江掛川の国学者/歌人、  
歌道:中院通茂(1631-1710)門、中院家陪従、京都町奉行与力、致仕後;風客となる、  
古義堂に出入り;京の文人と交流、晩年江戸住、1696「三玉和歌集類題」著、  
1702「未来記雨中吟聞書」編/1711「六窓塵談」12「愚問賢註六窓鈔」著、  
「溪雲問答」編(通茂述歌論を筆録)、1728「諏訪浄光寺八景詩歌」参加(;釣月らと)、  
「歌題と歌」「松井幸隆聞書」「六窓軒記聞」著、

家集「幸隆ゆきたか類題和歌集」(編者不明;1770刊)/74「古今和歌集類題」撰(;1774刊)、  
1798刊広通「霞関集」入、

[草はみな若葉にかへる春の庭人めばかりぞかれしまなる](霞関;春80/閑庭春草)

[筑波ねはるかに見るもしるかれば端山はやま茂山げやま陰深くして]、

(諏訪浄光寺八景;筑波茂陰)、

[幸隆(;)名)の通称/号]通称;帯刀/善右衛門、号;六窓軒

参考:三玉集とは=後柏原天皇「柏玉集」・三条西実隆「雪玉集」・下冷泉政為「碧玉集」

E4661 **行高**(ゆきたか・人見ひとみ/本姓;小野、竹洞2男)1670-1744<sup>75</sup> 儒者桃原弟、1696父の遺知の内2百石受、  
医者;祖父元徳の医業を継嗣;幕臣小普請/1697番医に列す/98寄合、「増補小長医編」校

E4662 **之孝**(ゆきたか・三井みつゐ、親和男)1745-1810<sup>66?</sup> 江戸の書家/篆刻;父門、1764「游哉館印譜」著、  
[之孝(;)名)の別名/字/通称/号]別名;親孝、字;徳孺、通称;半四郎、号;竜淵/遊哉館、

E4663 **幸孝**(ゆきたか・斎藤さいとう、幸雄男)1772-1818<sup>47</sup> 江戸神田雉子町の名主、父に似て博学多識、  
父の遺稿「江戸名所図会」を整理(;息子幸成[月岑]が完成刊行)、「遊湘漫録」「郊遊漫録」、  
1809「熱海紀行」、「王子田楽記」「集古一滴」「箱根熱海温泉名勝図会」「世田谷古文書」著、  
1815「武蔵国雑記武蔵野地名考証」著/「多麻川の部」「衢之地理」編、外編著多数、  
[幸孝(;)名)の別名/通称/号]初名;竜雄、通称;五郎三郎/市左衛門、

号;英祥/莞斎/県磨あがたまる

父 → 幸雄(ゆきお・斎藤さいとう、名主/博聞) E 4 6 3 4

子 → 月岑(げつしん・斎藤幸成、名主/和漢学) B 1 8 0 7

E4664 **于喬**(ゆきたか・谷川たがわ/初姓;尾崎、尾崎雅嘉の弟)1767-? 1839<sup>存</sup> 大阪の医家谷川家の養子、  
医学/国学/歌人、兄雅嘉[1755-1827]没後;家督を養子に譲渡/孫に尾崎家を継嗣させる、  
自らは古典研究に専念;兄の著述の編纂補填作業も行う、  
「源語集注」「万葉集参註事物類字」、1839「万葉集事物類字」著、  
[于喬(;)名)の通称/号]通称;道伯、号;風月

4619 **幸専**(ゆきたか・真田さなだ、彦根藩主井伊直幸4男)1770-1828<sup>59</sup> 1785信濃松代藩主真田幸弘の養嗣子、  
1789幸弘女の三千姫と結婚/98家督継嗣;松代藩主、1825養子幸貫ゆきつらに家督譲渡;隠居、  
歌人:「大暁院詠歌集」、

[幸専(;)名)の幼名/通称/法号]幼名;順介、通称;豊後守/弾正大弼、法号;大暁院

E4665 **諧孝**(ゆきたか・山路やまち/本姓;平、徳風よつぐ男)1777-1861<sup>85</sup> 幕臣;1809幕府暦作測量御用手伝、  
1810天文方;父の跡目嗣、1829蕃書和解御用;シーボルト事件連座の高橋景保の後任、  
1837寒暖計製作;幕府に献上し褒賞、1854品川に望遠鏡設置、眺望図を作成呈上、  
1855テレグラフ(電信機)の伝習/57航海暦の編纂、58致仕、  
「航海暦歩法」編/1841「西暦新編」著、「万国全図」著、祖父;之徹ゆきよし、彰常あきつねの父、  
[諧孝(;)名)の通称]弥左衛門

幸隆(ゆきたか・池田) → 光政(みつまさ・池田いけだ、藩主/儒者) E 4 1 8 7

幸隆(ゆきたか・滋野) → 錦里(きんり・真田さなだ、本草家) R 1 6 9 6

幸孝(ゆきたか・柄井) → 川柳(2世せんにゅう、川柳点者) 2 4 4 0

行孝(ゆきたか・不破) → 惟益(これます・不破ふむ、神職/神道家) O 1 9 2 9

敬孝(ゆきたか・武田) → 熟軒(じゆくけん・武田たけだ、藩士/漢学) Y 2 1 6 7

行高(ゆきたか・世尊寺) → 伊忠(これただ・世尊寺/藤原、廷臣/歌) F 1 9 9 5

E4667 **行孝室**(ゆきたかのしつ・細川ほそかわ、名;佐舞さぶ・三・さん、細川家臣の加来佐左衛門女)?-? 江前期歌人、  
初代肥後宇土藩主細川行孝(1637-90/丹後守)の妻、宮松・三之助・有孝の母、  
法号;源立院、「霊元院御点三十首十五首」「勅点和歌」著、茂睡[鳥の迹]入、  
[幸崎の松は一夜に埋れて雪ひとりたつ志賀の浦波]、

([鳥の迹]冬508/湖上雪/細川丹後守妻名)

E4668 **行忠**(ゆきたか・西河原にしがわら/本姓;度会たらい、行継男)1236-1305<sup>70</sup> 祖父行能の養嗣、伊勢神職;  
1251伊勢外宮八禰宜/81正四上/三禰宜;83解任/87還任/1304外宮一禰宜、禰宜52年間;  
度会神道の基礎を固める、歌人;1291伊勢訪問の後深草院二条と歌交渉(とはずがたり)、  
神宮の故事に精通、1285「伊勢二所太神宮名秘書」、「古老口実伝」「神名甄録」「心御柱記」、  
「奉仕雑記」外著多数、歌;「柳風和歌抄」入/勅撰3首;新後撰(719)続千(913)新続古(985)、

[曇りなき天照る神のます鏡昔を今にうつしてしかな](新後撰集;神祇719)

[袖にだにしばしはつつめこころこそ涙にまくるうき名なりとも](柳風抄;恋123)

E4670 行尹(ゆきただ/ゆきまさ・世尊寺せそんじ/本姓;藤原、経尹男)?-1350 南北期廷臣;中務権少輔/宮内卿歴任、1346従三位、行房・有能の弟/行忠の養父、能書家;尊円親王の書の師;尊円[入木口伝抄]入、「色紙書法」「入木初学式」「入木道見聞私記」著、「法然上人行状画図」書、歌人、1214「八十番詩歌合」16「春宮十首歌会」参加、藤葉集入、勅撰4首;風雅(1721)新千載(1735)新拾遺(1046/1734)、

[漕ぎ出でて武庫の浦より見渡せば浪間に浮ぶ住吉の松](風雅;雑1721)、

[浦風はたゆむ塩瀬のゆふ煙なびかぬ中にそふ思ひかな](藤葉;恋426)

E4671 行忠(ゆきただ・世尊寺せそんじ/本姓;藤原、勘解由小路、世尊寺有能男)1312-8170 叔父行尹ゆきただ養子、南北期廷臣;1358従三位/66参議/69正二位、能書家;1347?「後三年合戦絵」書、1353大嘗会和歌悠紀方・64新拾遺集の清書、「古今頭名抄」著、行俊の養父、歌人;1367新玉津島社歌合・中殿歌会参加、

勅撰6首;新千載(1777)新拾遺(511/1183/1797)新続古今(31/1074)、

[代々よの跡を忘れず照らせ水茎の岡の浅茅の秋の夜の月](新千載;雑1777)

E4672 行忠(ゆきただ・中神なかがみ) ? - 1711 三河宝飯郡牛久保の地誌家、

1701「牛窪密談記」、「長篠物語」著、

[行忠(;名)の通称/法号]通称;善九郎、法号;学海元林居士

E4673 行忠(ゆきただ・堀ほり、通称;藤九郎)?-? 江中期兵学者;山鹿流;山鹿門人を称す、

加賀金沢藩士矢部七左衛門に武道の心得を授/神道家;伊勢外宮社司出口宣佳の伝を受、1716(享保元)「軍家天文章図説」、「初心抄」著

E4674 行忠(ゆきただ・石井いはい/本姓;平、行康男)1716-7762 母;家女房/江中期廷臣;1745少納言、

1748従三位/54正三位/56左兵衛督/60参議/61御酒勅使/63石清水放生会参向・参議辞任、1768従二位権中納言/69権中納言辞任/77(安永6)正二位:没、「石井行忠家日記」著(残欠)

G4671 行忠(ゆきただ・加藤かとう、)1745-181066 尾張名古屋の医者/尾張藩侍医、のち江戸住、国学者;本居宣長門、

[行忠(;名)の字/通称/号]字;子信、通称;文中/常庵、号;桂斎/古川

G4644 行忠(ゆきただ・青木あおき/本姓;宗岡、行康男)1790-184152 廷臣;京の官人/歌人、

[行忠(;名)の通称]宮内少丞/民部少丞/大和介/丹波介

E4675 之只(ゆきただ・岡おか) 1791 - ? 大阪の呉服商経営播磨屋の主人、

和算家;宅間能一・渡辺一門/宅間・最上流の数学に傑出、1816「算題雑解」「新考立円変化」、1816「別考立円変化」19「探商法并趕趁術」、「解路法」「解路法定則」「改正問答集」「根数法」、「歟題起術」「角法二斜術起源」「資棄起術」「招差法雑問」「諸約起一法」外著多数、[之只(;名)の通称]七兵衛、屋号;播磨屋

E4676 以忠(以礼ゆきただ・岡部おかべ、以親2男)1822-1865獄死44 母;今井惟貞女、水戸藩士;1854家督継嗣、書院番頭/大番頭/寄合頭/執政;国政変革に異義を唱え藩主を補佐;のち罷免、幕命で江戸の獄に入る;獄中没、「大原測量記」著、

[以忠(;名)の通称] 荘八/忠蔵

E4677 幸忠(ゆきただ・山中やまなか) ? - ?(89歳没) 江後期伊予大洲の歌人、のち東宇和住、「大洲名所図会」著、近田八束「藤の花ふさ」1首入、

[幸忠(;名)の初名/通称/号]初名;忠恕、通称;幸磨/鉄蔵、

号;槃堂/桜痴/曲溪/温故堂/廿四橋外史/梅花道人/虚舟/似臘惟神舎/稜威別いつか

E4678 幸忠(ゆきただ・金子かねこ、通称;又次郎)?-? 江後期薩摩藩士:

1861(文久元)「以呂波仮字源秘抄」著

行忠(ゆきただ・在原) → 東叔(とうしゅく・根来ねごろ、眼科医) F 3 1 0 6

E4679 之辰(ゆきただ・豊島とよしま、号;寿計斎)?-? 江中期和算家、宇野貴信の師、

1767「早道算用集」、「算法闕疑抄拾遺」著、

豊島正美と同一か? → 正美(せいび・豊島とよしま) J 2 4 4 6

E4680 幸殖(ゆきただ・さちね・近藤こんどう、平巖九分男)1814-9077 伊勢亀山藩老近藤幸孝の養子;家督嗣;1850亀山藩家老職を継嗣、1860桜田門外変後;軍事奉行;軍政改革、



勤王の志を抱く；幕命により蟄居/維新後；亀山藩大参事、東京住、  
詩；柳川星巖門/国学；富樫広蔭門、詩文・書を嗜む、1849(嘉永2)「日観公記録」編、  
藤森弘庵・鷺津穀堂・井上文雄・佐々木弘綱と交流、妻；捨子、幸養さちひさ・幸止さちもとの父、  
[幸殖(；名)の字/通称/号]字；子殖、通称；織部、号；鐸山

幸胤(ゆきたね・相馬) → 直登(直人なおと・相馬そうま、藩士) B 3 2 7 6

雪太郎(ゆきたろう・秦) → 三駱(さんらく・秦はた、俳人) E 2 0 7 8

- E4681 **諭吉**(ゆきちか・福沢ふくざわ/一時中村姓、福沢百助2男) 1834-1901 68 豊前中津藩大坂堂島藩邸に生、  
叔父中村術平の養子/1836父没のため中津へ帰国/儒；白石照山門/1854蘭学；長崎で修学、  
1855大阪の適塾入学/のち塾頭/1856兄没；福沢に復籍；家督継嗣、58藩命で江戸に下向、  
築地鉄砲洲藩邸内に蘭学塾を開塾(慶応義塾の前身)、  
1860軍艦奉行木村芥舟(喜毅)の従僕として咸臨丸で渡米/帰国後は幕府外国方に勤務、  
塾を英学に変更、1861遣欧使節随員として欧州を歴訪/1864外国奉行翻訳方に勤務、  
1866軍艦受取委員として渡米、3度の洋行に国情視察と原書購入に尽力、  
維新後新政府の要請を固辞し在野で教育と著述に専念、1868慶応義塾と命名、  
明六社に参加/出版活動にも尽力、1862「西航記」65「唐人往来」66-68「西洋事情」、  
1867「条約十一国記」「西陽旅案内」、1872-76「学問のすゝめ」(；独立自尊を説く)、  
1882「時事新報」創刊/脱亜入欧・官民調和を主唱、1898-99「福翁自伝」外著多、  
[諭吉(；名)の別名/字/号]別名；範、字；子圃、号；雪池/三十一谷人、法号；大観院
- E4682 **行親**(ゆきちか・平たいら、行義男) ?- ? 平安期廷臣；1021蔵人/左衛門尉/1037中宮大進、  
右衛門権佐/正五下、1033藤原頼通の白河院子日の興宴に列席(；袋草子)、  
兵衛内侍と交渉(後拾遺913詞書)、1037「行親記」著
- E4683 **行親**(ゆきちか・祝部ほうりべ/はふりべ、初名；行房、行氏男) ?-? 1336存 日吉社権禰宜/従四上、  
行直ゆきなおの父、1336足利尊氏の京進攻に対する後醍醐天皇の願文を受け大宮宝前に奉納、  
二条派歌人；「邦省親王家五十首」参加/「新日吉社詩歌合」主催、拾遺現藻・続現葉集入集、  
連歌；菟玖波4句入、頓阿と交流、  
勅撰8首；続千(1673)続後拾(789)新千(303/1698/1736)新拾(823/1421)新後拾(1204)、  
[よしさらばさながら花といひなさん同じ梢の嶺の白雲](続千載；雑1673)
- E4684 **行親**(ゆきちか・紀き) ?- ? 南北期廷臣；大学頭/詩人；  
1343(康永2)「五十四番詩歌合」に詩で参加、  
[有客問余庵内事 笑而不答倚欄干 目前春水春山緑 豈以世情作此看]、  
(五四番詩歌合；十三番左25)
- E4685 **以親**(ゆきちか・渡辺わたなべ) 1795- ? 1854存 筑前福岡藩士天野三郎兵衛の家臣、  
算法；測量術；村田光隆・天野定矩・奥村城山門、1841独尺万里器製作/52測量器完成、  
私塾深機館で藩士に測量術を指導、1828「景表図説附類理解」45「海防町見術」、  
1852「阿弧丹度用法略図説」54「阿弧丹度用法略図説後編」「規矩術伝来之巻」外著多数、  
[以親(；名)の通称/号]通称；儀右衛門、号；深機/深機館主人
- E4686 **幸哉**(ゆきちか・青山あおやま、忠裕男) 1815-63 49 美濃郡上藩主；1838家督嗣/従五下大和守、  
大膳亮/大蔵大輔、1848御奏者番/51・60両度；寺社奉行、蘭学；丹波篠山藩の足立栄建門、  
メートル法研究、1842-3「日光御参詣之節御供相勤候留」52「旅中記」55「西洋度量考」著、  
[幸哉(；名)の幼名/法号]幼名；隼人、法号；恭徳院
- G4641 **幸哉**(ゆきちか・赤羽あかばね) ?- ? 江後期；歌人、藩士？、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[朽ちぬともよしや鎧の緘糸おどいとまたと乱るる世にしあらねば](大江戸倭歌；雑1812)
- E4687 **幸周**(ゆきちか・種田たねだ、通称；市左衛門) ?-? 江後期武術家；種田市左衛門幸堅門；槍術を継嗣、  
種田流槍術6世を襲名、1855(安政2)「種田流鎗術問答」著
- E4688 **雪忠雅**(ゆきちゆうが；号、姓；星、出家号；顕阿) ?-? 江中期享保1716-36頃会津の歌人、伊勢で暦修学、  
出羽秋田・常陸水戸を行脚、学問；会津の谷岡梅山門、  
歌；相模藤沢の其阿上人門；「古今集伝」を受、「秋田和歌集」「行脚和歌集」「陸海集」著、  
[雪忠雅(；号)の通称/別号]通称；善十郎/三橋兼也、出家号；顕阿
- G4652 **往次**(ゆきつぐ・石川いしかわ、) 1707-1748 42 陸奥(陸前)仙台の神道家、



儒学・垂加神道;遊佐好生よしなり(木齋)門、木齋没後;・野宮定基門、神道の奥秘を修学、  
[往次(;名)の通称/号]通称;半三郎、号;瓊牙翁けいがおう

G4671 **順承**(ゆきつぐ・津軽つがる、三河吉田藩主松平信明5男)1800-65**66歳** 母;側室恵覚院、  
1821(文政4)陸奥黒石藩主津軽親足の養子;信寛を邦足と改名、  
1825(文政8)養父隠居;家督嗣;第2代黒石藩主/従五下左近将監、順徳ゆきのりと改名、  
1839(天保10)本家藩主信順が不行跡のため幕命で強請隠居;  
順承が本藩の弘前藩主を継嗣;順承と改名、従四下大隅守・侍従、儒;佐藤一斎門、  
正室;有馬久保女の泉姫(彰信院)/側室;梶文左衛門の叔母清瀬(諦信院)  
藩財政再建企画;5箇条の倭約令・30箇条の経費節減/新田開発・荒地復興・洋式軍備増強・  
貯蓄制度による凶作対策・海防強化・医学館や蘭学堂設置等、  
1855(安政2)幕命で蝦夷地警固;宗谷に藩兵派遣;浮腫病予防にコーヒー豆を支給、  
1859婿養子承昭に家督譲渡;隠居、俳諧を嗜む;号梅翁、津軽信明と共に名君と称される、  
常姫(初名たま姫/初め津軽承祐婚約者/のち津軽承昭正室)の父、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[飛ぶ鳥の羽風をさへにいとふかな庭の桜のさかりなる頃](大江戸倭歌;春264)、  
[順承(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;新之助、別名;信寛(初名)/邦足/順徳ゆきのり、  
通称;大隅守/越中守/和泉守、号;長楽庵(隠居号)/梅翁(俳号)、法号;政徳院  
正室の彰信院 → 順承室(ゆきつぎのしつ・津軽、遊翁門歌人)G 4 6 7 2

H4652 **幸嗣**(ゆきつぐ・渡辺わたなべ、通称;又右衛門/号;精斎/百)1810-83**74** 筑後山門郡の柳河藩士、  
御次目付/用人奥頭、国学者/歌人;[柳河藩歌合]に参加

G4672 **順承室**(ゆきつぐのしつ・津軽つがる、名;泉姫/彰信院、有馬久保女)1811-48**38歳** 津軽順承の正室、  
歌人;海野遊翁門

E4689 **行綱**(ゆきつな;名・姓未詳) 平安後期歌人:[信綱]の誤写か、  
金葉集三奏本(金Ⅲ648源頼綱と連歌);但し金葉二度本(金葉656)では藤原信綱の作  
[かり袴はかまをば惜しと思ひて](金Ⅲ648/前句;賀茂川を鶴脛つらばぎにても渡るかな)、  
(宇治へ行く道で賀茂川が増水し男が袴を脱ぎ手に持って渡るのを見て)、  
(金656信綱の句は最後が[思ふか]とある)、  
→ 信綱(のぶつな・藤原、定成男/蔵人/歌人)C 3 5 0 7

E4690 **行綱**(ゆきつな・後藤ごとう/本姓;宇都宮)1678-? 1744**存** 尾張津島の神職、宇都宮尚綱の兄、  
知多郡大野の牟山三所権現の嗣官、1735(天文4)「津島天王御葦記」著

E4691 **透綱**(ゆきつな・小池こいけ、通称;伊助)?-? 江後期天保1830-44頃撰津の和算家;福田金塘門、  
1833「算題雑解前集」校訂

G4626 **之綱**(ゆきつな・朽木くつき/本姓;源)1830-1900**71歳** 江戸幕府旗本/幕臣;主計助/主計頭かずえのかみ、  
近江高島陣屋26代領主;6300石;近江源氏佐々木氏の庶流;近江朽木荘地頭の末裔、  
近江曹洞宗興聖寺を菩提寺とす、1868頃「朽木藩学社」を創設、三寶院門跡と領地争論、  
正室;播磨小野藩主煎り柳末延女、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(妻[継室or側室?]の寿子ひさこと共に入集)、  
[あすの夜の望もちの光のあらましをかねてみせたる月の哀れさ]、  
(大江戸倭歌;秋839/十四夜月)

幸綱(ゆきつな) → 幸綱(ごうこう、連歌;熊野千句参加) I 1 9 7 2

E4692 **行経**(ゆきつね・藤原ふじわら、行成3男)1012-50**39** 母;源泰清女、廷臣;1023侍従/右兵衛佐/25右近少将、  
1028蔵人/33左近少将/34従四上/36正四下/38右近中将/42左近中将/43蔵人頭/45参議、  
1046従三位/備後権守兼任/49正三位/50兵部卿・従二位;没、  
歌人・能書家、1035(長元8)賀陽院水閣かやのゐんのすいかく頼通歌合参加(24歳/左方読師)、  
[夏の夜もすずしかりけり月影はには白妙の霜と見えつつ]、  
(賀陽院水閣歌合;一番左1;勝/右は赤染衛門)

E4693 **行経**(ゆきつね・惟宗これむね) ? - ? 鎌倉期廷臣;五位/檢非違使/1242下総守、  
歌人/勅撰2首;続後撰(1242)/続拾遺(1201)、  
[桜花散りぬるあとのふる里はしのぶ昔のかたみだになし](続後撰;雑1242、  
猪熊関白入道近衛家実[1179-1242]への哀傷歌)

- E4694 **于恒**(ゆきつね・小槻おづき/壬生みぶ、初名;元光、小槻雅久男)1495-1542<sup>48</sup> 戦国期廷臣/1502主殿頭、1518左大史/38正四上/39美濃權守、1539「神宮方記」41「神宮宿禰之事」、「于恒宿禰記」著
- G4618 **幸常**(ゆきつね・藤野ふじの) ? - ? 江戸前期備後の俳人;立圃門、1670種寛「俳諧詞友集」入  
行道(ゆきつね・速水/荻の家)→ 行道(ゆきみち・速水はやみ、国学者) F 4 6 7 1
- E4695 **千連**(ゆきつら・津田つた、長意男)1584-1636<sup>53</sup> 加賀金沢藩士;前田利政・利長に出仕/禄5百石、御馬廻組/大坂冬夏の陣に戦功;御小将番頭/1631御使番、1634(寛永11)「寛永紀聞」著、[千連(;)名]の通称]主計かづえ/兵部ひょうぶ/次郎左衛門
- 4621 **幸貫**(ゆきつら・真田さなだ、松平定信2男)1791-1852<sup>62</sup> 1815(文化12)松代藩主真田幸専ゆきたかの養嗣子、1813幸専の養女と結婚;幸善を名乗る/1823幸貫と改名;家督継嗣;松代藩主/豊後守、伊豆守/信濃守、佐久間象山・村上英俊等藩内の逸材を登用/殖産興業・文武奨励;藩政刷新、1841老中;天保改革に参画;44病で辞職、実父定信の訓を受け画・詩歌を嗜む、侍従、1831「朝日日記」/32「神無月日記」「初雪日記」、「月五十首詠草」「一圭楼記」著、「一圭楼望月詩歌」「帰去来句題三十首」著、「長恨歌句題五十番歌合」判、正室も歌人、蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(正室と共に入集)、  
[なべて照る月の光のうちながら露のみいかで玉とみゆらん](大江戸倭歌;秋848)  
[幸貫(;)名]の幼名/初名/号]幼名;次郎、初名;幸善、号;遂翁/一誠齋/誠齋、法号;感応院正室 → 幸貫室(ゆきつらのしつ・真田さなだ、歌人) G 4 6 2 5
- G4625 **幸貫室**(ゆきつらのしつ・真田さなだ)?-? 真田幸専ゆきたかの養女/1813真田幸善(幸貫)と結婚、1823夫が信濃松代藩主となる、歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」(夫と共に入集)入、[打ちむかふ月の鏡にみがかれて心の塵やいづちいにけん](大江戸倭歌;秋833)
- E4696 **行輝**(ゆきてる・河野こうの) ? - ? 江後期文政1818-30頃伊予松山の武芸者、神伝流一派の行輝流遊泳術の祖、信濃松代藩主真田幸貫に出仕;藩内に武芸を伝授、星山流砲術にも長ず、1824「行輝流砲術伝覚書」「星山菅一伝流砲目録」著(伝)  
[行輝(;)名]の号]左盛/鶏鳴居主人
- E4697 **行光**(ゆきてる・石井いかい/本姓;平、石井行弘男)1815-79<sup>65</sup> 石井行遠の養子、廷臣;1847従三位、1852正三位/1858条約勅許問題で幕府委任の勅諭反対の88卿の列に参加、1863左衛門督、「石井三位行光卿詠草之止メ」著
- E4698 **志純**(ゆきとく・小川おがわ)1730- 1814<sup>85</sup> 筑後久留米藩士;1789(寛政元)町奉行、郷土史家;古跡探査/郷土史料を蒐集、1777(安永6)「筑後志」(杉山正伸と共編)、「筑後国式社考」著、  
[志純(;)名]の別号/通称]別名;正格、通称 万次郎/勘左衛門
- E4699 **行遠**(ゆきとお・石井いかい/本姓;平、石井行宣男)1801-58<sup>58</sup> 叔父石井行弘(父行宣の嗣)の養子、廷臣;1838従三位/43正三位/45宮内卿、「御献備忘回文留」著
- F4600 **行時**(ゆきとき・平たいら) ? - ? 平安期歌人:廷臣/五位、伝未詳、寛弘1004-10頃成立「拾遺集」720、  
[朝まだき露分け来つる衣手のひるまばかりに恋しきやなぞ]、  
(拾;恋720/本院時平[871-909]の五女の許に初めて通った後朝歌/昼間に干る間を掛る)
- G4617 **行時**(ゆきとき・二階堂にかいどう/本姓藤原、行佐[従五下因幡守/1280没]男)?-? 1301存 鎌倉幕臣、鎌倉幕府御家人、従五下左衛門尉/民部丞/1301(正安3)出家/法名;行勝、行憲・佐方の父、早歌作者;1319「玉林苑;永福寺勝景」作曲(因州戸部二千石行時名)
- F4601 **行時**(ゆきとき) ? - ? 連歌:1493「清水本式連歌百韻」参;宗祇宗長らと
- F4602 **幸辰**(ゆきとき・伊藤いとう) ? - ? 江中期小笠原流武家故実家:伊藤幸督門、「衣服之事」「女中志つけ」著(伝)、松岡辰方の師  
行言(ゆきとき・岩瀬) → 華沼(かしゅう・岩瀬いわせ、藩士/儒者) H 1 5 4 8  
以言(ゆきとき・大江) → 以言(もちとき・大江、廷臣/詩歌人) 4 4 0 6
- F4603 **行俊**(ゆきとし・二階堂/本姓:藤原ふじわら、行清男/行有の養子)?-? 廷臣;従五下/但馬守/左衛門尉、行藤(1302没)の義弟/行信の父、歌人;1261(弘長元)宗尊親王百五十番歌合参加、  
[慰むる方こそなけれ横雲のたえまかすめる春の曙](宗尊歌合;十番右20)
- F4604 **行俊**(ゆきとし・度会たらい) ? - ? 鎌倉末南北期伊勢外宮禰宜、

歌;1321外宮北御門歌合参加、

[もろくちる程も知られて吹く風の絶えまにもなほ散る木葉かな](外宮歌合;六番左11)

F4605 **行俊**(ゆきとし・世尊寺せそん/本姓;藤原、世尊寺伊兼男)?-1407 世尊寺行忠の養嗣子、室町期廷臣、書家/宮内卿/1399(応永6)従三位/1402侍従;賢聖障子銘と時簡を書き正三位/1405従二位、1406(応永13)参議、行忠の実子早世のため世尊寺家を継嗣、1401「恵心僧都絵巻」著、「善導大師絵詞」「善導大師縁起」「白峰寺縁起」「達磨堂双紙」書、

歌人;1407(応永14)内裏九十番歌合参加、菊葉集3首入集、新統古(639)、

[吹く風の猪名ぬの笹原夜は更けて置きそふ霜に氷る月影](新統古今;冬639)

[伏見殿(後崇光院貞成親王家)にて六十首歌合に、

時雨れゆくかたは小倉の山の端に入日を残す下紅葉かな](菊葉;秋734)

F4606 **千俊**(ゆきとし・中原なかはら/家名;山口、中原友俊男)1707-6357 母;川越藩士山本之益女、廷臣;官人、長門守/大学大允/伯耆守/1748少外記/1760少内記/従五上、1735(享保20)「三日鈔」著

G4669 **幸年**(ゆきとし・稲葉いなば) ? - ? 江後期紀伊和歌山藩士/国学者;本居大平門、歌人;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[野遊]入、

[幸年(;)名の通称]久左衛門/衛士郎えじろう/文蔵/文左衛門

G4658 **幸年**(ゆきとし・岩沢いわさわ、弥一兵衛義利男)1772-184877 信濃飯田藩士;右筆、

江戸で歌:橋千蔭・村田春海門/のち桃沢夢宅・香川景樹門、帰郷後も歌道究明/古銅菟集、妻;北原さち子(幸子/歌人)、直真なおさねの父、

「あふひの花」「さきくさ集」「耳目集」「ちりつか集」著、「岩沢忠喜遺稿」、

[幸年(;)名の別名/通称/号]別名;忠喜、通称;彦六、号;葵苑/知足/亀彦、法号;亀文幸年

G4649 **行敏**(ゆきとし・明石あかし、行憲男)1794-185966 筑前福岡藩士;中老/歌;大隈言道門、妻のいさ子も言道門歌人

G4632 **之敏**(ゆきとし・堀ほり、直哉男)1820-6243 越後椎谷藩12代藩主;1830(文政3)父没;家督嗣、

1万石/従語下/出雲守、1845(弘化2)五番組大番頭/49(嘉永2)奏者番、藩政は不安定、

1851(嘉永4)家老斎藤八百四郎による藩主暗殺未遂事件発生、

1860(万延元)若年寄/1862没;息子之美ゆきよしが継嗣、

歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[今さらに夢とおどろく夕べかな今年もけふを限りと思へば](大江戸倭歌;冬1371)

行年(ゆきとし・丹治) → 行和(ゆきかず・丹治たじ、神職/国学) G 4 6 9 7

行敏(ゆきとし・都筑) → 花守(はなもり・都筑つぎ、藩士/歌人) K 3 6 4 5

F4607 **行朝**(ゆきとも・二階堂にかいどう/本姓;藤原、貞綱男)?-1353 室町幕府の武者;従五下信濃守、幕府政所執事/安堵方頭人・引付頭人・評定衆を兼任、1326出家;沙弥行珍名、歌人;

1344「高野山金剛三昧院和歌」50「為世十三回忌和歌」入、続現葉・松花・藤葉集(3首)入、

勅撰10首;続千(788/1405)続後拾(942)風(908)新千(726/808/1732)新後拾(438/777/855)、

[かりそめと思ひながらも旅衣たち別るれば袖ぞしをるる](続千載;羈旅788)、

[行朝(;)名の法名/通称]法名;行珍ぎょうちん、通称;信濃入道

H4641 **行知**(ゆきとも・安川やすかわ、通称;丈右衛門)1735-181783 筑前遠賀郡の福岡藩船手、国学者

H4635 **幸智**(ゆきとも・望月もちづき、)1766-183671 近江甲賀郡の医者、国学者/歌人;[鳩のうみ]入、直方なおかた(医者)の父、大石礙おおいごり眞素美(眞澄まきみ/言霊学)の祖父

G4674 **致知**(ゆきとも・片桐かたざり、)1821-186242 信濃伊那郡の酒造業、片桐致真ゆきざねの弟、歌人;福住清風せいふう門、

[致知(;)名の通称/号]通称;久太郎、号;雪友/山吹舎/あしのや/花下長樹

行朝(ゆきとも・藤原/伊達) → 朝村(あさむら・伊達/藤原、歌人) B 1 0 0 5

之友(ゆきとも・西島) → 八兵衛(はちべゑ・西島にしじま、藩士/土木事業) E 3 6 9 4

F4608 **行豊**(ゆきとも・石井いはい/本姓;平、平松時量2男)1653-171361 母;権大納言飛鳥井雅章女、

西洞院時慶女の行子(石井局いはいのつばね)の養子;石井の家名を始める、廷臣;1670少納言、

1684正四下/88(元禄元/36歳)従三位;石井姓、93宮内卿/95正三位/1701右衛門督・参議、

1705従二位/06参議辞任/11権中納言/12辞任;没、

近衛家に出仕/歌人;近衛基熙の信頼を得て「三部抄」の伝授を受、

1699(元禄12)叢書「待需抄」編/99「百人一首口決聞書」著、「三部抄御伝授前後別記」著



- F4609 **幸豊**(ゆきとよ・池上いけがみ) 1718-1798 81 江中期;武州川崎大師河原の豪農名主、和算;藤巻教眞門、漢学;成島錦江(信遍のぶゆき)門、多摩川砂州の開墾事業(池上新田開発)・砂糖製造など殖産興業に尽力、歌人;1746冷泉為村門、1735「種芸拾穂集」著、1745-72「博望舎日記」86「駅路の日記」、「いづれ草」「池上幸豊詠草」「与楽亭集」「与楽亭文集」著、「池上家文書」入、歌;1798広通「霞関集」入、  
[くるるより江の蘆白く見えそめて雪を分け行く夜の舟道](霞関;冬656/幸政名)  
[幸豊(;名)の初名/通称/法号]初名;幸政、通称;太郎左衛門、法号;与楽院  
幸豊(ゆきとよ) → 幸豊(こうほう、江戸中期連歌) L 1 9 2 4  
幸豊(ゆきとよ・真田) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/歌/俳) 1 6 9 8  
行虎(ゆきとら→みちたけ・柴田/加藤)→行虎(みちたけ・加藤かとう、医者/歌人) B 4 1 7 4
- H4608 **幸名**(ゆきな・檜崎ならさき、初名;重恭/通称;庄兵衛)?-? 江後期;筑後久留米藩士、国学者;西田直養なおかい(1793-1865)・船曳鉄門かたと(磐主/1824-95)門・歌人;大隈言道ことみち(1798-1868)門、のち飛騨に住
- F4610 **行直**(ゆきなお・祝部ほうりべ/はふりべ/生源寺、行親男)?-? 南北期日吉社禰宜/五位、歌;新後拾遺集1013、  
[わびぬれば見てもかひなき思ひ寝に今はたおなじ夢ぞ待たるる](新後拾;恋1013)
- H4625 **如尚**(ゆきなお・前田まえた、通称;美濃守)?-1732 江前中期;紀伊海部郡の加太浦淡島神社祠官、神道・古典;出口(度会)延佳(1615-90)・延経(1657-1714)の父子門
- G4655 **行直**(ゆきなお・市川いちかわ、通称;内膳) 1818-88 71 甲斐上野の別当、行光ゆきみつの弟、国学者、「伊豆日記」著
- G4662 **以直**(ゆきなお・牛尾うしお、通称;弥七郎/茂助/藻介)?-?1868(明治初年)頃没 淡路洲本の国学者、阿波藩士;私塾を開き和漢学を教授、洲本学問所教官、歌人
- H4600 **幸直**(ゆきなお・玉木たまき、通称;和泉守) 1818-95 78 安藝沼田郡緑井の宇那木神社祠官、歌人、1872高宮郡亀山村大毛寺の両延神社祠官、(明治28)没  
行直(ゆきなお・箕浦) → 秦川(しんせん;号・箕浦、藩士/儒者) 2 2 4 3  
之直(ゆきなお・大坂屋) → 徳順(とくじゆん、大坂屋庄兵衛、商家/狂歌) K 3 1 1 9  
幸直(ゆきなお・永井) → 幸直(さちなお・永井ながい、名主/国学/歌) N 2 0 2 4
- F4611 **之仲**(ゆきなか・五辻いつつじ/本姓;源、五辻為仲男) 1558-1626 69 権中納言滋野井公古の養嗣、のち五辻に復姓、戦国江戸期廷臣;左近衛将監/左馬頭/1609従三位/1611右兵衛督、1614正三位、連歌作者;1608(慶長13)「基久等何船百韻」入、1609「源之仲記」著、  
[之仲(;名)の別号]初名;実藤さねふじ/元仲もとなか  
行中(ゆきなか・浜川) → 自悦(じえつ・浜川はまかわ、俳人) B 2 1 2 0
- 4622 **行長**(ゆきなが・藤原ふじわら、信濃前司[;証なし]、行隆[1187没]男/顕時の孫)?-? 平安鎌倉期廷臣;九条兼実家家司、蔵人/下野守従五下、母;行兼女美福門院越前、1205元久詩歌合;詩参加、白氏文集新樂府の論議に七徳の舞の内二つ忘却し[五徳の冠者]と綽名され慨嘆出家;信濃入道と称す;慈鎮がその学才を惜しみ扶持す(徒然草226段)、原「平家物語」作者?;信濃前司行長が創作し盲人生仏しょうぶつに語らせた(;徒然草226段)、従兄弟の時長も原[平家物語]作者に擬されている
- F4612 **行長**(ゆきなが・丹波たんば、尚長男)?-? 鎌倉期医者/廷臣;正四下典薬頭/左京大夫、穀倉院別当/施薬院使に3度補せられる、院・内昇殿を許可、守長(医者/連歌作者)の兄、1288「衛生秘要抄」(;西園寺公衡の所望により著)
- F4613 **行長**(ゆきなが・土佐とき/春日/本姓;藤原、春日隆親3男or土佐邦隆男)?-? 鎌倉南北期絵師、右近将監、土佐家支流、「能恵法師絵詞」「荏柄天神縁起」画、通称;春日行長
- C4614 **行長**(ゆきなが・紀き、行文男)?- ? 1445存 室町期廷臣;従五上/大膳大夫、歌人;新続古今1626、  
[河岸のかげ行く水にうちなびき浪の玉貫く青柳の糸](新続古今;十七雑1626/春の歌)
- F4614 **行長**(ゆきなが・東条とうじょう/本姓;源、頼行男) 1544-1608 65 武将;河内平島城主/三好氏に属す、のち里見氏に属す/さらに豊臣秀吉に出仕;1585四国征討従軍/文禄役に名護屋に詰める、秀吉からの勘気で追放;駿府で徳川家康家臣/剃髪;法印/大和吉野郡に千石を領す、



家康と公家衆・諸大名間を周旋、連歌作者;1599紹巴と懐旧百韻/1604昌琢と懐旧百韻、  
[行長(;名)の通称/法名]通称;紀伊守/剃髪後;民部卿法印みんぶきやうのほういん、法名;宗光、  
長頼の父

- H4626 **遷永**(ゆきなが・増山ますやま、)1805-185450 伊勢度会郡の伊勢神宮御師/国学;足代弘訓門、歌人、  
[遷永(;名)の通称/号]通称;平之進/又二郎、号;梅軒、養子;坂谷尚輔(遷安)
- H4619 **亨長**(ゆきなが・福井ふくい、旧姓;杉原)1830-8354 近江甲賀郡の多羅尾家に出仕、  
国学・歌;萩原広道・佐々木弘綱門、歌;[鳩のうみ]入、  
[亨長(;名)の通称] 武治郎/重蔵  
行長(ゆきなが・借着) → 借着行長(かりぎのゆきなが、洒落本作者) G 1 5 0 0  
行長(ゆきなが・堀田) → 連山(れんざん・堀田ほった、絵師) B 5 1 1 0
- 4623 **幸成**(ゆきなり/ゆきしげ・青山あおやま/本姓;藤原、忠成3男)1586-164358 父は関東総奉行、遠江浜松武将、  
徳川秀忠に出仕、1619御書院番・小姓衆/所領1万3千石;諸侯に列す、  
1633(寛永9)遠州掛川城主、35摂津尼崎城主;5万石/雅楽助/大蔵少輔、  
歌人;木下長嘯子・沢庵と交流、「幸成朝臣詠草」著、  
[幸成(;名)の幼名/通称/法号]幼名;藤蔵、通称;石之助、法号;香誉浄薫梅窓院
- F4615 **以成**(ゆきなり・林はやし) 1720 - 179576 長門萩藩士;代々鷹匠の家、  
1769(明和6)藩命により「防長古器考」編纂(1774[安永3]完成)、  
[以成(;名)の別名/通称]別名;以政、通称;正左衛門
- G4680 **行業**(ゆきなり・黒沢くろさわ、別名;重孝)?-? 江中後期;伊勢桑名藩士/狂歌師、  
翁満(1795-1859/藩士/国学者/歌人)の父、のち四日市に住、  
1823(文政6)谷氏が桑名正念寺の建立の蛤供養の碑文執筆;  
[あまおふねのりのみ声にはまぐりの貝の耳にもとめてしのばむ]、  
[行業(;名)の通称/号]通称;九蔵、号;鳥趾堂ちようしどう/一雲山人
- F4616 **行成**(ゆきなり・一気いっきの、祝阿彌、望汰欄ぼうだら)?-? 江戸料亭妓楼の望汰欄主人/狂歌;万載集入
- F4617 **行成**(ゆきなり・業亭ぎやうてい;号)?-? 江後期文政1818-30頃の人情本作者:  
海若子(三河口太忠)門、1826-27「谷の初音」、「糸のしらべ」著  
行成(ゆきなり・藤原) → 行成(こうせい・藤原、書道;三蹟) 1 9 1 3  
行登(ゆきなり・東条) → 有儘(ゆうじん・東条とうじょう、藩士/俳人) C 4 6 7 8  
幸成(ゆきなり・斎藤) → 月岑(げっしん・斎藤、名主/随筆) B 1 8 0 7  
雪成(初世ゆきなり→せつせい) → 雪成(初世せつせい、俳人) E 2 4 4 6  
雪成(2世ゆきなり→せつせい) → 菅裏(かんなり、初世花屋久次郎、書肆/俳) E 1 5 2 1  
雪女(ゆきによ) → 雪女(ゆきじよ、歌人/俳人) E 4 6 5 3  
行之助(ゆきのすけ・大西) → 椿年(ちんねん・大西おおにし、絵師) K 2 8 9 5
- F4618 **雪廼門春見**(2世ゆきのとはるみ、姓;岩名)?-? 幕末期大阪の狂歌作者;初世雪廼門清明門、  
1862「狂歌三都集」共編、1865(慶応元)「教訓俳諧和歌集」著、  
☆「狂歌三都集」共編者=大坂;春見・京;榎乃門蒼兄うめのとかけい・江戸;天乃門龍龍あめのとりゅう  
[2世雪廼門春見(;号)の通称] 庄左衛門
- F4619 **于宣**(ゆきのぶ・小槻おづき/壬生みぶ、初名;景宣、小槻統良男)?-1323 母;法眼倫有女、鎌倉後期廷臣、  
1316左大史/17能登守/主殿頭/記録所奉行/修理東大寺大仏長官、連歌;菟玖波2句入  
犬子集の千宣と同一?→ 千宣(ちのぶ・小槻おづき) F 2 8 1 5
- F4620 **行信**(ゆきのぶ・世尊寺せそんじ/本姓;藤原、定兼男)?-? 1332存 鎌倉期廷臣;四位少納言/右京大夫、  
伏見院の側近、能書家;1332(正慶元)大嘗会和歌主基方を清書、歌;風雅集(1503)、  
[さこそげにしのびねならめほととぎす暗き雨夜あまよの雲に鳴くらむ](風雅;雑1503)
- F4621 **行信**(ゆきのぶ・南部なんぶ、重信男)1642-170261 父は陸中盛岡藩主、母;大智院(玉山秀久女)、  
1666將軍家綱に謁、父の江戸在勤中は国政担当/1692(元禄5)家督嗣;盛岡藩5代藩主襲封、  
従四下信濃守、砲術・能に通ず/儒;山口清六・本多与一郎門/国学・歌;三輪秀寿門、  
「行信公歌集」著、歌;1690父重信催[南部家江戸上屋敷桜田邸詩歌会]参加、  
正室;毛利光広女熊姫(輝元の妹)、側室;中里半兵衛女広照院、実信・信恩・利幹らの父、  
[夏の夜の風より続く涼しさに雨も晴れ行く空の月影](桜田邸詩歌/対すは聴雪の詩)、  
[行信(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;八内、初名;正信/尚信、通称;右馬助、

号;南英/信眞、法号;徳雲院

- F4622 **雪信**(ゆきのぶ・清原きよはら、久隅くすみ守景もりかげ女) 1643-8240 母;神足常庵女、平野伊兵衛守清の妻、  
絵師;父守景(探幽の高弟)・狩野探幽門、驅落出奔、上方住、久隅くすみ彦十郎の姉、  
「玄宗花軍絵」「源氏物語図;浮舟」「金地濃彩吉野山風俗六曲一双」画、  
[雪信(;名)の別号] 雪ゆき(初名)/雪信女
- G4682 **至信**(ゆきのぶ・巨瀬こせ、忠善ただよし男) 1696-175459 母;西川四郎右衛門女、江戸の旗本、  
父の代から紀伊徳川家家臣、徳川吉宗母の浄円院は伯母、1716吉宗が将軍;幕臣となる、  
1718小納戸;千石/1719和歌山に赴き従五下/伊豆守、1724千石加増、  
1728(享保13)吉宗の日光参拝に随行/1732御側に昇進;石高5千石、縫殿頭、  
1745(延享2)江戸城西城勤務/1751(宝暦元)致仕;菊間広縁詰、歌人;冷泉家入門、  
妻;福島正親女、2女の婿養子;巨勢至忠(土岐朝澄男/母;江原全玄女)、  
[至信(;名)の通称/号]通称;勘太郎/六左衛門/伊豆守/縫殿頭、号;道任
- F4623 **行信**(ゆきのぶ・佐藤さとう、通称;玄六郎)?-? 江中期幕臣;伊豆諸島や蝦夷地を巡見探査;  
1781鳥島をはじめ伊豆諸島巡見/85蝦夷巡察使として蝦夷地巡見、普請役、  
伊豆諸島には吉川よしかわ秀道を同行、1781「伊豆海島風土記」(秀道編)、  
「伊豆七島巡見志」(秀道編)/「八丈島記」(秀道と共著)、1781「蝦夷拾遺」/81-82「鳩日記」著
- F4624 **行宣**(ゆきのぶ・石井いかい/本姓;平、樋口基康3男) 1762-183877 石井行忠の養子/廷臣;1792従三位、  
1808(文化5)参議/1821権中納言/正二位、「日光山御道之記」著/1808「百人一首」書、  
[行宣(;名)の初名/法号]初名;伊康、法号;大乘心院
- G4672 **行宣**(ゆきのぶ・笠井かさい、) 1798?-187880余歳 信濃更級郡の国学者、  
[行宣(;名)の通称/号]通称;茂右衛門、号;柏苑/森鳥亭
- G4669 **之信**(ゆきのぶ・太田おおた、中彦なかひと2男) 1802-6867 信濃飯田の医者;父門、歌;父門(内田真竜門)、  
飯田藩医;長男夭折のため家督嗣、国学/歌;植松茂岳門、氏順うじのぶの父、  
野村良言・松井美澄・中山茂樹・中山篤則・羽生信英・村沢徳成・村瀬克實・鎮西清宣と交流、  
本学神社・楠公神社の創建に尽力/1867本学神社勧請遷宮式に参列、  
[之信(;名)の初名/通称/号]初名;直樹、通称;亀富/謙介/玄策、号;文亭/竹堂  
法号;桂林院
- G4676 **幸言**(ゆきのぶ・蒲がま、八十村やそむら長男) 1838-59早世22 飛騨吉城郡の商家小島屋の生、  
国学;山崎弘泰門、清民の兄、  
[;名)の通称/号]通称;与三兵衛(代々の称)、号;松蔭舎
- 行宣(ゆきのぶ・菊岡) → 如幻(じよげん・菊岡きくおか、商家/郷土史家) M 2 2 3 0  
雪廼屋(雪乃屋ゆきのや) → 信古(のぶふる/のぶひさ・今井、神職/国学) D 3 5 2 3  
雪廼屋(ゆきのや) → 朧(おけら・相沢あいざわ/石川、医者/歌人) D 1 4 7 7  
雪廼屋(ゆきのや) → 信正(のぶまさ・津村つむら/藤原/長野、藩士/歌) J 3 5 1 3  
雪舎(ゆきのや) → 献臣(たておみ・宮川みやがわ、藩士/歌人) R 2 6 7 1  
雪舎(ゆきのや) → 資方(すけかた・土田つちだ、儒者/詩歌) I 2 3 8 3  
雪舎(ゆきのや) → 尋寿(つねひさ・川上かわかみ、国学/歌) F 2 9 5 4  
鞆の家(ゆぎのや) → 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌) P 3 1 2 3  
鞆舎(ゆぎのや) → 守一(もりかず・関せき、神職/国学者) F 4 4 3 0  
鞆舎(ゆぎのや) → 顕光(あきみつ・柴田しばた、神職/歌人) H 1 0 7 2  
雪廼屋森蔭(ゆきのやもりかげ) → 藤長(ふじなが・田口、藩士/絵師/狂歌) C 3 8 5 5
- F4625 **行範**(ゆきのり・中原なかはら、行兼男)?-? 鎌倉中期廷臣;備中守/五位、  
歌人/勅撰3首;続後撰(1244)続拾遺(508/1083)、  
[うつつとも夢ともいはい目の前に見るとはなくてあらぬうき世を](続後撰;雑1244)
- F4626 **行範**(ゆきのり・惟宗これむね、諸俊男)?-? 室町期廷臣;五位(父は正五下周防守)、  
歌人;1439成立「新統古今集」(1935)、  
[待つことのある人いかにをしからむ数ならぬだにすてられぬ世を](新統古;雑1935)
- F4627 **行憲**(ゆきのり・二階堂にかいどう、通称;才兵衛尉)?-? 江前期下野壬生藩士;藩主阿部忠秋の家臣、  
1661以前万年頼方を助け「難波戦記」編(筆録)/1672「難波戦記追加」・「難波後記続録」援助、  
「難波戦記大全」著、

参考 → 頼方(よしかた・万年まんねん、軍記作者) I 4 7 4 9

- F4629 **行教**(ゆきのり・稲山いなやま、)? - 1805? 京の国学者: 塙保己一門、「公卿補任年月部類」編、  
佚書「日本後紀」を発見、  
[行教(;名)の通称]通称; 権四郎/平三
- H4642 **行載**(ゆきのり・山県やまがた) ? - 1828 周防岩国藩士/国学者、  
[行載(;名)の初名/字/通称/号]初名; 倍賀、字; 子舟、通称; 仲兵衛、号; 臨川
- F4630 **行憲**(ゆきのり・明石あかし、行仲の長男)1773-1833<sup>61</sup> 母; 黒田直良女、筑前福岡藩士;  
1785父遺跡嗣; 千石、黒田斉隆・斉清に出仕、御馬廻頭/鉄砲大頭/長崎守衛/裏判役を歴任、  
藩の吏僚として澤木久世と共に藩財政再建を図るが俗吏の反感を買い失脚/1822隠退、  
和漢学・文筆/歌に長ず、行敏ゆきとしの父、「海寇紀略」「治国言行録」「三烈婦伝」著、  
「新編烈婦報酬記」「藩祖教令衍義」「歴代党議集覽」「陸宣公奏議俗解」著、  
[行憲(;名)の幼名/字/通称/号]幼名; 栄之助、字; 子範、  
通称; 時三郎/権左衛門/十郎左衛門/久左衛門、号; 西軒ゆうけん、法号; 仁篤院
- G4690 **之憲**(ゆきのり・沢村さわむら/本姓; 平、)1777-1831<sup>55</sup> 近江彦根藩士、国学/歌人; [近江歌人伝・亀]入、  
[之憲(;名)の通称] 軍次
- G4627 **行則**(ゆきのり・春日かすが/本姓; 藤原、通称; 信吉郎)?-? 江後期; 国学者/歌人、  
1846「雑兵物語」弘化版の校訂(序文著)、歌; 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[つくづくと月みる夜半の手まくらに声は残りてわたるかりがね](大江戸倭歌; 秋926)
- G4640 **行典**(ゆきのり・田代たしろ/本姓; 藤原)?-? 江後期; 歌人、藩士?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[声々にましらなくなり風騒ぐみねの林や住みうかりけん]、  
(大江戸倭歌; 雑1797/嶺林猿呼)
- G4647 **幸教**(ゆきのり・最上もがみ、通称; 慎助)?-? 江後期; 美作勝田郡飯岡村の歌人、  
歌; 平賀元義の楯の舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- G4679 **行礼**(ゆきのり・熊懐くまがい、)1805-1858<sup>54</sup> 筑後生葉郡山春村の加茂神社祠官、  
国学; 青柳種信(;福岡藩右筆)門、  
[行礼(;名)の通称/号]通称; 右膳/伊勢/薩摩、号; 舟山
- H4620 **行権**(ゆきのり・藤井ふじい、)1833-1889<sup>57</sup> 尾張名古屋の国学者/国学・歌; 植松茂岳いげか門、  
「真宗伝法始末」著、歌; 藤井鏡編「三藤歌集」入、  
[行権(;名)の字/通称/号]字; 準卿、号; 霽雲/幽花窓/一松堂/如水軒/遣興莫過詩楼  
幸典(ゆきのり・海野) → 遊翁(ゆうおう・海野うんの/滋野、幕臣/歌) 4 6 8 4  
順徳(ゆきのり・津軽) → 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1  
敬儀(ゆきのり・田山) → 敬儀(たかのり・田山たやま、歌人) D 2 6 4 7
- F4631 **行春**(ゆきはる・紀き、行光男)? - ? 1445存 鎌倉期廷臣; 五位滝口/左衛門/鞠足、  
歌人/勅撰2首; 風雅1612/新千載1110、  
[あとつけん方ぞしらぬ浜千鳥和歌の浦わの友なしにして](風雅; 十五雑1612)
- F4632 **行春**(ゆきはる・二階堂かいどう/本姓; 藤原、時元男)?-? 南北期武家廷臣; 従五下左衛門尉、  
1342(康永元)讃岐に配流(太平記入)、1344「高野山金剛三昧院奉納歌」参/一万首作者入、  
勅撰5首; 新千載(1240)新拾遺(781/884)新後拾遺(74/1357)、  
[逢ふことにかへては何かをしからむなきにたつこそうき名なりけり](新千; 恋1240)、  
[行春(;名)の初名/法名]初名; 高元、法名; 忻恵きんえ
- F4633 **行治**(ゆきはる・度会わたらい、盛行男)?-? 南北期神職; 伊勢外宮三禰宣、歌; 新葉集896、  
[数ならぬ美濃の中山なかなか隔てはてなば恋しからじを](新葉; 恋896)
- F4634 **幸彦**(ゆきひこ/さちひこ・小沼おぬま) 1746-1822<sup>77</sup> 岩代伊達郡本宮の商人/国学; 生駒熊文門、  
のち本居宣長門/師没後; 本居大平と親交、「懐古徳和歌集」「石井いか考」「独吟千首」著、  
「加牟豆美庵漫吟」「加牟豆美庵漫録」/1801「神代系図」著、真幸の父/後藤幸雄の師、  
[幸彦(;名)の別名/通称/号]別名; 貞映、通称; 与八郎/半七、号; 白岩翁/加牟豆美庵、  
屋号; 白岩屋  
行治(ゆきはる・不破) → 惟益(こゑます・不破ふわ、神職/神道家) O 1 9 2 9  
幸彦(ゆきひこ・松本) → 月痴(げっち・松本、蔵書/窮民救済) H 1 8 2 5



- 幸彦(ゆきひこ・中山) → 幸彦(さちひこ・中山なかやま、神職/国学) O 2 0 9 7  
 幸彦(ゆきひこ・平山) → 道訓(みちのり・平山ひらやま、神職/国学) K 4 1 2 6
- F4635 **行久**(ゆきひさ・賀茂かも、基久男)?-? 鎌倉期神職; 貴布禰社祝/五位、  
 歌人:新続古今942、  
 [すみうきも心とまるもはかなきは一夜の旅のやどりなりけり](新続古; 羈旅942)
- F4636 **以久**(ゆきひさ・松下まつした/本姓; 賀茂、元久男)?-1653 京の上賀茂神社祠官、1606非藏人/36従五下、  
 美濃守、上北面、「鞠書」著、矩久のりひさ(1602-85)の父
- F4637 **如寿**(ゆきひさ・東儀とうぎ/本姓; 太秦、如貫男)1793-1849<sup>57</sup> 天王寺方楽人/1827伊勢守/47従四上、  
 1848「大嘗会巳日主基方附物」著  
 幸久(ゆきひさ・中川) → 花海(かかい・中川なかがわ、俳人) J 1 5 2 8  
 以久(幸久/征久ゆきひさ・島津) → 以久(もちひさ/ゆきひさ・島津、藩主) B 4 4 5 7  
 享寿(ゆきひさ・榎/竹内) → 享寿(きょうじゅ・竹内たけうち、法眼/歌人) C 1 6 5 7
- F4638 **行秀**(ゆきひで・土佐とさ/春日/本姓; 藤原、土佐行広or光国男?) 1386?-? 1435存 室町期絵師、  
 1413-24頃京春日画所預、1419修理亮/27大蔵少輔/35従五上、京の春日高倉に工房、  
 「加茂祭絵巻」「融通念仏縁起」画
- F4639 **行秀**(ゆきひで・清原?) ? - ? 室町期廷臣; 少外記?/民部権大輔、  
 歌; 1450後崇光院催[仙洞歌合]参加、  
 [秋の色はさそふ嵐にいぬかみや鳥籠この山川紅葉乱れて]、  
 (仙洞歌合; 十五番左29/犬上; 近江の歌枕; 往いぬを掛る/鳥籠山; 近江の歌枕)
- F4640 **之英**(ゆきひで・久保くぼ/本姓; 紀、通称; 七兵衛、之直男) 1730-? 江中期薩摩藩城下士; 小番、  
 示現流剣術家、歌; 寺山用英もちひで門、文筆家、1776「文武之書」著/「示現流聞書喫緊録」、  
 1785「見聞秘記」89「御家兵法純粋」、「関ヶ原合戦進退秘訣」「薩洲士風伝」外著多数  
 之正・薬丸兼武の父
- F4641 **行英**(ゆきひで・市川いちかわ) ? - 1854 江戸後期上州勸能村の和算家: 武州の桜沢英秀門、  
 斎藤宜長・白石長忠門、1834「合類算法」編、「初学算法」「算法雑俎解」「数学雑俎解」著、  
 「初学算法天元術」「初学算法点竄診解」著、  
 [行英(;名)の字/通称/号]字; 君虎、通称; 玉五郎、号; 愛民/南谷
- F4642 **幸秀**(ゆきひで・久岡ひさおか、通称; 喜源太、秀恒男) 1820-93<sup>74</sup> 備前岡山藩士; 家老伊木忠澄に出仕、  
 歌人、「橘の薫」著
- G4668 **幸英**(ゆきひで・大野おおの、) 1831-1883<sup>53</sup> 因幡鳥取藩の医者/鶴藩主池田氏家老殿家に出仕、  
 国学者、  
 [幸英(;名)の別号/号]別号; 文周/節、号; 竹窓
- F4643 **幸仁親王**(ゆきひとしんのう、後西ごさい天皇第2皇子) 1656-99<sup>44</sup> 母; 東三条局共子(清閑寺共綱女)、  
 1667絶えていた高松宮を相続/1669親王宣下/70元服; 兵部卿/72有栖川宮に改称、  
 1697式部卿; 一品、画; 狩野探幽門/歌: 霊元天皇門; 和歌天仁遠波の伝授を受、  
 「禁裏仙洞御会」「公宴御会和歌」/1688「仙洞御夢想御会」92「仙洞御会始和歌」参加、  
 1695-1701「仙洞御所御会和歌」参加、  
 [幸仁(;名)の幼名/名号/諡号]幼名; 多嘉宮/二宮、名号; 高松宮/花町宮/有栖川宮、  
 諡号; 本空院
- 4609 **行平**(ゆきひら・在原ありから、阿保親王男/業平の異母兄) 818?-893<sup>76?</sup> 母; 伊都(登)内親王?、  
 826在原姓を賜る、廷臣; 藏人頭/正三位/因幡守/中納言、大学別曹奨学院を設立、歌人;  
 885「在民部卿歌合」主催: 現存最古の歌合、文徳朝に事に連座; 須磨に籠居(;古今集962)、  
 「須磨譜」著、勅撰11首; 古今(4首23/365/922/962)後撰(4首720/1075以下)新古・玉葉各1首、  
 [立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰りこむ](古今; 離別365)  
 [行平(;名)の通称] 在民部卿/在納言、友于ともゆきの父
- F4644 **ゆきひら**(・良峯) ? - ? 平安期保明親王の帯刀/歌人;  
 903-923頃「保明親王帯刀陣歌合」入、  
 [ゆふされば声ふりたててきりぎりす露を寒みやよもすがら鳴く](帯刀歌合; 蟋蟀左3)
- F4645 **幸平**(ゆきひら・賀茂かも、家平男) 1142-1214<sup>73</sup> 上賀茂社神主/四位、惟平・清平・種平・春平らの父、  
 歌人; 1182重保撰「月詣和歌集」入、勅撰3首; 新古今1893/続後撰1046/玉葉2019、



[大御田おほみたのうるほふばかりせきかけて井堰おせきにおとせ河上の神]、  
(社司達の貴船明神での雨乞いに詠む/大御田は神社付属の田/貴船は賀茂の川上)

- H4637 **如平**(ゆきひら・森本もりもと、信彌男)1790-1862 73 信濃伊那郡島田村の庄屋/酒造業・豪農の家、  
父は森本家6代目(庄屋を1759-1785勤む)/兄弟の信就が家督継嗣、国学・歌;服部菅雄門、  
[如平(;名)の通称]朝之助/君六/徐平  
☆森本家の略系図→ 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/歌人) P 4 0 3 5
- H4618 **行平**(ゆきひら・広田ひろた、) ? - ? 越後蒲原郡の国学者/歌人、  
国学・歌;日野資徳すけり(1848-1909/白山神社祠官)門  
雪平(ゆきひら・永井) → 精古(せいこ/あきひさ/きよひさ・永井、神職/国学) B 2 4 3 4
- F4646 **行広**(ゆきひろ・大中臣おおなかとみ) ? - ? 南北期廷臣;兵部少輔/四位/歌人、息女(行広女)も歌人、  
歌人:1364-5頃「一万首作者」入、勅撰2首;新拾遺1160/新後拾遺838、  
[頼めつつ来ぬ夜の数はつもれどもまたじと思ふ心だになし](新拾;恋1160)
- F4647 **行広**(ゆきひろ・土佐とさ/本姓;藤原、土佐光国or行光男?) ?-? 室町幕府絵師/従五上/右近衛将監、  
土佐守、1429頃出家、「足利義満画像」「満濟准后像」「二十五菩薩来迎図」「神宮皇后縁起」画
- F4648 **幸寛**(ゆきひろ・吉見よしみ、恒幸の長男)1670-1717 48 廷臣/神道家:1687従五下/大蔵少輔、  
1692病のため家督嗣がず退隠、「中臣祓弥生抄」著、  
[幸寛(;名)の通称/号]通称;左門、号;菊川
- G4653 **幸弘**(ゆきひろ・石黒いづる、)1686-1755 70 筑後久留米藩士;作事奉行、国学、  
[幸弘(;名)の通称/号]通称;源八/守朴、号;素室
- F4649 **行弘**(ゆきひろ・石井いかい/本姓;平、樋口基康4男)1785-1859 75 兄石井行宣の嗣/廷臣;1816従三位、  
1843(天保14)参議/従二位/51権中納言/52正二位、  
「文化五戊辰年新嘗祭参陣記」/「石井中納言行弘卿詠草之留」著
- F4650 **行簡**(ゆきひろ・中矢なかや/本姓;藤原)1794-1841 48 伊賀上野藩士;藤堂家家臣;禄百20石、  
騎士隊長兼弓術の助教/国学・歌人、尊王派、「行簡歌集」「野史抄」「仮寝夢」著、  
1831「夢の多太可」著、  
[行簡(;名)の通称]直之介
- F4651 **行広**(ゆきひろ・工藤くどう) ? - ? 江後期弘化嘉永1844-54頃上州沼田藩家老、  
武道家:特に管鎗を好む、江戸の易者成田狸庵朝辰の碑文を建立、川崎也魯斎の兄、  
「枯野の草」「見世加志」著、「万松祖録」「自刃録」「切腹式」編、  
[行広(;名)の通称]十一兵衛
- G4670 **行篤**(ゆきひろ・関せき、七郎兵衛男) ?-? 江後期旗本/幕臣;出雲守/下総守、  
1837(天保8)勘定組頭/39代官/44勘定吟味役/52新潟奉行/54堺奉行、  
1859(安政6)京都町奉行;安政大獄に携わる/60(万延元)勘定奉行次席に抜擢、  
1861(文久元)留守居次席;和宮付き/62隠居、1862「和宮江戸下向絵巻」詞書を著、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[目に見ゆるものにもなしに鶯の声の色こそ身にはしみけれ](大江戸倭歌;春79)
- H4611 **行寛**(ゆきひろ・根来ねごろ、)1816-1895 80 長門萩の江向の歌人、  
「彩霞追慕集」編、  
[萩津江の流れひろめし御いさぬめのむかしを忍ぶさみだれの頃](萩の歌人)入  
行弘(ゆきひろ・大内) → 専空(せんくう;法諱、真宗僧) M 2 4 0 9  
幸弘(ゆきひろ・真田) → 菊貫(きくつら・真田、藩主/歌/俳人) 1 6 9 8  
之浩(ゆきひろ・大竹/岳) → 麻谷(まこく・大竹/岳、漢学者) 4 0 7 0
- F4652 **行広女**(ゆきひろのむすめ・大中臣おおなかとみ) ?-? 1387存 北期方に女房として出仕、  
歌人:1364-65頃「一万首作者」入(父と共に)、1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首]2首出詠、  
新後拾遺1207、新葉集2首;777/820、  
[今はただ思ひたえねと月日さへへだつるなかを何したふらん](新後拾;恋1207)、  
[若菜摘む野沢の水も春をへて幾里いさと人のかげうつすらむ](高田明神百首;5/沢若菜)
- F4653 **行房**(ゆきふさ・世尊寺せそんじ/本姓;藤原/一条、経尹男) ?-1337自害 廷臣;正四位下/左中将、  
大覚寺統廷臣、能書家;尊円親王の書の師範;「入木口伝抄」述、1332後醍醐天皇の隠岐随行、  
1337(延元2)越前金崎城落城の時に尊良親王と共に自害、1322「右筆条々」著、

歌人;勅撰7首;玉葉(976)続千載(311/1039)続後拾(333)新続古(480/569/1533)、  
新葉集2首(535/544)、1319文保百首参加、

[暁に積りやまさるそともなる竹の雪をれこゑつづくなり](玉葉;冬976/暁雪)

征房(ゆきふさ・脇/水上) → 征房(まさふさ・水上/水/脇、藩士/歌人) H 4 0 1 6

行房(ゆきふさ・祝部) → 行親(ゆきちか・祝部はふりべ、神職/歌人) E 4 6 8 3

F4654 行藤(ゆきふじ・二階堂にかいどう/本姓;藤原、行有男) 1246-1302<sup>57</sup> 鎌倉幕臣;従五上左衛門尉、  
左兵衛尉、出羽守/1282幕府引付衆/93政所執事/98越訴奉行/99引付頭人、  
1301(正安3)出家、時藤の父、歌人、玉葉集2首(522/1863)、

[うたてなど霧の朝けの女郎花はなの姿をたちかくすらん](玉葉;秋522)、

[行藤(;名)の通称/法名]通称;出羽次郎兵衛尉/備中次郎左衛門尉、法名道暁/道円/道我

F4655 行藤(ゆきふじ・祝部ほうりべ/はふりべ/生源寺、行有男)?-? 日吉社の神職/越前守/従四下、

1394(応永元)足利義満の日吉社参詣を迎えた社家の1人、歌;新後拾遺976、

[人知れずまだこりずまに焼く塩の煙はしたになほむせびつつ](新後拾;恋976)

F4656 行文(ゆきふみ・紀き、俊長男)?- ? 室町期永享1429-41頃廷臣/神官/大膳大夫、

1429従三位非参議(1439以後公卿補任不見)、歌人;歌を宮中に献ず/父の志を承け隠遁、

「大膳権大夫行文五十首」著、新続古今2首(1763/1902)、

[夢さむる夜半の時雨は冬来ぬとおどろかしてやよそに過ぐらん]、

(新続古;十七雑1763/初冬の心を)

行文(ゆきふみ・消[背]奈) → 行文(ぎょうもん・消[背]奈しょうなの君、詩歌) C 1 6 8 6

之翰(ゆきふみ・丹波) → 修治(しゅうじ・丹波/木村、博物学/歌) B 2 1 4 0

之翰(ゆきふみ・松井) → 之翰(これふみ・松井、藩医/歌人)

F4657 行冬(ゆきふゆ・惟宗これむね) ?- ? 1393存 南北室町期廷臣;1381右京大夫、

1390-3足利義満の石清水八幡宮参詣に供奉、

歌人/勅撰3首:新拾遺(1808)新後拾遺(1105)新続古今(1824)、

[尋ね入るかひやなからむ山深く住むともすまぬ心なりせば](新拾遺;雑1808)

F4658 行政(ゆきまさ・惟宗これむね、筑後守行貞男)?-? 鎌倉中期廷臣;五位/歌人;続千載1878、

[いつまでと思ふにぬるる袂かなあるも命の頼まれぬ身は](続千載;雑1878)

F4659 如正(ゆきまさ・文屋ふんや、字;文慎)?-? 平安中期漢学者/詩人;

963三善道統宅「善秀才宅詩合」右方に参加、989少内記/990大内記/1001大学頭、

1010周防権守/1015敦良親王読書始に参列/道長頼通の侍読、勸学会記・本朝文粹入

B4619 之昌(ゆきまさ・佐方/坂田さかた/本姓;藤原) 1551?-1629?79? 出雲の歌人;和泉堺に住、歌学を修得、

三刀谷弾正久美(毛利家家臣)に近仕、のち細川幽斎の家臣;幽斎に和歌の奥義を相伝する、

連歌作者、1600(慶長5)幽斎田辺籠城の際に幽斎の口上を智仁親王に伝達;功績を上げる、

1614頃豊後中津に隠居/出家、「細川幽斎聞書」筆録(1717刊)、「もしほ艸」「和歌読口伝」著、

「幽斎短冊相生の字之事」「耳底記別録」著/寛永1624-29頃「御歌書目録」編(隠居後晩年)、

連歌;智仁としひと親王・松下述久のぶひさと連歌で交流、1594(文禄3)-1614(慶長19)頃百韻多数、

智仁親王(色/友輔)・鳥居大路詮平よしひらと三吟、玄旨・紹由・昌琢らと百韻など、

○智仁親王(友輔)・松下述久と三吟;1595(文禄4)9月;「何船百韻」、

○智仁親王(友輔)と両吟1595「何船百韻」・96(慶長元)「両吟百韻」、

○1596(慶長元)10-11月;友輔/詮平と三吟;「何人百韻」「山河百韻」「何袋百韻」、

「白河百韻」「何路百韻」「何人百韻」「一字露見百韻」など、

○1614(慶長19)7月;昌琢らと百韻(;宗佐号)

[之昌(;名)の通称/号]通称;吉左衛門、号;印斎/宗佐そうさ(;入道号)

G4665 幸政(ゆきまさ・内堀うちぼり、) 1609-1688<sup>80</sup> 陸奥(陸中)盛岡の南部藩士;歌学で出仕、国学者、

[幸政(;名)の通称/号]通称;勘平/浅右衛門、号;宗円/徹心/道貫

H4653 行正(ゆきまさ・肥田ひだ、通称;源内、政直男) 1651-1724<sup>74</sup> 常陸水戸藩士/水戸藩大老肥田政大の弟、

1675(延宝3)馬廻組/小納戸役/1695(元禄8)火消足軽頭;2百石/先手足軽頭/持弓頭、

寄合指引/1705(宝永2)新番頭、1714(正徳4)致仕、和学/歌人、1724(享保9)没、

[山深み誰があこがれし跡なれや我よりさきの花のしほりは](茂睡[鳥の迹]春141)

G4684 行政(ゆきまさ・近藤こんどう、号;宇碌) 1727-1885<sup>59</sup> 筑後御井群の国学者;船曳鉄門門

- C4642 **行正**(ゆきまさ・津田つだ) ? - ? 江後期天文家;江戸の天文台で実測に当る、  
「数学筈蹄附録」「本朝著述曆書及文書」著/「古川氏蔵書曆書目抄」編
- G4695 **之正**(ゆきまさ・千家せんげ、)1815-1878<sup>64</sup> 出雲出雲郡の出雲大社上官、茶道;千家連枝、  
国学/歌;千家俊信・尊孫たかひこ・島重老門、  
[之正(;)名)の通称/号]通称;兎毛/山城、号;亀ノ舎
- H4615 **之正**(ゆきまさ・平岡ひらおか、号;鼎元)?-? 加賀石川郡の鍼医、  
医・国学・歌;田中躬之(1796-1857)門  
之昌(ゆきまさ・内山) → 彦次郎(ひこじろう・内山うちやま、幕臣/献策) 3 7 6 1  
以正(ゆきまさ・秋元) → 澹園(たんえん・秋元/秋本、儒者/詩文) H 2 6 9 5  
以正(ゆきまさ・鈴木/秋元/秋本) → 澹園(たんえん・秋元/秋本/鈴木、儒者/詩文) H 2 6 9 5  
以政(ゆきまさ・林) → 以成(ゆきなり・林はやし、藩士) F 4 6 1 5  
以脩(ゆきまさ・加藤) → 東岡(とうこう・加藤かとう、書肆/歌人) D 3 1 8 6  
行尹(ゆきまさ・世尊寺) → 行尹(ゆきただ/ゆきまさ・世尊寺/藤原、廷臣/書家/歌人) E 4 6 7 0  
幸政(ゆきまさ・池上) → 幸豊(ゆきとよ・池上、名主/開墾/殖産) F 4 6 0 9  
行升(ゆきまさ・歌川) → 貞升(初世さだます・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 3
- F4660 **ゆき町**(行町/雪町ゆきまち・恋川、小川、通称;市太郎/鉄太郎)?-1831? 江戸町医者?、絵師、  
黄表紙作;春町門、絵;歌麿門/美人画、1788「百福物語」春町らと共著、89「書集千鳥蝶」、  
1811「朝鮮人来朝行列記」画、26「女船頭矢口之渡」30「艶競恋花染」、59「狂歌今人墨蹟集」編、  
[ゆき町の別号]李庭亭/梅雅堂/恋川春町2世/喜多川歌麿2世(歌麿未亡人への入婿説?)  
幸丸(ゆきまさ・檜垣) → 常名(つねな・檜垣ひがき/度会、神職/歌) C 2 9 7 7
- F4661 **行丸**(ゆきまさ・祝部ほうりべ/はふりべ/生源寺、行貫男)1512-92<sup>81</sup> 日吉社禰宜/惣官、  
1571信長の比叡山焼打で日吉社焼失;出雲に逃亡、1575帰郷;秀吉の援助で日吉社再興、  
「日吉社年中行事」「日吉山王記」「山王社記」「行丸書記」「日吉社法楽和歌」外著多数
- F4662 **雪丸**(ゆきまさ・ゆきまさ・酢屋すや)?- ? 江前期三河新城の俳人:太田白雪門、  
1699「茶のさうし」共編(桃先と)、  
参考 → 桃先(とうせん・太田、白雪男/俳人) G 3 1 0 9
- F4663 **雪麿**(雪丸ゆきまさ) ? - ? 江中期江戸俳人;雑俳点者、  
1754竹翁遺稿「誹諧童の的」序/跋、61「竜の声」著、  
[雪麿(雪丸)の別号] 訥斎/桜勿斎/下溪主人/玄冬斎
- 4624 **由伎麻呂**(ゆきまさ・中臣なかとみ、名;直茂)?-? 江中期国学者:加藤宇万伎門、歌人、中臣連と称す、  
1782(天明2)「国史古歌集」、  
「六義考」著/「楽歌類経」編
- F4664 **行麿**(ゆきまさ・喜多川/北川きたがわ)?-? 江中期天明寛政1781-1801頃絵師:喜多川歌麿門、  
黄表紙挿画/肉筆画など、1785「気散次夢物語」「鬼嶮大通話」「向島佐々木久助」画、  
1888「時代世話二挺鼓」「文武二道万石通」画
- H4634 **幸麿**(ゆきまさ・村田むらた、通称;仁吉)1771-1856<sup>86</sup> 筑前博多の商家;筆墨商、国学者;本居宣長門
- 4611 **雪麿**(ゆきまさ・墨川亭ばくせんてい、姓;田中/名;源治・親敬)1797-1856<sup>60</sup> 越後高田藩士;江戸詰、詩人、  
絵師;喜多川月麿[菊麿]門/錦絵・肉筆画・草子挿絵、合巻作者:柳亭種彦・曲亭馬琴と交流、  
狂歌;真顔門、1822「小柳綺阿娜帯留こやなぎじまあだなおびどめ」30-35「傾城三国志」30-37「五虎猛勇伝」、  
1841「小桜姫閉月奇談」49「釣華生梅廻三日月」51「詞花萱草紙ことばのはなかるかやそうし」外著多数、  
[雪麿(;)号)の字/通称/別号]字;虞徳、通称;善三郎、別号;墨川亭/墨川/敬丹舎、法号;本性院
- H4651 **鞆麿**(ゆきまさ・釈;法諱、名;良然りょうねん)?-1856 佐渡小木の正覚寺住僧、歌人;橋守部門、  
[てもふれでこの年頃をよそながらなるゝにつけてもらし兼つゝ](馴恋)、1856(安政3)没
- F4665 **雪麿**(ゆきまさ・阿部あべ、名;茂宗)1802-81<sup>80</sup> 信州佐久郡宿岩の俳人:江戸の見外門、宗匠、  
刈穂社中を主導;1861「刈穂集」編、1861(文久元)奥の細道を辿り「奥松島紀行」著、記念集、  
1862兄巖斎(書家)の追善集を編纂、1862「松心集」編、江戸の卓郎と交流、  
[雪麿(;)号)の通称/別号]通称;喜市郎/喜左衛門、別号;刈穂庵/刈穂舎/月窓  
雪丸(ゆきまさ・豊年) → 豊年雪丸(ほうねんのゆきまさ、藩士/狂歌) C 3 9 4 4  
幸麿(ゆきまさ・山中) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7
- H4644 **通道**(ゆきまさ・山中やまなか、旧姓;佐々木)?-? 石見の生/故あつて出雲杵築住;山中に改姓、  
書道に専念;1658(万治元)藩主松平直政に召出され高野山西方院僧春深門;大師流書法、



松江藩筆道師範(松江藩筆道の祖)、1688佐太神社造営後に藩主綱近が36歌仙絵馬奉納；  
その絵馬は伝；狩野永雲画・山中通道筆、寺田勘右衛門・箕島八郎左衛門と三氏木下廻の称、  
章弘あきひろ(松江藩筆道師範)の父、  
[通道(；名)の通称/号]通称；中左衛門、号；外世

- F4666 **幸道**(ゆきみち/ゆきひろ・真田さなだ、信政男)1657-1727<sup>71</sup> 1658(2歳)父没；家督継嗣；信濃松代藩主、  
初め祖父信之/のち内藤帯刀忠興の後見で江戸に育つ、従四下/伊豆守、  
1673伊予宇和島藩主伊達宗利女と結婚、文武奨励/自らも神道流剣術・関口流柔術を修得、  
1711幸道と改名、詩人；「真常院詩稿」、  
[幸道(；名)の幼名/法号]幼名；信房/右衛門佐、法号；真常院
- F4667 **遵路**(ゆきみち・小寺こでら)1689-1733<sup>45</sup> 加賀金沢藩士；会所奉行/横目/歩頭、世禄5百石、  
儒者；室鳩巢門/鳩巢七才の1；六経に通ず、1722「小寺遵路喪服疑問」編  
[遵路(；名)の字/通称/号]字；与義、通称；武兵衛/市郎右衛門、号；希光斎
- H4630 **行達**(ゆきみち・三宅みやげ/旧姓；宗岡、)1769-1809<sup>41</sup> 京の廷臣；官人/中務小録、国学者
- F4668 **行通**(ゆきみち・梅溪うめたに/本姓；源、通同男)1781-1824<sup>44</sup> 母；家女房、江後期廷臣；1807正四下、  
1812左近権中将、24(文政7)参議；没、1812(文化9)「行通卿記」著、  
[行通(；名)の初名/法号]初名；恭通、法号；後梅林院
- G4687 **行道**(ゆきみち・佐藤さとう、)1797-1859<sup>63</sup> 出羽(羽前)田川郡の国学者、  
[行道(；名)の通称/号]通称；善一郎/藤蔵、号；子顕
- F4669 **幸通**(ゆきみち・岩田いわた) ? - ? 1877存 幕臣；飛騨高山陣屋詰め/のち江戸に帰る、  
和算家；高木信英・山本賀前・高木吉兵衛・福田復門、維新後；1877東京数学会社設立会員、  
1838(天保9)「御林方尺ノ仕出」著/57「八線真教表起源」編、「円周率五十位精数考」著、  
「算岳余話」著、  
[幸通(；名)の初名/通称]初名；誠中、通称；量平
- F4670 **如迪**(ゆきみち・田中たなか、中条瀬平男)?-1883 伊勢津の生/田中家の養子、歌人；芝原音信門、  
「田中如迪詠草」著、  
[如迪(；名)の通称]玉端屋治郎左衛門
- F4671 **行道**(ゆきみち/ゆきつね・速水はやみ、敬行男)1822-96<sup>75</sup> 美濃郡上藩士；国学者、藩主青山幸宜の師傅、  
1868佐幕を主唱；凌霜隊の参謀/会津に転戦/官軍に降伏；入牢/1870釈放、万葉・源氏研究、  
岐阜伊那浪神社祠官/岐阜県職員を勤む；1877辞任/上京し宮内省図書寮に出仕；93致仕、  
1839「古今雑体歌類」57「三韓世譜」61「皇統正閏考」65「あづさゆみ」66「万葉集作者部類」著、  
「万葉纂語」「荻廼末葉」「文字鎖考」「久佐麻久羅」「三鳥三木考」「小夜廼須佐比」外著多数、  
[行道(；名)の通称/号]通称；益吉/小三郎/正雄、号；荻の家/八千種やぐさ園主人
- H4621 **行道**(ゆきみち・藤井ふじい/本姓；卜部、行学男)1825-91<sup>67</sup> 母；鷲尾隆純女、京の廷臣；中務権大輔、  
1860従三位/65正三位/従二位、歌人、  
妻；猪熊慶歎女の寛子、北小路道子(俊親妻)・行徳・山内孝子(勝明妻)の父  
之道(ゆきみち・林) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0  
如道(ゆきみち・藤原) → 如道(すけみち・藤原、廷臣/歌) J 2 3 5 9
- F4672 **行光**(ゆきみつ・土佐とさ/中御門/本姓；藤原、土佐吉光or光国男?)?-? 南北期絵師；従四下、  
大蔵少輔兼左近衛将監/1352-71画所預、土佐光信が土佐派確立に際し自派の祖とす、  
1296「天狗草紙」1307「一遍上人絵伝」画、「弘法大師行状図画」「法然上人行状画図」画、  
「足利義詮像」「十王図」画説あり、光重の父
- F4673 **幸充**(ゆきみつ・伊藤いとう) ? - ? 江前中期小笠原流武家故実家；伊藤幸氏ゆきうじ門、  
1686?「女中詞」幸氏と共編、1726「奉射的并草鹿挾物記」著、「幸氏幸充先生婚礼扣」著
- F4674 **幸充**(ゆきみつ・山口やまぐち、号；白梅軒)?-? 江中期日向の神道・随筆家、神道；浅利太賢もとかた門、  
神道；松岡雄淵(1701-83)・吉見幸和よしかず(1673-1761)門、  
1711-50「日次醜満」、「神道奥秘」「嘉良喜随筆」「連歌去嫌之歌」著
- H4601 **幸充**(ゆきみつ・知久ちく、) ? - 1830 信濃伊那郡の阿島領主知久家の家老、歌人、  
[幸充(；名)の別名/通称]初名；多宮、通称；治郎左衛門
- F4675 **恭光**(ゆきみつ・裏松うらまつ/本姓；藤原、光世男)1800-72<sup>73</sup> 廷臣；父光世の跡は養子謙光が継嗣、  
恭光は謙光男の明光を継嗣、1851従三位/57議奏；国歌多事の時に幕府老中と折衝、



1861従二位/67(慶応3)権大納言;程なく致仕、1789「床子座勘物」著、  
1832「裏松恭光蔵人拝賀次第」36「仁和寺結縁灌頂申沙汰雑誌」43「賀茂祭当日備忘」著、  
「維摩会申沙汰并参向雜記」「恭光朝臣記拔萃」外著多数

- F4676 **幸盈**(ゆきみつ・浦野うらの) ? - ? 江後期文政1818-30頃信濃須坂の和算家:  
規矩術に長ず;長沼安定の師、狂歌;四方側、1819「規矩術本伝并外伝」、「規矩術別伝」著、  
[幸盈(;)名)の通称/号]通称;五左衛門、号;柳操庵/朝風あさなぎ
- G4656 **行光**(ゆきみつ・市川いちかわ、通称;勇) 1813-7866 甲斐上野の国学者、行直の兄  
幸充(ゆきみつ・伊達) → 宗充(むねみつ・伊達だて、領主/民政) D 4 2 9 2  
之光(ゆきみつ・力丸) → 東山(とうざん・力丸りきまる、儒者/兵法) E 3 1 5 6  
行充(ゆきみつ・人見ひとみ) → 桃源(とうげん・人見、幕府儒官) D 3 1 4 2
- G4668 **行岑**(ゆきみね・小川おがわ、通称;半左衛門)?-? 江中期越後村上藩士;内藤紀伊守に出仕、  
歌;1798刊石野広通「霞関集」入、  
[湊舟泊りさだめてなほも見ん夕浪寄する月の光を](霞関;秋479/湊辺月)
- 4610 **行宗**(ゆきむね・源みなもと;三条流、基平男) 1064-114380 母;藤原良頼女(石上殿)、平安後期廷臣;  
1087右兵衛佐/1120修理大夫/38大蔵卿/1139従三位/1143出家、  
小一条院の孫/行尊の弟/雅重の父、笛の名手/歌人、  
家集「行宗集(源大府卿集)」、1095郁芳門院前裁合/1134頭輔歌合参加、崇徳院初度百首参、  
晩年は崇徳院歌壇の常連、後葉集・続詞花集・秋風集・新和歌集・和漢兼作集などに入集、  
勅撰27首;金葉(7首199/343/381/522/570/700/707、Ⅲ5首)詞(286)千(197/233)、  
新古(363/894/1572)新勅(2首)続後撰(2首)続拾(717)新後撰(2首)玉(2首)以下、  
[なごりなく夜半の嵐に雲晴れて心のまゝにすめる月かな](金葉;秋199/翫明月)  
行宗(ゆきむね・藤原/伊達)→ 朝村(あさむら・伊達/藤原、歌人) B 1 0 0 5  
行宗(ゆきむね・藤原/二階堂)→ 行円(ぎょうえん、二階堂、幕臣/歌人) C 1 6 2 6
- F4677 **幸村**(ゆきむら・真田さなだ、名;信繁、昌幸2男) 1567-161549 安桃期信州上田の武将;関原戦で豊臣方、  
上田城に拠るが敗戦;父と共に九度山へ退去、大坂冬の陣で大坂城真田丸で徳川軍と敵対、  
夏の陣に戦死、のち伝説化する
- F4678 **之邑**(ゆきむら・堀田ほつた/本姓;紀) 1706-7368歳 尾張津島神社の庶子方禰宜、1735-73「覚書」著、  
1757「之邑随筆雑記」65「屋漏私言」67「秘事随筆」、「之邑随筆雑録」「熱田問答雑録明弁」著、  
[之邑(;)名)の別号/通称/号]初名;之相ゆきすけ、通称;三右衛門、号;恐斎、法号;一翁義山居士
- F4679 **幸混**(ゆきむら・よしむら・吉見よしみ、幸和よしかず男) 1715-6349 尾張名古屋の神道家・国学者;家学を修学、  
儒;松平君山門、武技に通ず、1728家督継嗣;尾張名古屋の東照宮祠官、  
1735「三道伝目鈔」42「吉見幸混書簡」56「奈良帝万葉辨」、「万葉集辨」「三種神器辨」著、  
「吉見家訓」編、  
[幸混(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名;六三郎、字;伯盈、通称;右衛門/中務、  
号;虬洞きゅうどう/竜門山人
- G4635 **行持**(ゆきもち・文屋ふんや) ? - ? 連歌作者;1356成立「菟玖波集」釈教入
- F4680 **行元**(ゆきもと・大江おおえ/長井)?- ? 鎌倉南北期廷臣;五位/歌人、  
1359成立「新千載集」入(1592)、  
[知られじなかはる契の末の松袖に波こすうらみありとは](新千載;恋1592)
- F4681 **之基**(ゆきもと・小鴨おがも) ? - ? 1453存 伯耆の武家;京の山名教之の家臣/連歌作者、  
1453(享徳2)8月11-13日京で「小鴨おがも千句」(享徳千句)主催;  
(宗砌第一発句/心敬・専順・賢盛等参加)
- F4682 **之幹**(ゆきもと・三木みき、本姓;源) 1660-173475 常陸水戸藩士;1673(14歳)徳川光圀に召され側仕、  
1686藩士、漢学/詩文を嗜む;「詩稿」著、  
1701「桃源遺事とうげんいじ(西山遺事)」(:光圀伝)共編(宮田清貞・牧野和高かざたと)  
[之幹(;)名)の通称] 左太夫/半左衛門
- F4683 **行盛**(ゆきもり・藤原ふじわら、行家男) 1074-113461 母;藤原実範女、平安後期廷臣;文章得業生、  
1102対策に及第/蔵人/勘解由次官/式部少輔歴任/1122文章博士兼撰津守/正四下、  
藤原忠実の家司、宗国・有業の兄、詩歌人;崇徳大嘗会和歌に出詠、続詞花集・万代集入、  
詩;中右記部類紙背漢詩集・別本和漢兼作集・和漢兼作集などに入集、

勅撰;金葉3首(172/287/315)(金葉Ⅲ289/321)、後拾遺往生伝下に記事あり、

[山深みとふ人もなき宿なれど外面そともの小田むに秋はきにけり](金葉;秋172)

[法性寺入道前太政大臣(藤原忠通/1097-1164) 連夜見月心人々によませ侍りけるに、  
よひのまのかたわれ月と見しものをながめぞあかす有明の月](続詞花;秋175)

- F4684 **行盛**(ゆきもり・平たいら、基盛男)? - 1185入水 平安期武将;左馬頭/正五下、  
1180以仁王追討の大將軍、1181木曾義仲追討に北陸道追討使、1183都落;備前児島に陣、  
1185壇ノ浦戦に入水、歌人;1183定家に詠草を託し都落(忠度が俊成に託したと同様):  
千載520[読人しらず]で入集(;月詣集・新勅撰集)、言葉集・月詣集入、  
勅撰4首;千載(520)/新勅(1194)/玉葉(2318;全性に答歌/2343;法印忠快への返歌)、  
[かくまではあはれならじをしぐるとも磯の松が根枕ならずは]、  
(千載;八羈旅520読人不知/海辺の時雨の心を詠む)
- F4685 **之盛**(ゆきもり・紀き、之泰男)? - ? 南北期廷臣;四位修理大夫、歌:新続古今1359、  
[偽りのあるをならひにさのみなどなき名をさへに人のたつらん](新続古;恋1359)
- F4686 **幸盛**(ゆきもり・小松こまつ) ? - ? 江後期土佐香美郡榎山の岡内村の地誌家、  
1829(文化12)刊「**椋山まきやま風土記**」著(榎山地区の産物・社寺・伝説など)
- G4645 **行敬**(ゆきもり・青木あおき/本姓;宗岡)1779-1841<sup>63</sup> 京の官人/歌人;賀茂季鷹・香川景樹門、  
行有ゆきありの弟、  
[行敬(;名)の通称/号]通称;右衛門大志/左兵衛大尉/宮内少丞、号;白禱園
- G4670 **幸盛**(ゆきもり・岡内おかうち/本姓;平、)1784-1845<sup>62</sup> 土佐香美郡の医者、国学者/歌人、  
「**椋山まきやま風土記**」編/「**平幸盛集**」著、  
[幸盛(;名)の別号/通称]別名;盛貴、通称;長松/長之進/新左衛門/弥十郎/京吾/本成
- H4622 **幸盛**(ゆきもり・藤原ふじわら、)? - 1902 大坂の書肆、国学者;平田鏡胤(1799-1880)門  
「祝詞作例」「千代乃志留弁」著、1902(明治35)没、  
[幸盛(;名)の通称]但馬屋熊太郎  
幸盛(ゆきもり・山中) → 鹿之助(しかのすけ・山中やまなか、戦国武将) P 2 1 8 3  
以守(ゆきもり・本保ほんぼ) → 以守(ゆきざね・本保、天文学)
- G4651 **如矢**(ゆきや・伊佐庭いさむ/阿部、成川国雄3男)1828-1907<sup>80</sup> 伊予松山の町医者の子/歌人;父門、  
松山藩士菅良弼に出仕、1844阿部家の養子;47阿部射狭いさと結婚、  
1856(安政3)私塾「老樸下塾」を開設;1895閉塾までに門弟千人、  
1868家督を長男柯おのえに譲り**伊佐庭**姓を名乗る、愛媛県吏員/松山城を廢城から守る、  
山田郡郡長/愛媛県高松中学校長/金刀比羅宮禰宜/1890(明治23)道後湯之町の初代町長、  
道後温泉本館を改築;観光事業に尽力;道後鉄道株式会社設立、1902隠退;茶・詩歌を嗜む、  
[如矢(;名)の通称/号]通称;斧右衛門(おのえもん・初め成川姓)、  
号;震庵/禿毫庵/矢翁/碧梧桐
- F4687 **行康**(ゆきやす・石井いはい/本姓;平、行豊男)1673-1729<sup>57</sup> 廷臣;1706従三位/1717(享保2)参議、  
1723権中納言/29正二位/東山天皇崩に奉仕;日記を残す:「石井行康卿記」著、  
法号;大悲心院
- F4688 **行保**(ゆきやす・菌田そのだ、通称;筑前守)1777-1854<sup>78</sup> 武州秩父郡大宮の神職;京で神道修学、  
帰郷;秩父神社神官職を継嗣/従五下筑前守、女子教育に尽力:1806「曹大家女誠和解」著
- F4689 **敬簡**(ゆきやす・橋本はしむと/本姓;藤原、敬賢男)1777-? 江後期幕臣;1791將軍家齊に目見得、  
1848小姓組頭/禄百50表、1850致仕、1825(文政8)「**經濟隨筆**」著、  
歌;蜂屋光世「**大江戸倭歌集**」(1858刊)入、  
[春霞たな引きそめてみ吉野の高根の雪もむらぎえにけり](大江戸倭歌;春57/霞)、  
[敬簡(;名)の通称/号]通称;猶五郎/喜八郎、号;直翁
- H4640 **幸賢**(ゆきやす・矢野やの、)1814- 1896<sup>83</sup> 筑前福岡藩士;長崎勤番/家老に就任、  
国学者、尊攘派の中心として藩論統一に尽力、1865佐幕派台頭で免職;幽閉、  
維新後;藩大参事、  
[幸賢(;名)の通称/号]通称;欣次郎/六太夫、号;梅庵
- H4627 **遷安**(ゆきやす・増山ますやま、旧姓;坂谷)1830-60<sup>31</sup> 伊勢度会郡の増山遷永の養子;伊勢神宮御師、  
国学・歌;養父門、

[遷安(；名)の通称] 定五郎/尚輔

F4690 **之恭**(ゆきやす・金井かない、烏洲うしゅう3男)1833-190775 上野佐位郡島村の書家：中沢雪城門、  
学問・勤王思想；父門/勤王家、1867(慶応3)討幕を企て投獄；新政府軍に救助；東北戦参加、  
明治臨池の三大家と称される、1868市政局出仕/内閣大書記官など諸官歴任、元老院議員、  
貴族院議員、のち飛鳥山三岳荘住、浜松に客死、  
妻；桑原たけ(多計子/1838-1911/1856結婚、尊攘家支援/植林事業)、  
「国名正訓官名略頌」著、

[之恭(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；文八郎、字；子誠、通称；五郎)、  
号；梧楼/金洞/錦鶏/錦溪、法号；恭光院

H4639 **行康**(ゆきやす・矢島やじま、旧姓；海野)1836-9560 江後期；信濃小県ちいさ郡の上野高山神社祠官、  
国学者；平田鍊胤・成沢寛経(1797-1868)門、高山彦九郎の遺徳を慕い各地の遺品蒐集；  
1877(明治10)「玉の御声」編/79(明治12)生地の群馬県細谷村に高山神社建立、  
[行康(；名)の初名/通称]初名；信古のぶひさ、通称；吉太郎

F4691 **幸安**(ゆきやす・島田しまだ、字；重信)?-? 江後期紀伊和歌山の文筆家、  
「島田幸安幽界物語」著

H4602 **幸安**(ゆきやす・出淵でぶち/いづぶち、)1841-64早世24 播磨姫路藩士；勤王攘夷派、佐幕派と藩内2分、  
1864(元治元)甲子の獄で河合屏山らと蟄居；自刃、  
[幸安(；名)の通称]千万太郎/新吾

行康(ゆきやす・世尊寺) → 伊忠(これだ・世尊寺/藤原、廷臣/歌) F 1 9 9 5  
行保(ゆきやす・赤石) → 蒲池(ほち・赤石、藩士/俳人) E 3 9 4 7  
進居(ゆきやす・若林) → 強斎(きょうさい・若林わかばやし、儒者/詩歌) C 1 6 5 0  
遊行上人(初世ゆぎょうしゅうにん) → 智真(ちしん・一遍、時宗開祖) 2 8 1 2  
遊行上人(2世ゆぎょうしゅうにん) → 他阿(初世たあ、他阿弥陀仏/眞教) 2 6 0 1  
遊行上人(3世ゆぎょうしゅうにん) → 智得(ちとく；法諱、量阿、時宗僧) F 2 8 0 2  
遊行上人(4世ゆぎょうしゅうにん) → 呑海(どんかい；法諱、有阿、時宗僧) S 3 1 1 0  
遊行上人(7世ゆぎょうしゅうにん) → 託阿(たくあ；法諱、時宗僧) E 2 6 1 7  
遊行上人(8世ゆぎょうしゅうにん) → 底阿(ていあ；法諱、渡船、時宗僧) 3 0 2 0  
遊行上人(19世ゆぎょうしゅうにん) → 尊皓(そんこう；法諱、時宗僧) F 2 5 3 5  
遊行上人(21世ゆぎょうしゅうにん) → 知蓮(智蓮ちれん；法諱、時宗僧) K 2 8 5 1  
遊行上人(25世ゆぎょうしゅうにん) → 其阿(きあ；法諱、仏天、時宗僧) J 1 6 1 4  
遊行上人(29世ゆぎょうしゅうにん) → 体光(たいこう；法諱、時宗僧) J 2 6 9 3  
遊行上人(33世ゆぎょうしゅうにん) → 満悟(まんご；法諱、時宗僧) K 4 0 4 8  
遊行上人(35世ゆぎょうしゅうにん) → 法爾(ほうに；法諱、時宗僧) C 3 9 4 3  
遊行上人(42世ゆぎょうしゅうにん) → 尊任(そんにん；法諱、時宗僧) F 2 5 6 9  
遊行上人(44世ゆぎょうしゅうにん) → 尊通(そんつう；法諱、時宗僧) F 2 5 6 4  
遊行上人(48世ゆぎょうしゅうにん) → 賦国(ふこく；法諱、時宗僧) B 3 8 8 8  
遊行上人(49世ゆぎょうしゅうにん) → 一法(いつぽう；法諱、時宗僧) H 1 1 8 4  
遊行上人(50世ゆぎょうしゅうにん) → 快存(かいぞん・其阿きあ、時宗僧) I 1 5 9 1

F4692 **行能**(ゆきよし・藤原ふじわら、有実男)?-? 平安前期；周防守従五下/歌；921醍醐御時菊合参加、  
公明きんあきら(956坊城右大臣師輔歌合参加)の父、  
[おくしもにふかくうつれる菊の花しももこころやいろをそむらん](醍醐御時菊合)

4626 **行能**(ゆきよし・世尊寺せそんじ/本姓；藤原、伊経男)1180-125677 母；法橋増宗女、廷臣；修理権大夫、  
右京大夫、1236従三位、能書家/歌人；1204春日社歌合/05元久詩歌合参加、  
1215建保内裏名所百首/16内裏百番/32名所月歌合・洞院摂政家百首参加、  
1234新勅撰集奏覧本の清書、40出家、48宝治百首参加(；寂能名)、  
1253為家[定家13回忌追善詩歌]参加；歌(寂能名)入、続歌仙落書入、檜葉・雲葉集入、  
勅撰49首；新古(1777)新勅(8首95/109/764/907以下)続後撰(9首127/256以下)続古(6首)、  
続拾(5首)新後撰(2首)玉葉(4首)続千(1863)続後拾(431)風雅(2首)新千(1744)以下、  
[書きながすことの葉をだに沈むなよ身こそかくても山河の水](新古今；1777、  
流す・葉・沈むは山河の縁語/時の和歌所開闢源家長に百首歌を送るその奥に書付けた歌、



源家長日記;行能はこの百首により北面に召され宮内権少輔に任ぜられたという)、  
[年はなほ行く瀬に淀む吉野川岩波はやく春はきにけり](宝治百首;22)、  
[行能(;名)の通称/法名]通称;綾小路三位、法名;寂能/寂然、経朝の養父、  
兄弟;経円(権大僧都)・禎快(権律師)・覚深(大僧都9・能経(阿闍梨)・伊子(松尾関白妾)、  
女  
→ 行能女(ゆきよしのむすめ・世尊寺、歌人) F 4 6 9 8

- F4693 行義(ゆきよし・度会わたらい) ? - ? 南朝廷臣;従三位、歌人:  
新葉集8首(298/336/405/415/831/979/1230/1311)、  
[村雨の過ぎ行く雲はさか越えてあべの田の面もに秋風ぞ吹く](新葉;秋298)
- B4666 行好(ゆきよし・西井) ? - ? 大和田原本住人、狂歌;666行風「古今夷曲集」入
- F4694 之徽(ゆきよし・山路やまち/本姓;平、主住ぬしづみ男) 1729-7850 幕臣;天文曆算家、  
1760部屋住のままで父を扶け暦作測量御用向を勤む/1766御目見/73父の跡継嗣;小普請、  
1777評定所勤役儒者/天文曆法・世界地理の研究、江戸参府のオランダ人と対話;語学修得、  
蘭学;前野良沢門、青木昆陽の影響を受、「江戸推艸」「蘭学緒言」「木星見行草」、  
1768「五星見伏見行草」「五星平合細草」/68-69「日躔草」72「関流算法伝書目録」、  
1774-75「七政曆」、「比例尺解義」「万国地理図説」外著多数、妻;大橋重章女/徳風の養父  
[之徽(;名)の通称/法名]通称;久次郎、法名;道哲
- G4637 行義(ゆきよし・藤田ふじた、敬所けいしよ[1698-1776]男)?-? 母;脇屋氏、豊前中津の儒者;父門、  
1765父より家督継嗣、1778父の墓碑を合元寺境内に父門弟倉橋龍渚と建立、  
歌;蜂屋光世(1858刊)「大江戸倭歌集」入、  
[人知らぬ深山がくれの苔清水ありとは聞けど汲むよしのなき]、  
(大江戸倭歌;恋1532/寄水恋)、  
[行義(;名)の通称] 与一郎
- F4695 行喜(ゆきよし・甲田こうだ、号;鳥准堂ふじゅんどう)?-1812(80余歳?) 美作勝田郡勝加茂村の医者、  
患者の貧富に関わらず専心治療/窮民救済、領主より褒賞、「美作孝民記」著
- F4696 敬義(ゆきよし・小槻おづき/壬生、知音の長男) 1757-180145 廷臣;1766左大史/大蔵少輔/1777主殿頭、  
1781修理東大寺大仏長官/1800(寛政12)算博士、正四上、「敬義宿禰記」、1777「俚愚鈔」、  
1776-7「壬生敬義記」79「諸宣旨官符牒雑々文書等案」99「小槻敬義備忘」外著多数
- 4627 順義(ゆきよし・沼田ぬまた、本姓;大三輪、与市男) 1792-184958 上州群馬郡新高尾村の医者;  
医;大熊松泉門、さらに甲斐の座光寺南屏・江戸の磯野希声門、  
1808(17歳)眼疾;のち失明;按摩鍼術修得、1812(21歳)按摩鍼術開業/検校、  
江戸按摩業の総取締、湯島住、国学/歌人;本居宣長を批判、  
1830「級長戸風しなとかぜ」40「級長戸追風」、「国意考辨妄」「道返草」「楽水堂道学」、  
[順義(;名)の字/号]字;道意、号;楽水堂/三芳野城長/三芳野検校
- 4628 運善(ゆきよし・青方あおかた、福江藩主五島盛運5男) 1793-185058 青方繁治の養嗣子、肥前福江藩士、  
1815御用所詰/20家老職/26養父致仕後に藩主盛繁を助け藩政を執行、藩校総裁を兼務、  
財政再建に尽力、藩政貢献により青方家は諸士の上に列す、1846致仕、  
西島蘭溪と交流/古記録編集/俳諧を嗜む、「御旅中日記」「公私懐宝手鑑」「凡百範則」著、  
1822「公裁月書」/46「本藩略譜」「唐船方心得書」著・「増補継志系図」編、外著多数、  
[運善(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;善吉、字;玉藍/古藍、通称;田宮、  
号;緑山/薫園/凌雲堂/甘棠書院/一水/一可/可讓齋/春処/梅処、法号;紹烈院
- 4629 行義(ゆきよし・松岡まつおか/本姓;丹治・丹墀たじい、辰方ときかた長男) 1794-184855 筑後久留米藩士:  
有馬家に出仕/江戸住、家学継承;故実家/公家故実;高倉流/武家故実;小笠原流、  
高倉流衣紋方会頭を勤める、神社古実にも精通、幕府に招聘;和学講談所教授、  
肥前蓮池藩主鍋島家の知遇を得る、明義の父、「源語問答」「源氏物語類聚抄」「衣裳記」、  
「拾塵」「拾玉」「忍草」「甲冑着用図勘文」「かりの冥途」「裘代考」「古今位色便覧」「水干考」、  
歌「露のことの葉」、「十四番歌合」撰、1831-2「東の富美」47「堂飛乃日難美」47「百首詠草」、  
1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂参加、「後松日記」「遊京雜記」「行義日々記」外著多数、  
[行義(;名)の通称/号]通称;次郎太郎、号;雙松亭、法号;高善院
- G4624 幸良(ゆきよし・真田さなだ、幸貫の長男) 1814-4431 父が真田家養子以前のため祖父松平定信男と届、  
父が信濃松代藩主となりその養嗣子となる;改名;幸栄、従五位下/豊後守、

早世のため家督相続なく長男幸教が継嗣、  
正室;柳沢保泰女の定/側室;村上氏女のチエ、幸教/松平定猷正室の父、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[久方の空行く月も秋さればいとさやかにも照りわたるかな](大江戸倭歌;秋831/月)

- G4681 **行敬**(ゆきよし・小西こし、本姓;広瀬)1822-9574 讃岐三木郡の国学者、  
[行敬(;名)の通称] 嘉平
- F4697 **幸敏**(ゆきよし・真田さなだ)1824- 188764 仙台藩士;真田幸村の2男守信の末裔という、  
藩主伊達斉邦・同慶邦の小姓、西洋砲術;下曾根金三郎門、  
1856講武場創設に当り砲術・西洋流調練指南役、脇番頭/近習目付;軍政改革を行う、  
戊辰戦では軍目付として会津土湯口で参戦、のち石巻に閑居;歌を嗜む、  
1852(嘉永5)「磯山の日なみ」著、  
[幸敏(;名)の通称] 喜平太
- G4675 **行義**(ゆきよし・片山かたやまor片田かた、通称;保人)?-1864 安藝広島藩儒;皇学教導  
行義(ゆきよし・鈴木) → 竜洞(りゅうどう・鈴木すずき、和漢学者) F 4 9 3 2  
行義(ゆきよし・永鳥) → 秀実(ひでざね・永鳥ながとり/松村、国学者) K 3 7 4 3  
幸善(ゆきよし・真田) → 幸貫(ゆきつら・真田/松平、藩主/詩歌) 4 6 2 1
- F4698 **行能女**(ゆきよしのむすめ・世尊寺せそんじ[従三位])?-? 実が高階経雅(従二位/1254出家)女の説?あり、  
鎌倉期歌人、参議中院具氏(1275没)の妻?、勅撰2首;続後撰688/続拾540、  
[もの思ふ袖にくだくる滝つ瀬のいどまでもるは浮き名なりけり](続後撰;恋688)
- F4699 **行頼**(ゆきより・橘たちばな、行平男or為正男?)?-? 平安中期廷臣;官人/五位/歌人:  
988(永延2)蔵人頭実資歌合・蔵人頭実資後度歌合参加、拾遺231、  
[池水や氷とくらむ葦鴨あしがもの夜深く声のさわくなる哉](拾遺;冬231)  
☆行頼の娘は能書家(1049内裏歌合の清書;行頼の没後)
- G4600 **行頼**(ゆきより・源みなもと、光行男)1114-118067 母;源康季女、平安後期廷臣:従四上、  
太皇太后宮大進・皇嘉門院判官代・甲斐権守歴任/九条兼実家司;25年間出仕、  
歌人:1175/79右大臣兼実家歌合/78右大臣兼実家百首参加、玄玉・万代集入/千載集186、  
[五月雨に室の八島を見渡せばけぶりは波のうへよりぞ立つ](千載;夏186/兼実百首歌)
- G4601 **行頼**(ゆきより・紀き、通称;弥太郎、右衛門督紀行春男)?-? 平安鎌倉期廷臣;五位兵部少輔、  
歌人:新続古今2095、  
[君がへむほどもをばえこそ石清水千世も八千代も神にまかせて]、  
(新続古今;二十神祇2095/文治二年1186十月廿二日前大納言藤原経房家歌合に)
- H4668 **行頼女**(ゆきよりのむすめ・橘たちばな)?- ? 平安中後期;女房/能書家、  
侍従中納言藤原信長の乳母、1049(永承4)内裏歌合(判者源師房)の右方清書
- G4694 **行宅**(ゆくいえ・諏訪すわ、旧姓;一戸)?-1788 陸奥弘前津軽藩士、国学・神道;岩田恵隆よしか門、  
吉川神道;吉川源十郎門、高岡神社祭司役  
[行宅(;名)の通称] 門兵衛  
行方亭智暦(ゆくえいとまろ) → 眞弓(まゆみ・内山うちやま、歌人) 4 0 3 3
- G4659 **由訓**(ゆくん・上江州うえず、姓;李/名;金徳)1805-? 琉球王朝廷臣;親雲上、尚育王御右筆、歌人
- E4658 **靱負**(ゆげい、靱負蔵人ゆげひのくらうど)?-? 平安前期女房歌人;977三条左大臣頼忠家前裁合参加、  
956坊城右大臣殿藤原師輔歌合参加、960天徳内裏歌合参加、962(応和2)庚申内裏歌合参加、  
[岸近みまねく尾花に立ち寄れば水をも影はむすびそふらし](頼忠家前裁合;80)  
[思ふことこめてはくるし花すすき穂に出でていはんそよとこたへよ](坊城歌合;右4)
- 靱負(ゆげい・荒木田) → 武因(たけより・荒木田/榎倉、神職/連歌) Q 2 6 7 7  
靱負(ゆげい・多羅尾) → 氏純(うじずみ・多羅尾たらお、幕臣/国学) C 1 2 4 0  
靱負(ゆげい・伊達) → 村望(むらもち・伊達/三沢、領主/詩文) D 4 2 2 2  
靱負(ゆげい・吉田) → 定俊(さだとし・吉田/卜部、神道家) I 2 0 8 1  
靱負(ゆげい・大久保) → 忠寄(ただより・大久保、幕臣/蔵書家) G 2 6 1 3  
靱負(ゆげい・藤原) → 重邑(しげむら・藤原/度会、神職/書肆) S 2 1 8 7  
靱負(ゆげい・米倉) → 長昌(ながまさ・米倉よねくら/源、幕臣/歌) K 3 2 1 3

靱負(ゆげひ・毛利) → 高久(たかひさ・毛利もうり/久留島、藩主) Z 2 6 9 4  
 靱負(ゆげい・村井) → 長穹(ながたか・村井、藩士/記録) E 3 2 0 4  
 靱負(ゆげい・村井) → 長道(ながみち・村井、藩士/能楽/日記) F 3 2 8 8  
 靱負(ゆげい・村井) → 長貞(ながさだ・村井、藩士/日記) D 3 2 7 1  
 靱負(ゆげい・山村) → 良祺(たかのり・山村、藩代官/儒/教育) M 2 6 7 8  
 靱負(ゆげい・本多) → 助芳(すけよし・本多ほんだ、藩主/和学) J 2 3 2 3  
 靱負(ゆげい・滝川) → 南谷(なんこく・滝川たきがわ、幕臣/詩人) J 3 2 0 0  
 靱負(ゆげい・吉田) → 秀升(ひでり・吉田/佐々木、幕臣/天文家) D 3 7 6 3  
 靱負(ゆげい・荒木田) → 南陵(なんりょう・荒木田あらかた、神職/詩) J 3 2 6 6  
 靱負(ゆげい・飯島/佐久良) → 東雄(あずまお・飯島/佐久良さくら/桜、国学/歌) 1 0 5 0  
 靱負(ゆげい・金森) → 頼興(よりおき・金森かなもり/源、幕臣) I 4 7 4 5  
 靱負(ゆげい・前田) → 利与(としとも・前田、藩主/詩/算学興隆) N 3 1 0 4  
 靱負(ゆげい・恩田) → 木工(もく・恩田おんだ、藩士/財政改革) 4 4 6 3  
 靱負(ゆげい・眞宮) → 定広(さだひろ・眞宮まみや、藩士/歌人) J 2 0 5 7  
 靱負(ゆげい・諏訪) → 頼永(よりひさ・諏訪すわ/酒井、幕臣) J 4 7 5 4  
 靱負(ゆげい・手島) → 毅庵(きあん・手島てしま、心学者) J 1 6 5 3  
 靱負(ゆげい・長野) → 清良(きよよし・長野、国学/万葉研究) D 1 6 7 0  
 靱負(ゆげい・佐藤) → 清臣(きよおみ・佐藤/高橋/大関、国学) O 1 6 6 6  
 靱負(ゆげい・高階) → 貞房(さだふさ・高階たかしな、藩士/国学者) J 2 0 6 0  
 靱負(ゆげい・小泉) → 重明(しげあき・小泉こいずみ、歌人) Q 2 1 4 7  
 靱負(ゆげい・久川) → 玄圃(げんぼ・大江おおえ、漢学/詩/書家) D 1 8 0 2  
 靱負(ゆげい・本居) → 建正(たけまさ・本居もとお、国学者) E 2 6 5 2  
 靱負(ゆげい・中山) → 正樹(まさき・中山/度会、神職/歌人) C 4 0 2 4  
 靱負(ゆげい・本多) → 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人) Q 2 6 3 3  
 靱負(ゆげい・本多) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/歌/俳) F 2 6 6 3  
 靱負(ゆげい・片桐) → 宗猿(そうえん・片桐かたぎり、信方、茶人) G 2 5 3 5  
 靱負(ゆげい・加藤) → 正行(まさゆき・加藤かとう、幕臣/記録) I 4 0 3 5  
 靱負(ゆげい・小原/穂井田) → 忠友(忠儔ただとも・穂井田/小原、歌/考証) 2 6 2 7  
 靱負(ゆげい・大江) → 広海(ひろみ・大江/早川、国学者/歌) H 3 7 2 0  
 靱負(ゆげい・松平) → 容敬(かたか・松平まつだいら、藩主/文筆) M 1 5 9 9  
 靱負(ゆげい・森重) → 都由(すべよし・森重もりしげ、砲術家) D 2 3 8 6  
 靱負(ゆげい・泉) → 御民(みたま・泉いずみ、歌人) B 4 1 0 0  
 靱負(ゆげい・梅谷) → 光邦(みつくに・梅谷うめたに/荒木田、国学) D 4 1 3 4  
 靱負(ゆげい・九鬼) → 隆徳(たかのり・九鬼くき、藩主/歌) U 2 6 1 5  
 靱負(ゆげい) → 壽々成(すずなり・愛敬亭あいぎょうてい、茶番) D 2 3 8 0  
 靱負(ゆげい→ゆきえ・浦) → 元襄(もとまさ/もとすけ/もとし・浦うら/国司、家老/日記) E 4 4 3 2  
 靱負(ゆげい・中根) → 雪江(ゆきえ/せこう・中根、藩士/国事) E 4 6 3 3  
 靱負(ゆげい・小谷) → 古蔭(ふるかげ・小谷こたに、国学/書家/神職) E 3 8 6 5  
 靱負(ゆげい・一文字) → 尚一(ひさかず・一文字いちもんじ/鷹羽、神職) L 3 7 2 4  
 靱負(ゆげい・河津) → 毎鎮(つねしず・河津かわづ/浦、神職) F 2 9 5 8  
 靱負(ゆげい・小笠原) → 長厚(ながあつ・小笠原おがさわら、領主/歌) L 3 2 3 5  
 靱負(ゆげい・小川) → 信邦(のぶくに・小川おがわ、神職/国学) H 3 5 5 8  
 靱負(ゆげい・中川) → 住郷(すみさと・中川なかがわ、神職) I 2 3 8 9  
 靱負(ゆげい・中川) → 経竿(つねのり・中川なかがわ、神職/国学) G 2 9 0 5  
 靱負(ゆげい・片山) → 豊樹(とよき・片山かたやま、神職/国学) U 3 1 7 5  
 靱負(ゆげい・久里) → 元麿(もとまる・久里くり、僧/神職) J 4 4 9 1  
 靱負(ゆげい・玉田) → 永久(ながひさ・玉田ただ、国学) N 3 2 8 2  
 靱負(ゆげい・永友) → 宗鷹(むねたか・永友ながとも、神職/国学) E 4 2 1 3  
 靱負(ゆげい・橋本) → 信秀(のぶひで・橋本はしもと、神職/国学) J 3 5 5 9  
 靱負(ゆげい・本間) → 三千矛(みちほこ・本間ほんま、国学/歌人) K 4 1 4 4



- 靱負(ゆげい・松田) → 大直(もとなお・松田まつだ、神道/国学) L 4 4 3 8  
 靱負(ゆげい・前島) → 正弼(まさみ・前島まえじま/源、名主/国学) S 4 0 5 0  
 靱負(ゆげい・久我) → 安定(やすさだ・松田まつだ、藩士/勤王) G 4 5 6 9  
 靱負蔵人(ゆげいのくろうど) → 靱負(ゆげい、女房/歌人) E 4 6 5 8  
 靱負尉(ゆげいのじょう・紀) → 歳信(としのぶ・紀きの、神職) U 3 1 9 6  
 靱負佐(ゆげいのすけ・松平) → 勝定(かつさだ・松平、幕臣/記録) N 1 5 3 1  
 喩月堂(ゆげつどう) → 泰衞(やすみち・加藤かとう、藩主) D 4 5 0 6
- 4612 **弓削皇子**(ゆげのみこ・天武天皇6皇子) **673?-699早世27** 母;天智皇女大江皇女、長皇子の同母弟、  
 693(持統7)浄広弑じょうこうにの位を受:以後昇進なし、  
 高市皇子没後皇嗣選考会議で軽皇子(文武)立太子を推す葛野王に反対し叱責を受、  
 反俗的歌人、万葉歌8首;4首は紀皇女(異母妹)への恋歌、  
 人麻呂歌集に弓削皇子への献歌5首  
 [古いにしへに恋ふる鳥かもゆづるはの御井みゐの上うへより鳴き渡り行く]、  
 (万葉;二111/持統天皇の吉野行幸時に額田王への贈歌/古は亡き父天武を指す)、  
 (額田王の返歌112;古に恋ふらむ鳥はほととぎすけだしや鳴きし我が念もへるごと)
- 愈好道人(ゆこうどうじん:号) → 竺雲(じくうん:道号・顕騰、臨濟僧) G 2 1 2 2  
 由三郎(ゆさぶろう・角田) → 忠行(ただゆき・角田つのだ、神道/歌人) G 2 6 0 1  
 由三郎(ゆさぶろう・皆川屋) → 便々居壽彦(べんべんきよとしひこ、狂歌) 2 7 0 8  
 湯島の燕晋(ゆしまのえんしん) → 燕晋(えんしん・伊東、講釈師) B 1 3 1 3  
 踰州(ゆしゅう;号) → 清珠(せいじゆ;法諱、真宗本願寺派僧) I 2 4 5 9
- G4660 **由恕**(ゆじよ・上江州うえず、姓;李/名;有実) **1832-55早世24** 琉球王朝廷臣;親雲上、  
 弼(ゆづか・野崎) → 弼(ゆづか・野崎のさき/昆陽野、塩田実業家) H 4 6 1 2
- G4605 **由豆伎**(ゆずぎ・朝田あさだ/岸本きしもと、岸本由豆流ゆずる2男) **1821-5131** 江戸の国学者/歌人:父門、  
 幕府弓弦師の岸本家は兄が継嗣/由豆伎は父の再興した朝田家(父の旧姓)を継嗣、  
 国学・歌を業とす、「猿楽能考」「槻の葉」「槻のわか葉」「初音のゆかり」「書籍年表」、  
 「古今和歌集序略解」著、加藤千浪の師、  
 [由豆伎(;名)の通称/号]通称;権之丞、号;弓槻ゆづき/由徴
- 湯漬翫水(ゆづけがんすい) → 翫水(がんすい・湯漬、浮世草子作者) D 1 5 9 9
- G4604 **遊数里夜行**(ゆすりよるゆき) ? - ? 江後期京の洒落本・咄本作者、  
 1806(文化3)「穴賢あなかに心の外ほか」著(福智白瑛[土成]画)/1811「絵咄」著  
 福智白瑛(大根土成)の変名? → 土成(つちなり・大根、絵師/狂歌) 2 9 9 3
- G4696 **謙**(ゆずる・けん・室田むろた、旧姓;泉せん) **1750-180455** 出身/撰津兵庫の医師室田養軒の養子、  
 医業/儒学;細井平洲門/国学・仏典に通ず/書に長ず、  
 [謙(;名)の字/通称/号]字;子讓、通称;宮内/退蔵、号;**坤山**こんざん
- 4613 **由豆流**(ゆずる・岸本きしもと/本姓;平、朝田栄次郎男) **1788/9-184658-9歳** 伊勢朝田村の出身?、  
 父は株を買って幕府弓弦御用達商となる/幕府御弓弦師岸本讃岐の養子、  
 家督を長男能声に譲り次男朝田由豆伎ゆずぎと朝田家を再興、儒;林家に入門、  
 国学/歌:春海没後門、約3万巻の蔵書による文献的古典考証を行う、  
 1813「源語類字」「後撰和歌集標註提要」/15「土佐日記考証」17「鳴門中将物語考証」著、  
 1828「万葉集攷証」/38「万葉類語」「類従和歌索引」著、「家集部類」「歌集類語」「柞園類纂」編、  
 「十六夜日記考証」「三代集標記」「新とりかへばや物語考証」「柞園類語」「柞園歌集」外著多、  
 歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、  
 [小車にかくるあふひのもろかづらながきためしを引くにぞ有りける]、  
 (大江戸倭歌;夏415葵)、  
 [由豆流(;名)の別号/通称/号]別号;弓弦、通称;大隅/権之進、  
 号;柞園やまぶきその/棟堂/棟棠園やまぶきその/尚古考証園/考証閣/露園、法号;遊林院
- G4606 **讓**(ゆずる・浅野あさの、謙庵男) **1792-185968** 備中浅口郡船穂村医者;江戸の吉益南涯門、  
 備中倉敷で医開業/儒;佐藤一斎門/歌人;木下幸文たかぶみ門/小野務門、茶道も嗜む、  
 幸文家集「亮々さやや遺稿」編刊(千種有功の序)、  
 [讓(;名)の通称/号]通称;謹左衛門、号;謹斎/椿園/槐陰/清々、屋号;本屋

法名;覚山祐翁居士

- H4617 讓(ゆずる・広瀬ひろせ、号;酔霞)1840-1924<sup>85</sup> 播磨佐用郡の国学・歌人;加藤安彦門
- G4623 遜(ゆずる・武廣たけひろ、通称;九一)1843-1877<sup>戦死35</sup> 周防農民/長州奇兵隊入隊/維新後陸軍将校、1877西南戦争で戦死、日記「戊辰戦争従軍日記」著
- G4648 讓(ゆずる・岡部おかべ/本姓;賀茂)1849-1937<sup>89</sup> 遠江敷知郡伊場村の神職;代々岡部郷を領す、賀茂神社勤務、賀茂真淵の子孫/国学;父門、のち権田直助門、丹後出雲神社権宮司、伊勢神宮少宮司/熱田神宮宮司/伏見稻荷社宮司を歴任、皇學館拡張・古事類苑編纂に尽力、蔵書1万2千冊を県居神社に奉納;県居会を創設/歌道振興に尽力、「雲見詣」著、  
[讓(;名)の別名/通称]別名;眞少、通称;連/御楯
- 讓(ゆずる・吉成) → 好謙(よしかた・吉成よしなり、神職/和漢学) C 4 7 7 1
- 讓(ゆずる・高野) → 長英(ちようえい・高野、蘭医) H 2 8 3 9
- 謙(ゆずる・大蔵) → 謙斎(けんさい・大蔵おおくら、儒者/詩歌) I 1 8 9 2
- 杠園(ゆずるはその/こうえん) → 美隆(よしたか・岩崎いわさき、里正/歌人) E 4 7 0 9
- ゆづる葉園(ゆずるはその) → 明(あきら・松崎まつさき、医者/詩文) E 1 0 1 8
- H4669 由性(ゆせい・良岑よしみね、宗貞[遍昭816-890]男)841-914<sup>74</sup> 弘延の弟/素性・椋橋玄理の兄、平安前期の僧/少僧都、雲林院別当
- 愈積(ゆせき・中村) → 愈積(まさかず・中村なかむら、歌人) R 4 0 1 9
- 寛明(ゆたあきら) → 朱雀天皇(すざくてんのう、歌人) 2 3 1 5
- 寛居(ゆたい・足代あじろ) → 弘訓(ひろのり・足代/度会わたらい、国学) 3 7 2 6
- G4607 恰(ゆたか・飯塚いつか、平元ひらもと正信3男)1751-1816<sup>66</sup> 飯塚勝就の養子;出羽秋田藩士、1767佐竹義敦に出仕;小姓番/納戸役/江戸藩邸歩行頭/鷹方支配/町奉行/歩行頭など歴任、1809致仕;蓋瓶さんべいと称す、詩歌・狂詩;平沢月成(手柄岡持)門、「伊呂波短歌」著、  
[恰(;名)の別名/通称/号]別名;勝也かつなり/福松/半助、通称;左門/三兵衛、号;紀勝也/近市亭/橘子叔/近市亮/酒の内直寝/酒袋粕/燕雀坊/交鶴/蓋瓶
- G4608 豊(ゆたか・小佐野おさの、通称;清七)1791-1843<sup>53</sup> 下野足利の織物買継商、歌人;香川景樹門、「由多可歌集」「駅路鈴草稿」著
- 豊(ゆたか・松永) → 花遁(かどん・松永まつなが、商家/詩人) O 1 5 2 3
- 豊(ゆたか・寺地) → 強平(きようへい・寺地てらち、蘭学/医) O 1 6 4 8
- 豊(ゆたか・鈴木) → 玄道(げんどう・鈴木すずき、医/儒者) L 1 8 9 6
- 裕(ゆたか・田中/近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9
- 裕(ゆたか・北村) → 国雅(くにまさ・北村きたむら、国学/歌人) E 1 7 1 3
- 由多加(ゆたか・中村) → 寛(ひろし・中村なかむら、酒造業/国学) K 3 7 3 8
- H4631 豊子(ゆたかこ・水沢みずさわ、名;ゆたか子/号;多豆廼舎)1840-1909<sup>70</sup> 備中倉敷の生/歌人、国学・歌;秋元安民・大橋長広・山田淳子あつこ(袖香)・岡田惟平これひら門、大阪・神戸住
- 豊正助(ゆたかしょうすけ) → 正助(しょうすけ・豊、浄瑠璃作者) T 2 2 7 2
- 豊時成(ゆたかときなり) → 時成(ときなり・豊、戯作者) J 3 1 6 7
- E4666 寛時成(ゆたかなるときなり) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入、  
[今朝ははや待ちえし鳥(時鳥)と魚うり(鰹売)と一声づゝにあはせきて聞く]
- 豊丸(ゆたかまる・宮沢) → 清房(きよふさ・宮沢みやざわ、神職/国学) T 1 6 4 6
- 茂仁(ゆたひと) → 後堀河天皇(ごほりかわてんのう、歌人) D 1 9 7 7
- H4612 拵(ゆづか/ふ・野崎のさき、昆陽野こやの貞右衛門の長男)1789-1864<sup>76</sup> 備前児島郡味野村の上層農家、父の代に没落しかけた家の再興に尽力;木綿機業に参入;小倉足袋の製造;行商販売、後妻の伯父大庄屋中島富次郎の支援で塩浜を築き塩田開発;野崎浜塩田と命名、自ら野崎と改姓、塩業を大規模化;岡山藩命で新田開発/1833(天保4)大庄屋/47苗字帯刀、豪邸を建設/家督を常太郎に譲渡し隠退;1855(安政2)常太郎早世;事業に復帰、64病没、孫の野崎武吉郎(1848-1925、武左衛門)が後継、  
[拵(;名)の通称/号/屋号]通称;武左衛門、号;至宝の屋、屋号;多田屋
- G4609 弓束(ゆづか・山崎やまさき、弘泰5男)1854-1910<sup>57</sup> 飛騨高山の国学者;兄弓雄主催の墨縄会に参加、国学/歌;飯田年平門、歌文・書・雅楽に長ず、村・神官、維新後;中学教員/書籍編輯、東京没、「万葉柁縄集」編

- 湯津香木園(ゆつかつらぞの) → 大秀(おおひで・田中、国学者) 1 4 0 6  
 湯漬翫水(ゆづけがんすい) → 翫水(がんすい・湯漬、浮世草子作者) D 1 5 9 9  
 由的(ゆてき・宇都宮/俳人) → 遯菴(とんあん・宇都宮うつのみや、藩儒/詩) 3 1 6 8  
 楡堂(ゆどう/にれどう・竹村) → 梅斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8
- 4614 湯原王(ゆばらのおおきみ、志貴皇子男) 710?-? 770存 奈良前期万葉四期歌人:733頃の歌19首、  
 光仁天皇の弟;光仁天皇即位後に親王となる、家持及びその周辺と交流、万葉;375-377/631  
 ・632・635・636・638・640・642・670/985・986・989/1544・1545・1550・1552・1618、  
 「吉野なる夏実の河の川淀に鴨そ鳴くなる山陰にして」(万葉集;三375)、勅撰3首;拾遺以下  
 油幕庵(ゆばくあん) → 麿文(そぶん・鶴川うかわ、俳人/季語研究) E 2 5 3 1
- 4625 油鬢(ゆびん) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」3句入、  
 [刈り株にまだ鳴き出さぬ蛙かはず哉](蓮実;159/田植え前に蛙を見付ける)
- H4638 弓雄(ゆみお・矢掛/矢懸やがけ、号;榊舎) 1831-1917 87(88?) 備中小田郡の国学者/神道家、歌人、  
 維新後;東京隅田川神社祠官;荒廃していた向島水神社を復興し神主、  
 「国史略解」「隅田川叢誌」著、1917(大正6)没
- G4610 弓雄(ゆみお・山崎やまさき、弘泰の長男) 1835-97 63 飛騨高山地の地役人/神官、国学者:  
 186父門;1田中大秀おおひでの学統を継嗣した荏門を受く、墨縄会を主催;門人教育、  
 「菜田歌文集」著、弓束ゆつかの兄、  
 [弓雄(;名)の通称/号]通称;冬吉/貫一郎、号;桜桃園/菜田翁、諡号;梓弓山幸彦  
 弓雄(ゆみお・大野) → 美庭(よしむか・大野おの、国学) L 4 7 9 7
- G4698 弓子(ゆみこ・田辺たなべ、本名;みな子) ?-?安永1772-81頃没 越前三国の歌人
- H4613 弓子(ゆみこ・波多野はたの、伊藤常足つねたる[1774-1858]2女) 1802-74 73 筑前鞍手郡の生、  
 筑前遠賀郡の鷹見神社神官波多野幸満と結婚、1848(嘉永元)湯治に二日市温泉滞在;  
 「湯原ゆのはら日記」著(30余首)  
 弓太郎(ゆみたろう・京極) → 高亮(たかすけ・京極きょうごく、幕臣) M 2 6 1 1  
 弓之助(ゆみのすけ・杉山) → 宜袁(よしなが・杉山すぎやま、家老/郷土史) F 4 7 3 0  
 弓の舎(ゆみのや) → 民彦(たみひこ・水谷/日比野、商家/国学) S 2 6 2 8  
 弓治(ゆみはる・矢吹) → 正則(まさのり・矢吹やぶき/日笠、藩士/史家) T 4 0 3 2
- G4631 弓満(ゆみまる・荒木あらかき) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [散り果てて紅葉は枝に残らねどなほ木枯の音はありけり](大江戸倭歌;冬1144)  
 夢吉(ゆめきち・越智/河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
- G4611 夢助(ゆめすけ・暁/あかつきの) ? - ? 江前期建仁寺鶴林の禅僧、俳人:随流門、  
 1691「京大阪誹諧山獺やまたろう評判」著  
 夢輔(ゆめすけ・一升) → 一升夢輔(いっしょうゆめすけ、狂歌作者) D 1 1 7 6  
 夢弼(ゆめすけ・田岡) → 凌雲(りょううん・田岡たおか、藩士/儒者) G 4 9 4 0
- G4612 夢中楽輔(ゆめなかのらくすけ・須原屋忠助) ?-? 江戸の狂歌作者、牛込住、1787「才蔵集」4首入;  
 [まがりつる心とみえて朝顔の花は日かげを好みこそすれ]  
 夢舎(ゆめのや・和田) → 春長(はるなが・和田わた、医者/国学/歌) K 3 6 9 8  
 夢野舎(ゆめのや) → 興詩(おきうた・金谷かなや、儒/国学/歌人) C 1 4 8 6  
 夢の舎主人(ゆめのやしゅじん) → 源一郎(げんいちろう・福地/名村、蘭学/幕臣) H 1 8 6 6
- G4613 夢丸(ゆめまる) ? - ? 俳人/狂歌作者、1669狂歌・発句集「狂遊集」編  
 湯屋芝住(ゆやのしばずみ) → 晋交(しんこう・芝しば、洒落本作者) E 2 2 0 8
- G4614 由良助(ゆらのすけ・原田はらだ) ?- ? 江中期浄瑠璃作者;  
 1736「茜染野中の隠井あかねぞめのなかのこもりいど」  
 瑤々室(ゆらむろ) → 弁玉(べんぎよく;法諱、浄土僧/歌人) B 2 7 2 0
- G4615 百合(ゆり;号) ? - ? 越中生地の俳人;1776樽良「誹諧月の夜」1句入、  
 [雨ののち時雨催す紅葉かな](月の夜;71/古来の説を逆転;紅葉が時雨を呼ぶとする)  
 百合(ゆり) → 百合(ひやくごう・浅田、俳人) E 3 7 4 6  
 百合(ゆり・今村) → 正文(まさぶみ・今村いまむら、藩士/歌人) N 4 0 8 3  
 百合(ゆり・伊達) → 藤子(ふじこ・伊達だて、藩主女/歌人) I 3 8 4 2  
 百合庵(ゆりあん) → 尋風(しんぷう・照井てるい、医者/俳人) P 2 2 7 3

G4636 **百合子** (ゆりこ・荒瀬あらせ) 1808-1893 85歳 周防佐波郡の商人(綿屋)荒瀬安船(本居大平門)の妹、  
 同族で商業(綿屋)の荒瀬真纏と結婚、  
 歌人:夫と同じ近藤芳樹門、筑前の野村望東尼と交流;自宅に逗留させる、  
 1855(安政2)夫の死後は隠棲して過す、  
 ☆1855蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の百合女と同一?、  
 [恋すればうき名ばかりぞつもりける身はしら雪と消えやはつべき]、  
 (大江戸倭歌;恋1631/寄雪恋/百合女名)

G4616 **百合女** (ゆりじよ・木村きむら) 1694-1757/64? 64or71歳 江中期歌人/書家、  
 京祇園社鳥居側の茶屋松屋の女主人梶女かじよの養女、  
 幕臣徳山某と結婚;町女まちじよ[玉瀾]の母、10年で離婚、歌人:冷泉為村門、能書家、  
 晩年は祇園社傍の葛草居に住、家集「佐遊李葉さゆりば」、頼山陽「百合女伝」あり、  
 [百合女(;名)の別名/通称/号/法名]別名;百合/百合子、通称;祇園百合女、号;松屋、  
 法名;清月

☆家族は歌人;祇園三女(ぎおんさんじよ)と呼ばれる;

養母 → 梶女(かじよ、祇園の梶) C 1 5 0 8

娘 → 玉瀾(ぎょくらん、町女まちじよ、池大雅の妻) P 1 6 4 0

百合女(ゆりじよ;大江戸倭歌集入) → 百合子(ゆりこ・荒瀬あらせ、歌人) G 4 6 3 6

百花園(ゆりぞの) → 宗固(そうこ・萩原、歌人) 2 5 0 8

百合舎(ゆりのや) → 寛経(ひろつね・成沢なるさわ、商家/国学者) G 3 7 4 4

ゆりのや(遊里乃屋ゆりのや) → 鶴彦(つるひこ・三橋みつはし、歌人) E 2 9 6 6

百合花河内(ゆりはなのかわち) → 河内(こうち・百合花、前斎宮河内、歌人) B 1 9 6 8

百合姫(ゆりひめ・伊達) → 藤子(ふじこ・伊達だて、藩主女/歌人) I 3 8 4 2

百合坊(ゆりぼう → ひやくごうぼう) → 百合坊(ひやくごうぼう・竹永/武長、俳人) E 3 7 4 7

百合丸(ゆりまる・深草) → 明之(てるゆき・香取かとり、狂歌作者) D 3 0 0 4

涌蓮(ゆれん) → 涌蓮(ようれん・慧亮えりよう、真宗僧/歌人) B 4 7 6 4